



田長次郎
町吉保久區速浜市阪
一八二

特許第二八八四八號 單寧浸出法

〔内容〕單寧含有材料より單寧分を浸出するに當り攝氏百度乃至百四十度にて極少時間加熱せしむることに依り單寧含有材料より單寧を抽出

版を下賜せられ、大正四年正六位に叙せらる。又大正十二年紺綬褒章を、後同飾版六個を下賜せられ昭和五年金飾版と引換へらる。帝國發明協會より三度表彰せられ、又觀櫻及觀菊御會に數度御召の光榮に浴す。

海寶善八郎

神戸市河原一五〇ノ一
特許第九四四二二號「ホルネオールエステル」を製造

桐山茂三郎

兵庫縣武庫郡魚崎町
横屋二一四〇

特許第九五〇三八號「2・オキシ・ナフトエ酸」アリド」の製造方法

〔内容〕「ナフタリン」に更に他の炭化水素を混じたるものを溶劑としたる特殊處理法により簡單にして良質のものを安價に得る方法。

小野嘉七

兵庫縣武庫郡御影町那
家字兼安十九番地ノ一

特許第九六七二七號 薄荷油處理法

〔内容〕從來我國に於て行はるる薄荷腦製造法は原料油なる薄荷取卸油を冷却して薄荷腦と所謂脱腦薄荷油とに分つに過ぎず、而も薄荷油は其の味、香氣等歐米品に比し劣惡にして極めて廉價なり、猶脱腦薄荷油中には遊離「メントール」の四〇%以上を溶存するものにして、此のものは薄荷油を單に極寒に付するのみにては結晶として分離採取するを得ず、依て本邦に於ても脱腦薄荷油より薄荷腦の分離に關し幾多の考察研究せられたるものありしが未だ工業的に實施し成功するに到らず、然るに本發明の方法は克く前記の目的を容易に達成し薄荷腦の收量は定量的にして而も同時に得らるる殘油は「メントール、エステル」の芳香を放ち「メントール」を主成分とする完全脱腦油（本社は「メントール」と命名す）なり、斯くして回収せる薄荷腦は本社獨特の結晶法により精製薄荷腦となし、「メントール油」は本社のみ持つ一新製品として共に歐米に輸出し好評を博し居るの現況にあり「メントール油」は「メントール」を主成分とし其の外「リモネン」等芳香原料として貴重なる成分を含有するが故に優に合成薄荷其の他の合成香料製造の原料に供し得る有望なる將來性を有するものなり、以上の如く本發明の實施に依て安價に輸出され來れる脱腦薄荷油は初めて國

内に於て加工處理され、高價なる薄荷腦を回収すると同時に「メントール油」なる一新製品を海市場場に紹介し世人の注目を惹きたることは本發明の著大なる効果と謂ふべきなり。

〔略歴〕氏は明治二十六年出生、大正七年東北帝大理學部化學科卒業、同八年東京帝大大学院入學同十四年三月退學、同年五月理學博士の學位を受く。大正十二年七月再製樟腦株式會社に入社、昭和二年五月退社して同七月日本香料藥品株式會社專務取締役に就任、同八年八月再製樟腦株式會社取締役兼顧問技師を兼職す。

日本の有する二大國產精油即ち樟腦副産油及び薄荷油の處理工業を純然たる合成化學の基礎に立脚せしめ産業界に全き新生面を開拓して一躍世界的存在として斯界驚異の對稱となれる日本香料藥品株式會社は、昭和二年六月創立されたるものなるが其事業の萌芽は既に遠く現在の專務取締役たる小野嘉七博士が大正七年鈴木商店に入社し燃ゆるが如き研究心を樟腦副産油の利用問題に傾注せる時に胚胎せるものと謂ふべし、以來氏は父君の社長たりし再製樟腦株式會社研究部にあつて鋭意工業化に苦心慘愴實に涙ぐましき研鑽努力を續けられたるものなるが其研究報文は逐次學界紙上に報告され斯界に貢獻する所大なるものありき。

然るに大正二年頃より俄に進出したる獨逸合成樟腦の擡頭は本邦天然樟腦に對する深刻なる脅威となり、樟腦副産油利用工業の確立は一日も須臾に爲し得ざる現實の問題として之が工業化の具現は等しく樟腦關係者の待望して己まざ

りし所なり、茲に於て氏は歐洲に於ける合成樟腦事情並擴く香料工業の視察調査を目的として大正十四年渡歐し、傍ら歐米學界知名の士に就きその識見を叩き固き自信を得て昭和二年歸朝するや直に專賣局より該工業經營の許可を得、同年六月本社の創立を見たるものにして自ら專務取締役として經營の衝に當ると共に又技術上の總帥となり全機能を發揚して日夜粉骨碎身の努力を續けたり、創業漸く七年の今日樟腦副産油處理問題は殆ど完璧に近く、現在に於ては抽出成分を原料とする合成品の製造に全力を傾注し、その或るものは歐米の先進國に於てすら工業化し得ざる合成方法に成功する等本社の躍進伸張は實に驚嘆の外なく誠に以て本邦化學工業の誇りとするに足る、又本社の薄荷油處理事業は樟腦副産油と共に本邦精油工業の双璧と稱すべく、由來我國は薄荷生産に於て世界に最も重きをなし全世界に消費せらるる薄荷腦は日本産薄荷腦なるも其薄荷油に至りては香氣、味等の點に於て歐米産薄荷油に比較して劣等とされ隨て極めて低廉なる價格にて輸出せらるる状態なりき、然るに輸出薄荷油はその中に尙多量の薄荷腦を溶存するものにて之より薄荷腦を再製する事は化學者として當然なざるべからざる責務なりしなり、本社は創業と同時に研究部の重要研究事項として之を掲げ僅かに一年有餘の短日月を以て此問題の解決に成功したるものなるが、此事實は本社研究部の陣容、設備が如何に充實せるものなるかを證左するの一例とすることを得べし。

りし所なり、茲に於て氏は歐洲に於ける合成樟腦事情並擴く香料工業の視察調査を目的として大正十四年渡歐し、傍ら歐米學界知名の士に就きその識見を叩き固き自信を得て昭和二年歸朝するや直に專賣局より該工業經營の許可を得、同年六月本社の創立を見たるものにして自ら專務取締役として經營の衝に當ると共に又技術上の總帥となり全機能を發揚して日夜粉骨碎身の努力を續けたり、創業漸く七年の今日樟腦副産油處理問題は殆ど完璧に近く、現在に於ては抽出成分を原料とする合成品の製造に全力を傾注し、その或るものは歐米の先進國に於てすら工業化し得ざる合成方法に成功する等本社の躍進伸張は實に驚嘆の外なく誠に以て本邦化學工業の誇りとするに足る、又本社の薄荷油處理事業は樟腦副産油と共に本邦精油工業の双璧と稱すべく、由來我國は薄荷生産に於て世界に最も重きをなし全世界に消費せらるる薄荷腦は日本産薄荷腦なるも其薄荷油に至りては香氣、味等の點に於て歐米産薄荷油に比較して劣等とされ隨て極めて低廉なる價格にて輸出せらるる状態なりき、然るに輸出薄荷油はその中に尙多量の薄荷腦を溶存するものにて之より薄荷腦を再製する事は化學者として當然なざるべからざる責務なりしなり、本社は創業と同時に研究部の重要研究事項として之を掲げ僅かに一年有餘の短日月を以て此問題の解決に成功したるものなるが、此事實は本社研究部の陣容、設備が如何に充實せるものなるかを證左するの一例とすることを得べし。

二 宮 護

關東州大連市 播磨町 六七
特許第九六四九號 工業原料蛋白質精製法
〔内容〕大豆脱脂粕其他類似の蛋白質含有物を稀薄酸液を以て処理し蛋白質を溶出せしめずして炭水化物をなるべく多量溶解除去する製法。

越 智 主 一 郎

東京府豊多摩郡代々幡町代々木字西原九五八
特許第九八一八二號 大豆蛋白質製法の改良
〔内容〕大豆を適宜温度にて脱脂処理せる残渣より製する方法。

古 川 政 司

東京市本郷區駒込西片町一〇ろノ一一
特許第九六九六〇號 液化「アナムニア」にて處理をなす植物蛋白質抽出法
〔内容〕蛋白質を含有する植物子實を豫め液化「アムモニア」處理したる後抽出劑を以て蛋白質を抽出若しくは撰擇的に逐次處理して之を抽出する方法。

李 泰 圭

京都市左京區北白川下池田町一六 西村方
特許第一〇三五四號 水及炭素より水素製造法
〔内容〕水銀鹽類を觸媒とし其存在に於て水と炭素とを適當なる加熱及加壓の下に反應せしむる水素製造法。

横 田 俊 雄

山口縣 徳山町三九五七
特許第九五一四〇號 炭化水素より水素を製造する方法

堀 場 信 吉

京都市上京區 下鴨中川原町九〇ノ三
特許第九七一九〇號 活性炭素製造法
〔内容〕糖蜜を鹽酸にて處理する際に生ずる赤褐色の膠質物を「アルカリ」にて處理したるものに對する特殊工程により廢物若しくは副生物を利用して活性炭素を得る方法。

河 合 鉢 太 郎

東京府豊多摩郡 千駄ヶ谷町字原宿 一七〇ノ三〇

法

〔内容〕炭化水素と水蒸氣との混合物を金屬の熱したる表面を通過せしむる事特徴とする方法にして天然瓦斯等の水素添加に於ける廢瓦斯の如きを原料として水素を製造する方法。

竹 中 寛

東京府北豐島郡岩淵町 字 下 四 四 六
特許第九七七七六號 水蒸氣を使用し「メタン」又は之を含有する瓦斯の接觸的酸化による水素及炭酸瓦斯混合物の製造法
〔内容〕特殊金屬化合物の觸媒を使用し瓦斯に水蒸氣を作用せしめて製造するものにして天然瓦斯又は石炭油化の際の廢瓦斯を利用して所要の物質を製し得且炭酸瓦斯を除去して水素を製造する方法。

黒 井 千 代 吉

東京市世田谷區北澤町 三丁目九〇五
特許第一〇二二一八號 炭化水素瓦斯又は之を含有する混合瓦斯を水素と一酸化炭素に富める瓦斯に變成する方法
〔内容〕炭化水素瓦斯又は之を含有する混合瓦斯より酸化「コバルト」酸化「ニッケル」等を觸媒として水素と一酸化炭素に富める瓦斯を得しむる方法。

古 崎 秀 次 郎

大牟田市三坑町八
特許第一〇三六七五號 「メタン」又は「メタン」及其他の炭化水素を含有する瓦斯を施し形成する沈澱物を焼成分解し經濟的に活性強大なる炭素を得る方法。

田 丸 節 郎

神奈川県鎌倉郡鎌倉町 扇ヶ谷 二五 四
今 井 美 材
東京市澁谷區千駄ヶ谷 町五丁目八九〇
特許第一〇〇七七一號 成形硬質活性炭製造法
〔内容〕不定形炭素物質を原料として之を硫酸を以て處理し磨碎して可塑性を與へ任意成形したる後徐々に炭化して成形する活性炭を得る方法。

斯の「クラッキング」によりて水素を製造する法

〔内容〕「クラッキング」に必要な熱量を反應帶の内部に最效果的に發生せしむることにより反應の進行を容易ならしめ以て水素を經濟的に製造する法。

北 脇 市 太 郎

東京市目黒區中目黒 一丁目七五 六
三丁目二六 五
特許第一〇三二二九號 一酸化炭素或は一酸化炭素含有「ガス」と水蒸氣とより水素或は水素に富める「ガス」を製造する装置
〔内容〕「ガス」火焰によりて原料「ガス」を適當温度に加熱することにより觸媒を適當温度に保ち經濟的に水性「ガス」反應を行はしめ以て水素或は水素に富める「ガス」を廉價に製造する装置。

松 田 長 幹

東京市世田谷區 上馬一丁目七六 四
池 邊 瀧 三 郎
東京市世田谷區 長谷戸町二 四
飯 田 岩 郎
東京市目黒區 中目黒一丁目八一 五

池 邊 瀧 三 郎

東京市世田谷區 上馬一丁目七六 四
竹 井 政 夫
東京市澁谷區 長谷戸町二 四
飯 田 岩 郎
東京市目黒區 中目黒一丁目八一 五

特許第一〇二七七號 活性炭素製造法

〔内容〕石炭類を原料として是に簡單なる加硫磺作用を行ひたる後亞鉛鹽類と酸とを以て處理して強力なる活性炭を容易に製造する方法。

久 村 清 太

廣島市千田町 七〇 八ノ一
特許第九四〇五四號 「ビスコース」入絹工場廢水より得らるる含硫磺沈澱より硫磺を回收する方法
〔内容〕原質を微「アルカリ」性となせる沈澱物に關聯する特殊處理工程により硫磺粒を包有して沈澱せしめ沈降又は濾過法を施すことにより回收する方法。

棚

東京

京都市左京區北白川下
池田町一六四西村方

特許第一〇三五四號 水及炭素より水素製造法
〔内容〕水銀鹽類を觸媒とし其存在に於て水と炭素とを適當なる加熱及加壓の下に反應せしむる水素製造法。

横田 俊雄

山口縣都濃郡
徳山町三九五七
特許第九五一四〇號 炭化水素より水素を製造する方

素に富める瓦斯に變成する方
法

〔内容〕炭化水素瓦斯又は之を含有する混合瓦斯より酸化「コバルト」酸化「ニッケル」等を觸媒として水素と一酸化炭素に富める瓦斯を得しむる方法。

古崎 秀次郎

大牟田市三坑町八
特許第一〇三六七五號 「メタリン」又は「メタリン」及
其他の炭化水素を含有する瓦

竹井 政夫
東京市澁谷區
長谷戸町二四

飯田 岩郎
東京市目黒區
中目黒一丁目八一五

特許第一〇二七七號 活性炭素製造法
〔内容〕石炭類を原料として是に簡單なる加硫化作
を行ひたる後強給鹽類と酸とを以て處理して強力なる
活性炭を容易に製造する方法。

久村 清太

廣島市千田町
七〇八ノ一

**特許第九四〇五四號 「ビスコース」入絹工場廢水より
得らるる含硫黄沈澱より硫黄を
回収する方法**

〔内容〕原質を微「アルカリ」性となせる沈澱物に關
聯する特殊處理工程により硫黄粒を包有して沈澱せし
め沈降又は濾過法を施すことにより回収する方法。

堀場 信吉

京都市上京區
下鴨中川原町九〇ノ三

特許第九七一九〇號 活性炭素製造法

〔内容〕糖蜜を鹽酸にて處理する際に生ずる赤褐色の
膠質物を「アルカリ」にて處理したるものに對する特
殊工程により廢物若くは副生物を利用して活性炭素を
得る方法。

河合 鋪太郎

東京府豊多摩郡
千駄ヶ谷町字原宿
一七〇ノ三〇

特許第九五五〇二號 活性炭素の製造法

〔内容〕有機性物質より得たる炭素を加熱し之に水を
細滴狀にて間歇的に接觸せしめて製造する方法。

山田 正之

滋賀縣滋賀郡勝所町字
勝所二二七〇

特許第九五三八〇號

「ヘミセルロース」を含有する
「アルカリ」廢液より活性炭素製
造法

〔内容〕原液を硫酸にて弱酸性とし特殊工程により加
熱炭化せしめ稀薄なる「アルカリ」廢液より活性炭大
なる炭素を得る方法。

清田 達

熊本縣玉名郡木葉村
六九五ノ一

特許第九四六八三號

「ツンドラ」より活性炭素を製造
する方法
〔内容〕「ツンドラ」を「アルカリ」溶液と共に特殊處理

を施し形成する沈澱物を焼成分解し經濟的に活性炭大
なる炭素を得る方法。

田丸 節郎

神奈川県鎌倉郡鎌倉町
扇ヶ谷二五四

今井 美材

東京市澁谷區千駄ヶ谷
町五丁目八九〇

特許第一〇〇七七號 成形硬質活性炭製造法

〔内容〕不定形炭素物質を原料として之を硫酸を以
て處理し磨碎して可塑性を與へ任意成形したる後徐々
に加熱して得たる緻密體を瓦斯活性化法により活性化
する特徴とする製法。

志方 益三

京都市左京區
吉田本町五

長沼 清一

大阪府三島郡高槻町一

特許第一〇三六七號 固形活性炭の製造方法

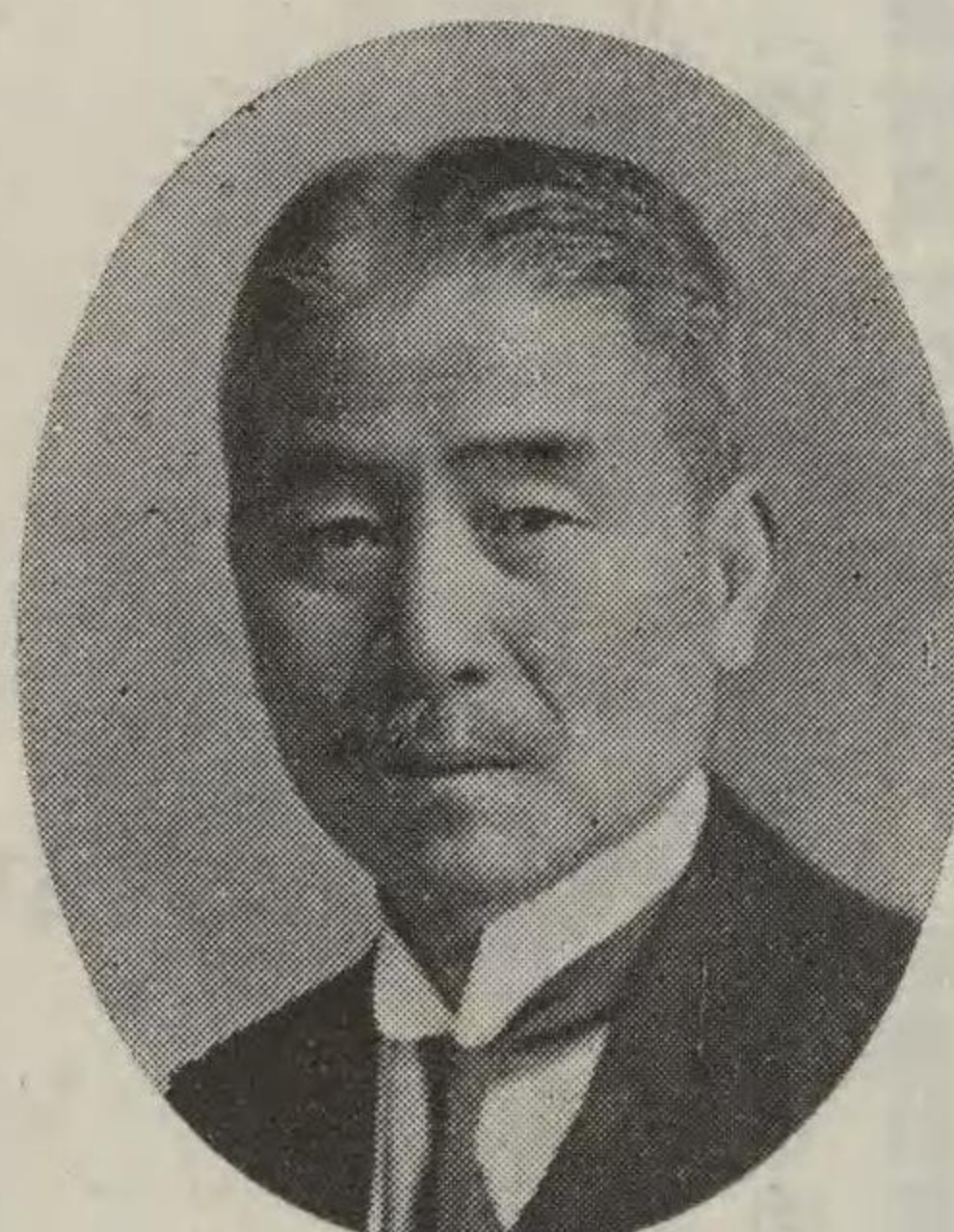
〔内容〕可炭化性含水物質を微粉狀となし之に直流又
は交流電流を通じて脱水固結せしめ之を加熱炭化し乍
ら附活せしむる製造法。

杉山 常三郎

堺市櫻之町一〇

特許第九四二五七號 活性炭素製造方法

〔内容〕原料有機物より水分其他揮發性瓦斯を除去し
原料に附活劑を注入する工程と炭化し附活する工程と
により活性炭強きa型炭素よりなる強力活性炭素を得る
方法。



工學博士 橋本 五郎
東京市片町五丁目七番地

特許第二八九四號 鹽素酸鹽電解製造法

〔内容〕本發明は鹽素酸（アルカリ）電解に際
し鹽化アルカリ溶液に鹽化石灰を加ふることを
特徴とし、其生産高を増し電極の毀損を防ぎ且
つ製品の品質を良好ならしむるものなり。

〔略歴〕氏は慶應二年新潟縣古去郡の出身、明
治廿六年東京帝國大學應用化學科卒業、ケルプ
工業に關する研究を重ねて沃度加里の製造法を
完成し、後海藻より沃度を取る際の副産物たる
鹽化加里の利用を開發せんとし多年研究する所
あり、同四十年加里肥料を中心とする化學工業
を興すべく日本化學工業株式會社を創立して常
務兼技師長となる、後電氣化學工業により國富

の増進を企圖し同四十一年阿賀川上流日橋川に發電所を設けて同地方の需要を充し、餘剰電氣を以て會津廣田に工場を設立して本邦最初の鹽化加里の電解製造を開始し、後之が改良に腐心して特許を得らる、氏の特許は沃度加里、加里肥料、アルミナ、鹽化加里、燐酸加里等の製造法十數件に及ぶ。

井上春成

東京市澁谷區代々木
西原町九五七

加藤二郎

東京市澁橋區角管二丁
目八二 内山方

特許第一〇三六三六號

電解透析法に依る動物乳汁より「カゼイン」及乳糖の製造方法

〔内容〕脱脂せる動物乳汁より電解透析法に依りて乳汁中の鹽類の除去を行ひつ「カゼイン」を凝固せしめて分別し其溶液部分を濃縮して乳糖を得る方法。

立木健吉

東京市小石川區
指ヶ谷 町四

加藤與五郎

東京市荏原區戸越町
一 二二 二二〇

特許第一〇二六七三號

金屬「マグネシウム」の電解製造法

〔内容〕鹽化「アルカリ」及び鹽化「マグネシウム」其他の金屬鹽化物含有の熔融電解浴内に「マグネシウム」の酸化物又は炭酸鹽を共存せしむることを特徴とする製造法

田崎健治

富山縣下新川郡道下村
村木一〇五一ノ二

特許第九九二〇一號

炭化石灰製造法

〔内容〕二個以上の電極を上部より挿入せる電氣爐に於て炭素と生石灰とを原料とし炭化石灰を生成せしむる場合電極と電極との間に電氣の不良導體たる隔壁を構成せしめたる製造法。

鈴木益太郎

東京府北豐島郡王子町
下十條一五一六

阿部良造

東京府北豐島郡尾久町
上尾久一三三六

特許第九九三二〇號

電解用炭素質電極の處理法

〔内容〕鹽素硝酸又は硫酸を作用せしめて油脂又は脂肪酸の固化を來さしめ之を直に加熱熔融して電極の氣孔内に注入する黒鉛其他炭素質電極の處理法。

山口要作

東京府北豐島郡西巢鴨
町大字池袋二四〇六

特許第九五六一號

「アルミニウム」又は「アルミニウム」合金の防蝕法

〔内容〕「クロム」酸又ハ重「クロム」酸鹽の溶液を電解液として原質金屬の陽極酸化を表面に行はしめ簡單に電解液の還元を防止し藥液を浪費する事なく防蝕し得る方法

園部恵亮

大阪府北區小深町六

特許第九六七三號

「オゾン」發生機

〔内容〕適度の間隙を設けて相對せる電極板と其背後

飯田廣

東京市澁野川區
西ヶ原町四八五

特許第九七八七六號

交流による二酸化滿飽の電解的製造法

〔内容〕滿飽鹽の水溶液に交流を通じて電解する方法にして簡單に高純度良質のものを得る方法。

二 郎

京市芝區
新鏡座町一六

特許第一〇〇六三八號

爆發性瓦斯混合物の爆發に對する危險度を容

し得るものなり。從來被鍍金屬物を陰極に懸垂し之を先づ電解液中に挿入して然る後之を電源に接続して鍍金作業をなすが故に、未だ電流回路を作らざる間に被鍍金屬物が一種の電氣化學的の逆反應を生起し、鍍金の完全なる作業を妨害すべき技術上の一缺點なりとす。然るに本法による鍍金製品は從來の鍍金物に比し鍍金層に厚薄を生ぜず光澤美麗にして且つ電解液中に於て電氣化學的逆反應を生起せざるを以て強固なる鍍金物を得られ、殊に鍍金作業の甚だ困難なる「クロム」鍍金に於て益々其優秀なる効果を發揮し得るものなり。

に電磁裝置を具備して放電部通過の空氣若くは酸素を振動せしむる裝置とにより「オゾン」化傾向を大ならしめ發生能率を大ならしむる機構。

濱田隆一

東京府荏原郡大崎町
大字桐ヶ谷四二七

特許第一〇三三二六號

鉛或は鉛の合金を鍍金する方法

〔内容〕鋼、鐵、銅等を被鍍金材とし之に熔融せる鉛或は鉛の合金を鍍着せしむるに中間層として「コバルト」或は「ニッケル」等を電氣鍍金し其鍍着を完からしめたる方法。



和夫大工 竹内辰藏
大阪府東區新千歲町
七十七番地

特許第七六〇四九號

鍍金裝置

〔内容〕本發明は鍍金作業に於て補助陽極を陰極と同一持桿上に裝置し主陽極板の一端より來れる栓接觸子は補助陽極線の一端の栓接觸部に、又陰極母線より支出せられたる栓接觸子は陰極線の一端の栓接觸部に適合させたる鍍金裝置にして、陰極並に補助陽極を電源に接続したる後電解液中に挿入し以て電氣化學的に生起し易き逆化學反應を完全に除き得らるべき方法を繁雜なる作業中に於て簡易迅速に其目的を達

齋藤正一郎

東京市小石川區林町
四三山口津年方

特許第一〇三四七〇號

電氣式滴定裝置

〔内容〕双金屬電極式毛管線に液の出入調節を自由ならしめ該毛管線の外部本回路に電流調整用抵抗器を介在せしめて目盛盤を廻動し得べくなる指針型電流計を接続したる裝置。

石井四郎

東京市牛込區戸山町一

特許第一〇〇六一五號

細菌培養罐

〔内容〕内部を從方向又は黃方向に平行し且多數の小

加藤 與五郎

東京市荏原區戸越町
指ヶ谷町四
一 二二二〇

特許第一〇二六七三號 金屬「マグネシウム」の電解製造法

〔内容〕鹽化「アルカリ」及び鹽化「マグネシウム」其他の金屬鹽化物含有の熔融電解浴内に「マグネシウム」の酸化物又は炭酸鹽を共存せしむることを特徴とする製造法

〔内容〕「クロム」酸又ハ重「クロム」酸鹽の溶液を電解液として原質金屬の陽極酸化を表面に行はしめ簡単に電解液の還元を防止し藥液を浪費する事なく防蝕し得る方法

園部 惠亮

大阪市北區小深町六
「オゾン」發生機

特許第九六七三號 「オゾン」發生機

〔内容〕逆度の間隙を設けて相對せる電極板と其骨格

飯田 廣

東京市瀧野川區
西ヶ原町四八五

特許第九七八七六號 交流による二酸化滿飽の電解的製造法

〔内容〕滿飽鹽の水溶液に交流を通じて電解する方法にして簡単に高純度良質のものを得る方法

二 郎

京市芝區
新鏡座町一六

特許第一〇〇六三八號 爆發瓦斯檢出機

〔内容〕爆發性瓦斯混合物の爆發に對する危險度を容易正確に豫知し未然に防止するを得せしむる小型にして然も感度大なる特殊爆發瓦斯檢出機

石井 四郎

東京市牛込區戸山町一

特許第一〇〇六一五號 細菌培養罐

〔内容〕内部を縦方向又は横方向に平行し且多數の小孔を穿ちたる區劃版によりて適數等分し注入したる培養液を區劃版兩面に薄層とすべき内罐を區劃内に夫々着脱自在に挿入したる装置の細菌培養罐

山崎 久吉

東京市本所區
林町二ノ七三

特許第九七二二四號 鐵製品に「カドミウム、アマールガム」を電鍍する方法

〔内容〕陽極として「カドミウム」と水銀との合金を使用する事の特徴とし之に關聯する特殊装置により耐蝕度強く雅趣ある製品を得る装置

眞崎 公一

平塚市海軍火藥廠官舎
東 第一一二號

特許第一〇三三六六號 火藥耐熱試験紙試験装置

〔内容〕特殊装置に依り火藥耐熱試験操作と近似の方法により正確且迅速に不同の虞ある火藥試料を用ふることなくして試験紙の感度を試験せしむる装置

日下 藤次郎

銚子市後田町イノ九八

特許第一〇三七四六號 油の下層に潜在する水嵩測定用資料

〔内容〕水に生石灰明礬及「リスリン」を加へ均等に混和せしめたる油の下層に潜在する水嵩を測定する資料

後藤 憲三

東京市淺草區
新福井町五

特許第九六二八四號 電氣鍍金裝置

〔内容〕鍍金槽の縁側に於ける齒輪及歪齒輪の聯動により昇降自在なる鋸齒杆を緩着せしめたるに關聯する特殊装置により操業上の手数を省略し迅速に操業し得る機構

佐山 總平

北海道札幌郡藻岩村
大字圓山村一七四

特許第一〇〇八七〇號 瓦斯檢定器の改良

〔内容〕瓦斯燃焼器内に於ける瓦斯の入替及瓦斯の完全燃焼を速にし又外函中に滿したる液體の冷却力に依りて温度の平衡を速ならしめて精密迅速に瓦斯の分量を測定し得べくしたる瓦斯檢定器

山崎 武二

兵庫縣武庫郡本山村
大字岡本字中島二二四

特許第九八四一四號 硫化護膜の人工老化試験裝置

〔内容〕波長三〇〇〇Å以下の短波長部を遮斷すべき試料挿入用氣密容器を恒槽内に裝置したるものに係るものにして前記波長以下の紫外線部を除去せる光線

にて材料を照射し自然老化に近似せる結果を得る装置。

山内泰明

千葉市本町三ノ一六五五

特許第九八〇三九號 細菌學血清學用小孵卵器

〔内容〕真空瓶内に培養物容器を支持すべき保持具を附設したる蓄温物質容器を挿入したるものに關聯する特殊装置により携帶に便にして火氣を用ひざる爲め危険少く且つ細菌及血清の培養反應を逐げしむる装置。

山田忍

北海道札幌郡琴似村大字琴似七北海道農事試験場内

特許第九九六六四號 水素「イオン」濃度測定用指示

藥製造法

〔内容〕四種の指示薬を特殊割合の分量にて混合し單一なる指示薬となし之を可溶液に加ふるのみにより廣範圍の水素「イオン」濃度を直ちに測定し得る指示薬の製法。

小柳勝藏

埼玉縣秩父郡秩父町大字大宮九〇二

佐藤準次

同所

特許第一〇三三〇七號 「セメント」微粉粒沈降測定装置

〔内容〕「セメント」をして常に静止状態に在る「アル」

器に盛れる糖液を結晶せしめ氷砂糖を製造し得るものなり、勞力費用を減じ糖密を残すことなく迅速に且つ完全に結晶なましむる効果あり。

〔略歴〕氏は静岡縣の出身、菓子商を営みしが後製糖事業に關與し當時我製糖業幼稚なるを遺憾とし之が改良に日夜苦心研究をなし遂に本發明を完成するに至り、明治二十一年工場を東京に建設し同廿八年日本製糖株式會社を創立す、

次で歐米視察を終へ臺灣製糖株式會社を創立して活躍せり、後醬油釀造法の發明を完成し次で汽罐に燃焼器に製鹽装置に乾燥器に百餘の發明特許を得現にその蒸氣煮炊装置は鈴木小松商店

布状態を精密に測定せしむる装置。

山崎忠純

東京市杉並區上萩窪六二二

特許第一〇一七六八號 蒸溜装置

〔内容〕特殊装置に依り極めて少量なる熱量により多量の蒸溜液を得べくせる装置。

廣田直憲

臺灣臺北臺地町一丁目一八

特許第一〇一八四四號 昇華物を含有する蒸溜蒸氣を冷却する装置

〔内容〕冷却器の内壁に冷却用水の一部を流下せしめ直接冷却により蒸氣の冷却を有効に行はしめたる装置。

鈴木庸生

東京市小石川區林町五七

堀江忠一

東京市瀧野川區西ヶ原町二九二 坂上昇平方

特許第一〇一五三一號 太陽輻射「エネルギー」に依る蒸溜装置兼日光照度計

〔内容〕燃料及冷却水を要せずして水其他の液體を蒸溜せしめ同時に溜出液體の分量により容筐面に受けたる太陽輻射「エネルギー」を近似的に積算測定せしむべくしたる装置。

通構造上に於て見る最も弱き水平煙道を廢し多數の直立小焔道は之を數多の組に區分し、各組の兩端にある隔壁は爐の上部まで達せしむる構造にして之により爐の構造を堅固にし耐久力を増大し且つ爐全體に亘り加熱の均一を期し得るものなり。

〔略歴〕氏は明治十六年大阪府の出身、同三十九年東京帝國大學工科應用化學科卒業、直に製鐵所副産部長、昭和三年九州帝國大學教授を兼ね、同九年日本製鐵株式會社取締役となり今日に至る。

田中七平

長崎市坂本町二五九

特許第九九七六一號 加熱管表面を清掃し同時に蒸發を促進せしむる装置を有する蒸發器

〔内容〕廻轉軸に取付られたる清掃片を以て加熱管表面に附着する垢を拭去せしめて熱傳導率の低下を防止し同時に蒸發器内の液體の循環を促進せしむべくしたる装置。

松尾鶴松

東京市麹町區丸ノ内一ノ六ノ一海上ビルディング、スルザ、アラザース東京出張所内

特許第九八二七一號 多段式蒸發装置

〔内容〕同心的に復合せしめて設置せる垂直圓筒部材の加熱面の間に熱絶縁性材料の圓筒形隔壁を挿入したる装置にして蒸發段階を増加せしめ加熱面を掃除し得る機構。



鈴木藤三郎

特許第六一七六號 氷砂糖製造方法及装置

同第七一四七號 重疊式無氣蒸發装置

〔内容〕本發明は糖液蒸發罐にして、下部より間隔的に熱空氣を送り込み上部より絶へず空氣を抽出し出すべくしたる蒸發罐内に於て小

相良春一

八幡市枝光裏田町四丁目一

特許第一〇二六八六號 炭炭爐蓄熱室に於ける給氣又は排氣装置

〔内容〕蓄熱室の全長に亘り各部の通氣及熱分布を均一ならしめ熱効率を高め且つ通氣及熱分布の調節を容易ならしめたる装置。

鳥田金一

東京府豊多摩郡落合町字上落合五五〇

特許第九七二九〇號 縦型低温乾燥機

小柳勝藏
埼玉縣秩父郡秩父町
大字大宮九〇二

特許第一〇三三〇七號 「セメント」微粉粒沈降測定装置

〔内容〕「セメント」をして常に静止状態に在る「アル」

器に盛れる糖液を結晶せしめ水砂糖を製造し得るものなり、努力費用を減じ糖密を残すことなく迅速に且つ完全に結晶なせしむる効果あり。

〔略歴〕氏は静岡縣の出身、菓子商を営みしが後製糖事業に關與し當時我製糖業幼稚なるを遺憾とし之が改良に日夜苦心研究をなし遂に本發明を完成するに至り、明治二十一年工場を東京に建設し同廿八年日本製糖株式會社を創立す、次で歐米視察を終へ臺灣製糖株式會社を創立して活躍せり、後醬油釀造法の發明を完成し次で汽罐に燃焼器に製鹽装置に乾燥器に百餘の發明特許を得現にその蒸汽煮炊装置は鈴木小松商店に於て盛に實施しつゝあり、大正二年没す。

寺田俊一

東京市瀧野川區田端町四九六

特許第一〇一六八八號 液槽内に對流を作る加熱管及隔壁板を設けたる蒸發装置

〔内容〕熱源を終始有效に働かしめ操作を簡易にし蒸發濃縮又は溶媒より析出する物質の分離採取を容易ならしめたる装置。



黒田泰造
福岡縣八幡市高見町四丁目

特許第三二五四二號 黒田式骸炭爐

〔内容〕黒田式骸炭爐の再生燃焼装置は爐の普通構造上に於て見る最も弱き水平煙道を廢し多數の直立小焰道は之を數多の組に區分し、各組の兩端にある隔壁は爐の上部まで達せしむる構造にして之により爐の構造を堅固にし耐久力を増大し且つ爐全體に亘り加熱の均一を期し得るものなり。

堀江忠一

東京市小石川區林町五七

特許第一〇一五三一號 太陽輻射「エネルギー」に依る蒸溜装置兼日光照度計

〔内容〕燃料及冷却水を要せずして水其他の液體を蒸溜せしめ同時に溜出液體の分量により容筐面に受けたる太陽輻射「エネルギー」を近似的に積算測定せしむべくしたる装置。

〔略歴〕氏は明治十六年大阪府の出身、同三十九年東京帝國大學工科應用化學科卒業、直に製鐵所に入所、同四十二年技師となり大正十二年製鐵所副産部長、昭和三年九州帝國大學教授を兼ね、同九年日本製鐵株式會社取締役となり今日に至る。

帝國發明協會より大賞を受く。

福田耕作

山口縣吉敷郡大内村大字御堀第二十一番地

特許第一〇二二八四號 木炭製造爐

〔内容〕補助煙道に依り水蒸氣の排出並に温度上昇を迅速にし排氣排出の加減に依り任意の炭質に必要な炭材を得て迅速に任意の良炭を得べき木炭製造爐。

小松徳次

佐世保市白南風町三

特許第九六三三九號 廢熱利用骸炭製造爐

〔内容〕汽罐等の廻轉火格子に關聯する特殊装置により家庭向骸炭を連續的作業を以て製作し連續的に發生する火焰を汽罐其他の加熱に利用せしむる爐装置。



政藤三郎

特許第六一七六號 氷砂糖製造方法及装置

同第七一四七號 重疊式無氣蒸發装置

〔内容〕本發明は糖液蒸發罐にして、下部より間過的に熱空氣を送り込み上部より絶へず空氣を抽出すべくしたる蒸發罐内に於て小

相良春一

八幡市枝光裏田町四丁目一

特許第一〇二六八六號 骸炭爐蓄熱室に於ける給氣又は排氣装置

〔内容〕蓄熱室の全長に亘り各部の通氣及熱分布を均一ならしめ熱効率を高め且つ通氣及熱分布の調節を容易ならしめたる装置。

鳥田金一

東京府豊多摩郡落合町字上落合五五〇

特許第九七二九〇號 縦型低温乾燥機

〔内容〕「アンニュー、レトルト」を形成せしむべき筒部と臺部とを其内部に翼車を收容して交互に重合せたる事に關聯する特殊装置にして「コークス」の品質を均一ならしめ且乾燥室の面積を増大せしむる装置。

廣瀬勘治

大阪府港區福町二丁目三四

特許第一〇三五五一號 煉炭燒成窯

〔内容〕無端連鎖帶により煉炭を自動的に室内を往復せしめ室内の熱を最も有効に使用せしむべくしたる燒成窯。

石橋弘毅

東京市本郷區駒込上富士前町五

特許第九六八九號 亞硫酸紙料廢液より固形粘結劑製造法

〔内容〕原料の有効成分を析出脫水する爲之に石灰を

作用せしめ沈澱並に壓搾工程により製造し運搬に便なる固形粘結劑を得る方法。

竹内光雄

東京市淀橋區西大久保三丁目四〇

特許第九九一一九號 懷爐灰製造法

〔内容〕使用に際し無煙無臭にして完全燃焼し堅固にして弾性に富み且つ取扱に衣服、手指等の汚穢することなき懷爐灰の製造法



川澄式煉炭成案

川澄 大正町二丁目 政 區目

特許第三四二二三號 川澄式煉炭成案

〔略歴〕三筋豆炭は大正九年一月川澄煉炭商會が現在の場所に工場十二噸機を設け豆炭の商品化を企圖したるに創まる、斯くて川澄豆炭が商品として創めて市場に現はれその商品價値の偉大なるを認めらるゝやその需要は各方より喚起される趨勢となり益々事業の有望なるに鑑み同十年十一月株式會社となし事業の基礎を固むると同時に煉炭機を三十噸機に更め製品の上上に邁進せしが故に需要は愈々激増の一途を辿り同十四年頃より漸く創業の苦難の域を越へ相當の利益を見るに至り、事業上の研化と技術的

の精練は必然的に製品の優良化を齎して其需要は目覺ましく増大するに至りしを以て昭和二年一躍百噸機に擴張し、續いて同四年百二十噸機に擴大して今日に至り一ヶ年間二萬九千餘噸の豆炭を精成するの狀態となれり。現今豆炭と云へば直感的に川澄の三筋豆炭を想像するが如く最も古き歴史を有するが故に、その製品の販路も亦廣汎に亘り京阪神を獨占的の最需要地盤として中京、關東、北陸、東北、北海道等の地方に至る迄よく其の名を博し名實共に他製品を壓倒して斷然一頭地を抜き其聲價を高めつゝあり然も本邦燃料界の一角に燎原の火の如き凄じき勢ひを以て發展しつゝある家庭用煉炭殊に豆炭は實に社長川澄政氏の前半生を語る好個の記念物たるなり。

氏は明治十一年愛知縣田原町の出身、幼時已に豪膽にしてよく郷黨の人士を驚嘆せしめ長ずると共に鵬志を抱き徒らに踟躕たる狭國に踞居するよりは遠く大海洋に自由の羽翼を伸ばし海國男子の意氣を昂ぐるに如かずとなし、十七歳にして日清戰爭當時自ら進んで海軍機關兵を志願して機關の操縦に従事すること十一年餘、其間一日の睡眠僅かに二時間、よく研究を續け、同三十九年十一月滿期後大阪に來り直に一等機關士の免狀を得次いで翌年郵船三池丸に乗船、後齊州丸に轉船、當時偶々貨物として煉炭を運搬するの機縁を得、之即ち氏の一生涯の運命を指示する羅針盤とはなりしなり、即ち氏の烟眼は夙も此の煉炭改良に全生命を委ねるの固き信念を把持するに至り、而して海上生活者の安

易さを知りし後の氏として自ら苦難の原野に突入せんとする熱烈なる意氣は金石をも熔かすものありしなり、斯くて下船の機を窺ひ居たりしが偶々滓炭の廢棄處置に困却する海軍の徳山煉炭所と早くも交渉を進めつゝありし廣島市の谷口氏は愈々同所横に煉炭工場を経営すること、なりしが故に氏は技師長兼工場長として之が製造に従事すること、なり氏の念願は漸く達せらるるに至り、此の約九ヶ年の工場生活は氏をして寸刻も晏如たらしめず日夜孜々として煉炭の研究に専念し、熱心と努力の結果は身心消費ありしが該工場は或る事件の餘波を受けて閉鎖し之を徳山煉炭所に買上げられたるが故に氏は遠大の志、天賦の才を秘し當時徳山煉炭所長の幹旋により東京大東鑛業會社に入社し愈々ピンチ煉炭を製造すべく設計を終り機械の註文をなさんとせし折柄別に北海製鐵の計畫あり、同社原料の全部は右製鐵に買収契約成立して遂に中止するの止むなきに至り、然るに之より先き氏の豆炭に關する研究亦非常に進捗し既に完成の域に達し居たるなり、即ち當初は無煙炭を木炭の如く壓縮し之を煉り固める粘結劑につき研究中偶々糖蜜を利用したる煉炭につき研究したるも未成品なりし故に氏は更に研究を重ね試みに之を焚燒し炭化する直前に冷水に消熱して固き木炭様のものとなし之に着火せしに直に燃焼して火焰を發したるに力を得、早速糖蜜と無煙炭とを練合せ加熱したる鐵管の中を通し乍ら

るに依り之を機械的に實行するの決心をなすに至り連續操作を以て外部より空氣の流入せざる箇所にて低温乾餾することに成功するに至りしなり、之本邦に於ける豆炭製造の嚆矢にして即ち氏が之が元祖たる誇りを把持する所以なり。

向山幹夫

東京府荏原郡荏原町中延一〇七七

特許第九六三一六號 煉炭製造法

〔内容〕無煙炭末其他の粉炭に硫酸曹達と石灰其他の特種物と水との混和液を加へて製造するものにして燃

北脇市太郎

東京市目黒區中目黒一丁目七五六

特許第一〇二七三五號 家庭用煉炭製造方法

〔内容〕無煙炭其他の石炭質微粉を主要原料として表面堅固に内部多孔性にして着火し易く燃焼繼續性に富み臭氣を發せざる家庭用煉炭を安價に製造する方法。

森友徳兵衛

東京市日本橋區小網仲町五

特許第九五一四三號 固形懷爐灰製造法

〔内容〕杉、松、檜の葉を處理して所定の型にし乾餾炭化せしめてなるものにして良く濕氣に耐へ火持良く糊料を用ひざる爲め使用中煙烟と惡臭を放散せず取扱中指頭を汚す事なき製品。

田部爲治

東京市本郷區駒込西片町一〇口ノ二三

が現在の場所に工場十二噸機を設け豆炭の商品化を企圖したるに創まる、斯くて川澄豆炭が商品として創めて市場に現はれその商品價値の偉大なるを認めらるゝやその需要は各方より喚起される趨勢となり益々事業の有望なるに鑑み同十年十一月株式會社となし事業の基礎を固むると同時に煉炭機を三十噸機に更め製品の向上に邁進せしが故に需要は愈々激増の一途を辿り同十四年頃より漸く創業の苦難の域を越へ相當の利益を見るに至り、從業上の研化と技術的

にして日清戰爭當時自ら進んで海軍機關兵を志願して機關の操縦に従事すること十一年餘、其間一日の睡眠僅かに二時間、よく研究を續け、同三十九年十一月滿期後大阪に來り直に一等機關士の免狀を得次いで翌年郵船三池丸に乗船、後齊州丸に轉船、當時偶々貨物として煉炭を運搬するの機縁を得、之即ち氏の一生涯の運命を指示する羅針盤とはなりしなり、即ち氏の烟眼は夙も此の煉炭改良に全生命を委ねるの固き信念を把持するに至り、而して海上生活者の安

氏の豆炭に關する研究亦非常に進捗し既に完成の域に達し居たるなり、即ち當初は無煙炭を木炭の如く壓縮し之を煉り固める粘結劑につき研究中偶々糖蜜を利用したる煉炭につき研究したるも未完成品なりし故に氏は更に研究を重ね試みに之を焚燒し炭化する直前に冷水に消熱して固き木炭様のものとなし之に着火せしに直に燃焼して火焰を發したるに力を得、早速糖蜜と無煙炭とを練合せ加熱したる鐵管の中を通し乍ら煙を發せしめしに固き木炭様のものを得た

るに依り之を機械的に實行するの決心をなすに至り連續操作を以て外部より空氣の流入せざる箇所にて低温乾燥することに成功するに至りしなり、之本邦に於ける豆炭製造の嚆矢にして即ち氏が之が元祖たる誇りを把持する所以なり。

向山 幹夫
東京府荏原郡荏原町
中延一〇七七

特許第九三二六號 煉炭製造法

〔内容〕無煙炭末其他の粉炭に硫酸曹達と石灰其他の特殊物と水との混和液を加へて製造するものにして燃焼中注水するも崩壊する憂なく燃料として適當なる煉炭の製法。

小沼 得四郎
東京府北多摩郡武藏野
町吉祥寺四六八

特許第九四五三六號 連續逆燃式内熱乾燥方法

〔内容〕徐々に加熱する時は崩壊する性質を有する固結劑を使用せる煉炭を乾燥する場合に關聯する特殊装置にして加熱崩壊の性質ある原料を其變形を防止し火付並に火持の良好なる煉炭を得る装置。

佐々木 佐七
東京市下谷區
龍泉寺町一九五

特許第一〇二七八三號 煉炭製造法

〔内容〕塵芥より多量の炭化物を容易に撰別し塵芥處理を簡易ならしめ且多孔質にして内部より燃焼を起し火力強大而も着火迅速なる木炭代用の煉炭を廉價に製造する法。

北脇市 太郎
篠崎 平馬
東京市目黒區
中目黒一丁目七五六

特許第一〇二七二五號 家庭用煉炭製造方法
〔内容〕無煙炭其他の石炭質微粉を主要原料として表面堅固に内部多孔質にして着火し易く燃焼繼續性に富み臭氣を發せざる家庭用煉炭を安價に製造する方法。

新宮 新左衛門
大阪市東淀川區
三國町九二〇

特許第九五二〇一號 彈性ある二重炭層煉炭製造法

〔内容〕叩解せる植物纖維を處理せるものの中に木炭末と無煙炭末を混和したる混和液を以て製したるものにして柔軟可撒性及彈性を有し着火し易き木炭層を有する煉炭製造法。

關 廣次
東京市豊島區
西巢鴨三丁目八五〇

澁谷 與三郎
東京市蒲田區
矢口町小林二二五

特許第一〇一四七五號 亞炭の乾燥による家庭燃料製造方法

〔内容〕亞炭を乾燥固結せしめ無煙無臭に燃焼をなす純良なる固結炭を粘結劑を使用することなく經濟的に製造する方法。

森友 徳兵衛
東京市日本橋區
小網仲町五

特許第九五一四三號 固形價値灰製造法

〔内容〕杉、松、檜の葉を處理して所定の型にし乾燥炭化せしめてなるものにして良く濕氣に耐へ火持長く糊料を用ひざる爲め使用中煙烟と惡臭を放散せず取扱中指頭を汚す事なき製品。

田部 爲治
東京市本郷區駒込
西片町一〇口ノ二三

田部 義治
東京市淀橋區
東大久保一丁目四六四

特許第一〇〇九七三號 「ピッチ」燐炭製造法

〔内容〕「ピッチ」の粉末に植物性粉末を加へ密閉し耐火質「レトルト」に入れ大氣を可及的遮斷し加熱乾燥する燐炭製造法。

關 允
東京市豊島區
西巢鴨三丁目八五〇

原 金市
東京市淀橋區
東大久保三丁目五二四

特許第一〇一四九二號 石炭類乾燥に於ける高熱物質固結装置

〔内容〕特殊装置に依り石炭類の高熱状態にある乾燥物質を壓搾して大氣及雨露等に作用せらるることなき一定の形體を具へ一定の密度を保有する固結物質を簡單迅速に生成せしむる装置。

市川榮一

東京市蒲田區
小林町二八九

特許第一〇一七〇一號 燃料油能率増進劑

〔内容〕燃料油に燃焼補助劑として加ふる「ナフタリ
ン」に特殊藥劑を配合混和したる能率増進劑。

今井禧四郎

東京市牛込區
早稻田鶴巻町四四三

鶴谷慶吉

東京市豊島區
池袋二丁目九一三

特許第一〇一三五三號 「アルコール」性「ガソリン」代
用燃料製造法

〔内容〕石油原油蒸餾の際餾出する輕油と「アルコー
ル」を主要原料として内燃機關に使用するとき「ガソ
リン」に比し其始動著しく迅速に且つ完全燃焼し遊離
炭素を析出せず「ノッキング」も少き燃料の製造法。

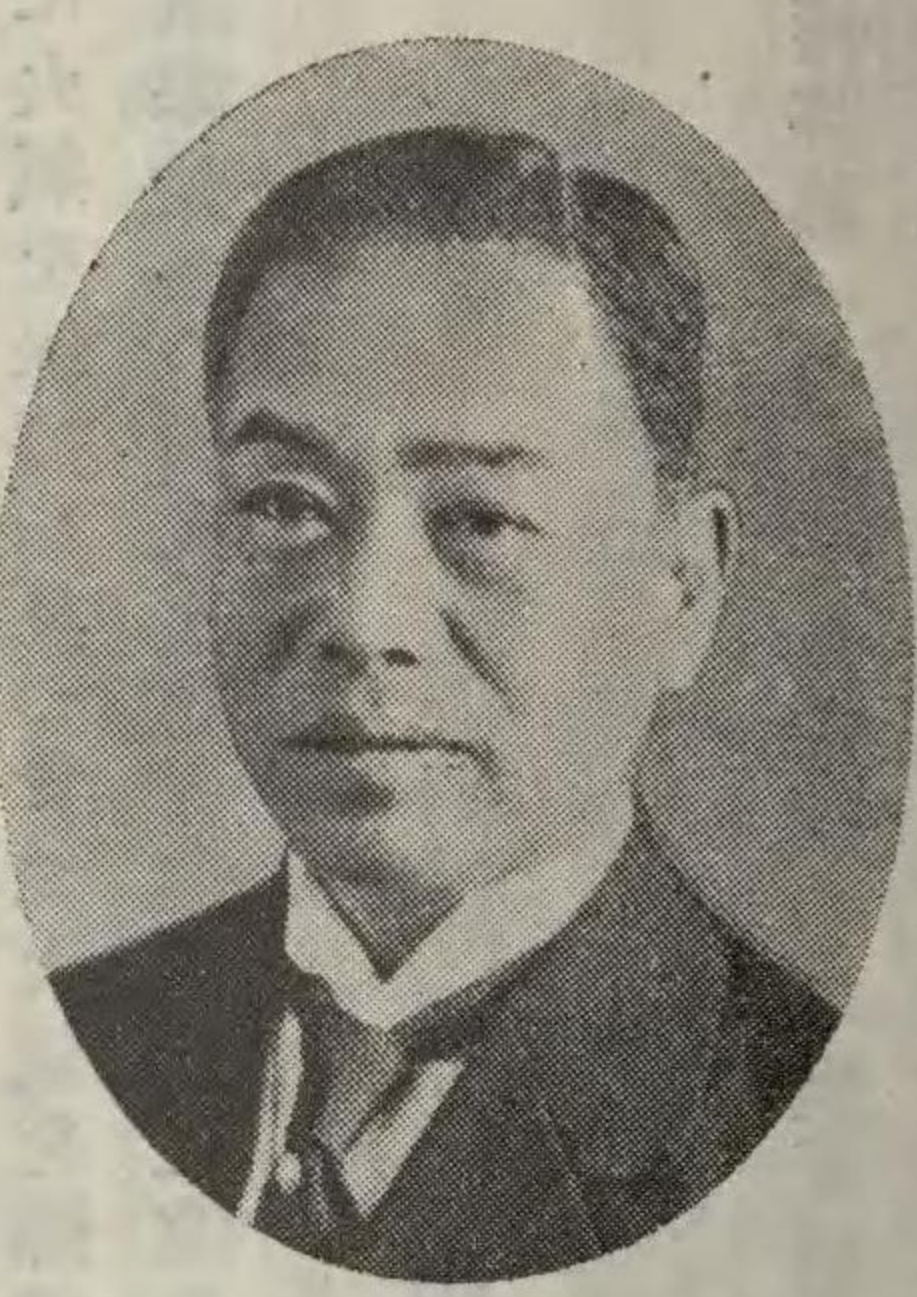


大野勉

大阪市百九
旭區三十三
今市番三
町地

特許第一一三〇一二號 液體燃料の助燃劑

〔内容〕本發明はベンゾール炭火水素のデニト
ロ化合物、ナフタリンのニトロ化合物、芳香族
のアミン化合物及脂肪族のアルコール類の配合
物を主劑として成る液體燃料助燃劑にして、液
體燃料に添加することにより其のオクテン價を



若田虎三郎

大阪市三丁
港區南區八
通川治安南
地番八十

特許第七八一三八號 無煙粉炭埋燃法

〔内容〕本去は無煙粉炭の層と燻の層とを交互

酸鹼にて處理し火力を旺盛ならしめ通風惡き場所にな
ても尚よく燃焼せしむべくしたる燃料加工法

高め起爆性を附與し併せて燃焼を完全ならしめ
熱動率を増大し以て燃料油の消費量を著しく輕
減せしめ得るものなり。

元來燃料油は天然的產物なり、之れが殆ど其
儘内燃機燃料として用ひらるゝ場合ガソリンを
液體火藥の原理より推考し化學的に炭化水素の
結合量比に於て爆發限界が至上のものなりや否
や、又炭化水素分子多き物質或は爆發燃焼に
混合空氣量を多く必要とする物質等を爆發に適
切なる配合状態に置き其の燃料油の發熱量の増
加、混合空氣量の増大等が可能であり、且つ一
方化學的性質の變化による機械機構の發達等は
直接間接消費節約に關係あるを考察し本發明の
動機をなしたるものなり。

〔略歴〕氏は明治三十七年出生、岡山縣倉敷商
業學校を卒業し、昭和七年まで十ヶ年間倉敷紡
績株式會社に勤績す。

柳井禎藏

東京市芝區
白金三光町二七三

特許第九七五七二號 發動機用混合液體燃料

〔内容〕適宜比重の揮發油に特殊化學品を添加し攪拌
したる混液に可燃瓦斯を吸收飽和せしめて成るものに
して引火點蒸溜度を低下せしめ且つ發熱量を大ならし
めたる燃料。

松島喜三郎

東京市小石川區
竹早町一八

特許第一〇三九一九號 粉末狀内燃機用燃料補助劑

〔内容〕特殊の各種粉末狀藥劑を混和せしめたる「ガ

ソリン」等に溶解使用して發熱量を増し爆發力を高め
著しく燃料消費量を節約し得る補助劑。

下村陽吉

東京市王子區
袋町一丁目一七七二

特許第一〇一九五四號 「ガソリン」代用液體燃料

〔内容〕「エチルアルコール」、「ニトロベンゾール」、
醋酸「アミール」及石油を各適量混和したる各種發動
機用として「ガソリン」の代用に適する液體燃料。

濱田八之助

東京府豊多摩郡大久保
町大字西大久保八四

特許第九四九四八號 混合微粉燃料の製造方法

〔内容〕軟質「ピッチ」其他軟性瀝青質可燃物を加熱
し之れに特殊装置により微粉炭を混和せしむるものに
して前記原料を廣く燃料として利用する方法。

青木八十三

大阪市此花區
上福島中一丁目五五

谷永重家

富山縣婦負郡八尾町
上新町二六三二ノ二

坂本成二

石川縣羽咋郡
羽咋町コ五番地

特許第一〇三二八〇號 燃料加工法

〔内容〕木炭、石炭類、發熱質を製造したる塊炭を碎

都高等蠶業學校等の養蠶室に於て十數度の試験
を経たる等苦心努力を重ねらるゝこと數年、遂
に本法の發明完成を見るに至りしものなり。尙
目下一般普及宣傳中に屬し將來の發展を期せら
れつつあり。

植生保

大阪府住吉區北田邊町
三百六十八番地

特許第一〇六三四八號 石炭自働乾溜裝置

〔内容〕燃料筒に燃料ボックスを入れたる儘内
筒即レトルト内の中央に一定の間隙を保たしめ

谷十一二

東京市本郷區
駒込町一〇五

鬼頭美代志

東京府豊多摩郡
杉並町字天沼七八〇

特許第一〇〇三六二號 動力瓦斯發生爐羽口

〔内容〕空氣の瓦斯化帶と水性瓦斯化帶とを區別する
ため空氣を羽口の中心より水蒸氣を羽口の周圍より噴
霧を分解せしむると共に不反應水蒸氣を凝結し爐内温
度を甚だしく低下することなく水性瓦斯を製造する方
法。



今三市番三町地 勉

特許第一三〇二二號 液體燃料の助燃劑

〔内容〕本發明はベンゾール炭火水素のデニトロ化合物、ナフタリンのニトロ化合物、芳香族のアミン化合物及脂肪族のアルコール類の配合物を主劑として成る液體燃料助燃劑にして、液體燃料に添加することにより其のオクテン價を

酸鉛にて處理し火力を旺盛ならしめ通風悪き場所に於ても尚よく燃焼せしむべくしたる燃料加工法



大坂市南区港町八丁目三番地 若田虎三郎

特許第七八一三八號 無煙粉炭埋燐法

〔内容〕本法は無煙粉炭の層と藁の層とを交互に爐中に埋積して其上部に木炭其他の火塊を載せ、更に藁灰層にて其表面を覆ひ無煙粉炭を暖房用燃料として其儘使用し得るものなり、故に多量の粉炭を一度に爐中に埋没し漸次に燃焼せしめて長く同一温度を持續し、殊に層中に生ずる藁灰層と表層の藁灰とによりて其温度を自由に調節し得べく且つ着火容易に而かも完全に燃焼するを特徴とするものにして一般家庭は勿論特に養蠶飼育に必要な燃料として最も經濟的に且つ用法簡單に能率的なる投炭の量により何ヶ月にても燃焼持續するが故に熱利用法として效果的なり。

〔略歴〕氏は明治二年八月の出生、二十歳頃より石炭商に従事し現在に於ては石炭、重油、無煙炭の販賣並煉炭工場を經營す、夙に粉炭を製煉せず其儘使用し得る方法につき研究する所あり、而かも本發明に必要な外温、内温の度差を計るために大設備を有する郡是製絲會社、京

〔内容〕適宜比重の揮發油に特殊化學品を添加し攪拌したる混液に可燃瓦斯を吸收飽和せしめて成るものにして引火點蒸溜度を低下せしめ且つ發熱量を大ならしめたる燃料。

松島喜三郎

東京市小石川區竹早町一八

特許第一〇三九一九號 粉末狀内燃機用燃料補助劑

都高等職業學校等の養蠶室に於て十數度の試験を経たる等苦心努力を重ねらるゝこと數年、遂に本法の發明完成を見るに至りしものなり。尙目下一般普及宣傳中に屬し將來の發展を期せられつつあり。

植生保

大坂市住吉區北田邊町三百六十八番地

特許第一〇六三四八號 石炭自働乾溜裝置

〔内容〕燃料筒に燃料コークスを入れたる儘内筒即レトルト内の中央に一定の間隙を保たしめつゝ火床上に常に一定量のコークスを連續燃焼せしめ、平均に内筒即レトルトを熱しつゝ自働調節器により徐々に下降せしめ順次に石炭を自働乾溜せしむる装置にして、徐々に下降する火床に常に一定量のコークスを燃焼せしむることによりて瓦斯を長時間中極めて平均に發生せしめ従つて瓦斯タンクを要せず、石炭瓦斯の使用を簡易化し且つ瓦斯の發生量を自由に調節し得る特徴を有するものなり。

〔略歴〕氏は明治二十二年三月石川縣小松町の出身、多年研究に没頭し遂に本發明を完成せられたるなり。

並河孝

山口縣都濃郡徳山町慶万海軍燃料廠丙第一號官舎

特許第九八九五七號 炭化水素瓦斯の分解方法

〔内容〕特殊裝置に依り骸炭の發生熱にて炭化水素瓦

青木八十三 大坂市此花區上福島中一丁目五五

谷永重家 富山縣婦負郡八尾町上新町二六三二ノ二

坂本成二 石川縣羽咋郡羽咋町コ五番地

特許第一〇三二八〇號 燃料加工法

〔内容〕木炭、石炭類、炭灰類を製成したる塊炭を斯を分解せしむると共に不反應水蒸氣を蒸熱し爐内温度を甚だしく低下することなく水性瓦斯を製造する方法。

谷十二 東京市本郷區駒込町一〇五

鬼頭美代志 東京府豊多摩郡杉並町字天沼七八〇

特許第一〇〇三六二號 動力瓦斯發生爐羽口

〔内容〕空氣の瓦斯化帶と水性瓦斯化帶とを區別するため空氣を羽口の中心より水蒸氣を羽口の周圍より噴出せしむべく構成せるものなり。

山崎喜一郎 川口市三一三

内田正次郎 燃料研究所内

特許第一〇三八六九號 連續式瓦斯發生裝置

〔内容〕瓦斯化「レトルト」への連續的給炭と自由燃焼室の燃焼調整とにより低小なる爐型を以て大量の良質發生爐瓦斯又は水性瓦斯を圓滑容易に發生せしむる装置。

淺川權八 東京市中野區氷川町一二

特許第一〇二七六四號 輕量瓦斯發生裝置

〔内容〕瓦斯發生爐の爐胴外周に於て上下に開通する通氣套隙をなして中空筒狀の瓦斯冷却器を繞設したる占位容積小にして運搬取扱容易なる瓦斯發生裝置。

木村 忠雄

山口縣豊浦郡彦島町
大字彦島三三七一

特許第九六二四三號 熔滓流出式水性瓦斯發生裝置

〔内容〕火格子を有せずして爐底に豫熱空氣導入口及更に上位位置に水性瓦斯排出口を有し爐頂にのみ過熱水蒸氣導入口並に燃焼瓦斯排出口を具備したる裝置。

三島 超

青森縣南津輕郡
大鰐町大字大鰐一九二

特許第一〇一〇七〇號 瓦斯再燃裝置を有する「ドソン」瓦斯發生爐

〔内容〕上風通風式により發生せる瓦斯に含まるる未燃焼炭粉「タール」揮發物、塵芥等及剩水蒸氣を再燃せしめ瓦斯清淨を補ひ良好なる瓦斯を得せしむる發生爐。

白土 允中

東京府荏原郡
大森町山谷二五〇六

特許第九七六八二號 瓦斯自動車用瓦斯發生爐

〔内容〕特殊裝置に依り自動車機關の休止中と雖爐中に火氣を保持し且つ常に火氣を燃焼室中に局限して貯藏燃料への引火を防ぎ燃料の徒消を防止する裝置。

漆田 信

岩手縣二戸郡淨法寺村
大字淨法寺八幡館九

特許第一〇一七九六號 木炭瓦斯發生爐

〔内容〕發動機負荷の不同に應じて自動的に送風量を調節し以て瓦斯の發生供給量を調節し瓦斯供給量の急變に對しても些の支障なからしめたる木炭瓦斯發生爐。

を洗滌するに當り該有煙瓦斯をして適宜筒體の下方又は上方より通過せしむるに際し、筒體内には下方に傾斜せる版を左右交互に階版狀に配置し且つ版の表面をして凹凸波狀ならしめ筒の上位より水其の他の液體を微細に流下せしむる事により其凹凸波狀版の凹溝により各版面に液を等配して交互階段狀に流下せしめ以て筒内を通過する有煙瓦斯をして悉く液に接觸せしめ、瓦斯中に含む煙其他の夾雜物を可成的洗滌すべくしたるものにして、簡單なる手段を以て有煙瓦斯を充分に洗滌して清淨瓦斯となし以て爾

日高 晴生

横濱市神奈川區青木町
字輕井澤一八五八

特許第一〇〇二五九號 混成瓦斯發生裝置

〔内容〕爐内温度の分布と給氣の分布とを一致せしめ瓦斯化作用能率を増大すると共に爐の上平に於ける乾燥作用をも各部均等ならしむべくしたる特殊裝置。

時山 義輔

東京府豊多摩郡
淀橋町柏木九一

特許第九六二〇四號 揮發性液體の氣化促進器

〔内容〕特殊裝置に依り揮發性液體を循環せしめて揮發性液體と壓縮瓦斯との混合氣體を得る裝置。

大久保 好行

東京市麴町區
三番町三〇

特許第九七五七一號 「エア」瓦斯發生器

〔内容〕揮發油の比重の變動に伴ひ自動的に氣化率を變化し以て揮發油比重の變化に伴ふ「エア」瓦斯の濃度の變動を防止する裝置。

島津 源吉

東京府豊多摩郡落合町
大字下落合二〇九五

特許第一〇〇五三六號 「ガソリン」瓦斯發生裝置に於ける「ガソリン」逆流防止方法

〔内容〕壓送空氣側と發生瓦斯側とを連絡せしめ其中途に壓送空氣側より之を閉塞し發生瓦斯側より之を開くべき弁を附したるを特徴とする「ガソリン」逆流防止方法。

石川 源二

横濱市神奈川區
幸ヶ谷三三五

特許第九六二二七號 「アセチレン」瓦斯自動發生給水裝置

〔内容〕自働給水器内を壓力作用室と給水調節室とに分離し隔膜の作用により自動的に給水し瓦斯の發生により壓力を増すとときは自動的に給水を斷たしむる裝置。

永井 雄三郎

東京市豊島區
巢鴨町六丁目一五二二

特許第一〇三〇二四號 「アセチレン」發生器の改良

〔内容〕「アセチレン」發生器の「カーバイト」裝填口に中空筒を連設して「アセチレン」發生器の爆發を防止せしむる裝置。

寺崎 善吉

東京府荏原郡
目黒町中目黒六四四
宮腰六三方

特許第九七五七九號 塵芥雜草等の微粉泥狀態より低温度にて可燃性瓦斯を發生する裝置

〔内容〕瓦斯發生裝置内に連續せる特殊原料流下帶に蒸氣放出管を配列して低温度を維持せしめる發生裝置。

伏田 清三郎

大阪府此花區
上福島二丁目

特許第二六五〇四號 瓦斯洗滌裝置

〔内容〕本發明は油母頁岩を補助燃料を用ひずして乾留し頁岩油の増收を計らんとするものにして、乾留爐下部に水性瓦斯發生爐を設け乾留殘滓を落下して水性瓦斯を發生せしめ之を乾留爐内に通ずる際乾留爐より發散する瓦斯を著熱器により高温に加熱したるものと混じて乾留爐下部より吹き入れ循環的に流通せしむることを特徴とし、油質の品位を低下する酸素の存在を極度に減じアムモニアの回收をも可能ならしめたるものなり。

本法は蘇格蘭式外熱法に比し熱經濟良好にし

山口 治三郎

大阪府住吉區
阿倍野筋三丁目七四

特許第一〇二七六二號 固形二酸化炭素製造法

〔内容〕液化二酸化炭素の氣化と氷結との關係により變化すべき氣化室内の壓力を「ピストン」の作用によ

に火氣を保持し且つ常に火氣を燃焼室中に局限して貯藏燃料への引火を防ぎ燃料の徒消を防止する装置。

漆田信

岩手縣二戸郡淨法寺村
大字淨法寺八幡館九

特許第一〇一七九六號 木炭瓦斯發生爐

〔内容〕發動機負荷の不同に應じて自働的に送風量を調節し以て瓦斯の發生供給量を調節し瓦斯供給量の急變に對しても些の支障なからしめたる木炭瓦斯發生

島津源吉

東京府豊多摩郡落合町
大字下落合二〇九五

特許第一〇〇五三六號 「ガソリン」瓦斯發生裝置に於ける「ガソリン」逆流防止方

法

〔内容〕壓送空氣側と發生瓦斯側とを連絡せしめ其中途に壓送空氣側よりは之を閉塞し發生瓦斯側よりは之を開くべき弁を附したるを特徴とする「ガソリン」逆流防止方法。

伏田清三郎

〔内容〕瓦斯發生裝置内に連續せる特殊原料流下帶に蒸氣放出管を配列して低温度を維持せしめる發生裝置。

伏田清三郎

大阪市此花區
上福島二丁目

特許第二六五〇四號 瓦斯洗滌裝置

〔内容〕本發明は有煙炭より發生する有煙瓦斯

を洗滌するに當り該有煙瓦斯をして適宜筒體の下方又は上方より通過せしむるに際し、筒體內には下方に傾斜せる版を左右交互に階版狀に配置し且つ版の表面をして凹凸波狀ならしめ筒の上位より水其の他の液體を微細に流下せしむる事により其凹凸波狀版の凹溝により各版面に液を等配して交互階段狀に流下せしめ以て筒内を通過する有煙瓦斯をして悉く液に接觸せしめ、瓦斯中に含む煙其他の夾雜物を可成的洗滌すべくならしむるものにして、簡單なる手段を以て有煙瓦斯を充分に洗滌して清淨瓦斯となし以て爾後の瓦斯の用途に對して障害なからしめたるものなり。

〔略歴〕氏は安政二年京都府の出身、東京逓信學校卒業後逓信技手となり、浪速紡績、金中紡績、和歌山紡績等各社の工務課長を経て明治廿三年大阪市に於て幸榮鐵工所を創設し同三十一年同市此花區上福島二丁目に移轉して伏田鐵工所と改稱、大正七年九月株式組織に變更し社運隆々として業界に重きをなしたりしが同十三年個人經營として現在に至る、製品伏田式吸入瓦斯發動機は多大なる名聲を馳せつゝあるものにして受賞五十有數度に及ぶ。

田邊和一

大阪市港區
千代見町二丁目二四

特許第九六七二號 固形二酸化炭素製造裝置

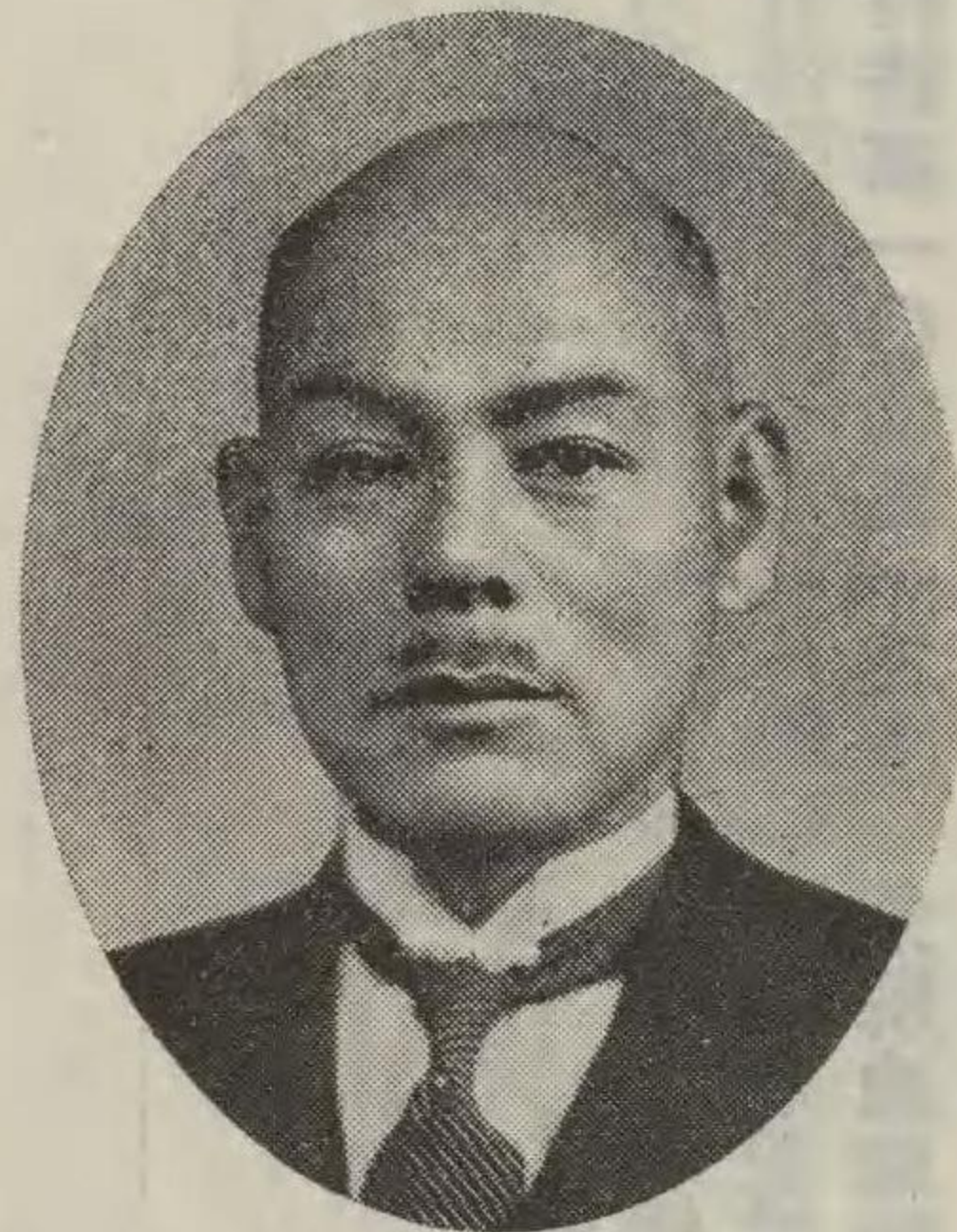
〔内容〕液化二酸化炭素の氣化消耗量を極度に減少し高能率に於て持續的に固形二酸化炭素を製造する裝

山口治三郎

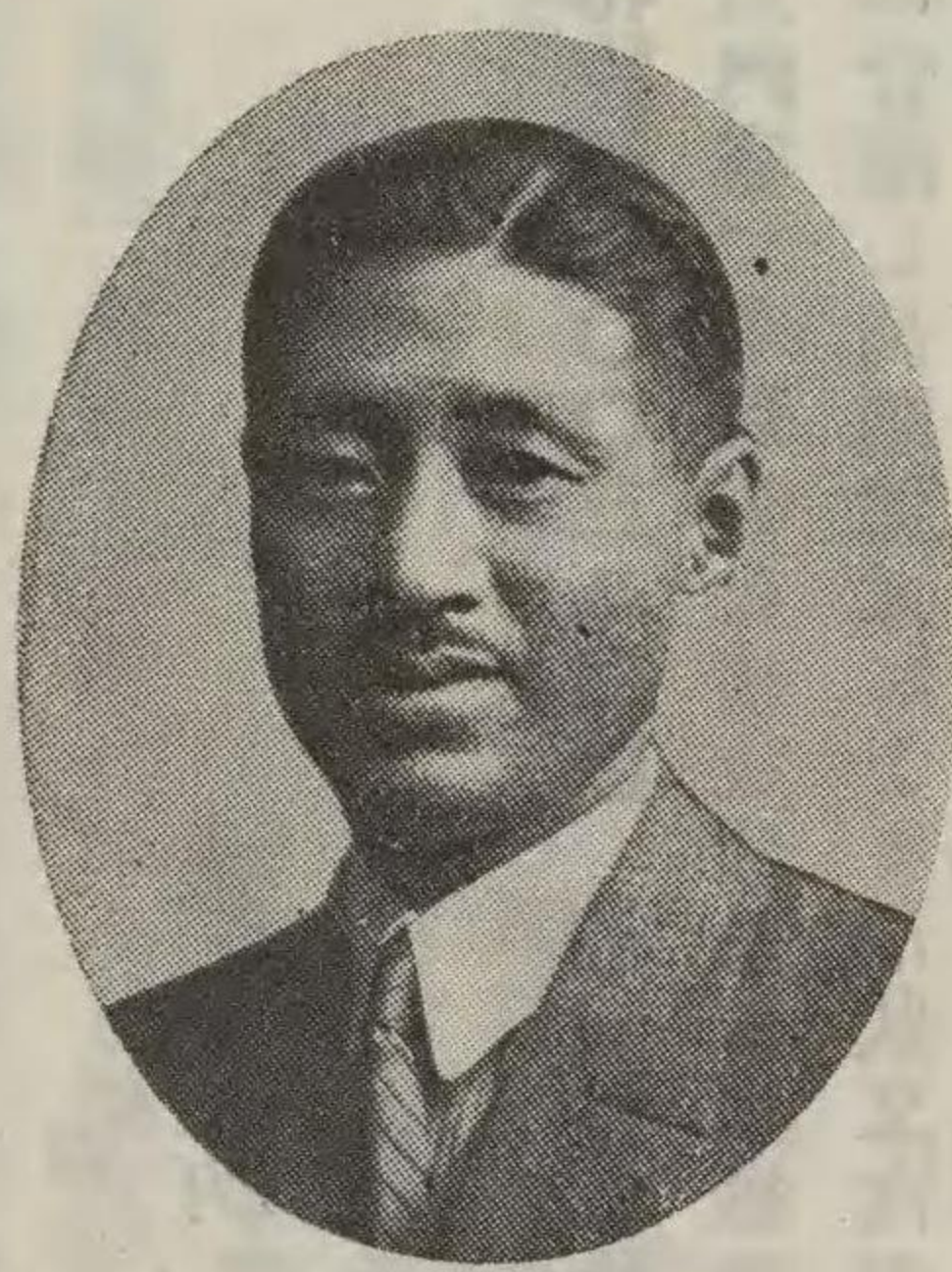
大阪市住吉區
阿倍野筋三丁目七四

特許第一〇二七六二號 固形二酸化炭素製造法

〔内容〕液化二酸化炭素の氣化と氷結との關係により變化すべき氣化室内の壓力を「ピストン」の作用により自働的に一定に保たしめ固形成生に適應する状態を自働的に保有せしめたる製造法。



岡村金藏
大阪市連山吹二丁目



故 長谷川清治

特許第六九九二〇號 油母頁岩乾餾法(頁岩油)

〔内容〕本發明は油母頁岩を補助燃料を用ひずして乾餾し頁岩油の増收を計らんとするものにして、乾餾爐下部に水性瓦斯發生爐を設け乾餾殘滓を落下して水性瓦斯を發生せしめ之を乾餾爐内に通ずる際乾餾爐より發散する瓦斯を蓄熱器により高温に加熱したるものと混じて乾餾爐下部より吹き入れ循環的に流通せしむることを特徴とし、油質の品位を低下する酸素の存在を極度に減じアムモニアの回收をも可能ならしめたるものなり。

〔略歴〕岡村氏は明治三十九年京都帝國大學理工科電氣工學科卒業、製鐵所、京都市技師を経て大正二年南滿洲鐵道株式會社に入社し昭和三年撫順岩鑛臨時製油工場建設事務所長となり同七年計畫部勤務となり現在に及ぶ。頁岩油事業に關する研究のため歐米に出張すること二回、帝國發明協會より特等賞、恩賜記念賞並大賞を受領す。

長谷川氏は島根縣の出身、明治四十四年大阪高等工業學校機械科卒業、千代田瓦斯株式會社

東京瓦斯會社、山陰瓦斯會社、久留米市役所等を経て大正六年南滿洲鐵道株式會社に入社し十三年歐米に出張し昭和五年製油工場長となり同八年病没さる。
帝國發明協會より特等賞、恩賜記念賞並大賞を受領す。

村上 勇三郎

東京市 城東區
龜戸町七丁目二四一

小林 三勇吉

東京市 城東區
龜戸町七丁目六四

特許第九九八七號 動力用高壓瓦斯發生方法

〔内容〕固形炭酸及「カーバイト」を瓦斯發生室に封入し之に水を注入する事により發生する動力用高壓瓦斯發生方法。

北脇市 太郎

東京市 目黒區
中目黒一ノ七五六

鈴木 爲吉

東京市 目黒區
中目黒四ノ一四七五

特許第一〇三九六號 炭素質物質に水素を化合せしめ重要な炭化水素を製造する方法

〔内容〕水素添加觸媒として燐に超微量の「ヨード」等を混入使用する石炭類等に水素を高温高壓下に作用せしめて成る製法。

白根 源藏

埼玉縣北足立郡
南平柳村大字本郷

城所 徳祐

東京市 本郷區
本郷五ノ四二

特許第一〇〇三八二號 鑛油類似物の製造方法

〔内容〕草類等を其成分たる葉綠素、黄色顔料及殘物に分離し高壓還元により油狀又は半固體「バラフィン」類似の油或は重油狀に油化せしむる方法。

吉村 悌治

新潟縣刈羽郡
柏崎町大久保七八
日本石油株式會社内

特許第一〇二五二三號 分解油精製法

〔内容〕「チオアルコール」の如き分解油中の惡臭原體及其他の不純成分と直接に反應し得べき精製劑を液相にて混じ比較的低温度にて分子接觸をなせしめ此等を分解油より完全に除去せしむる法。

中村 運正

新潟縣刈羽郡
新堀町大字批杷島一四八三
日本石油株式會社
柏崎製油所内

特許第一〇三八〇六號 鑛油處理法

〔内容〕鑛油を「ニトロベンゾール」等の如き飽和又は飽和に近き炭化水素を溶解し難き溶劑一種又は數種とを併用して處理し原料油中の該炭化水素と然らざる炭化水素とを分離する方法。

伊川 浩藏

東京市世田ヶ谷區
大原町一一〇二

河野 雙二

東京市牛込區
矢來町三二

特許第一〇〇四八四號 油化方法

〔内容〕酸素及硫黃屬元素を含有せざる燐化合物又は容易に該燐化合物を生成すべき物質を觸媒として使用する方法。

松村 善藏

神戶市湊西區
北仲町十八番地

特許第九九八〇五號 鑛油蒸溜裝置

〔内容〕本發明は壓力を伴はざる比較的高温なる熱氣の均一なる加熱に於て鑛油の眞空蒸溜を遂行すると共に尙必要に應じて熱氣の調整を簡易に爲し且つ使用罐材或は管材の破裂損傷を可及的に絶無ならしめたる裝置なり、從來の裝置として蒸溜罐底部より直火に依り或は罐内に傳熱蛇管を配裝し飽和蒸氣或は熱水を通じて蒸溜を爲したるものあれども罐底部の原油を過熱して鑛油の分解作用を惹起し又は飽和蒸氣の壓力大による破裂破損の危険ある等の缺點あり、然るに本裝置は眞空蒸溜罐の兩側に熱氣室を、又下底部に底部熱氣室を各裝設し割壁により區劃せる熱氣室を罐内に架設せる熱氣管に依り熱氣の交換流通を行はしめたるを以て原油の加熱に偏頗を生ずる虞なく且つ眞空蒸溜と熱氣加熱と

稻葉 卓一

關東州大連市
須磨町二〇

横地 三夫

關東州大連市
回春街六ノ一ノ一五

特許第一〇三三三八號 鑛油瀝青質又は脂肪油の乳化法

〔内容〕動植物性「フオスファチド」の「ゾル」に水性の一價又は二價の金屬鹽を添加し「フオスファチド」の一部凝固を起せる「サスペンション」を乳化劑として脂肪油鑛油其他を乳化する方法。

小島 鎮雄

兵庫縣武庫郡
住吉村字八甲田七二六

特許第九五四二二號 含銅硫化鐵鑛の焙燒鑛の處理方法

〔内容〕塊鑛を簡易なる操作により「クラスト」の部と「カーネル」類とが分離する迄磨砕せしめて小粒乃至粉狀の部と大粒乃至塊狀の部との二部に選別する方法。

上野 建二郎

兵庫縣武庫郡鳴尾村
燒屋敷五(眞鳴園)

大河内 正敏

東京市下谷區
谷中清水町一

とにより蒸溜温度は比較的低温を期し得ると共に、尙燃焼爐に近接して導管に穿てる空氣導入孔より流入する空氣は導管が比較的長き關係上罐に至る道程に於て熱氣と空氣との混和を一樣ならしめ得る利あると共に其の流入量により熱氣温度の調整を極めて簡単に遂行し得るものなり。

鈴木 爲吉
東京市目黒區
中目黒一ノ七五六
中目黒四ノ一四七五

中村 運正
新潟縣刈羽郡柏崎町
大字批杷島一四八三
日本石油株式會社
柏崎製油所内

小島 鎮雄
兵庫縣武庫郡
住吉村字八甲田七一六

特許第一〇三九六四號 炭素質物質に水素を化合せしめる方法
〔内容〕水素添加觸媒として磷に超微量の「ヨード」等を混入使用する石炭類等に水素を高温高壓下に作用せしめて成る製法。

特許第一〇三八〇六號 鑛油處理法
〔内容〕鑛油を「ニトロベンゾール」等の如き飽和又は飽和に近き炭化水素を溶解し難き溶剤一種又は數種とを併用して處理し原料油中の該炭化水素と然らざる炭化水素とを分離する方法。

熱蛇管を配装し飽和蒸氣或は熱水を通じて蒸溜を爲したるものあれども罐底部の原油を過熱して鑛油の分解作用を惹起し又は飽和蒸氣の壓力大による破裂破損の危険ある等の缺點あり、然るに本装置は眞空蒸溜罐の兩側に熱氣室を、又下部に底部熱氣室を各装設し割壁により區劃せる熱氣室を罐内に架設せる熱氣管に依り熱氣の交換流通を行はしめたるを以て原油の加熱に偏頗を生ずる虞なく且つ眞空蒸溜と熱氣加熱

とにより蒸溜温度は比較的低温を期し得ると共に、尙燃焼爐に近接して導管に穿てる空氣導入孔より流入する空氣は導管が比較的長き關係上罐に至る道程に於て熱氣と空氣との混和を一樣ならしめ得る利あると共に其の流入量により熱氣温度の調整を極めて簡単に遂行し得るものなり。

大河内 正敏
東京市下谷區
谷中清水町一

吉川 退藏
東京府豊多摩郡
長崎町荒井一八八三

特許第九九九八七號 炭化水素乾餾又は破壞乾餾電氣爐
〔内容〕堅型加熱室に固定原料供給口及氣體製品取出口並に液體及固體製品取出口を裝備し而して電流の極を上下位置に設け其中間に液體原料噴油口を設けてなる装置。

特許第一〇二二二八號 鑛油瀝青質又は脂肪油の乳化法
〔内容〕動植物性「フオスファチド」の「ゾル」に水性の一價又は二價の金屬鹽を添加し「フオスファチド」の一部凝固を起せる「サスペンション」を乳化劑として脂肪油鑛油其他を乳化する方法。

藤田 政輔
東京市赤坂區
丹後町七七

特許第一〇二二七二號 床面塗布液の製造法
〔内容〕鋪裝床面の塗布に適する鑛油性油又は之を主成分とする特殊藥品の混合油液に少量の「グリセリン」含有の水を加へ乳濁質水溶液状たらしむる事の特徴とする液の製造法。

高木 銳男
大阪府北河内郡蹛野村
大字中根二四九五

石川 留吉
朝鮮京城府
大和町二ノ七八

特許第一〇〇三九〇號 明礬石を含有する鑛石中より明礬石を其他の鑛物より分離する方法
〔内容〕鑛石を粉碎し加水し鑛液となし之に醋酸又は醋酸鹽と椰子油とを浮遊媒劑として添加し攪拌して分離する方法。

池邊 瀧三郎
東京府荏原郡目黒町
大字下目黒五九〇

岡崎 願二郎
東京府豊多摩郡野方町
大字上鷺ノ宮四四六

豊原 彰
東京市牛込區
市谷甲良町二

特許第九八三三九號 明礬石の浮遊選鑛法
〔内容〕明礬石を粉碎し浮遊媒劑を少量混和し該鑛石中に含有する硫酸類を分離し品位高き富鑛を經濟的に得る法。



工學博士
梅津常三郎
在滿洲國鞍山上臺町

特許第四二九七二號 赤褐鐵礦選鑛法

〔内容〕從來此種の選鑛は水洗法に依りしがた
め處理複雑且つ能率悪しきを以て鐵鑛の如き廉
なるものにおいて到底經濟上實施し能はざる
ものとして顧みられざりしを最も容易に且つ經
濟的に應用し得る様なせるものなり。即ち爐に
て加熱し且つ還元瓦斯に觸れしむるときは多く
の夾雜物を含む緻密なる此種の鑛石は加熱のた
めに其の容積を増大すると共に還元瓦斯のため
に化學作用を受け容易に龜裂を生じ非常に粉碎
しやすき状態となり又強き磁性を帶ぶ、之を粉
碎し磁力選鑛機により選別するものにして、粉
碎の容易なると含鐵分の回收率大なることにより
經濟的に實施し得るものなり。尙本發明は鞍山
製鐵事業の根幹をなすものにして從來顧みられ
ざりし埋藏量七億噸の貧鑛を經濟的に處理製鍊
し得べくなし、其の他本溪湖並弓張等滿洲に藏
する鐵鑛を有利に使用し得る途を拓きたるもの
にして實に本邦製鐵事業界に貢獻する所大なる
ものなり。

〔略歴〕氏は明治四十四年京都帝國大學工學科採
鑛冶金科卒業、直に製鐵所に入所大正四年技師

第一製鋼課長等を経て南滿洲鐵道株式會社に轉
じ鞍山製鐵所に勤務し、大正九年より貧鑛處理
研究に従事す、同十二年製造課長に、昭和八年
株式會社昭和製鋼所取締役兼製鐵部長となり其
の間二回歐米に出張す。昭和七年工學博士の學
位を受け滿鐵會社功績章、日本鑛業渡邊賞牌を
受け帝國發明協會より恩賜記念賞を受領す。

小室 靜 夫

東京市本郷區
西片町一〇に九

特許第一〇二二〇九號 砒化及砒硫化「ニツケル」鑛
の浮遊選鑛法

〔内容〕原鑛を加水粉碎し補收劑として或は起泡劑と
して特殊化學藥品を加へ直に浮遊選鑛を行ふ法。

仲田 旭

宮城縣栗原郡
鶯澤村字南郷荒町四八
畑食鑛山事務所内

特許第九九五八二號 硫酸鉛を含有する泥狀鑛滓處理
法

〔内容〕原質に飽和食鹽溶液を加へ加熱したる鑛漿を
電解に先だち溶液を溶解滓と分離せずして電解する
ものに關聯する特殊操作により食鹽を有効に再生し反
覆利用し得る處理法。

窪田 哲二 郎

大分縣佐賀關町
日本鑛業株式會社
佐賀關製煉所

特許第三七五〇一號 緩中の金銀銅回收法

〔内容〕本發明は金銀銅鑛煉爐より生ずる溶
所あり、後優良なる酸化亞鉛の製造法の研究に
従事し大正九年株式會社桃谷順天館技師兼工場
長に就任専ら顔料純無鉛亞鉛華製造に携はり現
在に至る。

樋口 正 吉

東京市大森區
大森二ノ二七四

特許第一〇三五六八號 鉛又は硬鉛中の銅及錫を除去
する方法。

〔内容〕原鑛を熔融し「アルカリ」と硫黄等の物質の
一種若くは二種以上より成る混合熔融物を接觸作用せ

融状態の緩を電氣爐に受けて加熱すると同時に
適量の硫化物を加へ攪拌して因て生じたる緩中
に金銀銅を吸収せしめて爐底に分離する方法に
して、緩中に逃失する金銀銅の大部分を回収し
得るものなり。

〔略歴〕氏は明治十八年愛媛縣の出身、同四十
四年東京帝國大學冶金學科卒業、日本鑛業株式
會社日立鑛山技師となり大正九年同社佐賀關製
煉所副所長を経て昭和三年同所長となる。同七
年工學博士の學位を受け同九年同社取締役とな
り現在に至る。夙に金銀銅鑛の製鍊の技術上並
經濟上の合理的向上を計らんとせば緩中に逃失
する金屬の形態の真相を闡明し之に適合する方
法を講ずることは其の重要な事に想到し、化
學的方法、浮遊選鑛法、顯微鏡的觀察並に電氣
爐等の研究により大正九年末本特許を得、引續
き作業規模を以て實驗を重ね各種の改良を施す
こと五ヶ年、大正十四年より經濟的操作を開始
し以て現在の實績を擧ぐるに至れるなり。
帝國發明協會より優等賞、進歩賞等を受く。

井 上 義 一

岩手縣上閉伊郡
釜石町第一四地割二

特許第一〇二三五二號 石炭の酸炭化に伴ふ不規則な
る導電作用を制御する滿電鐵
の電氣製鍊法

〔内容〕石灰石等鹽基性電氣抗質物の粉狀物を装入に
先ちて石炭粉中に煤粉として必要なる全量を均密に
攪散介在せしむる事を特徴とする方法。

秀なる磁氣状態を維持するものなり。

〔略歴〕氏は明治十三年群馬縣の出身、同四十
年東京帝國大學工學科採鑛冶金科卒業、古河鑛業
株式會社に入社四十四年辭して獨逸に留學シア
ーヘン大學鐵鋼研究室に於て研究、大正三年同
大學ドクトル・インデニアの學位を受く、同
四年日本特殊鋼合資會社を創立して代表社員と
なる、同九年工學博士の學位を受け帝國發明協
會より進歩賞、特等賞、大賞を受領す。

高 島 則 次 郎



宮 臺 勝 次
大 阪 市 西 區
千 本 通 丁 二 十 二 番 地

特許第一〇六五九一號 纖維狀亞鉛の製造方法

〔内容〕本製造方法は高温度の熱を以て亞鉛を
熔解して熱湯となし、其の表面を平版又は櫛齒

電解に先だち溶液を溶解滓とに分離せずして電解するものに關聯する特殊操作により食鹽を有効に再生し反覆利用し得る處理法。

〔略歴〕氏は明治四十四年京都帝國大學工科學科採礦冶金科卒業、直に製鐵所に入所大正四年技師



宮 臺 次
大阪府大阪市西成區
本通二丁目十二番地

特許第一〇六五九一號 纖維狀亞鉛の製造方法

〔内容〕本製造方法は高温度の熱を以て亞鉛を溶解して熱湯となし、其の表面を平版又は櫛齒狀のものを以て軽く且つ均等に摩擦して熱湯面に發生する皮膜を左右に掻き寄せ、急速に之を冷却せしめて纖維狀亞鉛を製造するものにして工業的各種の用途に供して容易に分解又は變化を受くる資料を極めて簡單且つ廉價に供給し得るものなり、即ち本發明の特徴は亞鉛地金より直接に然も最も容易に亞鉛粉末を製造し得るにあり、且つ亞鉛華の製造に當りては小規模の設備にて大量的製産を容易に且つ經濟的ならしむるものなり。

〔略歴〕氏は明治十八年出生、同三十九年本邦に於て未だ亞鉛精練事業の發達せざるを遺憾とし密に自己の終生の研究事業たる事を決意するに至れり、然るに支那に於ける同事業に對する歴史は極めて古きを聞知し兩度渡支して立式亞鉛精練法を修得し、亞鉛高熱還元法及濕式法、電氣精練法等金屬分解精練に就き研鑽を重ね、支那厘錢の銅、亞鉛分解精練法を研究成功し歸朝後本邦輸出亞鉛界に力を致し斯界に貢獻する

電解に先だち溶液を溶解滓とに分離せずして電解するものに關聯する特殊操作により食鹽を有効に再生し反覆利用し得る處理法。

〔内容〕本發明は金銀銅鐵煉煉爐より生ずる酸

窪田哲二郎
大分縣佐賀關町
日本鐵業株式會社
佐賀關製煉所

特許第三七五〇一號 緩中の金銀銅回收法

所あり、後優良なる酸化亞鉛の製造法の研究に従事し大正九年株式會社桃谷順天館技師兼工場長に就任専ら顔料純無鉛亞鉛華製造に携はり現在に至る。

特許第一〇三五六八號 鉛又は硬鉛中の銅及錫を除去する方法

〔内容〕原鑛を熔融し「アルカリ」と硫黃等の物質の一種若くは二種以上より成る混合熔融物を接觸作用せしむる事を特徴とする方法。



工 學 博 士
邊 渡 三 郎
東京大森一丁目
大森特別市
大森四丁目
森七會社
區五社

特許第四三六六〇號 白硬性磁石

〔内容〕從來凡ての磁石鋼は之を赤熱より水中に急冷して強烈なる焼入れを施し使用するものにして、焼入の調節を誤るときは磁力不良焼割れ變形等の不利あるものなり。本發明は炭素〇・六乃至一・〇%クロム二・五乃至五・〇%マンガーン乃至三%を含有せしむるときにタングステン又はモリブデンを五%以内含有せしむることを特徴とするものにして、赤熱より空氣中に放冷すれば自然に硬化し之を磁化するときには優

井 上 義 一
岩手縣上閉伊郡
釜石町第一四地割二

特許第一〇二三五二號 石炭の骸炭化に伴ふ不規則なる導電作用を制御する滿電鐵の電氣製鍊法

〔内容〕石灰石等鹽基性電氣抗質物の粉狀物を裝入に先ちて石炭粉中に煤熔劑として必要なる全量を均密に攪散介在せしむる事を特徴とする方法。

秀なる磁氣状態を維持するものなり。

〔略歴〕氏は明治十三年群馬縣の出身、同四十年東京帝國大學工科學科採礦冶金科卒業、古河鑛業株式會社に入社四十四年辭して獨逸に留學しアーヘン大學鐵鋼研究室に於て研究、大正三年同大學ドクトル・インデニアの學位を受く、同四年日本特殊鋼合資會社を創立して代表社員となる、同九年工學博士の學位を受け帝國發明協會より進歩賞、特等賞、大賞を受領す。

高 昌 則 次 郎
東京府荏原郡入新井町
新井宿一六九八

伊 藤 恒 太 郎
秋田縣北秋田郡阿仁合
町眞木澤鑛山九七ノ一

特許第九四三六四號 砂鐵又は粉鐵より「スポンジ」鐵を製造する方法

〔内容〕還元劑より成る容器内に砂鐵又は粉鐵と還元劑とを混入し爐壁を隔て外部より間接に加熱還元する方法。

〔高昌氏略歴〕明治五年一月十六日生、明治卅年東京帝國大學工科學科採礦冶金科卒業以來故古河市兵衛時代より同家の鑛業に従事して鑛山長及同社理事等を歴任大正十三年同社を辭してより専ら本特許に係る研究に従事なり。

高 野 喜 助
長野縣上高井郡
須坂町大字小山五六〇

特許第一〇二四三五號 吸氣自然式硫黃製鍊法

〔内容〕爐頂部覆蓋の特殊機構により煙燒の初期に於

ける低温期を利用し、爐内の水分を酸液となして絞取り、爐外に排出し、以て硫黄鑽の有効なる乾燥と豫熱とを行ふ事の特徴とする製法。

久保利之吉

東京市芝区
西久保明船町一

上坂忠次

同所

特許第九五五八號 硫黄溶解製煉法

〔内容〕硫黄鑽石と二硫化炭素と水と「クロールカルキ」とを混し加熱により硫黄の溶解と鑽石抱合の有機物の脱取と溶剤の蒸餾回収と晶出硫黄の分離とを同時に併行して硫黄を分取する方法。

藤山常一

東京市牛込區中町二三

特許第一〇〇七八二號 硫黄製煉装置

〔内容〕爐筒の中間部に於て間接加熱を行ひ外氣と遮断せられたる状態に於て硫黄分を蒸發し然る後凝結器に導きて精煉する装置。

渡邊俊雄

京都市左京區
北白川追分町八七

野満朝亮

大阪府三島郡高槻町
字高槻三三七ノ一

特許第一〇二六〇八號 含錫不純溶液より酸化銅を加へて錫を沈澱分離する方法

〔内容〕錫の損失を來さずして錫溶液電解後の溶液精製を行ひ又は含錫溶液より錫の分離回収を行はむとする方法。

年の經驗と學理に基く技術を應用したる設計により製作し次の特徴を有す。

- 一、發音機の空氣放出口を有する靜止圓筒辨は砲金製なるが故に錆、腐蝕なく耐久性に富む。
- 二、回轉翼車は特種輕合金「シルミン」製にして普通の輕合金に比して比重少なく抗力非常に大なり、又砲金「ブツシュ」を用ひ電動機軸と「テーパー」合により嵌着したるが故に振れ、歪み等なし。
- 三、電動機軸の先端の螺子部は回轉方向と相反する如くなし、發音機圓筒靜止辨は電動機「ベヤ

加藤與五郎

東京市荏原區
戸越町一二二〇

永海佐一郎

東京市目黒區
宮ヶ丘一八九七

特許第一〇三八七〇號 白金及び「ロヂウム」精製法

〔内容〕白金及び「ロヂウム」の一又は兩者の酸性溶液より銀又は水銀にて此等金を還元する事を特長とする精製法。

間藤徹十郎

群馬縣群馬郡
岩鼻村大字岩鼻二九九

渡邊兵意

群馬縣群馬郡
岩鼻村大字岩鼻二九九

特許第一〇〇〇六八號 多量の無機鹽類を夾雜する白金溶液より白金の分離法

〔内容〕接觸式硫酸式硫酸製造に於て長期間使用の結果接觸能力の減退を來せる白金接觸劑中に存する白金を工業的に分離する法。

飯高一郎

東京市豊島區
駒込三ノ三二九

特許第九八八〇八號 耐腐蝕性「アルミニウム」合金

〔内容〕「クロム」、「マグネシウム」、鐵及「アルミニウム」を含有せる鑄造容易にして然も水壓試験に良果を示し加ふるに伸長率大にして鑄物及打物兩者に適當なる合金。

〔略歴〕明治廿六年五月十一日生、大正六年東京帝國大學理科大學化學科卒業、大正十三年工學博士の學位を受く。

伊吹工業所

新宅圭一

大阪市港區尻無川北通
一丁目二十七番地

特許第七四九五號 汽笛自働サイレン

同 第七八三五九號 モーターサイレン

同 第八〇五九五號 動力サイレン

同 第八一六二九號 サイレン

同 第九七〇一八號 サイレン

〔内容〕同所製K・S「モーターサイレン」は時報、警報を晝夜の別なく家屋内外、状態の如何を問はず適確に操作簡易に且つ經濟的に發聲により行ふものなり、然も其使用の目的其他種々なる條件に合致せしむべく種々型式を異にす、然して本品は「モーター」と「サイレン」とが直結されたるものなるが故に容姿狭小にして如何なる場所にも設置することを得、操作利便構造簡單且つ堅牢なるが故に永久的使用に耐ゆ又兩側の發音機に一對二の比例を有する階調を相調和せしめ朗快なる大音響を發せしむる構造を有し電動機は全密封耐雨型とし軸承には高級「ボールベヤリング」を使用したるが故に屋外設置に適し、交流電源のものは全部三相、單相式とも籠型回轉子誘導電動機を用ひたるが故に故障を生ずることなく發音機は多



伊吹工業所

七年東京帝國大學工機科卒業、海軍造船中技士となり佐世保海軍工廠、吳海軍工廠等の各造機部員、廣海軍工廠造機部長、海軍技術研究所科學研究部長に歴任し昭和五年海軍造機中將に累進し、現在住友伸銅鋼管株式會社顧問たり海軍在職中三回歐米に金屬材料研究のため出張し大正八年帝國學士院賞を受領し同九年工學博士の學位を授與せらる、昭和七年本發明の功により金杯一組を下賜さる。

絶大なる稱讚を博したるものにして、その耐久力及び強度は歐米の最優秀品に比し數倍せる特徴を有しその超優秀品たる點に於て正に磁石鋼中の世界第一位を占むるものなり。その實際的用途は實に長距離飛行機の「マグネット」として最も必要缺ぐべからざるものとして更に赫々たる光輝を放つ所以なり。

〔略歴〕氏は明治三年愛知縣矢作町の出身、同三十年東大理學部物理學科を卒業し大學院に入り、同三十五年理學博士の學位を受く、その專攻とする所は「鐵及び其合金」の研究なり、同

野 滿 朝 亮

京都市左京區
北白川追分町八七
大阪府三島郡高槻町
字高槻三三七ノ一

特許第一〇二六〇八號 含錫不純溶液より酸化銅を加熱して錫を沈澱分離する方法

〔内容〕錫の損失を来さずして錫溶液電解後の溶液精製を行ひ又は含錫溶液より錫の分離回収を行はむとする方法。

特許第九八八〇八號 耐腐蝕性「アルミニウム」合金

〔内容〕「クローム」、「マグネシウム」、鐵及「アルミニウム」を含有せる鑄造容易にして然も水壓試験に良果を示し加ふるに伸長率大にして鑄物及打物兩者に適當なる合金。
〔略歴〕明治廿六年五月十一日生、大正六年東京帝國大學理科大學化學科卒業、大正十三年工學博士の學位を受く。

東京市豊島區
駒込三ノ三二九

「ポールベヤリング」を使用したのが故に屋外設置に適し、交流電源のものは全部三相、單相式とも籠型回轉子誘導電動機を用ひたるが故に故障を生ずることなく發音機は多



變電機大阪
伊賀工業所

年の經驗と學理に基く技術を應用したる設計により製作し次の特徴を有す。

- 一、發音機の空氣放出口を有する靜止圓筒辨は砲金製なるが故に鑄、腐蝕なく耐久性に富む。
- 二、回轉翼車は特種輕合金「シルミン」製にして普通の輕合金に比して比重少なく抗力非常に大なり、又砲金「ブツシュ」を用ひ電動機軸と「デーパー」合により嵌着したるが故に振れ、歪み等なし。
- 三、電動機軸の先端の螺子部は回轉方向と相反する如くなし、發音機圓筒靜止辨は電動機「ベヤリングカバー」兩側に心直に回轉翼車の回轉方向に切りたる直結の構造にして振れ或は回轉中に弛む等の事なく又分解作業極めて簡單なり。

工學博士

石川 登 喜 治

大阪市此花區
島屋町五ノ六
住友伸銅鋼管株式會社

特許第六五六八〇號 耐熱強力ニッケルブロンズ合金

〔内容〕本發明に係る製品は最高緊張力及彈性限界共に高く伸張良好且つ衝擊振動等の動的應力に對し抵抗力強く強靱性に富み、高温度に於ける強力の減退少く而かも不酸化耐海水性耐腐蝕性耐浸蝕性を有し銅合金中第一位のものなり、從て高温高壓蒸氣用弁、海水用汽車軸類、航空機減齒車、鑛山用唧筒車軸等に使用し成績優秀なるものなり。
〔略歴〕氏は明治十二年福岡縣の出身、同三十



理學博士
本 多 光 郎
仙臺市鹿子清水一二

七年東京帝國大學工科機械科卒業、海軍造船中技士となり佐世保海軍工廠、吳海軍工廠等の各造機部員、廣海軍工廠造機部長、海軍技術研究所科學研究部長に歴任し昭和五年海軍造機中將に累進し、現在住友伸銅鋼管株式會社顧問たり
海軍在職中三回歐米に金屬材料研究のため出張し大正八年帝國學士院賞を受領し同九年工學博士の學位を授與せらる、昭和七年本發明の功により金杯一組を下賜さる。

特許第三三三三四號 特殊合金鋼

〔内容〕本發明は特に磁石を造るため、前者は鋼鐵と二十乃至六十パーセントの「コバルト」を合金し之に若干量の「タングステン」、「モリブデン」、「バナシウム」、又は其の同族の金屬を加へて成り、後者は前發明を利用して之に擴張を加へたるものにして鋼鐵に二十乃至六十パーセントの「コバルト」と「クローム」とを合金して成るものにして耐久磁石として世界的第一優秀品なり。
本發明に係る特殊合金鋼はK・S鋼と稱し夙に世界的發明として歐米諸國の電氣工業界より

特許第九六四六八號 鑄物用合金鋼

〔内容〕炭素、硅素、滿俺、「ニッケル」、「クローム」、「モリブデン」鐵及不純物を含有する空氣冷却のみによりて焼戻を施し形狀複雑なるものにては焼割れの恐れなき合金鋼。

水 内 昇 一

南滿洲 撫順
南臺町二丁目七

〔略歴〕明治廿九年三月廿九日生、旅順工科學堂冶金科卒業現在撫順炭礦機械工場鑄物鍛冶職場主任在職。



株式會社 神戶製鋼所
神戶市一丁目三番地
神戶市一丁目三番地

特許第一〇六三三四號 耐腐蝕性管棒製鋼用銅合金

〔内容〕一般に非鐵金屬材料を以て製作せらるる機械物の種類、同機械物の使用せらるる工業の種類、場所状態の別等各種の條件によりて其の腐蝕せらるる程度に自から差異あり、即ち(一)特に腐蝕せらるる事甚しき場合。(二)全く腐蝕せられず腐蝕なる考慮を殆ど要せざる場合(三)其の中間の場合との三者に區別し得、(一)の場合に於ては特許特種耐腐蝕性合金材料を以て之に當つれば充分其の害を除去するを得べく(二)の場合に於ては普通の從來よりの非鐵合金材料を以てすれば足るべけれども(三)の場合に於ては(一)の如き合金材料を使用する程にも非ず、さりとて(二)の如き普通材料にては腐蝕せらるる事大なり、出來得べくんば此の中間程度の良質の耐腐蝕性金屬材料を欲する場合ありて而かも實際に當りてはこの(三)の場合が頗る多く、本發明は此の要求に應じたものにして亞鉛、銅、鐵、アルミニウム、ニッケル、クロム、

及び銅を適量に含む合金なり。此の組成より成る合金は何れの場合に於ても良く前記の目的を達し得るものにして、既に英國に於ては銅、アルミニウム、亞鉛より成る合金は「アランプロ」又は「アルジュブラ」なる名稱の下に發賣され其の耐腐蝕性大なるものあれども未だ遺憾なる點無きにあらず、然るに本發明の合金は其の耐腐蝕性に於て「アランプロ」に優ると更に大にして此の種合金としては正に其の雄なるものなり。而かも本合金を形成せる各種原料は何れも我國內に於て得らるるものにして一朝有事に際しては良く我國內に於て國産品のみに以て製造することを得べく、又平時に於ても類似品の海外よりの輸入を防遏し國內工業界の各方面に優秀なる材料を頗る廉價に供給し得る事となり斯界に貢献する所大なるものあるべし。

〔略歴〕本發明者古知幸次郎氏は明治十年福岡縣門司市の出身、同二十六年高等小學校卒業後栃木縣足尾銅山機械課鑄造工場に就職し東京赤羽海軍造兵廠、吳海軍工廠造兵部鑄造工場等に轉勤す、同三十二年鑄造術實地研究の爲め四ヶ年間英國へ出張を命ぜられ歸朝後復職し同四十二年海軍工手となり大正四年六月辭して本社に入社し、同八年七月工業視察の爲め歐米各國へ出張を命ぜられ、同九年七月歸朝復職して技師となる、同十五年六月同社伸銅部門司伸銅工場工作課長、昭和二年八月主事、同六年七月同門司伸銅工場長、同十年四月參事となりて現在に至れるなり。

工學博士

二 島 德 七
東京市 淀橋區
下落合一丁目四二〇

特許第九六三七一號 M・K・磁石

〔内容〕本發明はニッケル五乃至四〇%アルミニウム一乃至二〇%殘部鐵を含有するニッケル及アルミニウムを含む磁石鋼にして、此合金は從來非可逆無磁性鋼として知られたる「高ニツケル鋼」に不感磁氣性なるアルミニウムを添加することにより之を可逆的強磁性鋼に一變せしめたるものにして、磁氣に關する從來の學說を以ては説明し難き新發明として學界並工業界より驚異の眼を以て迎へられたるものなり。

本M・K・磁鋼は其殘留磁氣甚大なる上に頑磁力能く三〇〇乃至八〇〇ガウスに達す、是れ在來のタンダステン鋼の約十倍、高コバルト鋼の約三倍以上を示すものにして當時世人の夢想だもせざりし所なり。尙本鋼の特徴は高温より焼入するの必要なく單に鑄造後焼鈍するのみにて其の特性を發揮し得るを以て焼割れ歪曲の懼れなく、而かも七〇〇度乃至零下八〇度迄絶對安定にして磁性の變化なく極めて優秀なるものなり。

〔略歴〕氏は明治二十六年兵庫縣の出身、大正八年醫學博士三島通良の養嗣子となり同九年東京帝國大學鐵冶金科卒業直に母校の講師を経て助教授となり今日に至る。昭和三年工學博士の學位を授與せらる。

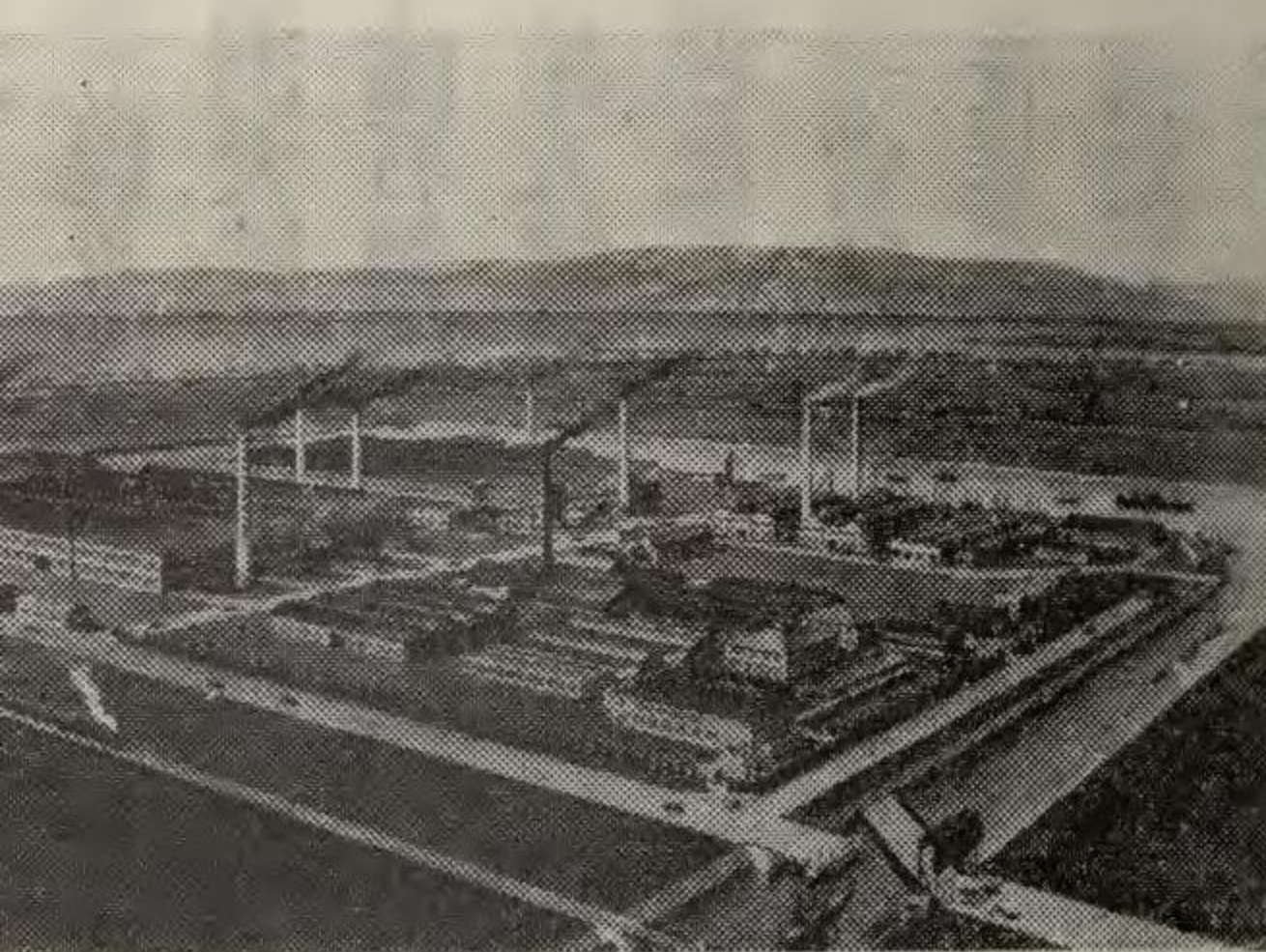
日本鐵鋼協會より香村賞牌を受く。

住友伸銅鋼管株式會社

大阪市此花區
高屋町五十六番地



田邊友次郎



して其腐蝕の原因並に腐蝕態様は復水器の構造冷却水の水質等により區々にして從來使用し來りたる眞鍮管にては到底其腐蝕に堪えざるの狀態にあり。茲に於て各地の復水器につき或は本社の獨特の設備により其原因を徹底的に研究調査を重ねる事多年、一方之と平行して耐腐蝕力強大なる合金

面に顯はるるに至る、更に其腐蝕速度一様ならずして甚しく印刷物の美觀を損する等の缺點あるを遺憾とし苦心研究の結果寫眞製版用銅板として完全なる銅板を完成せられしなり、本品の特徵は耐熱性を有し腐蝕速度速く且つ一様にして品質均一、耐久力強大に材質の組織適當なり、平滑にして歪みなし等なり。

海水に對する耐蝕性大なる合金は耐蝕性マダネンウム合金と稱し本社技師工學士五十嵐勇氏の發明に係るものなり。氏は明治二十五年熊本縣の出身京都帝大理學部を卒業し熊本縣立八代

て之に當れば充分其の害を除去するを得べく
 (二)の場合に於ては普通の從來よりの非鐵合金
 材料を以てすれば足るべけれども(三)の場合に
 於ては(一)の如き合金材料を使用する程にも非
 ず、さりとて(二)の如き普通材料にては腐蝕せ
 らるゝ事大なり、出來得べくんば此の中間程度
 の良質の耐腐蝕性金屬材料を欲する場合ありて
 而かも實際に當りてはこの(三)の場合が頗る多
 く、本發明は此の要求に應じたものにして亞
 細、南洋、鐵、アルミニウム、クロム、

羽海軍造兵廠、吳海軍工廠造兵部鑄造工場等に
 轉勤す、同三十二年鑄造術實地研究の爲め四ヶ
 年間英國へ出張を命ぜられ歸朝後復職し同四十
 三年海軍工手となり大正四年六月辭して本社の
 入社し、同八年七月工業視察の爲め歐米各國へ
 出張を命ぜられ、同九年七月歸朝復職して技師
 となる、同十五年六月同社伸銅部門司伸銅工場
 工作課長、昭和二年八月主事、同六年七月同門
 司伸銅工場長、同十年四月參事となりて現在に
 至れるなり。

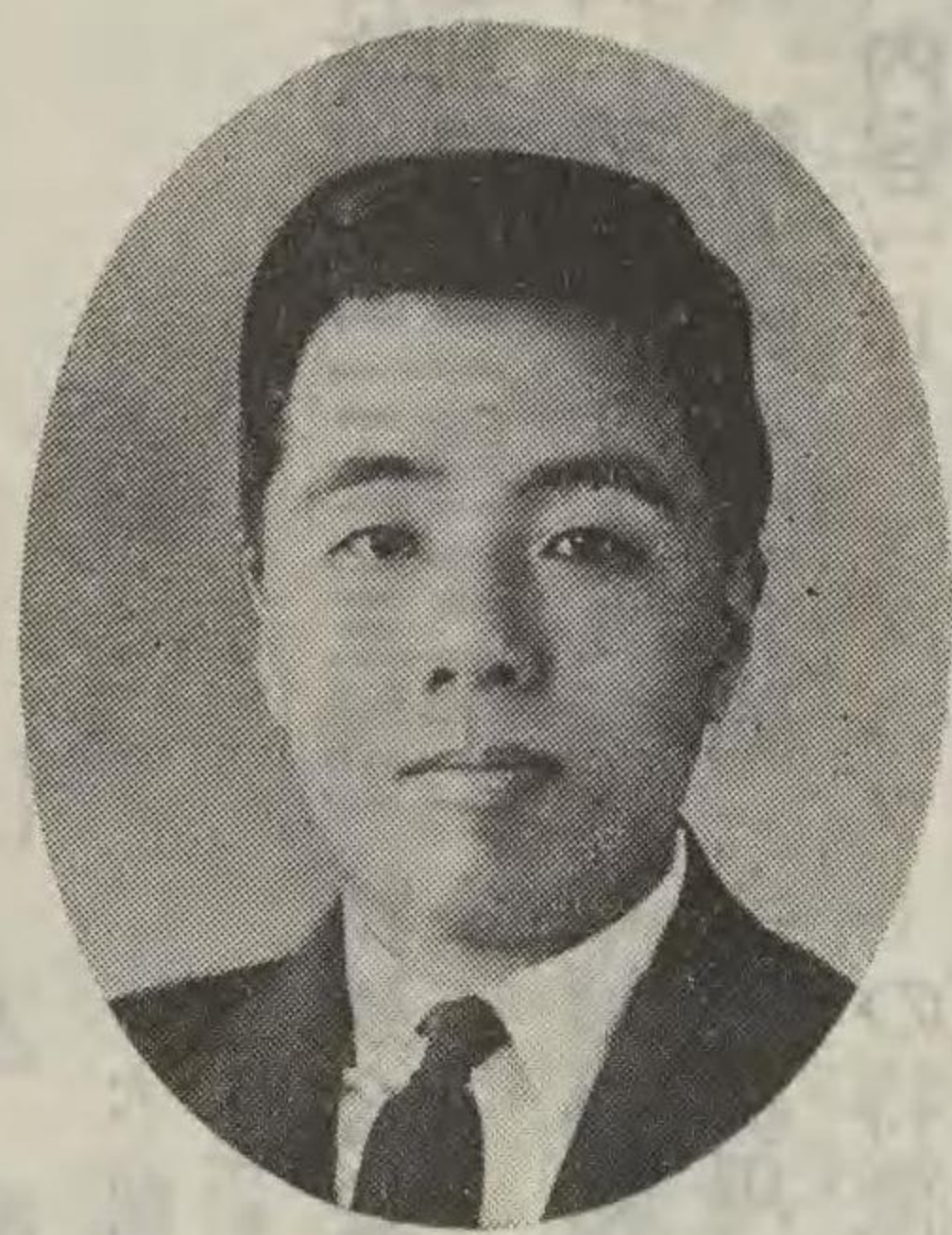
其の特性を發揮し得るを以て燒割れ歪曲の恐れ
 なく、而かも七〇〇度乃至零下八〇度迄絶對安
 定にして磁性の變化なく極めて優秀なるものな
 り。
 【略歴】氏は明治二十六年兵庫縣の出身、大正
 八年醫學博士三島通良の養嗣子となり同九年東
 京帝國大學鐵冶金科卒業直に母校の講師を経て
 助教となり今日に至る。昭和三年工學博士の
 學位を授與せらる。
 昭和七年鐵鋼協會より鐵鋼協會賞を受く。

住友伸銅鋼管株式會社

大阪市 此花區
 島屋町五十六番地



田邊友次郎

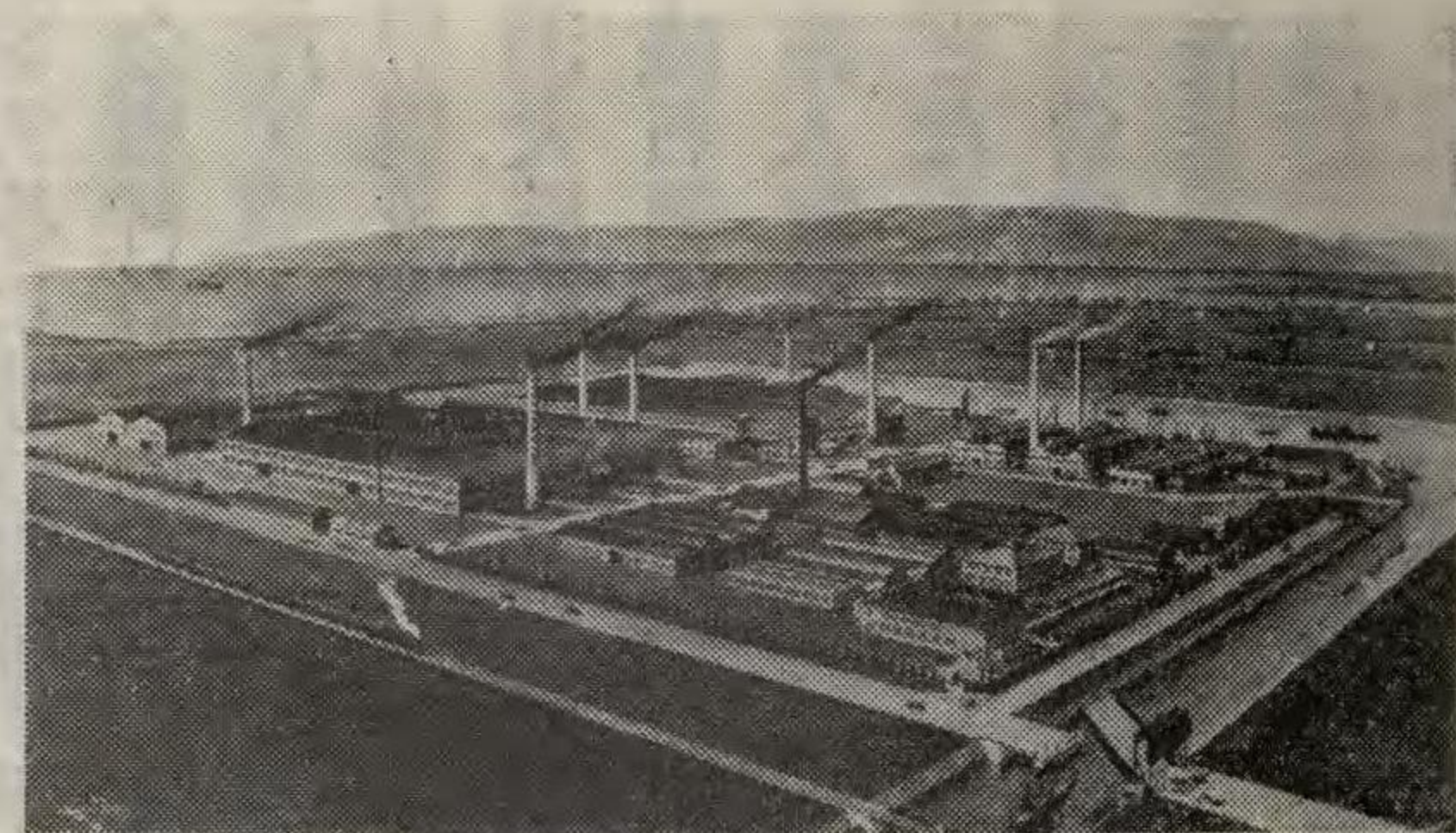


五島勇

特許第九五七二二號 強力なる耐蝕性銅合金
 同 第九八三〇一號 寫眞製版用合金
 同 第九三八七〇號 海水に對する耐蝕性大なる合金

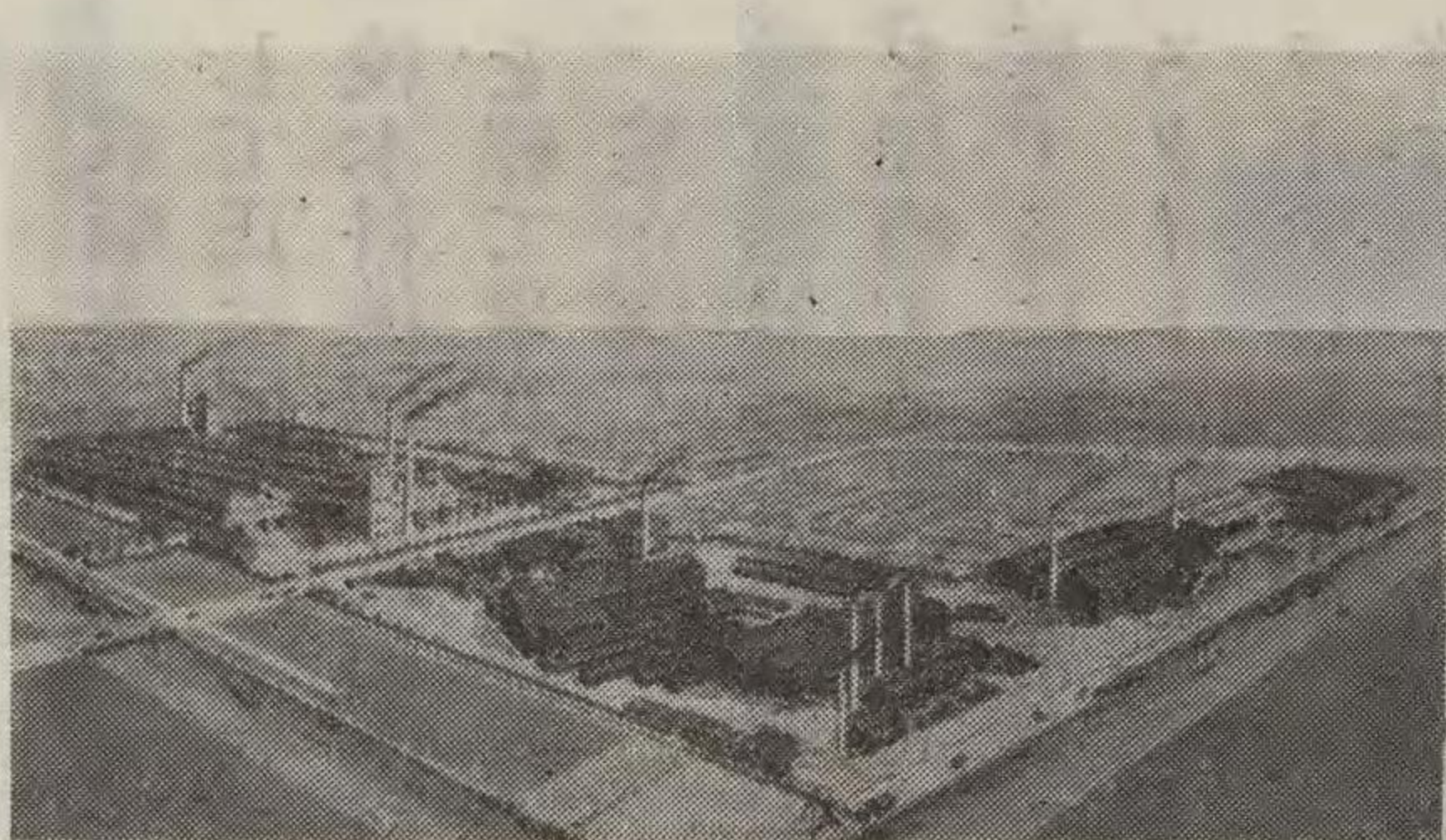
【内容並略歴】強力なる耐蝕性銅合金は其製品
 をアルグラツクと稱し本社技師工學博士田邊友
 次郎氏の發明に係るものなり、氏は明治二十八
 年福岡縣箱崎町の出身、九州帝國大學工學部應
 用化學科卒業、同大學院專攻科に在學一ヶ年半
 にして本社に入社せらる、本發明は世界的難問
 題たる復水器管の腐蝕を防止せんとせるものに

して其腐蝕の原因並に腐蝕態様は復水器の構造
 冷却水の水质等により區々にして從來使用し來
 りたる眞鍮管にては到
 底其腐蝕に堪えざるの
 状態にあり。茲に於て
 各地の復水器につき或
 は本社の獨特の設備に
 より其原因を徹底的に
 研究調査を重ねる事多
 年、一方之と平行して
 耐腐蝕力強大なる合金
 の研究を重ね遂に耐蝕
 力強大にして適度の強
 靱性を有する合金を發
 明するに至りしなり、本合金の特徴はエロージ
 ヨン及コロージョン(機械的侵蝕及化學的侵蝕)
 に對する耐蝕性の強大なるはアドミラルチーメ
 タル管を凌駕し適度の強靱性を有し取扱至便な
 り、熱傳導度はアドミラルチーメタルと大差な
 く比重は却つて小なり。



寫眞製版用合金は特許寫眞製版用銅板と稱し本
 社技師長從七位工學博士杉浦稠三氏の發見に係
 るものなり、氏は明治十七年新潟縣高岡市の出
 身東京帝國大學應用化學科卒業、同大學工科講
 師農商務省技師を経て本社に入社現在に至る、
 本發明は從來の寫眞製版用銅板は裏焼に際し僅
 かに加熱に過ぎる時は軟化温度低き爲め急激に
 軟化し版面歪を生じ廢品となること屢々あり、
 之を防ぐ爲め銅、銅化金屬を配合するときは表
 面疵取りせる痕跡が藥品に依る腐蝕によりて版

面に顯はるゝに至る、更に其腐蝕速度一様なら
 ずして甚しく印刷物の美觀を損する等の缺點あ
 るを遺憾とし苦心研究の結果寫眞製版用銅板と
 して完全なる銅板を完成せられしなり、本品の
 特徴は耐熱性を有し腐蝕速度速く且つ一様にし
 て品質均一、耐久力強大に材質の組織適當なり、
 平滑にして歪みなし等なり。
 海水に對する耐蝕性大なる合金は耐蝕性マグ
 ネシウム合金と稱し本社技師工學士五十嵐勇氏
 の發明に係るものなり。氏は明治二十五年熊本
 縣の出身京都帝國大學理學部を卒業し熊本縣立八代
 中學校、臺灣臺中中學校に教諭たり、大正八年
 辭して本社に入社し現在に至る。本發明はマグ
 ネシウム合金の一般に海水其他濕氣に對し耐腐
 蝕力微弱なる缺點あるを之に他金屬の配合に依
 り改良せしものにして、從來のマグネシウム合
 金は主として其機械的
 性質にのみ着眼せられ
 化學的殊に海水に對す
 る性質に關しては顧み
 られず、従つて此種合
 金は耐腐蝕性に乏しく
 海水に接觸する諸機械
 器具には不適當なり、
 茲に於てアルミニウ
 ムを含有せしめずして
 從來のマグネシウム
 アルミニウム系合金と
 同等程度の機械的性質を有し、而も耐蝕性大なる
 ものを得んが爲め各種のマグネシウム合金に



同等程度の機械的性質を有し、而も耐蝕性大なる
 ものを得んが爲め各種のマグネシウム合金に

就き研究を重ねたる結果遂に本合金を完成せしものなり。

本品の特徴は一般機械的性質に於て優秀なるのみならず海水に對する耐蝕性に優秀なり、用途は航空機構成材料、機關部其他各種部分品海水に接觸する機械器具にして特に輕きことを必要とする場合等に使用せらる。

住友製鋼所

株式會社

大阪市此花區
島屋町二百四十九番地

特許第三三三三三三號
追加第三三三三三三號
ト

同 第八四三七九號 車輛連結器
同 第九六七二九號 金庫扉用材

〔内容〕KSマグネットの特徴は残留磁氣及保磁力共に著しく大にして殊に寸度割合(長さ/徑)に對する残留磁氣大なり、磁氣安定し易く



且つ減退殆ど無し、磁氣能率の溫度係數極めて小なる等は其用途に著しき特性を發揮す。

用途は電氣計器、精密電氣測定器、電氣試験器、電信電話機、無線電信電話機、ビツク・アツプ、發動機發火機、艦船航空機羅針盤等。

鈴木合金製作所

鈴木彦次郎

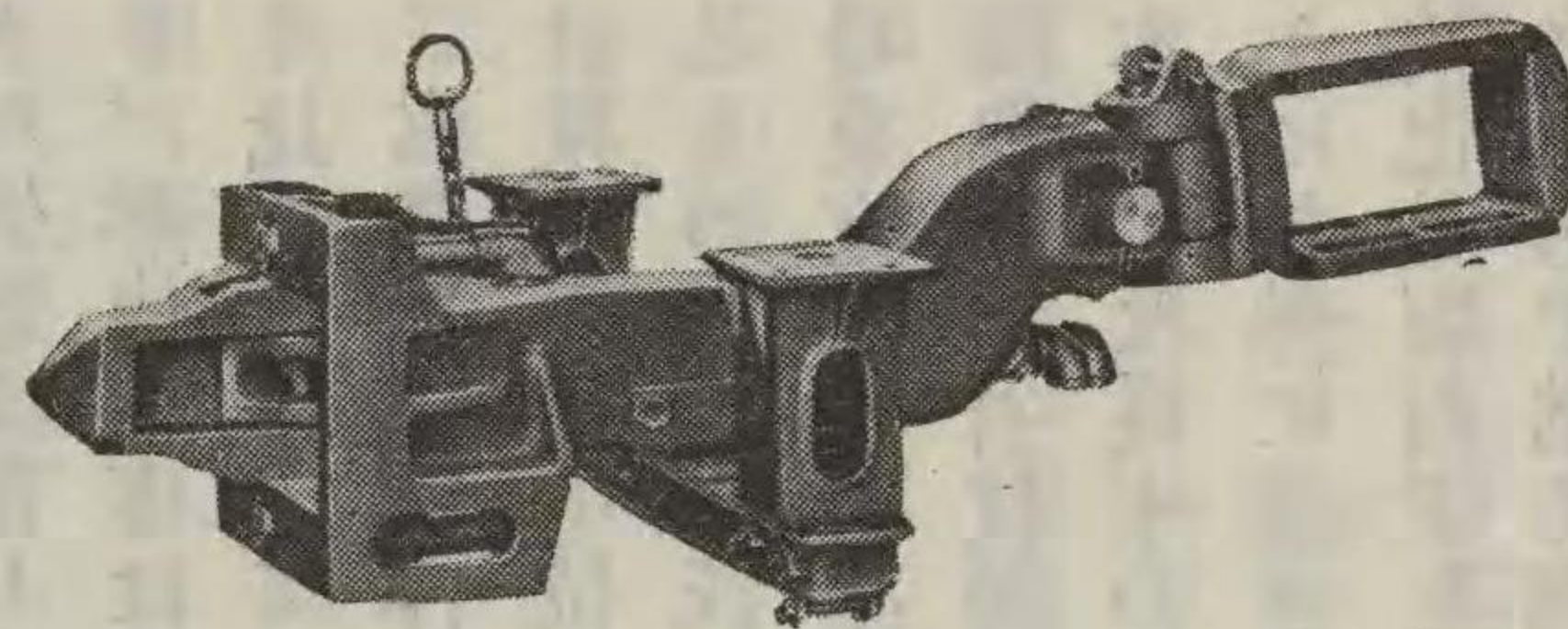
大阪市大正區
福町一丁目十番地

特許第七二六四九號 電氣抵抗「グリッド」合金

金

〔内容〕本合金は従来の炭素「マンガン」「クロム」「ニッケル」珪素、燐及鐵の組成より成る電氣抵抗「グリッド」用合金に於て「ニッケル」に代ふるに「アルミニウム」を配し「クロム」の配合量を著しく増加せしめたることを特徴とする合金なり。故に經濟的に製造し得るは勿論

續するに人手を要せずして作用確實且つ強大なる索引力に耐へ得るが故に大量輸送に適し尙タイト・ロツクなるが故に乘心地よし。

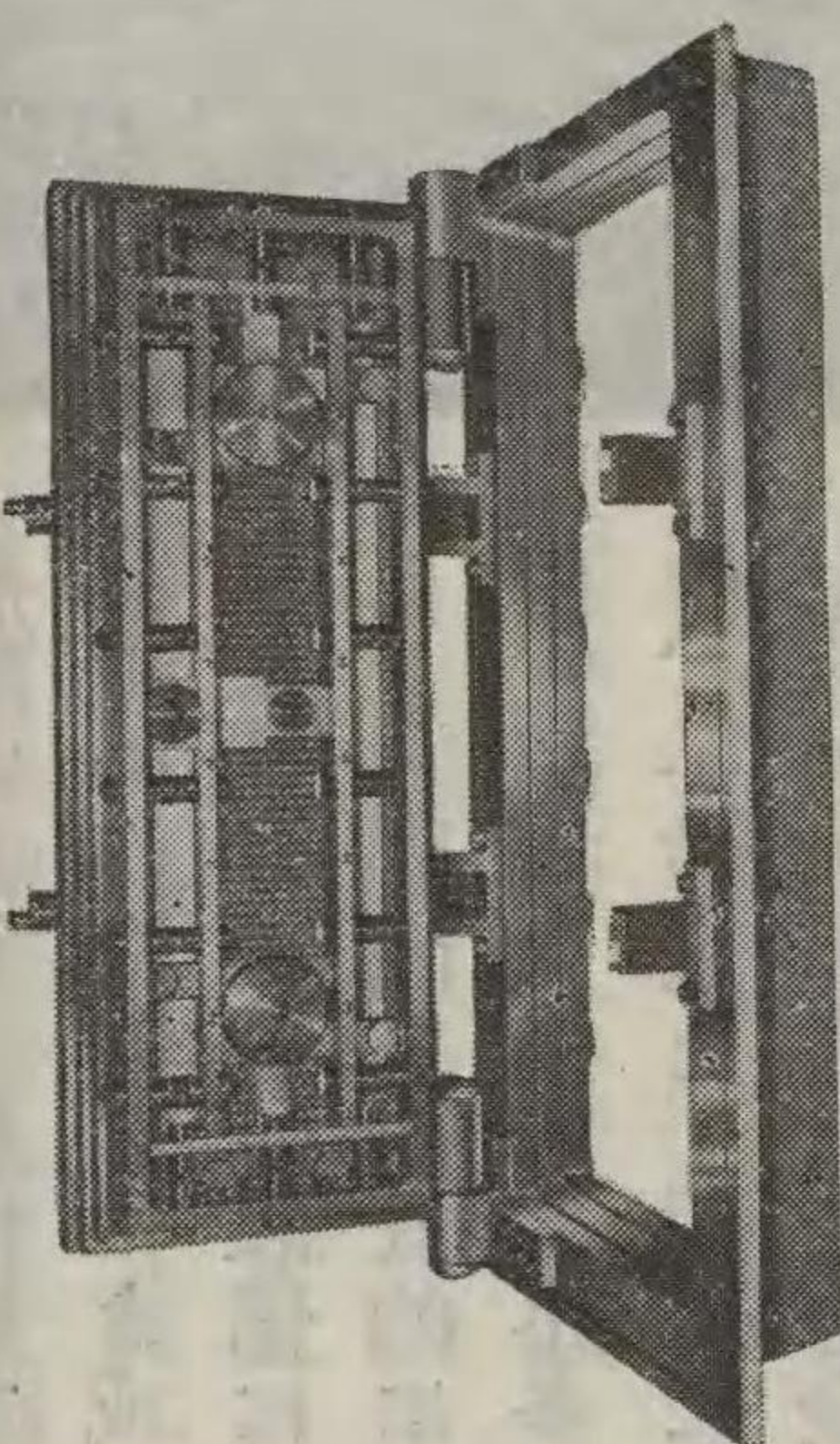


用途は汽車、電車等。
金庫用扉は住友金庫扉と稱し、トーチ、ドリル及爆薬に對し防護作用完全にして此等の用具を順次に用ふるも決して破壊し得ず。

用途は金庫及保護庫の扉、枠、内壁等。

〔略歴〕KSマグネットは本多光太郎氏の發明に係るものなり、氏は明治三年の出生、同三十年東京帝國大學物理科卒業、同大學院を経て獨逸エツチンゲン大學及ベルリン大學に學び歸朝して東北帝國大學教授となり金屬材料研究所長を兼ね現在東北帝國大學總長たり。

偶々歐



洲大戰中磁石鋼の輸入困難となり且つ當時は世界の如何なる國にも優秀なる永久磁石無きを遺憾とし之が發明を志し、先づタンダステン鋼、クロム鋼、炭素鋼に付て研究し次にニッケル鋼、コバルト鋼、タンダステン、コバルト鋼に付き研

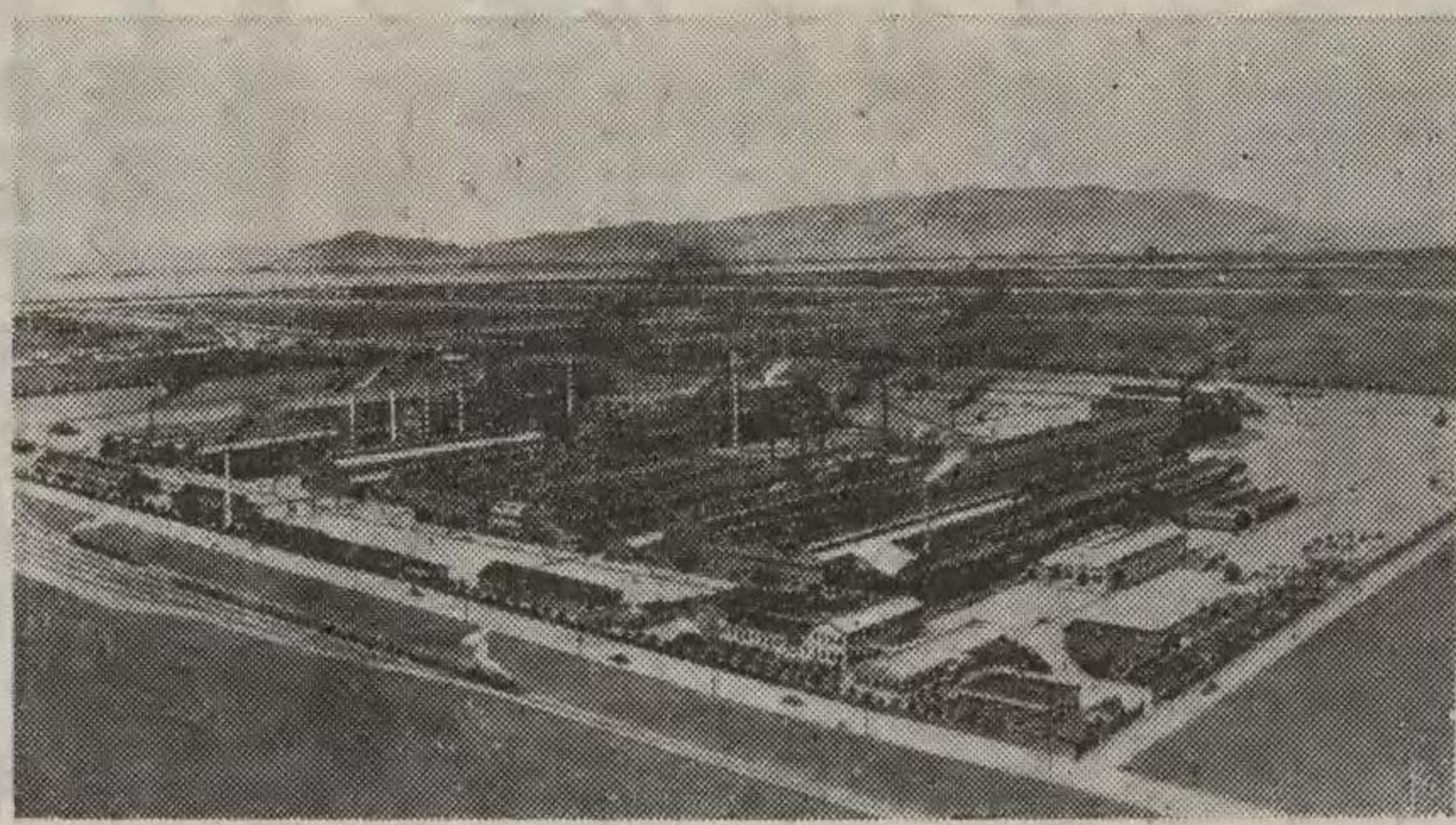
究し最後にタンダステン・クロム・コバルト鋼に付き研究し遂に此の發明を完成せられたるなり。

車輛連結器は柴田兵衛氏の發明に係るものにして氏は明治二十九年の出生、私立岩倉鐵道學校本科機械科及高等科機械科卒業、鐵道省官吏を経て現在本製鋼所々員たり。

現在廣く用ひらるゝ自

動連結器は送氣管及電線を接續するに一々人手を要するに鑑み之を要せざるタイト・ロツク・カツプラーを作らんとの希望の許に約一年半の日子を費し鋭意研究の結果完成せられたるなり。

金庫扉用材は柳澤七郎氏の發明に係るものにして氏は明治二十三年の出生、大正四年東北帝國大學理科學科化學科卒業、同五年本製鋼所に入社し現在同所研究係長たり。



さに切斷し之を他種金屬に合着せしめ、其兩種金屬兩接面間に金屬タンダステン粉末及其の窒素化合物との混合粉末を介裝し銲接するものにして、動作中も銲接部は直接完全に合金され居る故にタンダステンに壽命だけそれだけ充分に銲接が保たれ得るなり。

〔略歴〕

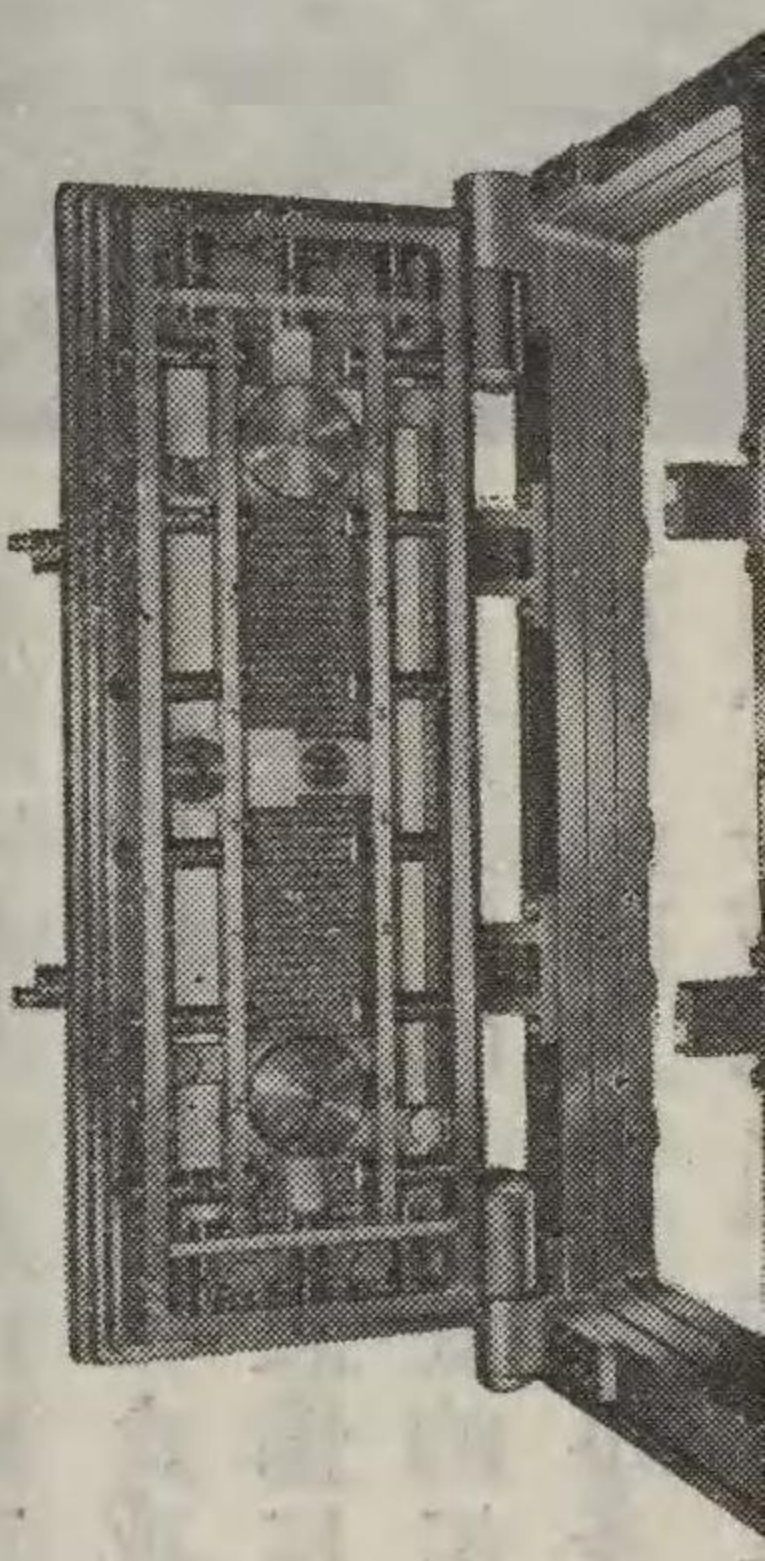
本社は大正七年工學博士中澤良夫氏指導の下に門司市小森江に工場を建設し爾來約十年間研究費に設備費に多大なる犠牲を拂ひ、又一方輸入纖維と



用途は電氣計器、精密電氣測定器、電氣試験器、電信電話機、無線電信電話機、ビツク・アツプ、發動機發火機、艦船航空機羅針盤等。車輛連結器は其連結に當り送氣管及電線之接

し、磁氣能率の温度係數極めて小なる等は其用途に著しき特性を發揮す。

磁石鋼の輸入困難となり且つ當時は世界の如何なる國にも優秀なる永久磁石無きを遺憾とし之が發明を志し、先づタングステン鋼、クロール鋼、炭素鋼に付て研究し次にニツケル鋼、コバルト鋼、タングステン、コバルト鋼に付て研



同五年本製鋼所に入社し現在同所研究部長たり。工具の發達に伴ひ從來の輸入金庫扉にては完全なる保護作用を爲さざるを以て此の弱點を改良せん事を志し耐熱性に關する研究、硬質合金の挿入形式に關する研究、耐熱合金と耐蝕合金とを一體に鑄込む方法の研究等に依り完成せられたるものなり、尙本特許に關聯して硬質合金の挿入形式につき發明を爲し目下特許出願公告中に屬するものあり。

鈴木金製作所
鈴木彦次郎

大阪市大正區
福町一丁目十番地
特許第七二六四九號 電氣抵抗「グリッド」合金

〔内容〕本合金は從來の炭素「マンガ」クローム「ニツケル」珪素、燐及鐵の組成より成る電氣抵抗「グリッド」用合金に於て「ニツケル」に代ふるに「アルミニウム」を配し「クローム」の配合量を著しく増加せしめたることを特徴とする合金なり。故に經濟的に製造し得るは勿論電流による温度の上昇率少なく鑄造容易にして其鑄造に際し設計上の誤差を生ずること少なく他の合金組成部分と相俟つて抵抗用「グリッド」として最も適當なるものなり。

金城龜之助

大阪市北區
木幡町六十一番地

特許第八六七〇號 被覆電弧鎔接棒

〔内容〕從來の金屬電弧鎔接法は其鎔接抗張力比較的高く且つ原金屬組織變化の影響範圍狹小なる利點あれども其延伸度大ならず強靱性小なる等の缺點あり、本發明は金屬棒に特殊の鎔劑を被覆するを特徴とし抗張力及延伸度大にして著しく強靱性に富む鎔接を遂行し得るものなり即ち電弧の高熱により其被覆物は金屬棒と共に鎔融して鎔滓となり特に鎔劑中に包含せしめたる特殊鎔劑は電弧の如き高熱時に於て外氣中の

石塚常忠

名古屋市南區
豊田町葎畑三二一九一

特許第九四八四六號 鎔接法

〔内容〕滿庵と合金を生成すべき異種の金屬又は其合金を滿庵元素を仲介劑として鎔接することを特徴とする鎔接法。

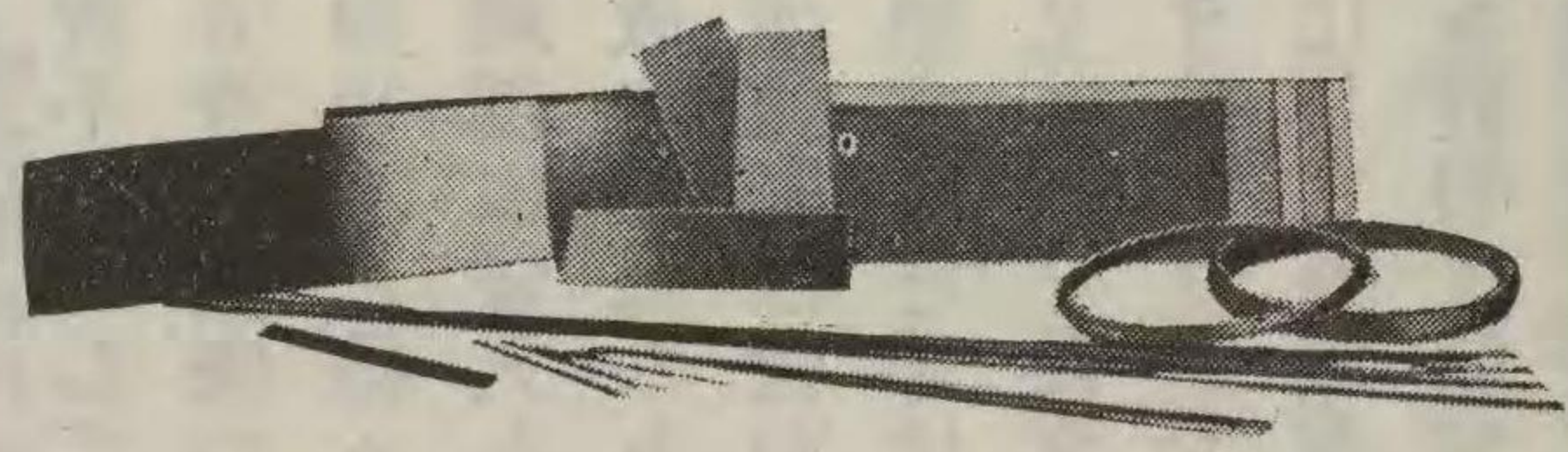
日本冶金株式會社

大阪市西區
土佐堀通二丁目一番地
(大同ビル内)

特許第四二二六九號 難鎔融金屬接合體

〔内容〕直接鎔接の方法に依りしものにして金屬タングステン丸型棒を軸線に直線に適當の厚

さに切斷し之を他種金屬に合着せしめ、其兩種金屬兩接面間に金屬タングステン粉末及其の窒素化合物との混合粉末を介裝し鎔接するものにして、動作中も鎔接部は直接完全に合金され居る故にタングステンの壽命だけそれだけ充分に鎔接が保たれ得るなり。



〔略歴〕本社は大正七年工學博士中澤良夫氏指導の下に門司市小森江に工場を建設し爾來約十年間研究費に設備費に多大なる犠牲を拂ひ、又一方輸入纖維との競争等幾多の辛酸を嘗め今日に至れり、而も終始一貫優秀製品の提供と輸入防遏主義とは需要家の同情を得、同十三年海軍省の指定工場となり又本邦唯一の國産として商工省工業研究獎勵金下附の恩典に浴し、先年畏くも海軍大將 伏見宮殿下の御來臨を辱ふせる等實に本邦屈指の大工場となりタングステン纖維並モリブテン纖維のみにて年生産額四千萬メーターを越ゆるの設備を有するに至れり。

三村哲夫

長崎市出來大工町六七

特許第一〇〇四三六號 熔接方法

〔内容〕鎔接が四線以上集中する場合に於て其集中點の周圍を適當範圍切抜き依て生ずる空間に嵌飯を適合せしめ以て熔接線を三線に減少して熔接する方法。

峯 忠 三 六
鶴 三 六

東京府北豊島郡西巢鴨
町字池袋一九五一

特許第九五〇二二號 染型用網附圓筒製造法

〔内容〕耐酸度強き金屬細線にて織たる圓筒金網と耐酸度弱き金屬薄板圓筒とを重合鑲附して網附圓筒を製造する方法。



木 村 善 昭
合資會社 日本常鋼製鋼所
尼崎 市 西 八 松 島 町
九 拾 番 地

特許第九二六一九號 常輝鋼

〔内容〕從來「クローム、ニツケル」鋼及「ニツケル、クローム」鋼等に於て常温の諸酸液中に對しては稍耐酸性を有するも加熱諸酸液中に對しては甚しく耐酸性を低下し殆ど工業的實用に適するものなく唯だ硝酸の加熱液には幾分勝れるも未だ之とても充分ならず、然るに常輝鋼は充分に軟化すれば其降伏點は極軟鋼と等しく多くの腐蝕液に對して大なる抵抗力を有し海水には絶對に腐蝕せず且つ常温にて加工されし製品は少しも磁性を有せず、尙目的に應じ最大柔軟性及多大なる腐蝕抵抗性と共に抗張力をも附與することを得る等鋼と稱すれども却つて非鐵合金に類似する特性を有し、其製品としては鋼

物、鍛造物、壓延物、引拔品等總ての製作に可能なる特徴を有するものなり。

〔略歴〕本社は昭和三年以來加熱酸液に耐ゆる優秀耐酸鋼の壓延材は勿論鑄物製品の創製に對する研究に着手し、加之も其當初に於て該製鋼作業が世界に於て難作業とし且つ使用原料の總てが高價の爲め右研究に對する犠牲の多大なると相當の期間を要する事に鑑み、充分の資金と研究期間とを準備の下に斷然背水の陣を以て研究に當り尙満足すべき製品を工業的製産に自信を得る迄は絶對に市場へ販出せず、製品に對する責任尊重を本領として不撓不屈苦辛研鑽を重ね去る昭和五年三月本發明の創製を完成し翌六年五月專賣特許權を獲得し、尙同年四月豫而建設中の工場竣工以來再び右耐酸鋼の工業的製産に對する研究と其技術を熟練すべく百練苦闘を續け全然獻身的努力の下に滿二ケ年間に涉り實際に即せし研究作業を勵行し、昭和八年四月愈々優秀耐酸鋼の各種製品の工業的製産に自信を得、前後五ケ年間に涉る永年の苦辛研鑽と莫大なる犠牲資金とを費し漸く初期の目的を貫徹するに至りしものなり。

鳥 羽 安 行

栃木縣日光町
清瀧 五〇〇

特許第九七二八七號 「アルミニウム」合金線製造方法

〔内容〕焼入、機械的冷間加工、熱硬化處理の三工程に更に斷面縮小の機械的冷間加工を施し次に再熱硬化處理を施す製造法。

〔略歴〕明治二十七年五月八日生、大正十年三月京都帝大工學部冶金學科卒業後古河電氣工業株式會社勤務現在同社日光電氣精銅所技師。

金子鑄鋼所

金子 増 耀

大阪府大正區
千島町三百八十七番地

特許第九五〇六三號 軌條頭部の澆滓方法

同 第九九一三三號 軌條の部分的澆滓方法

〔内容〕軌條の磨滅防止のため從來高炭素鋼、滿庵鋼及び其他の特殊鋼を以て製造せしも生産費不廉にして一般に利用さるゝに至らず、又一方普通軌條の頭部に焼入を施して其耐久力を増加せんと種々の方法を試むるものあるも、軌條頭部に焼入を施す爲めに頭部を強く加熱するが故に頭部のみ多く膨脹して焼入後も舊形に復せず軌條は彎曲して弓形の歪を生じ、又頭部に加熱するときは焼入を要せざる「ウエツプ」及「フランド」に迄其熱を傳導し之に注水冷却するときは「ウエツプ」及「フランド」迄も相當に硬化して軌條全體を脆弱ならしむる等の缺點あり本發明は前記の缺點を除去し焼入に因り被澆滓物に歪を生ぜしむることなく所要部分のみを硬化し其耐久力を増加せしめんとするものにして其澆滓すべき部分のみを残し他の部分に注水し之を冷却しつゝ、其部分の澆滓すべき部分のみを電氣弧光又は瓦斯火焰を以て適度に加熱する手段と、前記加熱したる部分を水、油又は空氣を以て冷却澆滓する手段とを軌條の一端より始め

順次他端に及ぼし以て部分的に澆滓を行ふものなり、即ち本方法によるときは軌條の澆滓すべき部分以外の部分に熱を加へざるを以て此部分に加熱による悪影響を及ぼすことなきのみならず歪を生ずることなく必要なる部分のみを焼入することを得て其壽命を延長するの特徵あるものにして且つ前方に注水嘴を設けて火焰にて加熱せらるゝ部分の前方を冷却し加熱せらるべき部分を極めて縮小し得るを以て加熱による歪を一層良く防止し得るものなり。

〔略歴〕本所は大正六年四月の創立にして特殊

設備の充實に伴ふ能力の増大と共に滿庵鑄鋼以外の特殊鑄鋼及普通鑄鋼の製造をも開始し、其製品の優秀なると納期の確實なるに好評を博し其需要は日に月に累加増進し、遂に能力に不足を生ずるに至りしを以て更に三種電氣製鋼爐を増設するの必要に迫られ、昭和八年三月二基並行操作業をなすに至り、同年五月英國ロイド協會の認定工場として其登録を受け更に七月帝國海軍省の購買名簿に登録せられ其の指定工場となり現在に至る。本工場の外市内港區本田通二丁目仕上分工場を、東京に出張所を置き、

金屬粉末に特殊の工夫を凝し混和練捏したる半流動性の防止劑にして、其防止力の絶大なるを冷却後完全に自然脱落すること等の特徵とするものなり。

〔略歴〕氏は明治十五年の出生、同四十三年京都帝國大學機械工學科卒業、住友伸銅所、神戸製鋼所門司伸銅工場に勤務し大正十二年より昭和三年まで東北帝大に於て鐵鋼の表面鋼化に就き研究に従事す、同年七月研究に關する論文により工學博士の學位を授與せられ、同四年日本熱鍊工業所を設立し、鋼の熱處理、同處理に關

對しては甚しく耐酸性を低下し殆ど工業的實用に適するものなく唯だ硝酸の加熱液には幾分勝れるも未だ之とても充分ならず、然るに常輝鋼は充分に軟化すれば其降伏點は極軟鋼と等しく多くの腐蝕液に對して大なる抵抗力を有し海水には絶對に腐蝕せず且つ常温にて加工されし製品は少しも磁性を有せず、尙目的に應じ最大柔軟性及多大なる腐蝕抵抗力と共に抗張力をも附與することを得る等鋼と稱すれども却つて非鐵合金に類似する特性を有し、其製品としては精

なる犠牲資金とを費し漸く初期の目的を貫徹するに至りしものなり。

鳥羽安行

栃木縣日光町 清瀧五〇〇

特許第九七二八七號 「アルミニウム」合金線製造方法

〔内容〕 焼入、機械的冷間加工、熱硬化處理の三工程に更に断面縮小の機械的冷間加工を施し次に再熱硬化處理を施す製造法。

きは「ウエツプ」及「フランデ」迄も相當に硬化して軌條全體を脆弱ならしむる等の缺點あり本發明は前記の缺點を除去し焼入に因り被津滓物に歪を生ぜしむることなく所要部分のみを硬化し其耐久力を増加せしめんとするものにして其津滓すべき部分のみを残し他の部分に注水し之を冷却しつゝ其部分の津滓すべき部分のみを電氣孤光又は瓦斯火焰を以て適度に加熱する手段と、前記加熱したる部分を水、油又は空氣を以て冷却津滓する手段とを軌條の一端より始め

順次他端に及ぼし以て部分的に津滓を行ふものなり、即ち本方法による時は軌條の津滓すべき部分以外の部分に熱を加へざるを以て此部分に加熱による悪影響を及ぼすことなきのみならず歪を生ずることなく必要なる部分のみを焼入することを得て其壽命を延長するの特徵あるものにして且つ前方に注水嘴を設けて火焰にて加熱せらるゝ部分の前方を冷却し加熱せらるべき部分を極めて縮小し得るを以て加熱による歪を一層良く防止し得るものなり。

設備の充實に伴ふ能力の増大と共に滿庵鑄鋼以外の特殊鑄鋼及普通鑄鋼の製造をも開始し、其製品の優秀なると納期の確實なるに好評を博し其需要は日に月に累加増進し、遂に能力に不足を生ずるに至りしを以て更に三砲電氣製鋼爐を増設するの必要に迫られ、昭和八年三月二基並行操作業をなすに至り、同年五月英國ロイド協會の認定工場として其登録を受け更に七月帝國海軍省の購買名簿に登録せられ其の指定工場となり現在に至る。本工場の外市内港區本田通二丁目仕上工場を、東京に出張所を置き、年製産高參千五百越を算し、特許並實用新案權多數を所有す。

工學博士 高橋源助

大阪市住吉區帝塚山 中一丁目八十七番地

特許第一〇四三四號 滲炭防止劑

同 第一〇七二四號 鋼焼入用冷却液

〔内容〕 従来の滲炭防止劑は滲炭温度に於て單に珪瑯質の如き被覆を形成するものにして滲炭用瓦斯の滲入を充分に防止すること能はず局部的滲炭防止の目的を有効に達し得ず、又滲炭を欲せざる鐵、鋼の局部箇所を鋼鍍金を施し部分的滲炭作業を行ふ方法あるも作業の煩瑣手數費用等の高騰及び銅被膜による滲炭防止の効果も尙充分ならず且つ鐵材に硬く密着して離剝するに困難なる等の缺點あり。本發明は滲炭作業温度に於て融液状態をなし且つ炭素を吸収せざる

三原金吾

東京市荏原區下神明町 古河電氣工業 理科試験所内

特許第九八四二五號 磁性合金の燒鈍法

〔内容〕 磁性合金線を先づ豫め紙を捲きたる銅線上に裝荷し之を特殊電流作用により該合金を急速に燒鈍する方法。

〔略歴〕 明治三十四年九月二十日出生、昭和四年東北帝國大學工學部金屬工學科卒業、現在古河電氣工業理化試験所勤務。

森松治郎

名古屋市南區 熱田東町字金山五

特許第一〇三三〇八號 鐵鋼類黑色着色方法

〔内容〕 鐵鹽類に鹽素酸鹽類及硝酸鹽類を混和したる

の結果、當時輸入品のみによりて辛じて我國の需要を充しつゝありし高滿庵鑄鋼製轉轍器及轍叉類は本成功に依りて同十五年以後全然外國品の輸入を杜絶せしむるに至れるなり。而して此輸入防遏國產振興の功績に對しては昭和三年十月二十二日日本産業協會總裁 伏見宮殿下より表彰狀御親授の光榮に浴し、次で鐵道省より鐵道用品の優良國產製作工場として認定せらるゝに至り、昭和四年三月在來の轉爐を電氣製鋼爐に改め、一般製品の品位の改良進歩並に製産量の増大を企畫し一層斯業の振興發展に努力する所ありたり、次で業務の發展、工場の擴張及諸

ものを表面に塗布し乾燥後沸騰水中にて煮沸するか或は蒸氣蒸しをなし其表面に防錆性光澤ある黒色皮膜を生ぜしむる方法。

町田健次郎

神戸市灘區
原田七四八ノ一

特許第一〇〇〇七九號 針金に鉛又は其の合金を鍍金する方法

〔内容〕鉛浴の表面部位に沿ひて溝を有する對「ロール」を溝孔が通路をなす様組合せ設置したる装置に於て被鍍針金を通路を通じて熔融浴より導出する事を特徴とする鍍金法。

林清明

大阪市西區
京町堀通二ノ一
土肥庄次郎方

特許第一〇〇〇八三號 線條引き型

〔内容〕「タングステン」等と鐵屬金屬との合金平板に圓錐孔を穿ちてその内部を炭素を含む物質を接觸せしめつゝ炭化し之を鋼製殻内に嵌着したる事を特徴とする線條引き型。



和氣最平
大阪府守野區
大津市西成區
四拾五番地

特許第七八七六六號 密封安全開閉器

〔内容〕本器の充電體は如何なる場合にも完全

九九七三、一〇四四八、一〇五五七
六、一〇七〇四、一〇四〇一、一〇
四九七八號、實景テレビジョン装置

〔内容〕整流器用酸化銅皮膜生成方法は金屬銅を特殊の粉末中に埋没し、之を適度に加熱して酸化銅皮膜を生成せしめ以て整流器の材料に供せんとするものにして、其効果は加熱を均等ならしむると共に酸素の供給を制限して黒色第二酸化銅の生成を限定するのみならず、酸化膜中にも浸透して電子放射に或る影響を及ぼすもの如し、本方法に依るときは銅線の如く他の方法によりては被化膜が剝離し易き形状のもの

に隠蔽され可熔片取換への爲め開閉蓋を開きたる場合、不充電となりし可熔片取付金具が外部へ露出するのみにて然かも内部の充電體とは全然電氣的に絶縁されたる状態となり、機械的にも亦全然内部と離隔さるゝが故に不正使用手段は全く施し得ざる機構を有す、閉路状態、開路状態に於ては勿論その動作の中間に於ても蓋と可熔片取付板との機械的角度を利用して全く外部より内部の充電體に不正手段を施し得ざるものなり、即ち一、開閉器よりの不正使用を完全に防止し機構簡單なり、二、封印せるまゝ可熔片の取換自由なること、三、完全なる絶縁密蔽外函を使用せるを以て塵芥を防ぎ、又外部より感電の惧なきため従來の木製函型配電板を廢し得る經濟的なること、四、休止の場合不完全なる紙封印を使用することなく完全なる封印を爲し得ること等の特徴を有す。

秋山實

東京市日本橋區
大傳馬町二ノ二七

特許第一〇〇六一四號 鋼線製造方法

〔内容〕鋼線の特殊處理のもとに石鹼及石灰の混合溶液に浸漬しその乾燥せざる間に於て「ダイス」を通す特殊工程を経て成る製造法。

石黒精夫

東京市世田谷區
北澤二ノ一八四

特許第一〇三六三九號

銅-亞酸化銅整流器の製作法
〔内容〕銅板上に酸化第一銅を生成せしむる際更に其

に適す、其他學術上、實業上並に娛樂に使用することを得。

〔略歴〕整流器用酸化銅被膜生成方法（製品名稱、遞信酸化銅整流器）は小川若三郎氏が根本忠次郎氏及び金子清次氏と共同にて研究發明せられたるものにして、目下日本信託株式會社に其實施を許可せるものなり。

小川氏は明治十七年の出生、同四十年東京帝國大學工學部應用化學科を卒業し、同四十二年遞信省電氣試驗所に奉職し、大正十年同所第五部長を拜命す、現在從四位勳三等工學博士たり本發明は「ラヂオ」用廣石鍍皮器の研究より「

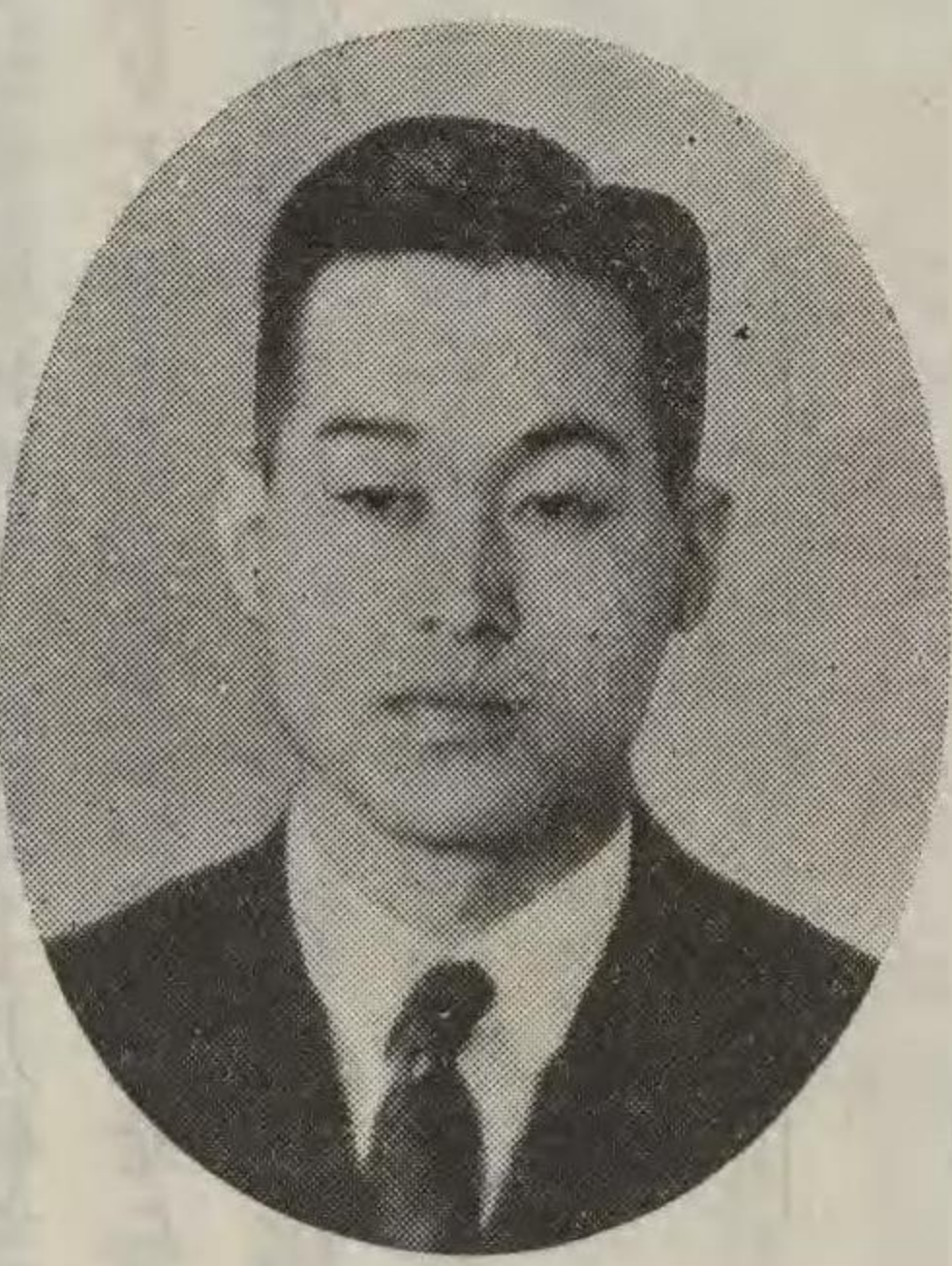
の上に生じたる酸化第二銅を去除き其表面金屬製刷子にて研磨し残りの酸化第二銅を剝落せしむると同時に刷子金屬の磨滅によりて生じたる微細粉を擦り込む工作。

遞信省電氣試驗所

東京市品川區下大崎



小川若三郎



會根有

特許第八四五〇五號 整流器用酸化銅被膜生成方法

同 第八三四一九、八四〇〇八、八四五〇四、
八四九八九、八五二〇五、八八二四七、
八八五六七、八九二七八、九〇九二六、
九一三三八、九一八九一、九二五七五、
九三三五一、九三三九四、九三三四七、
九四六〇〇、九四六〇一、九九六一〇、

尾藤加勢士

東京市澁谷區
向山町一四

戸賀七郎

東京府北豐島郡
岩淵町稻付二〇五三

特許第一〇三六三二號 黑鉛増埒處理法

〔内容〕黑鉛増埒の内壁面を酸化作用を及ぼす事に依り脱炭せしめ更に必要に應じ適當なる耐火塗料を塗布したる處理法。



和氣最平
大阪府大阪市西成區
津守町四百四十五番地

特許第七八七六六號 密封安全開閉器
〔内容〕本器の充電體は如何なる場合にも完全

特許第一〇〇六一四號 鋼線製造方法
〔内容〕鋼線の特殊處理のもとに石鹼及石灰の混合溶液に浸漬しその乾燥せざる間に於て「ダイス」を通す特殊工程を経て成る製造法。

石 黒 精 夫

東京市世田ヶ谷區
北澤二ノ一八四
特許第一〇三六三九號 銅—亜酸化銅整流器の製作法
〔内容〕銅板上に酸化第一銅を生成せしむる際更に其

特許第八四五〇五號 整流器用酸化銅被膜生成方法

尾 藤 加 勢 士

同 第八三四一九、八四〇〇八、八四五〇四、
八四九八九、八五二〇五、八八二四七、
八八五六七、八九二七八、九〇九二六、
九一三三八、九一八九一、九二五七五、
九三三五一、九三三九四、九三三四七、
九四六〇〇、九四六〇一、九四六一〇、

尾 藤 加 勢 士

東京市世田ヶ谷區
向山町一四

戸 賀 七 郎

東京府北豊島郡
岩淵町稻付二〇五三

特許第一〇三六三三號 黒鉛増埒處理法

〔内容〕黒鉛増埒の内壁面を酸化作用を及ぼす事に依り脆炭せしめ更に必要に應じ適當なる耐火塗料を塗布したる處理法。



島津源藏
京都府京都市中區
屋敷町二百四十二番地

特許第四一七二八號 易反應性鉛粉製造法

追加特許第四二五六二號、第四二五六三號

特許第六一一〇一號 金屬鉛粉を含有する亞酸化鉛微粉末製造法

〔内容〕本發明は適量の鉛小塊を水平軸の周りに廻轉する鋼鐵製圓筒内に連續的に且つ定量的に輸送し廻轉速度を適度に調節して鉛塊に砂崩狀運動を起さしむれば、鉛塊は相互の摩擦により熱を發し鉛塊表面はこの摩擦熱と空中酸素の接觸によりて變質し脆化の傾向を生じ來たる、此際廻轉圓筒内に更に空氣の急氣流を吹き

九九七三三、一〇四四一八、一〇四五七
六、一〇四七〇一、一〇四〇一一、一〇
四九七八號、實景テレビジョン装置

〔内容〕整流器用酸化銅被膜生成方法は金屬銅を特殊の粉末中に埋没し、之を適度に加熱して酸化銅皮膜を生成せしめ以て整流器の材料に供せんとするものにして、其効果は加熱を均等ならしむると共に酸素の供給を制限して黒色第二酸化銅の生成を限定するのみならず、酸化膜中にも浸透して電子放射に或る影響を及ぼすもの如し、本方法に依るときは銅線の如く他の方法によりては酸化膜が剝離し易き形状のものに於ても容易に堅牢なる酸化膜を生成し得べく、且つ其整流能率も甚だ良好なり。即ち内部抵抗小にして大なる電流の使用に好適なり、用途は通信用、信號用、電氣化學用、電蝕防止用等とす。

實景テレビジョン装置の送影機は小型なるを以て移動送影に適し、映畫攝影機の如く上下左右任意に撮影して移動物の送影可能にして電源は單相交流百ボルト二百ワット程度なるを以て電燈設備ある所なれば隨所にて運轉し實景を送影し、従來の二分の一の周波數帯にて同一程度の鮮明さを以て送影することを得るなり。受影機は特殊水銀放電管を用ひ且つ光學的能率優秀なるを以て、僅少なる電力にて大なる影像を映寫し得るのみならず、畫面の「チラツキ」、動搖等極めて少なし、兩機共價格低廉にして取扱安全且つ容易なり、室内は勿論野外、航空機上等にて運轉操作に適し、受影は大衆用及び家庭用

に適す、其他學術上、實業上並に娛樂に使用することを得。

〔略歴〕整流器用酸化銅被膜生成方法(製品名稱、遞信酸化銅整流器)は小川若三郎氏が根本忠次郎氏及び金子清次氏と共同にて研究發明せられたるものにして、目下日本信號株式會社に其實施を許可せるものなり。

小川氏は明治十七年の出生、同四十年東京帝國大學工學部應用化學科を卒業し、同四十二年遞信省電氣試驗所に奉職し、大正十年同所第五部長を拜命す、現在從四位勳三等工學博士たり本發明は「ラヂオ」用鑛石檢波器の研究より「ヒント」を得て研究完成せられたるものなり。

實景テレビジョン装置は會根有氏の發明せられたるものなり、氏は明治三十四年の出生、東京府立第四中學校、第一高等學校理科を経て大正十五年早稻田大學理工學部電氣科を卒業し、遞信省電氣試驗所第二部第四部共同研究室研究員として奉職して現在に至る。夙に各種機械裝置の研究に興味を有し已に高等學校時代には精密機械特に光學機械の研究を完成す、昭和七年過去の經驗並に研究を基礎として光學的能率と裝置の實用的價值とを考慮して第一回のテレビジョン裝置を略完成す、之を野外の實景に適用せんと志し昭和八年自作特殊寫眞鏡玉を裝置せる新裝置を試作し、東京及大阪等の博覽會に於て實驗し其結果部分的改良の必要あるに鑑み研究を重ね遂に之を完成するに至りしものなり、尙本裝置は頭書各特許の綜合的實施に依るものなり。

込めば豊富なる酸素の供給によりて酸化反應は急進し、同時に酸化熱を發生して圓筒内の温度は頓に上騰し攝氏二百度以上にも達す、斯くして鉛塊表面に生ずる脆き變質層は即ち亞酸化鉛にして、之が鉛塊相互の摩擦により剝離し、摩擦と酸化とを繰返して次第に細粉となり、空氣の急氣流のために迅速に圓筒外に移送噴出し、特殊の特許捕捉装置内にて排風と瀘別されて沈積槽内に堆積蒐集せられるものなり、此特許易反應性鉛粉は鉛酸化物の一種にして Pb₂O なる化學式にて表はされ、黑色無定形の微細粉にて其の名の示す如く酸素、水其の他の化學藥品との反應性頗る強く、空中に放置するも酸素を漸次吸収して酸化の度を加へ、又マツチを以て點火しこれに風を當つれば急激なる酸化を起し攝氏六百度の高熱を自發して赤熱し、放冷後は鮮黄色細砂狀結晶の「リサージ」PbO となるものにして、從來諸學者の發表せる化學的諸法とは全然別個なる手段を以て大量に然かも經濟的に製造する方法なり。

製品は蓄電池原料として優秀なるのみならず「リサージ」は塗料として應用され、又之より得たる光明丹は光學用硝子原料として應用され又顔料としても優良なり。

〔略歴〕氏は明治二年京都市の出身、同二十七年先代を襲名して島津製作所を經營す、三十年頃蓄電池の製造販賣を開始し日露戰役に際し蓄電池が國防に效ありしに對し賞状を受く、大正六年日本電池株式會社を創立す、同十四年觀櫻會社を創立す、光榮に浴し、帝國發明協會より大賞並進歩賞を受け、恩賜記念賞及大賞を受領す、昭和五年發明家十名中に選ばれ宮中賜餐の榮を賜ふ。

本發明は蓄電池原料の自給自足を圖らんとし獨國より製造權購入の問題ありしも氏は多額の資金を出すを欲せず密かに種々苦心研究の結果發明せられたるものにして諸外國の特許權をも獲得し其の數九十六件に及ぶ、昭和八年米國ユースエル社に實施權を讓渡し、最近英國オ社に實施權許諾の交渉成立せりと、又佛國に對しても目下交渉中にて近く之が讓渡を見るべき状態なりと謂ふ。

淺原 七
東京府豊多摩郡
高井戸町大宮前三五三

淺原 七

東京府豊多摩郡
高井戸町大宮前三五三

特許第一〇〇七三五號 砂型製造用微粉末の製造方法

〔内容〕硅藻土、酸性白土等に對する特殊藥品の處理に依り微粉末を得て之を鑄造用砂型を製造するに使用し母型と製型用砂との接着を防ぎ其離脱を容易ならしむると共に砂型の肌損傷なからしむる方法。

株式會社

住友電線製造所

大阪府此花區
恩貴島南之町六十番地

特許第一〇二〇八七號 高硬度合金

同 第一〇三〇三九號 靜電蓄電器

同 第一〇三三三〇號 感光發電池

同 第一〇三八九四號 難融金屬及其合金粉末

〔内容〕從來「グアイデア」系の硬合金は「タ

ングステン」の如き難融金屬の炭化物に軟金屬主として「コバルト」、「ニッケル」粉末を加へて燒結せしめたるものにして一般に「セメント」ツド、タングステン、カーバイト」と稱せらるゝものなるが、一般に燒結作業を水素氣中に於て行はざれば完全なる燒結體を得られざるに反し、本發明合金の場合には中性又は普通の還元氣中に於て行はるゝを以て爐に特別の構造を要せず、從て容易に所要の高温を得らるべく難融金屬を以て「セメント」するものなるに拘はらず其作業能率、生産費等從來のもの大差なきものなり、而して其成分として軟金屬を含有せざるを以て硬度著しく高きは勿論配合成分たる各金屬は何れも融解點高きを以て耐熱性に富み、加ふるに耐腐蝕性に於ても從來のものに比し優秀なり。

難融金屬及其合金粉末燒結體の表面硬化法は一般に難融金屬の炭化物は硬度著しく高く、此の炭化金屬粉末に軟金屬等を混和し半融を行ひて得る合金は工具、「ダイス」等として工業上廣く使用せらる、然るに此等の燒結合金は硬き反面に於て其の質脆く工具として使用する際震動の爲め容易に破損する虞あり、機械部分品等に於て摩擦の激しき個所に炭素燒法或は窒化法を施し表面を硬化せしむることは從來工業的に廣く行はれ、難融金屬に於ても、例へば伸管用「ブラッグ」等表面硬度高く内部は強靱性に富める材料を要求する場合其の金屬塊を炭素又は炭素を含む瓦斯氣中にて高温に加熱し炭素を吸收せしめて表面硬化を得せしむる事は既に周知の

大阪陶業株式會社

大阪府此花區
宗是町一丁目

特許第六八四四五號 陶磁器施釉法

同 第六八四四六號 磁器製子接合部の改良

同 第六八九九〇號 柱上電氣開閉器碍子型「スイツチ」

同 第六九三八八號 絶縁體を含む高電壓回路の開閉装置

同 第七二二二四號 「テラコッタ」製造法

同 第七四一八二號 油入「ブツシグ」の改

ことなり、然れども如上の方法によれば表面一耗程度の硬化を行はんが爲めには著しく高温且つ長時間を要し猶且つ豫定の炭素を吸収せしめ得ざるものなり、加之過度の温度を上昇せしむれば組織は粗雜となり材料を不用に歸せしむべし、本發明に於ては難融金屬又は之を主體とする合金が一般に粉末状態より半融法によりて金屬塊を得る場合多きを利用し、之等粉末金屬を所要の型に壓搾し豫備半融として之を加熱して多孔質の塊を作り、之の表面に化合又は不化合炭素を含む液を塗布するか若くは該液中に之

銅と、「アルカリ」溶液と作用して生ずる酸化第二銅とが溶液中に共存して是等の酸化銅は光の曝射及斷光によりて化學反應を行ひ、これに伴ひて電極の電位を異にする所謂光化學反應を利用して光電効果を可逆的ならしむる爲には化學反應を可逆的ならしむる様常に兩種酸化銅をして平衡状態ならしめ置くを要し、且つ化學反應の進行に相當の時間を要し從て光電効果は時間の遅れ大なるものに比し、本感光電池は化學反應起らずして光電効果を有し而かも比較的時間の遅れ少なく且つ可逆的なるものなり。

製品は蓄電池原料として優秀なるのみならず「リサージ」は塗料として應用され、又之より得たる光明丹は光學用硝子原料として應用され又顔料としても優良なり。

〔略歴〕氏は明治二年京都市の出身、同二十七年先代を襲名して島津製作所を經營す、三十年頃蓄電池の製造販賣を開始し日露戰役に際し蓄電池が國防に效ありしに對し賞状を受く、大正六年日本電池株式會社を創立す、同十四年觀櫻會社を創立す、光榮に浴し、帝國發明協會より

株式會社
住友電線製造所

大阪市 此花區
恩貴島南之町六十番地

- 特許第一〇二〇八七號 高硬度合金
 - 同 第一〇三〇三九號 靜電蓄電器
 - 同 第一〇三三三四〇號 感光發電池
 - 同 第一〇三八九四號 難融金屬及其合金粉末燒結體の表面硬化法
- 〔内容〕從來「ガイデア」系の硬合金は「ク

く使用せらる、然るに此等の燒結合金は硬き反面に於て其の質脆く工具として使用する際震動の爲め容易に破損する虞あり、機械部分品等に於て摩擦の激しき個所に炭素燒法或は窒化法を施し表面を硬化せしむることは從來工業的に廣く行はれ、難融金屬に於ても、例へば伸管用「ブラツグ」等表面硬度高く内部は強靱性に富める材料を要求する場合其の金屬塊を炭素又は炭素を含む瓦斯氣中にて高温に加熱し炭素を吸收せしめて表面硬化を得せしむる事は既に周知の

大阪陶業株式會社

大阪市 此花區
宗是町一丁目

銅と、「アルカリ」溶液と作用して生ずる酸化第二銅とが溶液中に共存して是等の酸化銅は光の曝射及斷光によりて化學反應を行ひ、これに伴ひて電極の電位を異にする所謂光化學反應を利用して光電効果を可逆的ならしむる爲には化學反應を可逆的ならしむる様常に兩種酸化銅をして平衡状態ならしめ置くを要し、且つ化學反應の進行に相當の時間を要し従て光電効果は時間の遅れ大なるものに比し、本感光電池は化學反應起らずして光電効果を有し而かも比較的時間の遅れ少なく且つ可逆的なるものなり。

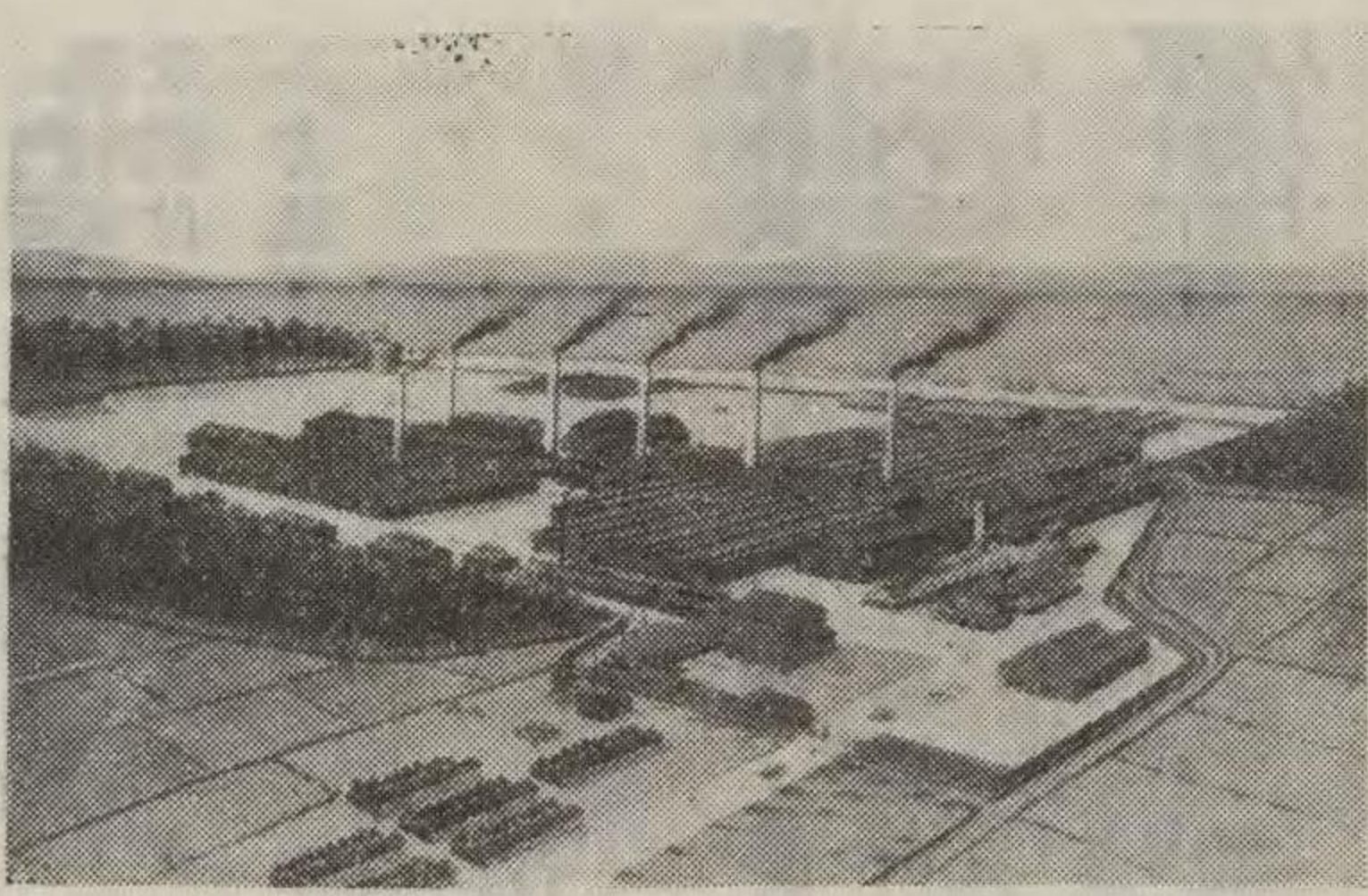
- 特許第六八四四五號 陶磁器施釉法
- 同 第六八四四六號 磁器製端子接合部の改良
- 同 第六八九九〇號 柱上電氣開閉器碍子型「スイッチ」
- 同 第六九三八八號 絶緣體を含む高電壓回路の開閉裝置
- 同 第七二二二四號 「テラコッタ」製造法
- 同 第七四一八二號 油入「フツシグ」の改良

磯部純一

佐賀縣 西松浦郡
有田町白川一七二二

特許第一〇二二三九號 陶磁器の製造法
〔内容〕陶磁器原料に〇・一%以上の硫黄を混合し燒成するものにして機械的及電氣的強度を増大せんとする工作。

〔内容〕陶磁器の施釉に當り燒成後の色彩、感じを互に異にし或は熔融度を異にする等組成分の互に異なる二種以上の釉藥を噴霧状態にて同時に同一素地面に施釉するものにして、個々の釉の霧粒は互に相交錯して素地上に施され之を燒成すれば色感の交錯より來る特殊の趣を有する釉面を形式するものなり、而して各の釉藥の霧粒の大小を調節することにより各釉藥の交錯を粗或は密ならしめ霧粒の量を調節することにより色調を加減し得るものなり。之を「テラコッタ」其他天然岩石の模倣釉面に用ふれば自然に起る釉藥の交錯と其粗密の調節により他の方法により求



二六五

ことなり、然れども如上の方法によれば表面一耗程度の硬化を行はんが爲めには著しく高温且つ長時間を要し猶且つ豫定の炭素を吸收せしめ得ざるものなり、加之過度の温度を上昇せしむれば組織は粗雜となり材料を不用に歸せしむべし、本發明に於ては難融金屬又は之を主體とする合金が一般に粉末状態より半融法によりて金屬塊を得る場合多きを利用し、之等粉末金屬を所要の型に壓搾し豫備半融として之を加熱して多孔質の塊を作り、之の表面に化合又は不化合炭素を含む液を塗布するか若くは該液中に之を浸漬するものとす、然るときは液は毛細管現象により内部に深く浸透擴散し炭素も同時に吸着せらる、出來得べくんば此作業は眞空中に於て之を行ふを可とするものなり、斯くして得たるものを還元性瓦斯氣中に於て半融温度まで加熱することにより堅緻なる燒結體を得、猶ほ極度に氣孔を減ぜんとする場合には壓搾を加へつゝ燒結を行ふものとす、故に本法は作業甚だ簡單にして表面充分の厚さに硬化を施し得、而かも從來の方法に比し短時間にて足る特徴あるものとす。

感光發電池は酸化第一銅面の一部に金屬化したる部分を有し、これを絶緣物にて蔽ひこの金屬部分と他の電極とを連結し、これ等の酸化銅と化學作用を行はざる透明導電性液體中に保持せるものにして、他の電解法によりて表面に酸化第一銅を附したる銅板を感光物とし、この母體銅と他の電極とを連結して「アルカリ」水溶液中に保持したる感光發電池の如く、酸化第一

東郷省吾

東京市 赤坂區
青山南町六丁目五四

特許第九四二八一號 寫真模様を有する陶磁器製造方法
〔内容〕素燒陶磁器の表面に目潰し劑を塗布して被印刷面を形成し次に凹版「オフセット」印刷に依り直接に該印刷面に精巧美麗なる所要の寫真模様を燒成せんとする方法。

むべからざる天然物類似の釉面を得る等の効果あるものなり。之を實施するには個々の釉藥容器に各噴霧器を附し各釉藥を霧状となし同一素地上に同時に之等を施すことを以て足り頗る簡單なる操作なり。

河内卯之助

京都府乙訓郡向日町大字寺戸小字南垣内二七

特許第一〇三七四八號 押葉模様陶器製造方法

〔内容〕素地の表面に被覆したる任意の色の泥漿土の薄層の濕潤状態の時植物の葉を貼付し更に同様の泥漿土を化粧掛し施釉の前又後に該葉を剝離して焼成する方法。

村田小一

愛知縣知多郡常滑町字北屋敷一八

特許第一〇三一九號 青磁色陶磁器製造法

〔内容〕木節粘土、大學山粘土及長石とより成る素燒素地に長石、石英及石灰石の混合物と常滑粘土石膏及硼砂との混合物を配合して成る釉藥を施し後焼成する製法。

山内宗一

名古屋市中東區東白壁町六

特許第九九二二八號 陶磁器面上に濃淡模様を顯出せしむる方法

〔内容〕粘着力強き「バルサン」油と蓖麻子油に稀釋用として片桐油を注加し溶解せる陶器繪具を保護風船液にて押壓移動し特殊模様を顯出せしむる方法。

葛山利雄

兵庫縣武庫郡精道村芦屋平田四二〇

特許第九九一三七號 冷蔵用煉瓦の製法

〔内容〕特殊材料を焼成したる多孔性の焼成物を未だ冷却せざる以前に「アスファルト」熔融物中に短時間浸漬し後急冷却を施して成さるゝ製法。

吉本助作

高知縣安藝郡室戸町七四

特許第一〇三三三〇號 銅鑲煉瓦體の製造法

佐藤忠義

岐阜縣可兒郡豐岡町七九五

特許第九八七四九號 磁器に靨色の粧飾を施す方法

〔内容〕素燒せる磁器素地に諸種の配合に依り調製せる釉藥を施し還元焰燒成に於て靨色を發生せしめんとする方法。

柴田俊昌

名古屋市中東區千種町字今池七

特許第九八四五五號 磚子(陶磁器)の製造法

〔内容〕硬質陶磁器素地原料の粉末に特殊の溶液を配合し後成形燒成の操作を施して堅牢耐酸並に機能の完全なる磚子を得んとする方法。

肥田一三

名古屋市中東區前ノ町一三

特許第九九九〇九號 陶磁器面上に赤色地黃盛模様を顯出せしむる方法

〔内容〕施釉燒成せる白色陶磁器面に濃黄色繪具に金盛用、白盛用及寶石盛用繪具を特殊方法にて模様を轉寫し其一面に赤色繪具を吹付け而して窯燒する方法。

菅野健雄

東京市王子區上十條町一三〇〇

特許第一〇三三六四號 高周波用磁器磚子の製造法

〔内容〕礬土、硫酸、石灰、苦土、加里、曹達等及鐵亞鉛、鉛の酸化物等より成る磁器磚子を製造するに際し酸化曹達の量と酸化鉛の量の比を特定となしたる製法。



和氣正太郎 和氣正太郎 和氣正太郎 和氣正太郎

特許第一〇〇七二二號 耐火モルタル製造法

〔内容〕本發明は特殊方法により礬土硫酸曹達及苛性苦土と天然高礬土含有物との三者を適當に混合し製造せるものにして、水に混和するとき

今村政輝

名古屋市中東區千種町高見二二〇

特許第一〇〇〇二二號 陶磁器「タイル」製造法

〔内容〕矩形無底匣鉢の二對壁内面に多數の有底縱溝を設け其特殊装置に「タイル」素地を懸架し燒成を行ふ方法。

島山惠

金澤市穴水町二番丁九

特許第九六九一一號 多孔質燒成物製造法

〔内容〕米糠又は麥糠若くは其混合物に苛性「アルカリ」を加へ加熱攪拌して得たる粘稠可塑物質を或物質中に混加し簡單且容易に優良なる多孔質燒成物を得んとする方法。

和久良一

佐賀縣西松浦郡有田町二〇一

特許第九七七四五號 二枚合せ燒成による「タイル」製造法

〔内容〕二枚分の「タイル」素地の中間層に數個の小孔を有する紙を介在せしめ小孔の部分を以て二枚連結し燒成後中間層より離斷以て經濟的且優良なる製品を得る方法。

加藤正夫

愛媛縣温泉郡道後湯之町一五二三

特許第一〇一六一四號 瓦の製造法

〔内容〕細砂混入の普通粘土と粘板岩末の混合物を硫酸「ナトリウム」水溶液に「カセイン」を混和したる泥狀液と共に混捏して得たる素地土にて形成し特殊温度にて燒成となし之に特殊の釉藥を施して燒成する方法。

梶原政吉

南滿洲鞍山大正通り二丁目六四

特許第九八二二三號 「マグネシア」煉瓦製造法

〔内容〕粗鬆質「マグネシア」煉瓦を或る水溶液中に浸漬したる後之を加熱し炭酸「マグネシア」の吉晶

製法。

山内宗一

名古屋 市東區
東白壁町六

特許第九九二二八號 陶磁器面上に濃淡模様を顯出せしむる方法
〔内容〕粘着力強き「バルサン」油と蓖麻子油に稀釋用として片桐油を注加し溶解せる陶器繪具を保護風船液にて押壓移動し特殊模様を顯出せしむる方法。

菅野健雄

東京市 王子區
上十條町一三〇〇

特許第一〇三三六四號 高周波用磁器磚子の製造法
〔内容〕礬土、硫酸、石灰、苦土、加里、曹達等及鐵亞鉛、鉛の酸化物等より成る磁器磚子を製造するに際し酸化曹達の量と酸化鉛の量の比を特定となしたる製法。

加藤正夫

愛媛縣 温泉郡
道後湯之町一五二三

特許第一〇二六一四號 瓦の製造法
〔内容〕細砂混入の普通粘土と粘板岩末の混合物を硫酸「ナトリウム」水溶液に「カセイン」を混和したる泥状液と共に混捏して得たる素地土にて形成し特殊温度にて素焼となし之に特殊の熱を施して成せる方法。

葛山利雄

兵庫縣 武庫郡
精道村戸屋平田四二〇

特許第九九一三七號 冷蔵用煉瓦の製法
〔内容〕特殊材料を焼成したる多孔性の焼成物を未だ冷却せざる以前に「アスファルト」熔融物中に短時間浸漬し後急冷却を施して成さるゝ製法。



和氣正太郎
和氣耐火工業株式會社
大正東區南區久太郎町
二丁目(住友ビル)

吉本助作

高知縣 安藝郡
室戸町七四

特許第一〇三三三〇號 銅鑄滓煉瓦體の製造法
〔内容〕銅熔滓を鐵筋を埋藏して煉瓦狀に形成し其凝固前に其表面に特殊混合物を撒布附着せしめて冷却せしめて成る製造法。

特許第一〇〇七二二號 耐火モルタル製造法

〔内容〕本發明は特殊方法により礬土酸曹達及苛性苦土と天然高礬土含有物との三者を適當に混合し製造せるものにして、水に混和するときには礬土酸曹達と苛性苦土は復分解を起し礬土酸苦土の糊狀沈澱と苛性曹達とを生ず、新鮮なる礬土酸苦土の沈澱は非常に糊狀にして又苛性曹達も非常に粘稠性なるが故に混和物は耐火モルタルとして必要なる粘着性を充分に具備す、又混和に際して礬土酸苦土を生ずる事は一種の硬化作用を伴ひ常温に於ても既に大なる硬化力を有し漸次温度を上昇せしむるに従ひ膠着力を増進す、又混和物は一度焼成したるものなるが故に高温に加熱せられたる後に於て收縮すること殆どなし。本製品耐火接合劑パイロセメントは以上の如き特徴を有するが故に耐火煉瓦を以て築造する總ての爐の目地用として其接合力大にして築造爐の堅牢なるは勿論其接合が緊密なるが故に熱瓦斯等の侵入作用を防止す、亦火爐内の部分的破損部に填充して一時的應急修理用として極めて便利なり、尙汽罐バツフルに於て從來の耐火煉瓦を廢し本品を以てガス、タイト、

梶原政吉

南滿洲鐵山 大正通り
二丁目六四

特許第九八一三二號 「マグネシア」煉瓦製造法
〔内容〕粗鬆質「マグネシア」煉瓦を或る水溶液中に浸漬したる後之を加熱し炭酸「マグネシウム」の結晶を生成せしめ高壓に耐へ抵抗度甚大なる「マグネシア」煉瓦を經濟的に得る方法。

梶原政次

關東州 大連市
紀伊町二六

特許第九九三九九號 鹽基性「ドロマイトクリンカー」を製造する方法
〔内容〕「ドロマイト」鑛石粉より得たる「クリンカー」を重炭酸「マグネシウム」の溶液中に浸漬したる後特殊雰囲気中に暴露し「クリンカー」又は結晶粒子の周圍に水酸化物及炭酸鹽の結晶を生成せしめたる製法。

佐藤知雄

仙臺市北二番丁一三六

特許第一〇二〇七二號 「アルミナ」製金屬熔融管の空隙を充填する方法
〔内容〕熔融管に金屬鹽の濃厚溶液を浸透せしめ之を加熱して金屬鹽を分解し以て耐熱性酸化物を熔融管の空隙に附着沈澱せしむる事の特徴とする方法。

(類五五一第)

三日月定吉

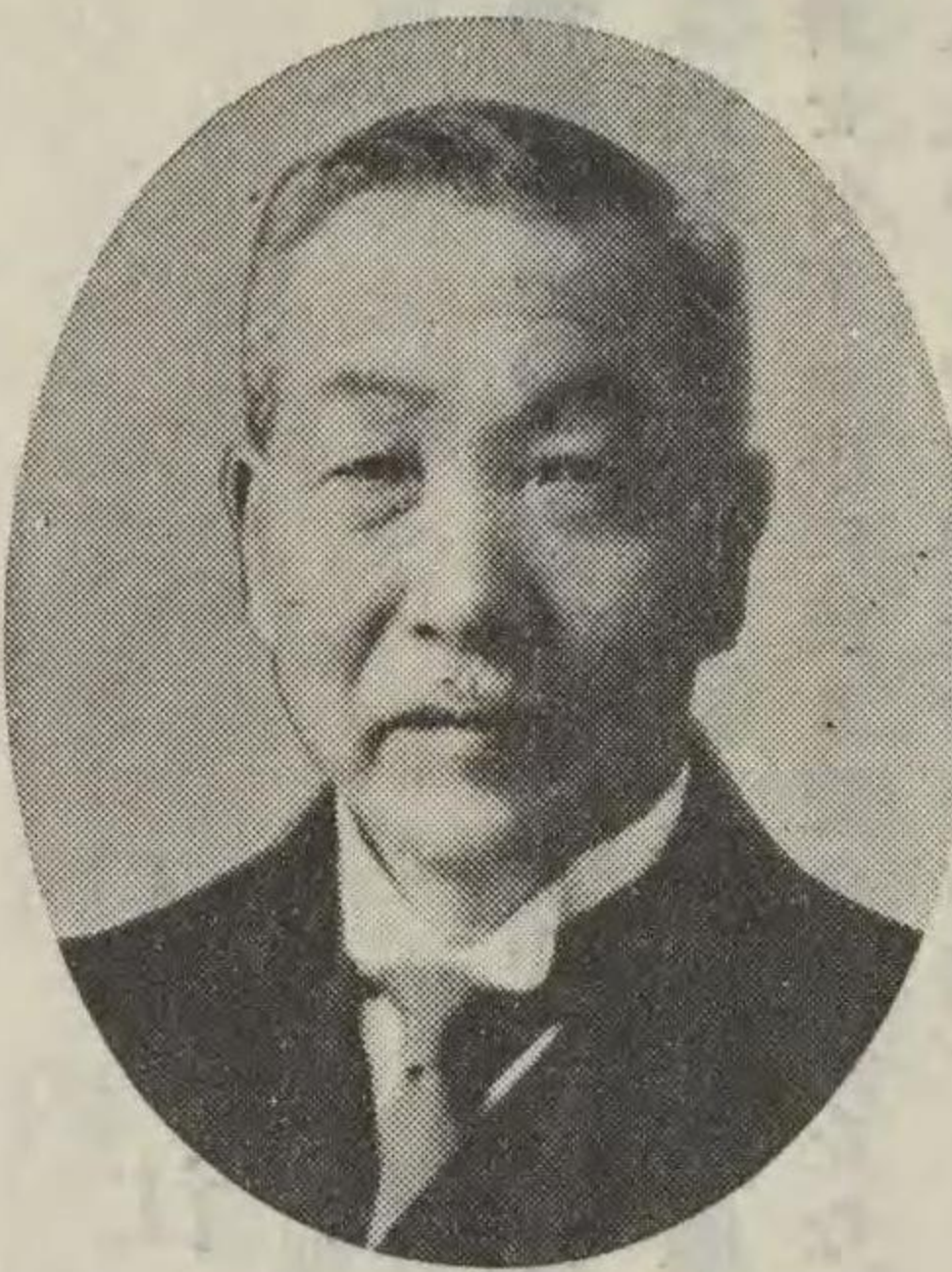
東京市 麹町區
有樂町二ノ二

特許第一〇〇四六〇號 「テラコッタ」製造方法
〔内容〕可燃性材料より成れる内型を素地體內に挿置したる儘焼成する事の特徴とする製法。

入江定男

戸畑市澤見町製鐵所
澤見官舎一二號

特許第一〇一六六五號 「スケレット」の製造法
〔内容〕多孔性の耐火度高き主體と中間層及び觸媒劑層を有する事に依り完全燃焼をなさしめ熱効率高き耐久性のものを製造する方法。



松村式石炭窯

郎次八村松
名古屋市東區
千種町北五番地一

〔内容〕本窯は焚口を二方に設け床下を通じて火炎を煙突に吸引せしむる装置にして、窯内火度の平均を保たしめ且つ傾斜を要せざる平地に築造し得る特徴を有するものなり。

〔略歴〕氏は佐賀縣の出身、明治二十四年東京高等工業學校陶器玻璃工科を卒業し更に専攻科に學ぶ、二十九年硬質磁器を發明したるも火度強きを要するを以て當時の松材燃料にては多額の費用を要し工業的ならざるを痛感し種々研究の結果本窯の發明を完成せられたるものなり。従來我黨業品は松材を以て燃料となしたるも逐時松材の缺乏を來し窯業盛なる縣に於ては洪水に困じ殖林を奨勵したる如き状態なり、然るに本發明成るや氏は之を一般に使用を解放し其普及に努力したる結果殆ど本窯を使用せざるなき状態となれり。

采野善治郎

西宮市川東町八四

特許第一〇〇七七〇號 耐火物鑄造法

〔内容〕鑄型に装着したる補助筒の作用により補助筒内の耐火物を同一温度とする半固體化する間に之を補

之を刻成して「プロッター」主體を造り其吸収面を殘して全表面に「パラフィン」又は珪酸曹達を塗着せしむる事の特徴とする製造法。



石塚幸七

大阪市北區梅ヶ枝町七番地

助筒と共に鑄造體固有部分より除去する事より成る鑄造法。

木谷榮次郎

名古屋市中區
藪田町六二

特許第九四四三號

内燃機關に用ふる「スパークプラグ」の製造法

〔内容〕滑石を「スパークプラグ」の形狀に刻成し之を一定の温度にて加熱したる後更に加熱冷却し、燃料中の不燃燒物僅少及硬直強靱且絶縁性に富み良好なる發火成績を得んとする方法。

奥田祐吉

東京市牛込區
新小川町三ノ一〇

特許第一〇二〇一九號

「スラッグ」を原料とする飾砂製造装置

〔内容〕加熱爐の一端に第一廻轉圓筒爐を架設し兩圓筒爐は一體となりて廻轉すべくなし兩圓筒爐の他端には各別に「スラッグ」供給管を連結せしめて成る飾砂製造装置。

可兒弘一

東京市荏原郡
碑文谷一三二八

特許第九四二二二號

玄武岩熔解型成物の耐酸度を増加する方法

〔内容〕玄武岩熔解型成物を一定の温度に於て燒鈍することにより該型成物の耐酸度を増加し耐酸性を必要とするものに玄武岩熔解型成物の用途を開拓するにあ

大正七年獨立して硝子器製作業を開始し、昭和六年組織を變更して合資會社となし現在に至る。常に製品の改良考案に没頭し研究を重ね前記特許の外新案權數件を獲得して業界の爲め貢獻する所あり、製品は内地各百貨店に納入する外、オーストラリア、ニュージランド、印度支那等に販路を有し盛業を極めつゝあり。

梅田音五郎

東京市赤坂區
青山南町六ノ一〇八

特許第一〇二〇二三號

堅窯燒成物導出装置

〔内容〕裝填層の下部より製品を逐次導出するに當り全裝填層を一様に平に降下せしむる如くし以て裝填層を安定せしめ各部の燒成火度を均一ならしむる堅窯の特殊装置。

葦津耕次郎

東京市澁谷區
澁谷町大字全王三六

特許第九四六〇九號

堅窯の裝填方法

〔内容〕堅窯の内周面に沿ふて或る泥狀物を塗布し中央に圓筒を樹て内部に層を填充したる後燒成すべき物品及燃料を裝填し以て中央隔離部を形成し凝結せる燒成物の鑿壞及搬出作業に便ならしむる方法。

佐竹省三

横濱市神奈川區
青木町上反町四六三

洞澤力

同市中區西戸部町
堀ノ谷一六五九

特許第九七〇三五號

陶磁器又は硬質硝子と金屬とを接着せしむる方法

〔内容〕陶磁器又は硬質硝子面に白金化合物を塗布更に水金を塗布加熱して金屬を電鍍したる後金屬と接着せしめ温度の急變耐氣壓に効果を得せしめたるもの。

森信次

大阪市住吉區帝塚山
學院前一〇二五ノ一

特許第一〇一八八三號

「プロッター」製造法

く、而して熔融槽に圓筒を裝置するのみの簡單なる設備にて足るのみならず、排流速度丈けの製品を得るものなるを以て迅速に多量の管又は圓筒を製造し得るものなり。尙此圓筒は切り開きて硝子板となすことを得、然かも任意の厚みの硝子板を非常に簡單に製作し得るものなり。薄肉容器製造方法は硝子生地を生地型より仕上型に移し此れを自然に延大ならしめ、後仕上型内に頸型若くは仕上型を回轉せしめつゝ急激に吹擴せしむるを以て仕上型の合せ目により容器の外周に條線を生ずることなく、然かも硝子

水に困じ殖林を奨励したる如き状態なりき、然るに本發明成るや氏は之を一般に使用を解放し其普及に努力したる結果殆ど本業を使用せざるなき状態となれり。

采野善治郎

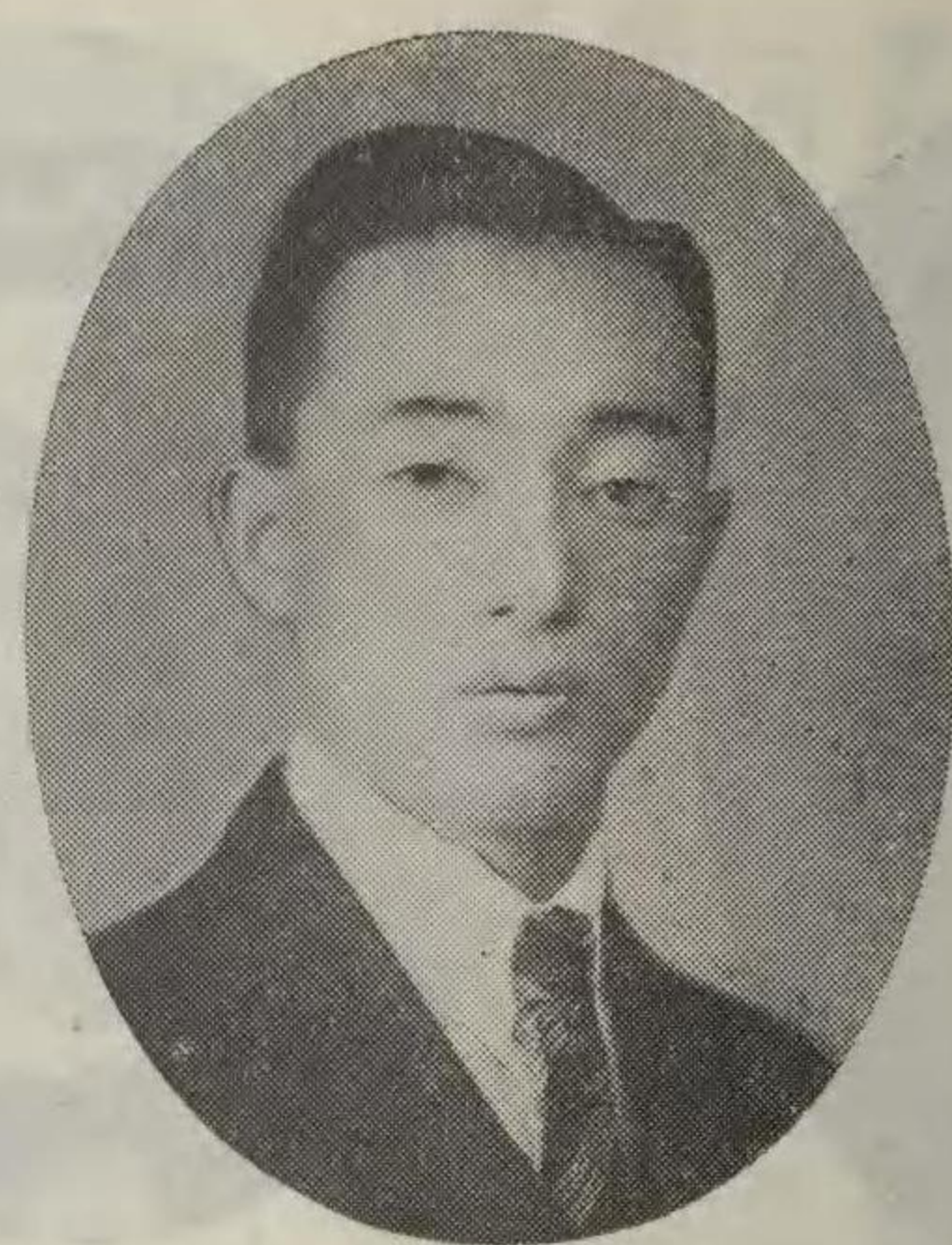
西宮市川東町八四

特許第一〇〇七七〇號

耐火物鑄造法

〔内容〕鑄型に装着したる補助筒の作用により補助筒内の耐火物を加熱してその半固状態を同時に之を補

之を剥成して「プロッター」主體を造り其敷敷面を殘して全表面に「パラフィン」又は珪酸曹達を塗着せしむる事を特徴とする製造法。



石塚幸七

大阪市北區梅ヶ枝町七番地

特許第八〇〇四二號

印刷と同時に着色を施す硝子器製造法

同 第八一五四三號

擬彫刻切硝子器製造法

〔内容〕前者は適宜の金屬板布紙等に透目模様を施し之に色料或は金屬若しくは金屬鹽を施着したる模様型板を形成さるべき硝子器の外面又は内面に當てがひ吹込或は押型方法により凹凸模様を施し模様型板を除去することにより色料を硝子器の凹凸模様面に殘存せしめ印刷と同時に着色を施す硝子器の製造方法なり。

後者は前記方法により凹陥模様を有する原硝子器を幾分肉厚く造り其凹陥模様以外の内外面を適當の方法により平均せる厚みに削減せしめ凹陥模様様の端部を鋭角とすることを特徴とする擬彫刻切硝子器の製造方法なり。

〔略歴〕氏は明治二十八年富山縣の出身、十三歳より大阪市北區同心町木村氏につき技を練り

特許第九四二二二號

玄武岩熔解型成物の耐酸度を増加する方法

〔内容〕玄武岩熔解型成物を一定の温度に於て燒鈍することにより該型成物の耐酸度を増加し耐酸性を必要とするものに玄武岩熔解型成物の用途を開拓するにあ

可兒弘一

東京市荏原郡碑文谷一三二八

大正七年獨立して硝子器製作業を開始し、昭和六年組織を變更して合資會社となし現在に至る。常に製品の改良考案に没頭し研究を重ね前記特許の外新案權數件を獲得して業界の爲め貢獻する所あり、製品は内地各百貨店に納入する外、オーストラリア、ニュージーランド、印度支那等に販路を有し盛業を極めつゝあり。



徳永芳治郎

大阪市東區淀川三區國町二ノ地番三百七

特許第七四六一號

硝子管又は圓筒硝子製造方法

同 第七五七四八號

薄肉容器製造方法

〔内容〕硝子管又は圓筒硝子製造方法は熔融硝子の液面下に排出口を具ふる硝子槽内に圓筒を設け、其の下端と排出口との間隙より熔融硝子を排流せしむるものにして、熔融硝子を排流するに適應する熔融度たらしめ間隙より排流せしむれば等一の厚さにて一定の速度に排流し圓筒内を通じて空氣が進入し、排流硝子は自ら管又は圓筒を形成し、然かも自然の排流に基くが故に内外面は平滑にして一定の任意の厚みを有すべ

特許第九七〇三五號

陶磁器又は硬質硝子と金屬とを接着せしむる方法

〔内容〕陶磁器又は硬質硝子面に白金化合物を塗布更に水金を塗布加熱して金屬を電鍍したる後金屬と接着せしめ温度の急變耐氣壓に効果を得せしめたるもの。

森信次

大阪市住吉區帝塚山學院前一〇二五ノ一

特許第一〇一八八三號

「プロッター」製造法

〔内容〕珪酸土を主成分とする天然珪石を燒成して後

く、而して熔融槽に圓筒を裝置するのみの簡單なる設備にて足るのみならず、排流速度丈けの製品を得るものなるを以て迅速に多量の管又は圓筒を製造し得るものなり。尙此圓筒は切り開きて硝子板となすことを得、然かも任意の厚みの硝子板を非常に簡單に製作し得るものなり。薄肉容器製造方法は硝子生地を生地型より仕上型に移し此れを自然に延大ならしめ、後仕上型内に頸型若しくは仕上型を回轉せしめつゝ急激に吹擴せしむるを以て仕上型の合せ目により容器の外周に條線を生ずることなく、然かも硝子生地が自然に膨大せられたるを以て均一なる厚みとなり、從來の硝子容器に比し薄肉の上製品を製作し得るものなり。

〔略歴〕氏は明治十四年十月の出生、同三十一年より硝子製造販賣業に従事し今日に至る。夙に發明考案に意を致し特許實用新案權二百有餘件を所有す、日本硝子組合聯合會評議員、硝子工業組合理事長等に就任し、受賞拾數回、貿易功勞者、事業功勞者、實業功勞者として夫々表彰せらる。

濱口鹿吉

大阪市西區本田通二丁目七四

特許第九四〇六二號

金屬性黃金色光彩硝子製造方法

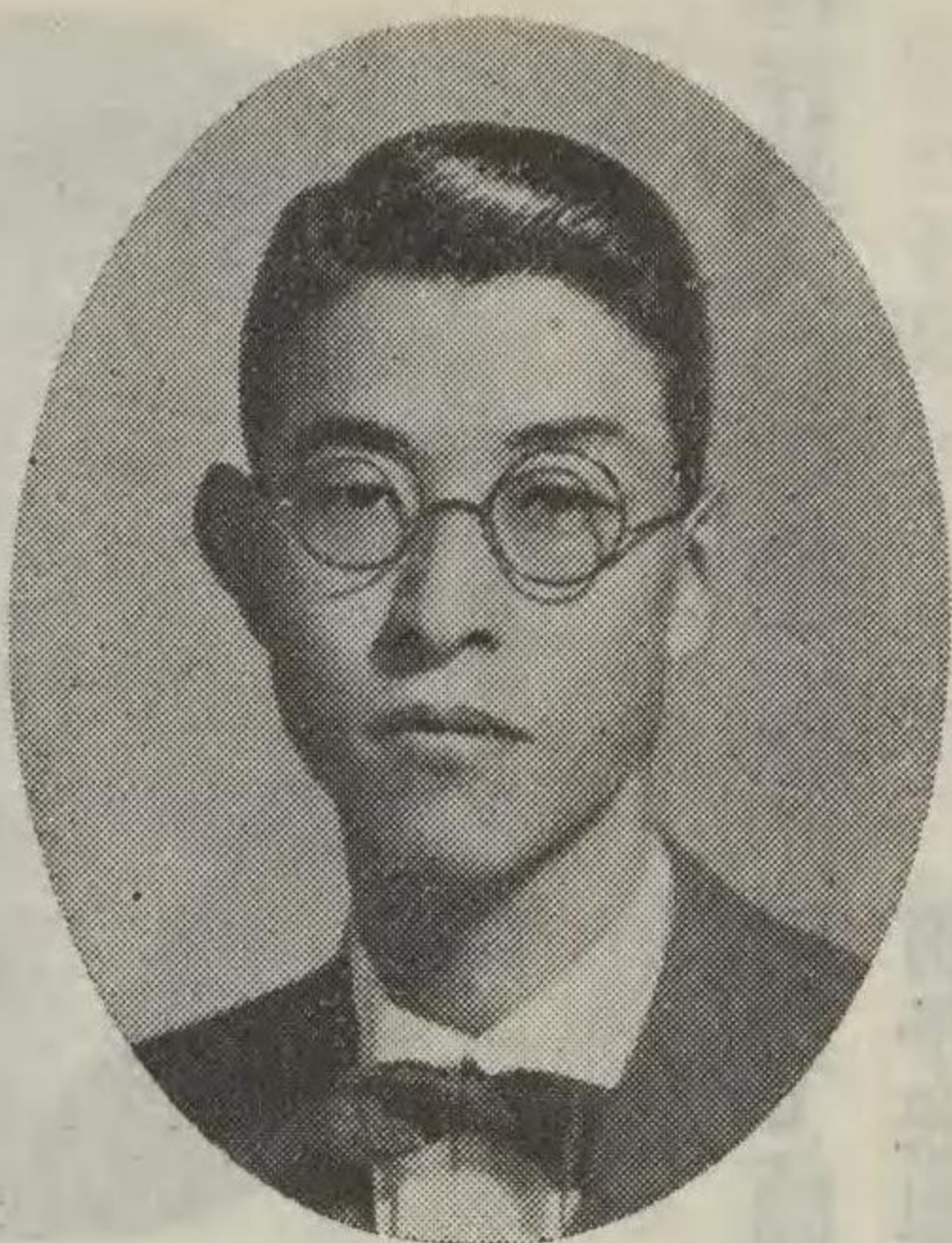
〔内容〕鹽化第二鐵の水溶液に過酸化水素を注ぎ加熱せる硝子の表面に噴射せしめて金屬性黃金色の光彩硝子を低廉に製造する方法。



和田之助 東京市下谷区上野 八四町木櫻



不破三橋 東京市大森区新井宿 九八沼血



白石裕一 東京市蒲田区池上 三三臺南原ケ久



森二郎 東京市北區善源寺町 六丁目五六

特許第五〇四七〇號 電球用バルブ硝子
同 第九一八三三號 白熱電球又は其類似装置
用硝球内面に散光又は着色層を被着せしむる方法

〔内容〕前者は無水硅酸、酸化ナトリウム、酸カルシウム及酸化マグネシウム、アルミナ等の適當成分を有する熔融温度の低き電球用バルブ硝子にして電球製作作業に好適し特に風化作用を受けざる特徴を有す。

後者は硝球の内面に散光又は着色用の物質を結着劑及酸化劑と共に塗布乾燥せしめたる後、加熱して結着劑を焼去せしめ以て其の内面に散光若くは着色層を被着せしむる方法にして、外力により容易に剝離することなく且つ均齊なる散光層又は着色を形式せしむると共に電球に製作されたる際發光體其他に何等の障害も及ぼさざるものなり。

〔略歴〕和田氏は大正四年東北帝國大學化學科卒業、東京電氣株式會社に入社し同社研究所副長たり。

不破氏は明治四十五年京都帝國大學工學部卒業、東京電氣株式會社に入社し同社研究所副長を経て現在同所理事の要職にあり、

白石氏は大正十四年東京高等工業學校應用化學科卒業、東京電氣株式會社に入社し同社研究所に在勤、

森氏は大正九年京都帝國大學理學部化學科卒業會て東京電氣株式會社に勤務し不破氏の下に在りて硝子の研究に従事せられたり。

らるゝこと數次に及べり。

渡邊 牧三 東京市大井町五二二五

特許第九五二四一號 白熱電燈用内側曇硝子球製造法

〔内容〕吸水性彈性材に硝子腐蝕液を供給し之に硝子球を被せて廻動せしめ直に球を拔取りて水洗し簡單なる方法により製造能力を増進且無害に作業を遂行し得る製造法。

柏木 幸助 山口縣佐波郡防府町 大字三田尻町三五二

特許第九八一六九號 體溫計用硝子管の加工法

〔内容〕硝子管より水銀槽を作出する場合の加工熱を利用して金屬薄層を所要の硝子面に焼付け感度迅速なる體溫計を経済的に得んとする法。

可兒 弘一 東京市荏原郡磯倉町 碑文谷一三二一八

森谷 靜太 同市荏原區荏原町 戸越七八六

特許第九六〇六五號 水に難溶性なる曹達硝子の製造法

〔内容〕硝子の燒鈍温度より以下の温度に於て加熱することを特徴とする水に難溶性なる曹達硝子の製造法。て廻轉する廻轉板に附着せしめ而して壓搾成形する方法。

向笠 榮三 東京市品川區 北品川四ノ五三六

特許第一〇二五九六號 半透明電燈球製造方法の改良

〔内容〕酸化燃焼によりて發生せる微細なる粉末を燈球内壁に均等に沈澱被着せしめ照明効果均等なる電球の製法。

植田 一 堺市七道字西町三〇

谷口 米吉 大阪市浪速區西關谷町 一丁目七七

西村 專治 大阪市北區善源寺町 六丁目五六

特許第九八七四〇號 黄金色光輝硝子の製造法

〔内容〕赤熱せる硝子面に特定の混合酸性溶液に還元劑を加へたるものを噴射することにより色彩光輝の發現を容易且つ充分ならしめんとする法。

中泉 行正 東京市京橋區 銀座西五丁目一

岩城 勝美 東京市深川區 元加賀町一

厚澤 銀次郎 東京府野方町 下沼袋五〇四

中村 宇吉 東京市神田區 通新石町七

特許第九四四八八號 硝子上に硝子を以て極めて細き



郎 二 森 郎

不破氏は明治四十五年京都帝國大學工學部卒業、東京電氣株式會社に入社し同社研究所副長を経て現在同所理事の要職にあり、白石氏は大正十四年東京高等工業學校應用化學科卒業、東京電氣株式會社に入社し同社研究所に在勤、森氏は大正九年京都帝國大學理學部化學科卒業會て東京電氣株式會社に勤務し不破氏の下に在りて硝子の研究に従事せられたり、尙本發明に對しては帝國發明協會より表彰せ

可 兒 弘 一
東京市荏原郡磯谷町
碑文谷一三二八
森 谷 靜 太
同市荏原區荏原町
戸越七八六
特許第九六〇六五號 水に難溶性なる曹達硝子の製造法
〔内容〕硝子の焼純温度より以下の温度に於て加熱することを特徴とする水に難溶性なる曹達硝子の製造法

谷 口 米 吉
大阪市浪速區西關谷町
一丁目七七七

西 村 專 治
大阪市北區善源寺町
六丁目五五六

特許第九八七四〇號 黄金色光輝硝子の製造法

〔内容〕赤熱せる硝子面に特定の混合酸性溶液に還元劑を加へたるものを噴射することにより色彩光輝の發現を容易且つ充分ならしめんとする法。

田 端 耕 造
東京市澁谷區澁谷町
向山一〇三

江 上 健 助
同市淀橋區戸塚町
上戸塚七七一

特許第九六〇六六號 電氣絶縁用硝子

〔内容〕諸種の物質より成る硝子に於て酸化「アルカリ」中酸化加里の量が五乃至八五%たることを特長とする誘電體損失の小なる硝子。

中 里 正 夫
東京市向島區
吾嬬町三ノ一七

特許第一〇二二六〇號 硝子製細菌培養器の製法

〔内容〕圓形板硝子の周縁を加熱軟化せしめ之を内側に折り曲げ其加工中板硝子の中央部は遮熱押壓器により平面臺盤上に挾持し以て變形を生ぜしめざる事を特徴とする製法。

中 泉 行 正
東京市京橋區
銀座西五丁目一

岩 城 勝 美
東京市深川區
元加賀町一

厚 澤 銀 次 郎
東京府野方町
下沼袋五〇四

中 村 宇 吉
東京市神田區
通新石町七

特許第九四四八八號 硝子上に硝子を以て極めて細き線を描く方法

〔内容〕細管内に極めて細き硝子棒を挿入し之を僅かに露出せしめて任意の硝子面を加熱しつゝ如何なる細線をも容易且簡單に描かんとする方法。

村 上 義 雄
福岡市西新町八八九

特許第九五〇四三號 硝子器の表面に任意の模様を直接印着する方法

〔内容〕硝子器物の表面に粘着性「インキ」印刷を施す工程と該「インキ」と撒附粉劑との融合面に更に鍍物性粉末を撒附する工程との結合を以て適宜の色合ある模様を迅速強固に印着せしむる方法。

村 田 達 平
清水市入江受新田五六

特許第九五三九號 硝子纖維版製造法

〔内容〕硝子原料を多數の細孔を有する廻轉放出管内に導き遠心力によりて周方に放出せしめ之を周方に於

向 笠 榮 三
東京市品川區
北品川四ノ五三六

特許第一〇二五九六號 半透明電燈球製造方法の改良

〔内容〕酸化燃焼によりて發生せる微細なる粉末を燈球内壁に均等に沈澱被着せしめ照明効果均等なる電球の製法。

植 田 一
堺市七道字西町三〇
大日本セルロイド
株式會社内

特許第九四四六三號 耐光性合セ硝子製造法

〔内容〕硝化棉を「トリアセチン」等の液を用ひて硝子板の間に重ね合せ後加壓加熱して前記硝子板を貼着し以て耐光的強靱安全硝子を製造する方法。

上 山 正 英
京都市東山區東末吉町
東山線西入三四七

特許第九四〇四二號 耐熱硝子の改良

〔内容〕無水珪酸無水硼酸「アルミナ」酸化「アルカリ」酸化亜鉛等の組成により膨脹係數小にして強度の抵抗性を有する耐熱硝子の製造方法。

山 田 隆 之 助
東京市板橋區
板橋五ノ一〇六一

特許第一〇〇七五〇號 大理石模様を現出したる硝子板の製造方法

〔内容〕珪酸「アルカリ」水溶液に「アルミニウム」

粉及珪石粉末を混入して膠化したる泥状液に染料を以て好みの着色料としたる工程に關聯する特殊工程により熱酸等に耐ゆる硝子板の製造方法。

山口與平

東京市豊島區巢鴨町上駒込南染井九八五

中澤治男

愛知縣西春日井郡川中村大字福徳乙四八

武部俊正

東京市澁川區澁川町大字上中里二〇

特許第九五三四一號 綠色寶石樣石英製造方法

〔内容〕石英と「クローム」化合物との混合物を熔融して一旦之を冷却し再び加熱急冷せしめ極めて容易に草綠色の光澤ある熔融石英を製造する方法。

不破橋三

東京市大森區新井宿五ノ五八九

鈴木不二雄

東京市品川區大井伊藤町六〇九三

特許第一〇一八一七號 紫外線透過硝子の製法

〔内容〕普通硝子の配合原料中に弗化曹達及蔞酸「アソモニア」を添加熔融して得る製法。

不破橋三

東京市大森區入新井宿五ノ五八九

佐藤正文

同市同宿五九二

特許第九五四三二號 X線管球

〔内容〕酸化「アンチモン」を含有せしめたる硝子を用ひ腐蝕度に部分的差異を生せしめ以て従來得難き暈樣艶消を簡易に遂行し電球等の硝子球を得んとする法。

廣井祐理

大阪市南區高津四ノ七六

特許第一〇三八五二號 硝子腕環製造法

〔内容〕熔融硝子の特殊工作により模様を刻せる硝子を吹成し之を火熱上に於て轉子に捲き取り螺旋狀に巻曲したる後環に切斷し其兩端を一致せしむる如く加熱矯正する製法。

製の容器を備へX線の影響に依る硝子の黒變を防止し容器壁の清澄なる可良製品を得んとする方法。

小西庸三

大阪市南區日本橋筋五丁目五五

特許第九五六四一號 虹彩色硝子製造法

〔内容〕板状硝子或は球状等に吹成したる薄硝子を支持し一方を灼熱しつゝ他面鹽化重金屬の溶液を噴射燒着せしめ透明且錯雜せる光彩を表出し以て多數の製品に同一色彩模様を施す方法。

小西孝治

東京市京橋區京橋一ノ一

特許第一〇〇一七三號 飛行用眼鏡硝子

〔内容〕任意の硝子に「ゼラチン」其他の固着材を以て特殊に加熱したる「セルロイド」板を貼付し加熱壓着せしめたる飛行用眼鏡硝子。

近藤清治

東京市大森區田園調布三丁目一〇九

河島千壽

東京市目黒區綠ヶ丘二四八一 高橋重藏方

特許第九八七一七號 硝子製造法

〔内容〕電極を具ふる電爐を以て硝子を熔融するに當り酸化亜鉛を添加して硝子中の炭素を燃焼除去する事により着色防止及び蒸發する亞鉛を回收して廉價に優良硝子を得んとする法。

荒木賢治

大阪市此花區玉川町二丁目四〇

特許第九八一六五號 硝子板面接着方法

〔内容〕一定の縮合生成物を二板の硝子板間に粘着して薄層を構成せしむる工程と變質凝固して接合せしむる工程との結合により氣泡の不存且つ強固に硝子板を重合接合せしめんとする方法。

甘田美智雄

東京市荏原區碑谷町二七一八

特許第九六三〇二號 熔融石英製品の成形法

〔内容〕純粹となしたる石英材料の粉末に特殊熱處理を施すことによりて熔融し成形操作を容易ならしめ且光澤平滑の表面を有する製品を得んとする方法。

北口安吉

大阪市北區木幡町五四

特許第九八二二一號 裝飾玻璃板製造法

〔内容〕加熱せる半軟半硬の玻璃筒を粉末状色硝子の上に轉廻したる後加熱熔着し更に透明玻璃を一樣に熔着せしめて切斷展開し任意の色彩模様を現出する法。

坂倉幸利

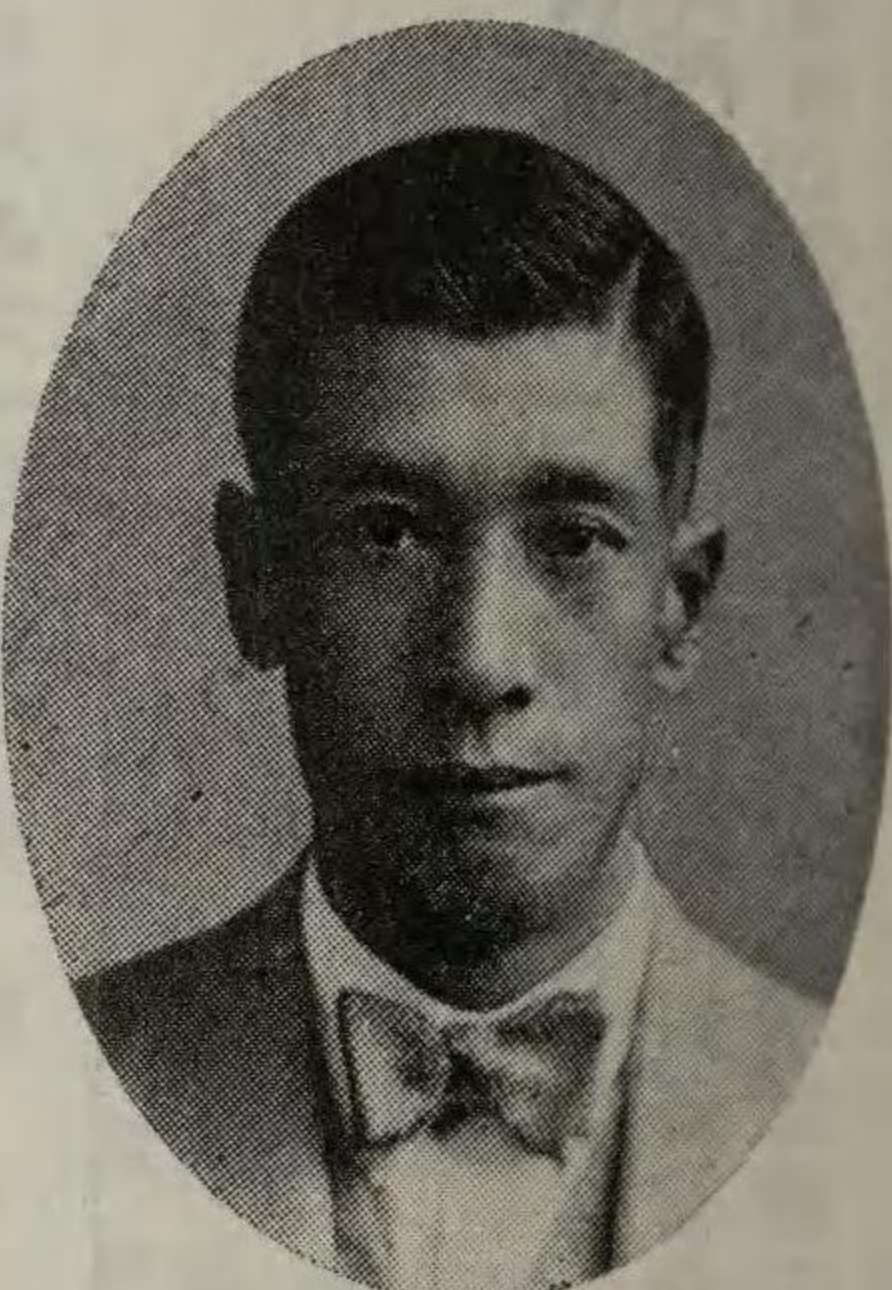
東京市澁谷區澁谷町向山六二

田中留作

同市目黒區目黒町三田九六 田中林藏方

特許第九五五一八號 電燈用絶縁硝子球製造法

〔内容〕加温を伴つて硝子に腐蝕作用を興ふる溶液を



株式會社 島田硝子製造所

島田一郎 大阪老江町三丁目三番地

特許第七八四六七號 硝子熔融窯

同第七八四六八號 硝子器燒鈍用連續窯

〔内容〕硝子熔融窯は加熱度の相違を容易に調整し得るものとして其構造簡易なるのみならず

業協會總裁伏見宮殿下より表彰せられ、同六年秩父宮同妃兩殿下台臨の光榮を辱ふせり。

大谷信助

東京市日本橋區本石町一丁目四ノ二

特許第一〇二二二八號 燒成したる珪礫引釀造用「タシク」の保護緩冷方法

〔内容〕金屬製「タシク」の面に珪礫液を吹付け燒附燒成を行ひたるものを特殊の吊鐘形耐熱性保護緩冷覆筒を以て覆冠し徐々に放熱せしむる方法。

特許第一〇一八七號 紫外線透過硝子の製法
 「内容」普通硝子の配合原料中に弗化曹達及蔞酸「ア
 シモニア」を添加熔融して得る製法。

不破 橘 三
 東京市大森區
 入新井宿五ノ五八九

佐藤 正文
 同市同宿 五九二

特許第九五四三號 X線管球
 「内容」酸化「アンチモン」を含有せしめたる硝子
 用ひ觸度部分の差異を生せしめ以て従來得難き掌
 様電消を簡易に遂行し電球等の硝子球を得んとする
 法。

廣井 祐理
 大阪市南區
 高津四ノ七六

特許第一〇三八五二號 硝子腕環製造法

「内容」熔融硝子の特殊工作により模様を刻せる硝子
 を吹成し之を火熱上に於て轉子に捲き取り螺旋狀に卷
 曲したる後環に切斷し其兩端を一致せしむる如く加熱
 矯正する製法。

森 常治 郎
 東京市小石川區
 表町 八二

**特許第九六一三二號 陶器用上繪具を硝子に焼付くる
 方法**

「内容」硝子面に陶器用上繪具に研砂を混入して模様
 を轉寫又は描き内外面に耐火粘土の壁を形成し硝子器
 等の形乃至繪具を破損剥落することなく良好に燒着す
 る方法。

千葉 千壽
 東京府南葛飾郡大島町
 六丁目 四三五

**特許第九七二〇三號 硝子器口仕上及「アンニール」
 グ」装置**

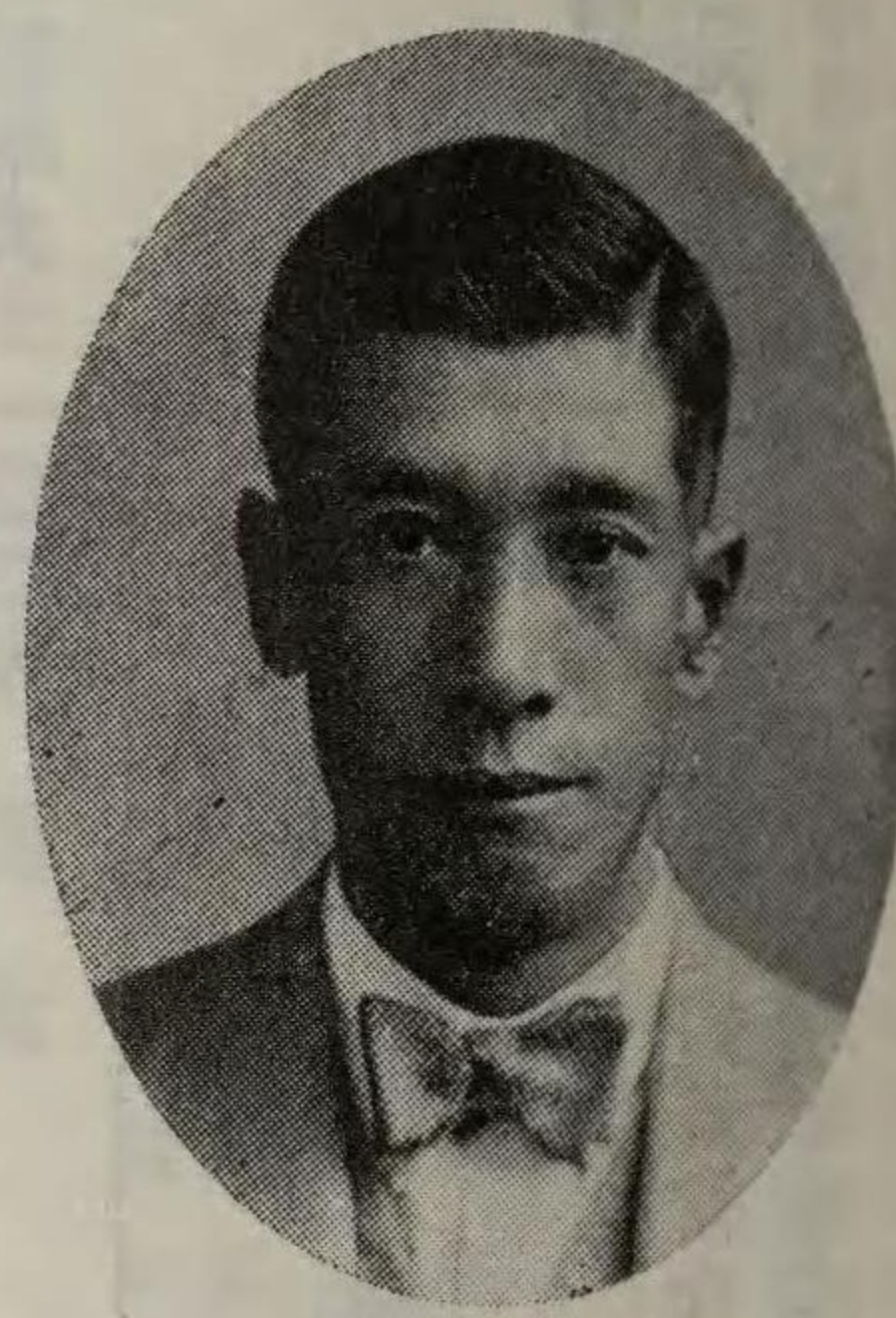
「内容」白熱部に小孔を穿設したる箱型爐と上方に設
 けたる彎曲孔及直孔を穿ちたる中蓋等を口狀壁體に覆
 ひ兩端に蓋を設け操作容易に燃料及人工費を節約し得
 べき装置。

近藤 清治
 東京市大森區
 田園調布三丁目一〇九

河島 千壽
 東京市目黒區綠ヶ丘
 二四八一 高橋重藏方

特許第九八七二七號 硝子製造法

「内容」電極を具ふる電爐を以て硝子を熔融するに當
 り酸化亜鉛を添加して硝子中の炭素を燃焼除去する事
 により着色防止及び蒸發する亞鉛を回收して廉價に優
 良硝子を得んとする法。



社會式株 所造製子硝田島
 郎 一 田 島
 區川淀西市阪大
 目丁三下江老海

**特許第七八四六七號 硝子熔融窯
 同 第七八四六八號 硝子器燒鈍用連續窯**

「内容」硝子熔融窯は加熱度の相違を容易に調
 整し得るものにして其構築頗る簡易なるのみな
 らず各作業口附近に於ける熔融硝子生地の流れ動
 性に不同なく作業便利にして製品の不齊なく且
 つ能率効果を有す、硝子器燒鈍用連續窯は硝子
 器の加熱を上下各部均等に保ちて全體齊一なる
 燒鈍をなし得べく廢品少く且つ燃料を有効に使
 用せしめて燒鈍作業を經濟的有利に爲さしむる
 効果を有す、故にコップ其他機械製品は冷熱に
 耐へ堅牢なり、又電燈用グローブ等は特殊の配
 合によりベラ硝子製にして光の透過率最も良
 く、カットガラスは歐米品に比し優秀なり。

〔略歴〕本社は明治二十一年島田孫市氏個人經
 營の下に本邦唯一の工業的硝子工場として創立
 せられたるものにして爾來粉骨碎身克く本邦硝
 子界をして先進歐米硝子界に伍して些の遜色な
 きまでに發達せしめ大正十四年株式會社となし
 て現在に至りしものなり。明治三十五年綠綬褒
 章を更に大正十四年同節版を下賜せらる侍從御
 差遣の光榮に浴すること三度、昭和四年日本産

坂倉 幸利
 東京市澁谷區
 澁谷町向山六二

田中 留作
 同市目黒區目黒町
 三田九六 田中林藏方

特許第九五五一八號 電燈用電消硝子球製造法
 「内容」加温を供つて硝子に電消作用を興ふる電消液を

業協會總裁伏見宮殿下より表彰せられ、同六年
 秩父宮同妃兩殿下台臨の光榮を辱ふせり。

大谷 信助
 東京市日本橋區
 本石町一丁目四ノ二

**特許第一〇二二二八號 燒成したる珪引釀造用「タ
 ンク」の保護緩冷方法**

「内容」金屬製「タンク」の面に珪液を吹付け燒附
 燒成を行ひたるものを特殊の吊鐘形耐熱性保護緩冷覆
 筒を以て覆冠し徐々に放熱せしむる方法。

谷 作 松
 横濱市中區井土ヶ谷町
 坊ノ後 八八四

**特許第一〇二〇五一號 アルミニウム面に堅牢なる着
 色模様を施す方法**

「内容」陶磁器用上繪具中硝子質及鉛質の分量を特殊
 加減して「アルミニウム」面上に模様を描寫し燒付く
 る方法。

山下 周造
 神戸市河原六四六

特許第九四五〇六號 均等硬質珪引「タンク」製造法

「内容」金屬製「タンク」に釉藥を噴射塗布して燒成し
 冷却せしめたる後再び加熱燒成し硬度各部均等にして
 光澤を保ち冷熱に耐へ得る大形の釀造用「タンク」を得
 る法。

田沼富藏

東京市中野區
中野町西町二九

特許第九六九四號 硝子「タイル」用粘土製吹型製造法

〔内容〕耐火粘土粉末に諸種の物質を混和したる後布海苔液を注加し文字型等を作りて乾燥加熱以て迅速に安價なる硝子「タイル」用粘土製吹型を得る法。

島田八郎

東京市大森區
山王一ノ二八六七

特許第一〇一四一九號 硝子熔融爐に於ける熔融硝子面の高さを管理する装置

〔内容〕爐内に於ける熔融硝子の標準面の上下に二個の電氣的回路を構成せしめ其の開閉作用により高さを管理する装置。

橋本潤躬

東京市豊島區
巢鴨六丁目一三二九

特許第一〇二二五二號 「クリンカー」冷却装置

〔内容〕「クリンカー」を急速に冷却し「セメント」の品質を向上せしむると共に廻轉胴の過熱損傷を防止する装置。

西雄一

東京市麴町區有樂町
一丁目一〇電氣化學工業株式會社内

特許第一〇一四六九號 混合「セメント」製造法

〔内容〕廢物たる石灰窯素分解殘滓を乾燥し之を「ポ

中村五郎

山口縣美祿郡伊佐町
大字伊佐四九四三

特許第九五三二八號 石灰石熔燒爐

〔内容〕爐體の中央部周圍にのみ孔を穿ち其外周に燃焼室を設けて火焰を噴出せしめ焚滓貯室を備へ以て燃料の節約と共に石灰石を均等に焙燒し迅速且純粹なる製品を得んとする法。

長瀬菊次郎

八戸市小中野町
字正部田二三

たる耐壓力及抗張力強大にして色合良好なる混合「セメント」製造法。

飯田光太郎

東京市本郷區
西片町一〇

豊原彰

同市牛込區
市谷甲良町二

特許第九四八三四號 消石灰製造法

〔内容〕濕度八〇以上飽和以下になしたる濕空氣を生石灰に作用せしめ自然風化に依るものと同等以上の優秀なる消石灰を迅速容易に製造する法。

石原辰治

大阪市港區八幡屋
雲井町一丁目二九八

田中英治郎

兵庫縣武庫郡鳴尾村
大字西畑はノ二

特許第九七五九二號 壁材料

〔内容〕生石灰を主要原料とし之れに軟珪石と微量の硫酸「マグネシウム」を混合粉碎することにより使用簡單且完全なる壁材料を経済的に得る方法。

渡邊勝二

堺市新町八七七

特許第一〇二九三七號 廻轉窯

〔内容〕冷却筒を燒成筒に固着結合し燒塊の保有する餘熱を燃焼に必要な空氣の预热に有効に利用すると共に燒塊の冷却を迅速ならしむる装置。

の水溶液を捏合し更に特定の物質を添加して「セメント」の凝固を急速ならしむると共に擴張力及び耐壓力を増加せんとする法。

小室萬五郎

福島縣石城郡
四倉町原田七〇

特許第九七二〇二號 漆喰

〔内容〕「セメントダスト」及石灰石粉とを配合するに より従來の漆喰に比し凝結時間早く且強度大なる漆喰を安價に得んとする法。

高井三郎

石川縣鹿島郡西湊村
津向卜部五三ノ一
七尾セメント株式會社
七尾工場内

特許第一〇一五三八號 「セメント」廻轉窯熱利用原料乾燥装置

〔内容〕泥漿中の水分の全部又は幾分を蒸發減少せる保熱原料を燒成することによりて單位時間内に於ける燒成量を増加すると同時に廻轉窯用燃料の節減をなす装置

中村龜松

石川縣河北郡小坂村
字法光寺二ノ一六

特許第一〇三二二五號 石灰窯素分解殘滓を原料とする白色工業用石灰の製造法

〔内容〕石灰窯素分解殘滓を利用して特殊の工程操作に依り之に含有する夾雜物を除き壁材及各種工業用に供し得べき白色の石灰粉末を製出する方法。

中城繁榮

東京市芝區
芝浦町三丁目一

池田清一

東京市野方町
新井六一四

特許第九八三二六號 壁材料製造法

〔内容〕「パルプ」等に耐火粘土の粉末及黃蜀葵の粉末を混練して粘土塊を作り乾燥細末後石灰を混合し以て平滑製成素乾燥固且無變質なる製品を得んとする法。

ドセメント」を製造する方法。

近藤清治

東京府荏原郡東調布町
大字下沼部一〇九

特許第一〇一六〇四號 クロムセメント

〔内容〕石灰質「セメント」の原料に少量の「クロム」化合物を添加したる強度極めて高き「セメント」

齋藤八郎

東京市品川區
大井塚町四九九二

〔内容〕「クリンカー」を急速に冷却し「セメント」の品質を向上せしむると共に廻轉筒の過熱損傷を防止する装置。

西雄一

東京市麩町區有樂町一丁目一〇電氣化學工業株式會社内

特許第一〇一四六九號 混合「セメント」製造法

〔内容〕廢物たる石灰質成分を乾燥し之を「ポ

〔内容〕生石灰を主要原料とし之れに軟砂石と微量の硫酸「マグネシウム」を混合粉碎することにより使用簡單且完全なる壁材料を經濟的に得る方法。

渡邊勝二

堺市新町八七七

特許第一〇二九三七號 廻轉窯

〔内容〕冷却筒を燒成筒に固着結合し燒塊の保有する餘熱を燃焼に必要な空氣の豫熱に有効に利用すると共に燒塊の冷却を迅速ならしむる装置。

中城繁榮

東京市芝區芝浦町三丁目一

池田清一

東京市野方町新井六一四

特許第九八三二六號 壁材料製造法

〔内容〕「パルプ」等に耐火粘土の粉末及黃蜀葵の粉末を混練して粘土塊を作り乾燥細末後石灰を混合し以て

中村五郎

山口縣美祿郡伊佐町大字伊佐四九四三

特許第九五三二八號 石灰石熔燒爐

〔内容〕爐體の中央部周圍にのみ孔を穿ち其外周に燃焼室を設けて火焰を噴出せしめ焚滓貯室を備へ以て燃料の節約と共に石灰石を均等に焙燒し迅速且純粹なる製品を得んとする法。

小室萬五郎

福島縣石城郡四倉町原田七〇

特許第九七二〇二號 漆喰

〔内容〕「セメントダスト」及石灰石粉とを配合するに より從來の漆喰に比し凝結時間早く且強度大なる漆喰を安價に得んとする法。

近藤清治

東京府荏原郡東調布町大字下沼部一〇九

特許第一〇一六〇四號 クロムセメント

〔内容〕石灰質「セメント」の原料に少量の「クロム」化合物を添加したる強度極めて高き「セメント」

齋藤八郎

東京市品川區大井塚町四九九二

特許第九八九四二號 廻轉式「セメント」燒成窯

〔内容〕「セメント」燒成作業中裏裝耐火煉瓦の相互間に起る關係的移動を防止し以て窯の耐久性を著しく大ならしめたる装置。

酒井温

兵庫縣武庫郡御影町那家上山田一〇九

特許第九四八九三號 自働冷却廻轉式燒成窯の改良

〔内容〕廻轉窯の内部に冷却筒を配設し之を連絡するに環狀室を設け外は冷却せらるべく内は耐火資料裏張りをして防止壁を設けたる耐久力大なる連絡装置にして窯の効率を向上せしむる改良。

溝口貞

福島縣石城郡四倉町字原田五

特許第九五五三號 「セメント」製造法

〔内容〕石灰石及粘土質物の煨燒工程と生石灰粘土質物及媒劑を原料調合物となす工程と之を加熱燒成する

長瀬菊次郎

八戸市小中野町字正部田二二三

特許第九九四七一號 セメント原料粉末調製方法の改良

〔内容〕乾式「セメント」製造方法に於て容易に極めて均等なる成分の原料粉末を調製し其燒成を容易ならしめて燃料の節約を計ると同時に高級品質の「セメント」を製造する方法。

山村義次

東京市目黒區中目黒町四丁目一四六四

特許第九七九一號 耐酸セメント

〔内容〕耐酸力大なる物質の粉末と炭素質粉末及び或種の單體物乃至耐酸不滲透性物質等より成り耐酸固結に富みたる不滲透性耐酸「セメント」を得る方法。

山田定雄

東京市澁谷區水川四八

特許第九四二〇八號 急硬防水「セメント」製造法

〔内容〕セメントに諸種の物質を混じ之に「ゴム」樹液

小室萬五郎

福島縣石城郡四倉町字原田

特許第一〇二七九七號 混合「セメント」製造法

〔内容〕可溶性珪酸を含有し液體を吸収する性質を有する物質に豫め鹽化石灰濃溶液を吸収せしめ之を「ポトランドセメント」に粉碎混合する製造法。

眞田義彰

同所

特許第一〇二七二五號 「ポトランドセメント」製造方法

〔内容〕片麻岩、花崗岩の如き未だ風化分解せざる岩石を熱分解して後石灰石と調合粉碎して原料調合物を造りそれを「セメント」燒成窯にて燒成し「ポトラン

工程との結合により燃料費の低減製造能率の増進乃至優良「セメント」を得んとする法。

阪口芳三郎

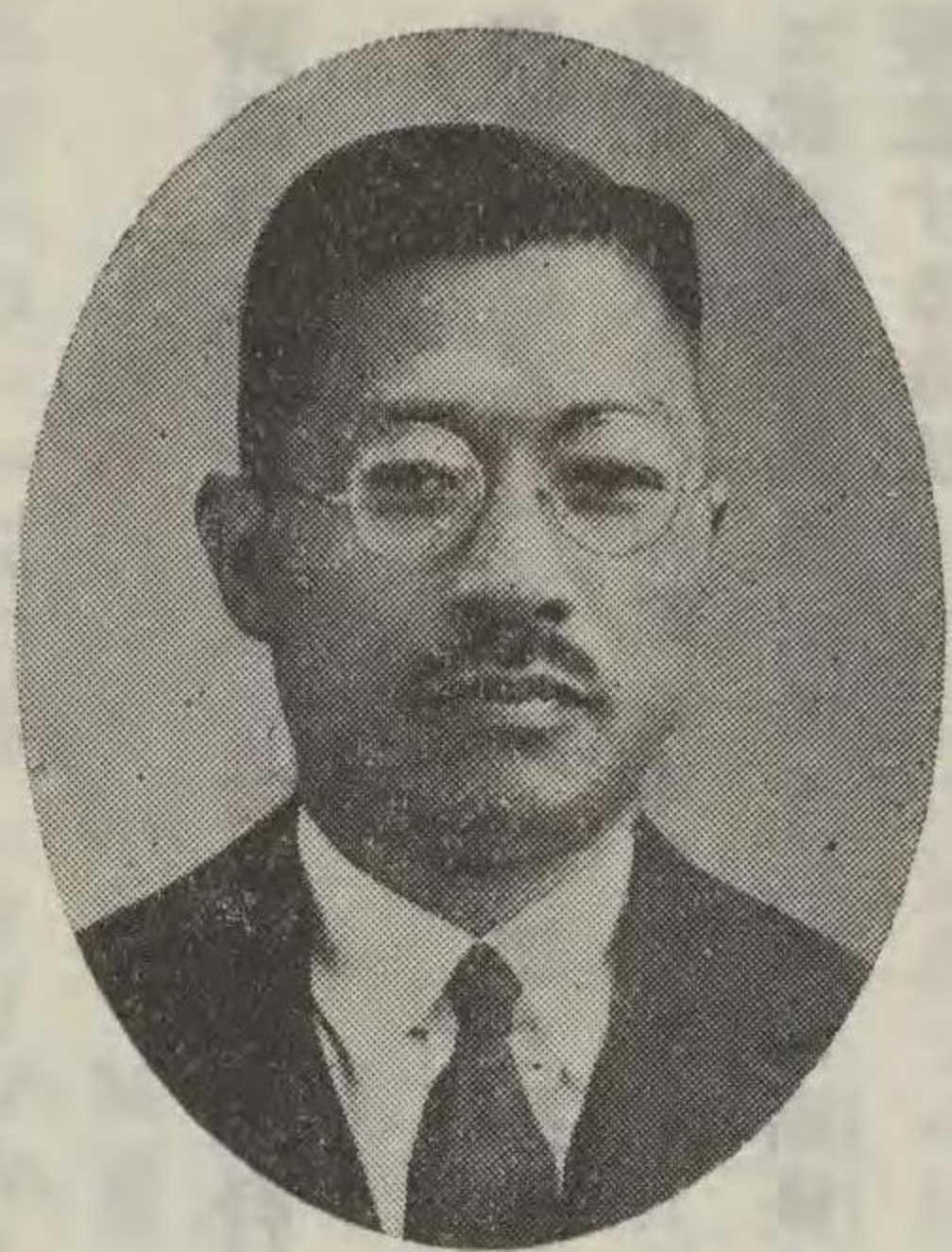
大阪市西區京町堀通
一丁目四〇

淺村貞治郎

大阪市東淀川區
本庄西通二丁目四

特許第一〇三三三〇號 石膏質「プラスチック」

〔内容〕壁用燒石膏粉を主體としこれに水銀白色の純蠟石粉、純石英粉等を混和したる硬化後龜裂を生じ難き石膏質「プラスチック」



岩元熊雄
大阪南區西區
大坂市西區
岩元熊雄
大阪南區西區
大坂市西區

特許第六〇二〇八號 岩元式ストンプロック

〔内容〕從來突付装置は種々不滿なる點多かりし爲め屢々雨漏りを生じ故に突付装置の施工は全く不安なるものとせられたるが、美を尙ぶ建物等にありては硝子板の重ね装置は重ね個所に塵埃が附着し其の觀甚だ見苦しきものあり、尙硝子の面積を有効に使用し亦勾配の少なき庇等には是非共突付装置を施さざる可からず、本突付装置は幾多の經驗と水の性質作用とを慎重に

考慮して從來の缺點を一掃し考案せられたるものにして、勾配に關せず施工して優美に硝子の取替容易にして雨漏り絶對になく既に諸所に施工して充分なる眞價を認められつゝあり、然して地震又は動力の震動に依り破損し移動する憂なく特殊填充物を以て硝子板を挟みあるが故に硝子の破損することなく、充填物は永久に取替ゆるの必要なく、又特殊種の装置に依り暴風雨の際雨漏り又は故障を生ずること絶對になく大量生産により廉價なる等の特徴を有す。

〔略歴〕氏は横濱市の人、大正四年東京高等工藝學校應用化學科卒業、横濱電線化學研究室伏見茂木亞鉛製煉所研究室等に勤務し、南滿工業大連本社に入社、大正九年辭して大阪耐火リノリューム工業合資會社を設立し、昭和七年個人經營となし現在に至る。工場三ヶ所を有し盛業を極め、ストンプロック、ベンチレーター等の發明考案を完成す。

森上浩行

神戸市灘區大石十五番

特許第二八五七九號 セメント防水劑

同 第六一九九八號 ウォータイト

同 第八二八五〇號 鋸屑セメントモルタル

〔内容〕製品モリノイト保温盤は主として防火保温建築材料にして松材の不用なる小材を以て中二分位の鋸屑を製し之を發明による獨特の方法に依りてセメントにて固結せしめたる板にし

地上に壓搾硬化せしむる符模様を有し龜裂を生ぜざる模造石材の製造法。

豊永幹雄

岐阜縣不破郡赤阪町
北ノ端三三二〇ノ一

特許第一〇二八二二號 「セメント」擬大理石の製造方法

〔内容〕硬化「セメント」の表面を研磨により大理石と酷似の光澤を有せしめ安價に且任意形状寸度色調の大理石代用品を製造する方法。

て任意の厚さに製造し得べく、木造家屋の内外部に張付け外部はセメント塗人造石塗を施工し室内は漆喰塗を施工する時は絶對に火焰に對して安全なり、コンクリート建物に對しては室内の壁、天井、床等に張付け其上を漆喰塗にて仕上げる時は室内の冷却を防止し其他種々なる箇所に使用して保温防火の特徴を發揮する事を得。

〔略歴〕氏は明治五年和歌山市の出身、苦學して土木建築學を修得し明治二十七年工手學校建築科を卒業後辰野工學博士の許にて航路標識に關する建築及土木術の實地見習をなす、次で臨時臺灣航路標識建設所に採用せられ鹿兒島縣下甌島燈臺の建築に従事す。爾後佐世保鎮守府建築科豊州鐵道建築掛、兵庫縣土木課建築係臺灣總督府建築係等を経て製鐵所二瀬出張所營繕課長となり明治四十一年病氣退職して現在に至る、氏は熱心なる應用化學の研究者なりし爲め本職の土木建築よりも寧ろ化學の研究に没頭し土木建築に最も需要多きセメントにつき種々研究をなすこと尠からず、就中セメントに防水性を與ふる事、セメントを急硬せしめて湧水防止並急速の工事を施工し得る事等其必要を感じ化學的研究を重ねつゝありしが偶々セメント防水劑の需要旺盛なるに鑑み之が發明に着手し日夜苦心研究の結果遂に本劑の發明を完成するに至りしものなり。セメント防水劑、急結防水劑、既設建物防水塗料、セメント瓦防水劑、ペイント剝離劑、コンクリートセメント・壁裝飾塗料等の特許製造をなし業界に活躍せられつゝあり。

その水分が下層コンクリート内に容易に吸収されると同時に遊離されたる純ビチユウメン粒子は破壊し、下層面全體を一樣に被覆して緊密に之と膠着するのみならず、該ビチユウメン膜は更に表層加熱式アスファルトとの間に同質融和の癒着を遂げて茲に一物一體の結合を完成するものなり、元來道路鋪裝の基礎床としては最も耐久なる硬練コンクリートを用ひ、表層には最も理想的且つ普遍的なる熱式アスファルト・モルタル又はアスファルト・コンクリートを用ひたるが此の兩層の結着點即ち必然的に剝離し

特許第六〇二〇八號 岩元式ストーン・ブロック

〔内容〕從來突付装置は種々不満なる點多かりし爲め屢々雨漏りを生じ故に突付装置の施工は全く不安なるものとせられたるが、美を尙ぶ建物等にありては硝子板の重ね装置は重ね個所に塵埃が附着し其の觀甚だ見苦しきものあり、尙硝子の面積を有効に使用し亦勾配の少なき庇等には是非共突付装置を施さざる可からず、本突付装置は幾多の経験と水の性質作用とを慎重に

岩 田 喜 通

此 島 竹 吉

東京市小石川區 林町五八

特許第九四七五〇號 人造石製造法

〔内容〕寒天膠等の温溶液を冷却凝固せしめて着色「セメント」にて被包し「セメントモルタル」と混捏塗装し凝固後或る溶液中にて煮沸し以て雅趣耐水性に富みたる建築材料を得んとする法。

服部 丈三郎

大阪市東成區 猪飼野二四九

特許第九九二九三號 「セメント」を主要成分とせる「スレート」又は管の塗層的加工法

〔内容〕「セメント」を主要成分とせる「スレート」又は管に瀝青質の固結性塗層を附着せしめて、製品に耐水性、耐酸性等を増進せしめ素地の耐久的保護を期する加工法。

西 川 寛

東京市蒲田區 萩中町九〇

根 本 義 治 郎

東京市蒲田區 新宿町二五二二

特許第一〇三三四七號 模造石材製造法

〔内容〕膠性粘土に「ポットランドセメント」石粉及鑛物性顔料を混じり稀薄なる稀鹽酸にて練成硬化後粉砕したるものを未だ凝固せざる「セメントモルタル」素

森 上 浩 行

神戸市灘區大石十五番

特許第二八五七九號 セメント防水劑

同 第六一九九八號 ウォータイト

同 第八二八五〇號 鋸屑セメントモルタル

〔内容〕製品モリノイト保温盤は主として防火保温建築材料にして松材の不用なる小材を以て巾二分位の鋸屑を製し之を發明による獨特の方法に依りてセメントにて固結せしめたる板にし

地上に壓搾硬化せしむる符模様を有し龜裂を生ぜざる模造石材の製造法。

豊 永 幹 雄

岐阜縣不破郡赤阪町 北ノ端三三〇ノ一

特許第一〇二八二二號 「セメント」凝大理石の製造方法

〔内容〕硬化「セメント」の表面を研磨により大理石と酷似の光澤を有せしめ安價に且任意形状寸度色調の大理石代用品を製造する方法。

株式 大 林 組

大阪市東區京橋三丁目 七十五番地

特許第七八九九八號 アスファルト噴射装置

同 第八〇六六五號 水中に沈澱せる微粒アスファルト製造法

同 第八四〇三一號 無音アンヴイル

同 第九一八九三號 ビチュウコン舗装法

〔内容〕ビチュウコン舗装法とはセメント混凝土床(下層)とアスファルト・モルタル層(表層)との中間にアスファルト乳劑の薄層を介在せしむる工法なり、而も頗る簡單なる操作に過ぎざる事が此の兩層膠着の上に不可思議なる偉力を發揮する事實は幾多の實驗によりて明らかに確認せられ、端なくも斯界の驚異的となるに至りしものなり、即ち硬練コンクリート床の水分の浸透乃至蒸發を待つて其の表面に撒布されたるアスファルト乳劑は直ちに分離作用を起し、

を與ふる事、セメントを急硬せしめて湧水防止並急速の工事を施工し得る事等其必要を感じ化學的研究を重ねつゝありしが偶々セメント防水劑の需要旺盛なるに鑑み之が發明に着手し日夜苦心研究の結果遂に本劑の發明を完成するに至りしものなり。セメント防水劑、急結防水劑、既設建物防水塗料、セメント瓦防水劑、ペイント剝離劑、コンクリートセメント・壁裝飾塗料等の特許製造をなし業界に活躍せられつゝあり。

その水分が下層コンクリート内に容易に吸収されると同時に遊離されたる純ビチュウメン粒子は破壊し、下層面全體を一樣に被覆して緊密に之と膠着するのみならず、該ビチュウメン膜は更に表層加熱式アスファルトとの間に同質融和の癒着を遂げて茲に一物一體の結合を完成するものなり、元來道路舗装の基礎床としては最も耐久的なる硬練コンクリートを用ひ、表層には最も理想的且つ普遍的なる熱式アスファルト・モルタル又はアスファルト・コンクリートを用ひたるが此の兩層の結着點即ち必然的に剝離し易き此の兩層間の膠着を完全ならしむるの必要を感じ其結果として本舗装法の發明を完成せられたるものにして、完全に膠着せる上下兩層を持つ本舗装法に於ては當然表層の厚みとしては只單に路面交通の多寡に伴ふ自然磨損の程度に應ずるを以て足り敢てそれ以上に基礎床との剝離等を懸念し餘分の厚みを加ふる必要無く、寧ろ表層の薄きによつて本工法の特長をより多く發揮するものなり、施工簡明にして堅實且つ迅速なり、工法は合理的にして經濟的、而もその効果は最も耐久的なり。

大 塚 藤 助

尼崎市東灘波六五八

特許第九五〇五六號 配電盤用人造石製造法

〔内容〕「セメント」に諸種の物質を混捏硬化せしめたる後更に特定の混捏物を擦込み一定の溶液中にて硬化せしめ以て電氣絶縁性に富み且優美なる配電盤基板を經濟的に得んとする法。

しむるにより製作の簡易精細なる模様を現出及び外觀異なる事なき金屬板を得んとする方法。

塚越梅之進

東京市中野區
中野町一〇二〇

特許第九五三二九號 「セメント」又は漆喰凝固品着色防水法
〔内容〕噴霧器内に通じて霧状となせる二種溶液の混在霧滴に「セメント」或は石灰等を混着剤とし経済的に長大なる防水性を附與し着色せんとする法。

〔内容〕特殊の方法に依り原圖案と正確に合致する意匠を有する精巧なる「モザイクタイル」を簡易迅速に製造する方法。

船越重男

茨城縣多賀郡日立町
大字宮田三四五三

特許第一〇〇一八六號 人造石
〔内容〕鐵、珪酸を含有し石灰、苦土、礬土等より成る人工無機質燒成生成物を適當の大きさに碎き之を洋

特許第九七〇八號 鋪裝材料
〔内容〕樹脂性塗布剤にて被包したる鋼鐵粉を「ポルトランドセメント」に混和して酸化を防止し且つ耐摩性を増大せしめんとする方法。

鈴木熊太郎

津市北濱町八一七

特許第一〇〇一四六號 人造石製造方法
〔内容〕「モルタル」、「コンクリート」等より成る素地

體上に「ポルトランドセメント」と硫酸「ナトリウム」等の水溶液を練捏したるものを塗着凝固せしめ堅緻にして防水性を有し諸種の化學的藥品に抵抗性ある人造石を製造する方法。

石田了三

神戸市八幡
字備後堂二一九

特許第九四九〇九號 セメント防水劑製造方法

〔内容〕「ツンドラ」を粉末状となす工程とその粉末に植物性油脂を吸収せしめて水性液を得る工程との結合により防水性強大製造工程の簡易及び効果優秀なる防水劑を得んとする方法。

關城化學工業株式會社

大阪市西區京町堀
上通一丁目十四番地

特許第六六三九九號 ロータス

同 第六九〇九六號 耐寒ロータス

同 第七一三〇四號 クキツクロータス

〔内容〕「ロータス」は遊離「アルカリ」を含有する石鹼と珪酸曹達との混溶液に脂肪酸石灰及珪酸石灰を化合する量より過剰の生石灰を混和することを特徴とする製造法により前記石灰鹽の外種々の中間生成物を生成せしめ、且つ生石灰の消化の際生ずる化合熱を利用して製したる防水性大にして而かも「セメント」の硬化作用を阻害することなき乾燥細粉狀「セメント」防水劑なり。

黒川健二

黒川化學工業所
大阪市北區東梅田町
二十八番地

特許第七八一二號 「セメント」防水劑

〔内容〕本品は「特許ニツポンセメント防水劑」と稱し押へ混凝土の代價にて完全に防水工事をなし得られ、「セメント」の合理的硬化促進に依り工事期間の短縮と工費の節約となし「セメント」の強力増加の爲め建築の大さと自重の軽減をなし得、冬期工事に適し収縮龜裂防止と耐電熱耐アルカリなること又伸縮率極めて少なき故新舊建増工事に不安なく白色セメント、カセイン、色モルタル等の防水に最適、水壓に抗して施工し得。

市川良正

東京府豊多摩郡野方町
下沼袋一六〇〇

牧親彦

東京府荏原郡駒澤町
上馬六五九

特許第九六三三三號 不凍性瀝青乳劑製造法

〔内容〕熔融したる瀝青物質に硫酸化「アルカリ」等及び諸種の乳化劑を混じて乳化せしめ以て無凍結且均質に乳狀を呈する鋪裝用乳劑を得んとする法。

特許第一〇二四九六號 「セメント」防水劑

〔内容〕可溶性珪酸及珪酸鐵を含有する岩石の細末に燒明礬及石膏を混合密和せしめたる「セメント・モルタル」又は「セメント・コンクリート」に強大なる防水性と強度を附與し凝固を阻害せず龜裂を生ぜしむる憂なき防水劑。

木原當次郎

東京市日本橋區
北島町一丁目二三

渡邊鶴吉

東京市本郷區
駒林町一

中村喜一

金澤市彦三八番丁
八番地

特許第九六九五三號 「セメント」増強劑製造法

〔内容〕膠狀石灰物質に酸性自土を加へ更に鹽化「カ

石川 岩 雄

福岡市西濠町二五

特許第一〇二四〇一號 含水瀝青乳劑製造並に其使用法

〔内容〕石鹼及磷酸曹達を「サポニン」質物の稀薄水溶液に分散せしめたる乳化劑及熔融したる「アスファルト」を攪拌混合することにより現場に於て含水瀝青質乳劑を製造し之を保温の儘直ちに鋪裝面に撒布使用する法。

磯部 甫

東京市淀橋區
下落合二丁目六〇四

特許第一〇二四六九號 粉末「ピッチ」を使用する事による「アスファルト」鋪道施工法

〔内容〕道路基礎面上に「コールタール」系の油又は石油系の油を塗布浸透せしめ次に該油層上に「コールタール」系の油を使用したものには石炭系の「ピッチ」粉末を後者には石油系の「ピッチ」粉末を粘土陶土等の微粉末と共に鋪裝する方法。

井上 權 市

久留米市東町三三三

特許第九九二一七號 木質「ピッチ」鋪道材の製造方法

〔内容〕鋸屑を加熱せる石炭「タール」に添加混合し之を砂粘土の如き珪酸質無機物及少量の硫黄と共に石炭「ピッチ」により粘結せしめて鋪道材を製造する方法。

伊澤 長 次郎

横濱市 中區
山下町一八七

特許第九七一八六號 路面撒布瀝透油

〔内容〕熱油に「コールタール」を加へて加熱したる後該室に倒載せし樽詰「アスファルト」を加熱筒に接着せしむることに依り樽詰「アスファルト」を其儘連續且迅速に乳化せしめんとする装置。

山本 卯 太郎

大阪市此花區
春日出町一五一

奈良 原 輝 雄

同所

特許第一〇〇五四九號 「コールタール」使用鋪裝工法

〔内容〕「コールタール」と碎石又は礫塊との混合物に「アスファルト」を含有する粉末又は細粒を混入し冷却

更に稀薄「アルカリ」液を加へて攪拌乳化せしめ以て路面の保護泥濘絶滅及び低廉なる浸透油を得んとする方
法。

橋本 繁 造

東京市荏原區
戸越町六四五

特許第一〇一六四二號 防水「タイル」製造法

〔内容〕瀝青液に生石灰液を添加し得たる乳狀瀝青に礦物性粉末を添加混和したる泥狀瀝青質「モルタル」を敷置し其表層には顔料を添加展置し強壓にて形成したる防水性弾力性並耐磨滅力大なる「タイル」の製法。

大山 剛 吉

東京市麻布區斧町二八

特許第九八二一四號 道路鋪裝材料

〔内容〕硫化鐵の燒滓に瀝青質物を加熱混和して經濟的に耐壓強靱に富みたる鋪裝材料を得んとする方
法。

小野 寺 巳 佐治

東京府南葛飾郡大島町
三丁目三四六

特許第一〇〇一八〇號 「アスファルト」乳劑製造法

〔内容〕貯藏するも分別することなく耐水性及び凝着力に富み耐圧力強く氣温の變化に影響を受けざる鋪裝面を構成すべき瀝青質乳劑の製造。

小野 寺 の ぶ

東京市向島區大島町
三丁目三四六

特許第九六五九〇號 「アスファルト」乳劑製造方法

〔内容〕「タンニン」酸の水溶液に或る物質を加へて加熱溶解したる後樽詰「アスファルト」と共に「コロイ
ド」を得んとする法。

佐久 間 榮 吉

東京市足立區
千住東町九三

和田 俊 之

東京市杉並區
上萩窪町四八五

特許第一〇一〇五六號 脆弱なる低熔點瀝青質物處
理法

〔内容〕特殊の方法に依り熔點を上昇せしめ引火點との接近を防ぎ硬度を緩和して軟化せしめ且つ弾性を附與する處理方法。

下、ミル」に導き以て乳化安定且硬化迅速なる優良乳劑を得んとする法。

和田 俊 之

東京府豊多摩郡井荻町
上萩窪四八五

特許第九八二〇七號 含水瀝青乳劑製造法

〔内容〕原料瀝青質物に、硫酸礬土を主成分とせる細末土類等に普通の乳化劑を混合吸着せしめたる乳化劑を使用し以て安定且濃厚なる瀝青乳劑を容易且廉價に得んとする法。

吉川 定 市

大阪市東區
鶴野町三二二

特許第九六五〇八號 板張鋪床方法

〔内容〕凝固せる混泥土等に護膜等を熔融して下塗層を構成せしめ其の未凝固の間に木板「プロック」を貼着密着し以て強固にして緩衝性の板張床を容易且迅速に施工せんとする法。

松浦 彦 三

横濱市磯子區磯子町
字 濱 三四八

特許第九四七三二號 瀝青乳劑製造法

〔内容〕「アルカリ」稀釋溶液に桎科植物の「エキス」及少量の鐵鹽を加へ攪拌加熱し次に或る溶液に熔融瀝青物質を投入し以て安定度大にして粘度含有の瀝青乳劑を簡易に製せんとする法。

松浦 治 郎

横濱市磯子區磯子町
間 一六七〇

特許第九五三七〇號 瀝青乳劑製造装置

〔略歴〕本發明は日本石油株式會社の分身たる日本鋪道株式會社研究室に於て多年研究の結果發明せられたるものにして、本店は之が關西に於ける一手販賣權を有するものなり。

特許第九九二一七號 木質ビッチ鋪道材の製造方法
 「内容」鋸屑を加熱せる石炭「タール」に添加混合し之を砂粘土の如き珪酸質無機物及少量の硫黄と共に石炭「ピッチ」により粘結せしめて鋪道材を製造する方法。

伊澤長次郎
 横濱市中區山下町一八七

特許第九七一八六號 路面撒布透過油
 「内容」煤油に「コールタール」を加へて加熱したる後

該室に倒載せし樽詰「アスファルト」を加熱筒に接着せしむることに依り樽詰「アスファルト」を其儘連續且迅速に乳化せしめんとする装置。

山本卯太郎
 大阪市此花區春日出町一五一
 奈良原輝雄
 同所

特許第一〇〇五四九號 「コールタール」使用鋪裝工法
 「内容」「コールタール」と碎石又は礫塊との混合物に「アスファルト」を含有する粉末又は細粒を混入し冷却せる此等混合物を其儘使用し然も堅固なる鋪裝をなし得る特殊鋪裝工法。

細野芳彦
 東京豊多摩郡野方町下沼袋一六〇〇
 市川良正
 東京豊多摩郡野方町下沼袋一六〇〇

特許第九四八二四號 貼着用瀝青混和物の製造方法
 「内容」石油「アスファルト」に人工空氣處理を施したる原料を使用し「タール」酸等を熔融混和することに依り強靱且不變質の「アスファルト」、コムパウンド」を得んとする法。

小谷一郎
 東京市目黒區目黒町大字中目黒二四二

特許第九四九九四號 着色「アスファルト」鋪床又は鋪道製造法
 「内容」石油「ピッチ」等に「ロジン」を熔融し之に諸種の物質を加熱混攪したる資料を「コンクリート」面に塗着し以て磨滅龜裂する事なく美感を有する鋪床

特許第一〇〇一八〇號 「アスファルト」乳劑製造法
 「内容」貯藏するも分別することなく耐水性及び凝着力に富み耐圧力強く氣温の變化に影響を受けざる鋪裝面を構成すべき瀝青質乳劑の製造。

小野寺のぶ
 東京市向島區大島町三丁目三四六

特許第九六五九〇號 「アスファルト」乳劑製造方法
 「内容」「タンニン」酸の水溶液に或る物質を加へて加熱溶解したる後熔融「アスファルト」と共に「コロイ

を得んとする法。

佐久間榮吉
 東京市足立區千住東町九三
 和田俊之
 東京市杉並區上萩窪町四八五

特許第一〇一〇五六號 脆弱なる低熔融點瀝青質物處理工法
 「内容」特殊の方法に依り熔融點を上昇せしめ引火點との接近を防ぎ硬度を緩和して軟化せしめ且つ弾性を附與する處理方法。

榎商店
 大阪市西區江戸堀南通一丁目（江戸ビル内）

特許第九四八二四號 貼着用瀝青混和物製造法
 「内容」本發明は特許第八四六五號を更に改良擴張せる追加發明にして、其主成分たる石油「アスファルト」を特に人工的空氣處理を施したる所謂「プロロン、アスファルト」を使用し、是れに「オレイン」酸「タール」酸又は「タール」酸を相當量含有する油又は是等の混合物を加へ熔融混和することを特徴とし貼着用として有益なる瀝青混和物を製造し得るものなり、本品E.C.コンパウドの特徴及性状は「プロロンアスファルト」中に含まる「アスファルテン」の利用を充分ならしむると同時に粘着性を増大ならしめ、「ウォーカビリティ」の可良なること即ち作業容易にして一定温度内に於て表面張

特許第九四七三三號 瀝青乳劑製造法
 「内容」「アルカリ」稀釋溶液に櫻科植物の「エキス」及少量の鐵鹽を加へ攪拌加熱し次に或る溶液に熔融瀝青物質を投入し以て安定度大にして粘度含有の瀝青乳劑を簡易に製せんとする法。

松浦治郎
 横濱市磯子區磯子町間一六七〇

特許第九五三七〇號 瀝青乳劑製造法
 「内容」攪拌室を有する外筒の内部に溶解室を形成し

力を極度に減じ表面に均一に密着塗裝することを得、弾性に富み熱の感受性小なるが故に嚴寒酷暑に對し龜裂を生じ又は流動することなく「アスファルト」の老化を極度に防止するの效果あり。

〔略歴〕本發明は日本石油株式會社の分身たる日本鋪道株式會社研究室に於て多年研究の結果發明せられたるものにして、本店は之が關西に於ける一手販賣權を有するものなり。

水田政吉
 東京市麹町區丸ノ内三丁目四

西川亮一
 秋田縣南秋田郡土崎港町大字相築新田字大濱二〇 日本石油株式會社秋田製油所内

特許第一〇三七五一號 觸媒法による「プロロンアスファルト」の製造法
 「内容」鐵、銅、亜鉛及錫等の金屬の酸性鹽化物類、酸性硫酸鹽類の混合物又は夫等の錯鹽の少量を石油より分別せる重油若くは「コールタール」に加へて加熱の下に空氣吹込を行ふ製造法。

鹽田健壽
 東京府北豐島郡岩淵町稻付柳田四〇三

特許第九七〇四七號 道路又は壁等の鋪裝材料
 「内容」石灰窒素を處理して生せる「ブロー」滓を乾燥し之に石油「ピッチ」等を混合することに依り廉價にして龜裂の防止等優良なる鋪裝材料を得んとする法。

重宗亮一

東京市品川区東大崎
三丁目二四一

特許第一〇三七四九號 瀝青乳劑製造法

〔内容〕乳化劑液として「ムクロン」と稱する植物の果皮を「アルカリ」溶液中に煮沸して製造せる煎汁液を乳化劑となす瀝青乳劑の製造法。

平井正夫

横濱市鶴見區
市場町四八六

藤田政輔

東京市赤坂區
丹後町七七

特許第九四三五一號 含水瀝青質乳劑製造法

〔内容〕熔融せる瀝青質に乳化劑を加へ之に弱「アルカリ」性水溶液を混合攪拌する事により少量の乳化劑にて安定且つ濃厚なる含水瀝青質乳劑を製造せんとする法。

森 豊吉

東京市杉並區
阿佐ヶ谷町五丁目三

市川良正

東京市中西野區
沼袋南一丁目一六〇〇

特許第一〇二五二二號 「アスファルト」混凝土混合物の製造方法

〔内容〕冷骨材及熔融「アスファルト」を混淆しつつ高熱火焔と瞬間的に反覆接觸せしむる事に依り「アスファルト」の本質を破壊する事なく冷骨材の表面に之を膜状被覆せしむる製造方法。

門倉三能

東京市板橋區
中村町三丁目六七〇

特許第一〇四〇一五號 「コンクリート」モルタル等よりなる建造物の破壊方法

〔内容〕建造物の表面に水を撒布浸潤せしめたる後直ちに高熱を以て加熱し之を反覆して破壊する方法。

吉村三木太郎

叔井万助

神戸市須磨區
行幸町二丁目九七

特許第一〇一七七四號 「アスファルト」鋪裝方法

〔内容〕熔融「アスファルト」に粉末状「マグネシヤセメント」を混和するを特徴とする酷寒酷暑の作用を受けず適度の弾性を有し耐久性に富む特殊の優秀鋪裝方法。

關根泰二郎

東京府荏原郡
碑倉町字倉八七

山口康衛

東京府南葛飾郡砂町
八右衛門五二三

特許第九四二四八號 「アスファルトパイプ」の製法

〔内容〕諸種の纖維を混合して製したる紙、布を特殊の溶液にて滲劑せしめ乾燥する工程と之に或る混合熔融物を塗布芯形に捲取る工程との組合せにより耐壓耐酸且防水性に富ましめんとする製法。

淺野貞治郎

大阪市東淀川區
本庄西通二丁目四

淺野誠二

大阪市西成區
新開通一丁目二三

特許第一〇二〇四二號 土壤の處理法

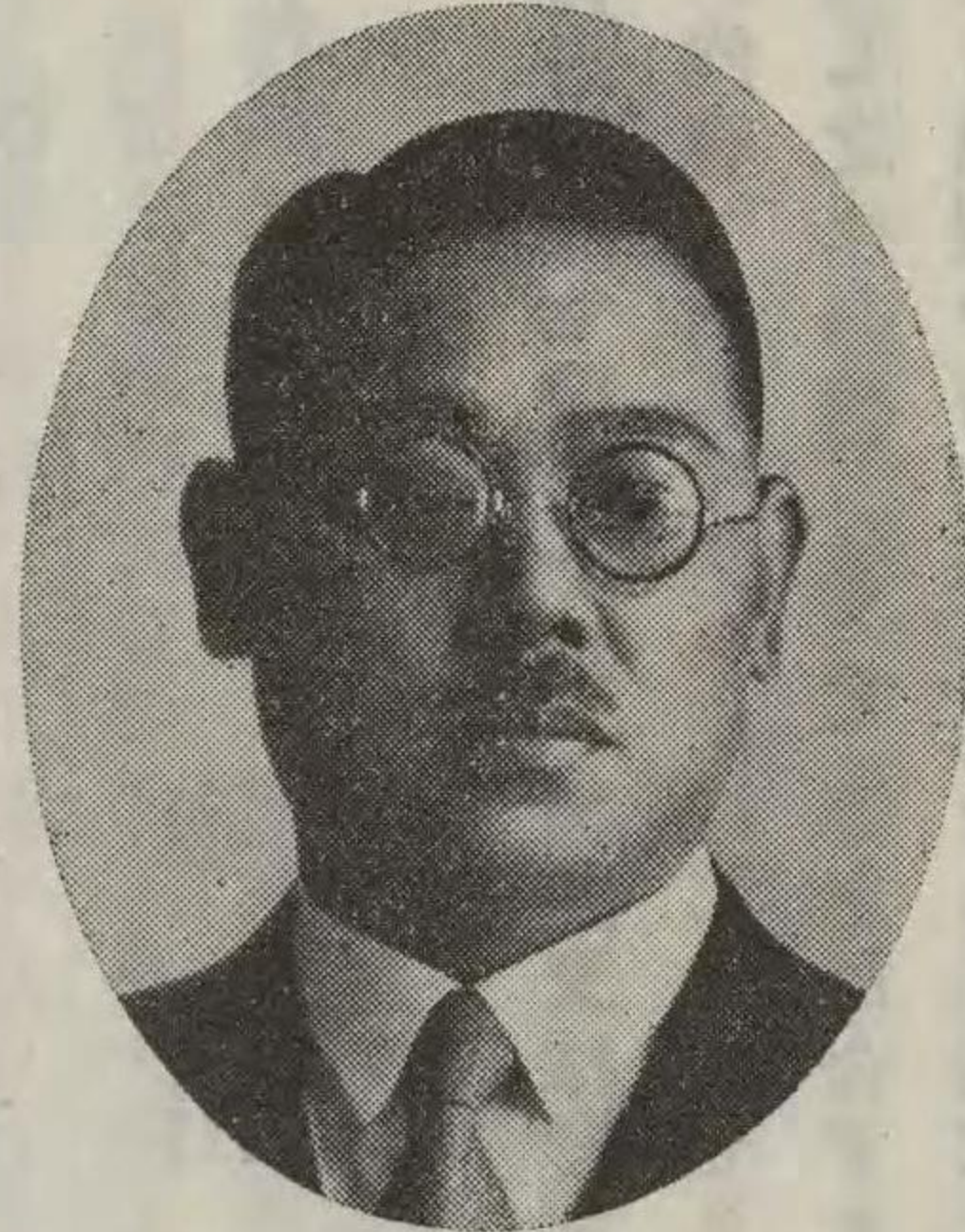
〔内容〕土壤の化學的作用に依り壓搾による硬化を可能ならしめ之を鋪裝用其他に使用し形成體の原料に供し得べからしめたる處理法。
加へ加熱溶解したる後靜置法等に依りて油層を別ち之を鹽類にて處理し以て簡易且つ經濟的に純良なる含油分を抽出せんとする法。

牧實

熊本縣飽託郡
川尻町四〇八

特許第九九〇六四號 油脂連續抽出裝置

〔内容〕罐内壓力の増進を自働的に調節せしめ各罐に對する溶劑の流動を終始圓滑に行はしめ原料に對し溶劑の浸透作用を均等ならしめ以て大量の原料に於ける



須川榮一

須川榮一
大阪南區西三丁目
新區西三丁目

特許第七三三五七號 硬質石棉盤の製造方法

〔内容〕本發明は強靱にして弾性に富み木材と同様に鋸切り其の他の加工を容易に施し得べき石棉盤を簡單に得らるゝものなり。
從來セメントに石棉を混じ之を成型して耐火性の盤状態を成型せしむることは公知に屬すれども斯る成型物は質粗雜にして弾性に乏しきが故に其用途は一部に限られ木材の如く之を加工して諸種の用途に應用することは至難とせらるゝ所なり、本發明は斯る石棉盤に前記の如く加工し得せしめ以て之を諸種の建築材料其他に廣く應用し得べからしめたるものにして、製品は前記する如く其質極めて強靱にして特に弾性に富みて加工容易なるに依り從來木板を用ひたる總ての部分に於て木板と同様に應用することを得るのみならず、火熱、水分、藥品等に侵されざるを以て木材に比して安全に使用せられ、且つ耐久性に富むの顯著なる特徴あり、又製品は電氣の絶縁材料として極めて有効に利用せられ電氣絶縁性を要する器具の製造等に有利に使用することを得。

〔略歴〕氏は永年石棉製品の製造販賣業を經營

布村繁造

東京市小石川區
竹早町一〇

特許第一〇〇〇九一號 油脂の脱臭法

〔内容〕生姜根或は大根の搗碎きたるものを油脂に加へ能く混和したる後之に過酸化水素水を加へ攪拌しつつ酸素の發散作用の終息するを俟て之を濾過し以て無臭無味なる油脂を得る脱臭法。

渡邊榮太郎

東京市中西野區
昭和通二丁目五

市

東京市杉並區
阿佐ヶ谷町五丁目三

川 良 正

東京市中野區
沼袋南一丁目一六〇〇

特許第一〇二五二二號 「アスファルト」混泥土混合物の製造方法

〔内容〕冷骨材及熔融「アスファルト」を混合しつつ高熱火焰と瞬間的に反覆接觸せしむる事に依り「アスファルト」の本質を破壊する事なく冷骨材の表面に之を展開被覆せしむる製造方法。

門 倉 三 能

東京市板橋區
中村町三丁目六七〇

特許第二〇四〇一五號 「コンクリート」「モルタル」等よりなる建造物の破壊方法

〔内容〕建造物の表面に水を撒布浸潤せしめたる後直ちに高熱を以て加熱し之を反覆して破壊する方法。

吉村 三木 太郎

東京市本郷區
駒込西片町一〇

特許第九六〇〇二號 「コルク」を原料とする壁材製造法

〔内容〕「コルク」層を破碎して輕質の土粉等を加へ且つ一定の温度に加熱したる後土粉を篩除し粘着材を加へ以て手觸り柔軟良好なる壁材を得んとする法。

多々良 省 三

東京市赤坂區青山南町
六丁目一六

特許第一〇三二九八號 「セメント」應用品に内用する植物纖維材の處理法

〔内容〕植物纖維材を特殊化學作用により防腐防蟲性及「セメント」との親和性を良好ならしむる方法。

河合 龜 太郎

東京市中野區中野町
上ノ原八一二

特許第九五七五九號 肝臟油製造法

〔内容〕動物の肝臟等に稀薄なる「アルカリ」溶液を

淺野 貞治郎

大阪市東淀川區
本庄西通二丁目四

淺野 誠 二

大阪市西成區
新開通一丁目二三

特許第一〇二〇四二號 土壤の處理法

〔内容〕土壤の化學的作用に依り壓搾による硬化を可能ならしめ之を鋪裝用其他に使用し形成體の原料に供し得べからしめたる處理法。

加へ加熱溶解したる後靜置法等に依りて油層を別ち之を鹽類にて處理し以て簡易且つ經濟的に純良なる含油分を抽出せんとする法。

牧 實

熊本縣飽託郡
川尻町四〇八

特許第九九〇六四號 油脂連續抽出裝置

〔内容〕罐内壓力の増進を自働的に調節せしめ各罐に對する溶劑の流動を終始圓滑に行はしめ原料に對し溶劑の浸透作用を均等ならしめ以て大量の原料に於ける油脂の抽出を迅速完全ならしめたる裝置。

藤 堂 良 讓

埼玉縣北足立郡浦和町
鹿島臺一九三〇

特許第九七〇二三號 廢白土或は廢觸媒に於ける如く吸着又は附着せる油分の回收法

〔内容〕廢棄含油物質に苛性「アルカリ」等を添加して加熱攪拌し遊離脂肪酸を乳化して油分を分離し以て容易且經濟的に良質の油分を中油性に回收せんとする法。

倉 橋 三 平

東京市荒川區
日暮里渡邊町一〇三五

特許第九九六六七號 油脂の精製に使用したる酸性白土より油分の回收法

〔内容〕浸透乳化劑の作用によりて油廢土より容易に油分を分離する油分の回收法。

布 村 繁 造

東京市小石川區
竹早町一〇

特許第一〇〇〇九一號 油脂の脱臭法

〔内容〕生姜根或は大根の搗碎きたるものを油脂に加へ能く混和したる後之に過酸化水素水を加へ攪拌しつつ酸素の發散作用の終息するを俟て之を濾過し以て無臭無味なる油脂を得る脱臭法。

渡 邊 榮 太郎

東京市中野區
昭和通二丁目五

特許第九八六一四號 減摩用「カストル」廢油再生法

〔内容〕「カストル」廢油に無作用瓦斯を通じつゝ加熱處理し更に硫酸及鹽酸を加へ脂肪酸等を除去したる後酸性白土等にて處理し以て優良なる油を經濟的に回收せんとする法。

笠 井 大 作

東京市本所區
向島二丁目三

特許第一〇三三八四號 醬油油精製法

〔内容〕醬油油に過熱水蒸氣を流通せしめて蒸溜を行ひ主要成分を溜出せしむる醬油油精製法。

片 桐 英 郎

京都市左京區北白川町
京都帝國大學農學部内

特許第一〇一八四六號 蛹油の脱臭方法

〔内容〕蛹油に「レシチン」等の如き類脂體を添加した

る後脂肪屬「アルコール」類にて浸出し悪臭を抽出除去せしむる蝸油の脱臭方法。

片倉勝衛

長野縣諏訪郡川岸村三七〇

特許第一〇一四八七號 「サナギ」油の簡單なる脱臭並に精製法

〔内容〕「サナギ」油に對する特殊簡單なる方法により生臭及び遊離脂肪酸を除き食用に適する油を製造する精製法。

田町慶二

函館市高盛町四二

特許第一〇一四三三號 魚油の脱臭精製法

〔内容〕魚油を真空中に於て高温に加熱し魚油の悪臭を揮發し易き中間分解生成物に分解し高度の不飽和脂肪を重合變性せしめ之を綿布「パルプ」砂等に吸収浸潤せしめて温氣流中にて油脂を變化せしめ揮發性生成物を排除する精製法。

清水善輔

滋賀縣高島郡新儀村大字安井川九九

特許第九七四一〇號 粗製魚油又は肝油の脱臭精製法

〔内容〕肝油等に布海苔溶液及び芳香性果汁を添加して臭源體を布海苔液中に移行せしむる工程と精製脱臭の油質物及諸原料とを分離する工程との結合により簡易に悪臭を除去せんとする法。

堀場信吉

京都市左京區下鴨中川原町九〇

小田切瑞穂

京都市左京區岡崎東天王町九八

馬場日出男

京都市左京區淨土寺馬場町一一

特許第一〇三七七四號 廢棄觸媒「ニッケル」再生法

〔内容〕廢棄觸媒「ニッケル」に附着せる水素添加物を除去することなく却つて再生觸媒の壽命を助長するに資し水素添加器内に收容せる儘再生操作を行ひ得せ

全田積

兵庫縣武庫郡今津町字洲島七

特許第一〇〇四六二號 重合油製造方法

〔内容〕魚油に少量の「ハイドロサルファイト」を添加混合せしめ脱色作用により生成せられたる重合油の色相を良好ならしめ重合の反應を促進せしめ以て脱臭せる優良重合油を製造する方法。

木村和三郎

京都市上京區小川出水上ル茶屋町一一三

特許第九七五三一號 「エルカ」酸の製法

〔内容〕「エルカ」酸含有の混合脂肪酸と該酸の「アルカリ」鹽とを「アルコール」溶劑中に於て結合せしめ「エルカ」酸を酸性鹽の形に於て結晶分離し以て容易に且多量を製取せんとする法。

蜂谷一輝

兵庫縣武庫郡精道村蘆屋八田八五六ノ一

特許第一〇二四一五號 觸媒還元装置

〔内容〕還元槽内の温度を適宜所要の温度に確實に保持し得べくし以て還元の作業を容易ならしめ又還元用水素氣流によりて排出する金屬粉を回収して其作業を經濟的ならしむる装置。

本多愛治

朝鮮咸鏡南道咸州郡興南面湖南里一

特許第九九一〇一號 油脂硬化法

〔内容〕油脂に半硬化油を添加混合して混合體の酸素

外山修之

東京府豊多摩郡澁谷町青葉二〇

石川得三

東京府豊多摩郡代々木町大字幡ヶ谷一〇二六

特許第一〇一三〇三號 潤滑油製造法

〔内容〕魚油を冷却して析出する固體を除去し次に之を適當に加熱重合せしむる潤滑油の製造法。

大高末吉

京都市豊島區

價を低下し後水素添加を行ひ反應熱發生を調節する油脂の硬化法。

本多忠治

小倉市日明二八二六

築瀨成一

東京府豊多摩郡代々木町代々木富谷一四九八

特許第九七八二號 硬化油製造装置

〔内容〕密閉罐内に筒體を懸垂状態に樹立し上部に透通性遮版を架し中空軸を設け二個以上の「プロペラー」を備へ以て觸媒沈積の阻止及び短時間に水素添加を施行すべからしめんとする装置。

田代三郎

朝鮮咸鏡南道咸州郡興南面湖南里一

特許第一〇三五八九號 硬化油製造其他水素添加装置

〔内容〕特殊装置により觸媒を混在せる原料油及水素の混合物を螺旋狀に上昇進行せしめ充分なる攪拌を遂げ以て短時間に優良なる硬化油又は水素添加油脂を得さしむる装置。

田中芳雄

東京府豊島區巢鴨三丁目二八

小林良之助

東京府大森區南千束町一八八

特許第一〇〇四〇三號 不飽和化合物の水素添加法

〔内容〕觸媒質として還元金屬又は金屬酸化物の代りに金屬水酸化物を使用し以て反應溫度を低下し及觸媒の壽命を増加したる下飽和化合物の水素添加法。

中守洞吉

東京府豊島區九ノ内三丁目四

日本石油株式會社内

特許第九九二一五號 潤滑油製造方法

〔内容〕魚油又は其他の動植物油に對する特殊化學的方法により悪臭なく且つ安定にして有害なる酸素化合物を含有せず著しく減摩性能に富む潤滑油を製造する方法。

高木理化学工業研究所

高木龜太郎

清水善輔

滋賀縣高島郡新儀村
大字安井川九九

特許第九七四一〇號

粗製魚油又は肝油の脱臭精製法

〔内容〕肝油等に布海苔溶液及び芳香性果汁を添加して臭源體を布海苔液中に移行せしむる工程と精製脱臭の油質物及諸原料とを分離する工程との結合により簡易に臭を除去せんとする法。

〔内容〕還元胴内の温度を適宜所要の温度に確實に保持し得べくし以て還元作業を容易ならしめ又還元用酸素氣流によりて排出する金屬粉を回収して其作業を經濟的ならしむる装置。

本多愛治

朝鮮咸鏡南道咸州郡
興南面湖南里一

特許第九九一〇一號

油脂硬化法

〔内容〕油脂に半硬化油を添加混合して混合體の酸素

田中芳雄

東京市豊島區
巢鴨三丁目二八

小林良之助

東京市大森區
南千束町一八八

特許第一〇〇四〇三號

不飽和化合物の酸素添加法

〔内容〕觸媒質として還元金屬又は金屬酸化物の代りに金屬水酸化物を使用し以て反應溫度を低下し及觸媒の壽命を増加したる下飽和化合物の酸素添加法。

中守洞吉

東京市豊島區
丸の内三丁目四
日本石油株式會社内

特許第九九二一五號

潤滑油製造方法

〔内容〕魚油又は其他の動植物油に對する特殊化學的方法により惡臭なく且つ安定にして有害なる酸化化合物を含有せず著しく減摩性能に富む潤滑油を製造する方法。

高木龜太郎

高木理化學工業研究所
大阪市西淀川區野里町
六百五番地ノ二

特許第一〇〇六九四號

脂肪酸「エステル」製造装置

〔内容〕本發明は「エステル」槽及湯槽を高所に相設置し兩槽の下方には球狀又は鼓狀の攪亂器を設けその上方兩側に「エステル」槽と湯槽とより出したる連絡管を相對向連通せしめ以て兩槽内の「エステル」及湯は自然力にて攪亂器に入る如くなし、又攪亂器の下方には數多の凹凸を有する交叉室に連設し更にその下方には多數の網を張設せる細斷室を連設したる水洗装置を具ふることを特徴とする装置にして、大なる動力を要することなく然も費用低廉且つ耐久力に富む脂肪酸「エステル」の製造装置なり。

〔略歴〕氏は明治十年東京市の出身、藥學を専攻し、應用化學を實驗し、大震災當時東京市に於て工場を新設して「レコード」原料「フェノール」縮合物製造機械調整中總てを烏有に歸す

堀場信吉

京都市左京區
下鴨中川原町九〇

小田切瑞穂

京都市左京區
岡崎東天王町九八

馬場日出男

京都市左京區
淨土寺馬場町一一

特許第一〇三七七四號

廢棄觸媒「ニツケル」再生法

〔内容〕廢棄觸媒「ニツケル」に附着せる水素添加物を除去することなく却つて再生觸媒の壽命を助長するに資し水素添加器内に收容せる儘再生操作を行ひ得せしめ尙再生の都度觸媒の活性度を増大せしむる特殊再生法。

坂口徳藏

朝鮮咸鏡南道咸州郡
興南邑湖南里一

特許第一〇三五二八號

硬化油製造其他油脂水素添加装置

〔内容〕内容物をよく攪拌して水素と油脂との接觸を充分にし油脂の循環を良好ならしめ比重大なる觸媒と雖も罐底に沈積するを防止し併せて反應溫度の調節を迅速確實ならしめたる特殊装置。

橋本金太郎

函館市豊川町四〇

特許第一〇〇四二二號

亞麻仁油代用品の製造方法

〔内容〕炭化水素油に硫化水素を通じて之を吸收溶解せしめ其生成物に魚油、海獸油等を混合攪拌し加熱して空氣を吹込む亞麻仁油代用品の製造法。

外山修之

東京府豊多摩郡
澁谷町青葉二〇

石川得三

東京府豊多摩郡代々木
町大字幡ヶ谷一〇二六

特許第一〇一三三三號

潤滑油製造法

〔内容〕魚油を冷却して析出する固體を除去し次に之を適當に加熱重合せしむる潤滑油の製造法。

大高末吉

東京市豊島區
西巢鴨一八九六

特許第一〇〇二六四號

「リノリウム」油の製法

〔内容〕蓖麻子油を「トリクロール、エチレン」に溶解し之を基本油となるべき鐵油、植物油等に混和して性質勝れたる保存油たらしむる製造法。

小田良平

京都市上京區
紫竹牛若町一八

特許第一〇一五三四號

變成油脂の製造法

〔内容〕植物性又は動物性油脂に「エチレングリコール」を混じり加熱攪拌する變成油脂の製造法。

小倉善平

戸畑市大字戸畑
二九六六〇

特許第一〇二〇四四號

食用香油の製造方法

〔内容〕煙を動植物性油脂類中に導き煙の防汚性に由つて油脂類の變敗を防止し食料品に煙の快味を帯びしめる食用香油の製造方法。

後油脂の研究に志し、毛髪用香油製造法、「ポマード」製造法、毛髪用油製造法、石鹼製造法、嚙易き下劑製造法、動植物纖維處理用油製造法、羊毛油精製法、汚綿洗滌装置等拾數件の特許權を得て其過半は製品として市場に提供しつゝあり。

上野 誠 一

大阪府北河内郡
枚方町三矢三六六

特許第九八八三一號 魚油より良質石鹼原料油製造法
〔内容〕魚油に對し廢棄「ニツケル」接觸劑を添加し且一定の温度に加熱することにより良質石鹼原料油を短時間に簡易且經濟的に得んとする法。

小出 廣 俊

大阪市東淀川區十
三西之町一丁目一六五

特許第九九三三八號 「ロート」油製造装置
〔内容〕「ネルフオン」化油の中和工程を部分的に操作して作業時間を節約すると共に過つて多量の炭酸曹達溶液を注加したるときにも急劇なる反應を制し安全且短時間に純質となさしむる特殊装置。

兒 玉 玄 三

東京市中野區中野町
中野一七〇三

特許第九四三三〇號 潤滑油原液製造法
〔内容〕「グリセリン」を泡沫状とし、半乾性植物油を一定の温度に保たしめつゝ上記泡沫状の「グリセリン」を注入することに依り油の重合を促進すると共に優良なる潤滑油原液を得んとする法。

小 林 孫 一

神戸市山本通四丁目
一三番屋敷ノ一

高 木 五 郎

和歌山縣日高郡
東内原村萩原八九〇

特許第九五九六五號 柑橘類の果皮を壓搾して採取せる油分又は同果皮より蒸餾に依りて採取したる油分の精製法
〔内容〕柑橘類の果皮を壓搾或は蒸餾に依りて採取したる油分を水酸化「カルシウム」にて處理し容易に透明且純良なる香料乃至精油を得んとする方法。

芝 時 孝

京都市下京區
西鹽小路久保町五〇第一
工業製藥株式會社内

特許第九七五八四號 中性油より常温にて「アルキルエステル」を製する方法
〔内容〕「アルコール」に不溶性なる中性油に可溶性の脂肪酸等を加へ其媒助によりて「アルコール」に溶解し更にある物質を觸媒として密封且振盪することにより簡易且安價に製せんとする方法。

平 林 憲 一

東京市荏原區
戸越町一〇六六

兒 玉 慶 民

横濱市中區西戸部町
西ノ原一六〇七

特許第一〇二五二四號 魚油より蠟燭原料製造法
〔内容〕魚油に水素添加を行ひ之を加水分解し分解生成物に於ける遊離脂肪酸の量を制限し發汗及龜裂を生ぜず且つ孔空形成の良好なる蠟燭原料を製造する法。

持 田 由 孝

東京市本郷區彌生町三

特許第一〇二二九〇號 魚油其他高度不飽和脂肪酸を含有する油脂類より全く惡臭なき良質の脂肪酸「エステル」と高度不飽和脂肪酸「エステル」重合物を製造する方法
〔内容〕脂肪酸を加熱して高度不飽和酸部を重合せしめ之を「アルコール」にて「エステル」化せしめ更に之を蒸餾して潤滑部として脂肪酸「エステル」を製造

林 才 一

大阪市浪速區鶴町
三丁目六番地

特許第九五三〇六號 石鹼
〔内容〕本發明は石鹼體の頂面には塗着乾固後湯水に對し不溶性となり得る資料の薄き塗着被膜を被覆し、周側部には塗着乾燥後湯水に對して軟化し、輕るき摺擦により徐々に磨滅する性状を有する資料よりなる薄き塗着被膜を被層したることを特徴とする石鹼にして、石鹼の香氣放散を防止して永く之を保有せしむると共に在來の石鹼の如く頂面及び周側の需量の爲め先

部として高度不飽和脂肪酸「エステル」重合物を製出する方法。

都 甲 卯 作

大阪府三島郡茨木町
北清水町一二三四

特許第九六七九〇號 中性「ラノリン」製造方法
〔内容〕粗製羊毛脂に「アルカリ」液を加へて脂肪酸を鹼化せしめ熱水にて處理し浮游する羊毛脂も石油「ベンゼン」に溶解し更に「アルカリ」液を加へることにより簡易且廉價に優秀中性「ラノリン」を得んとする法。

大 橋 退 治

大阪府豊能郡
麻田村字麻田一二八八

蜂 谷 一 輝

兵庫縣武庫郡精道村
蘆屋八田八五六一

特許第九九七六九號 油脂類の結晶分離装置
〔内容〕油脂類より適宜温度に於ける晶出物を極めて容易且つ經濟的に分離せしむる特殊装置。

中 村 三 男

東京府荏原郡世田谷町
代田鶴ヶ岡六八一

特許第九九二五七號 油脂及び石油炭化水素の酸化防止方法
〔内容〕不飽和油脂又は石油炭化水素に特殊の酸化防止劑を添加混溶せしむるを特徴とし酸化防止率を増進せしめたる方法。

伊 與 田 光 男

東京市牛込區
矢來町五〇

特許第一〇一四二三號 化粧用機械練石鹼製造法
〔内容〕油脂類を鹼化鹽析して得たる石鹼素地に適量の遊離高級「アルコール」並に蓖麻子油脂脂肪酸石鹼を含有せしめたる優秀なる化粧用機械練石鹼の製造法。

西 川 政 吉

東京市日本橋區
彌生町五

特許第一〇一五五四號 柑橘石鹼製造方法

短時間に純質となさしむる特殊装置。

兒 玉 玄 三

東京市中野區中野町
中野一七〇三

特許第九四三五〇號 潤滑油原液製造法

〔内容〕「グリセリン」を泡沫状とし、半乾性植物油を一定の温度に保たしめつゝ上記泡沫状の「グリセリン」を注入することに依り油の重合を促進すると共に優良なる潤滑油原液を得んとする法。

小 林 孫 一

神戸市山本通四丁目
一三番屋敷ノ一

高 木 五 郎

和歌山縣日高郡
東内原村萩原八九〇

特許第九五九六五號

柑橘類の果皮を壓搾して採取せる油分又は同果皮より蒸餾に依りて採取したる油分の精製法

〔内容〕柑橘類の果皮を壓搾或は蒸餾に依りて採取したる油分を水酸化「カルシウム」にて処理し容易に透明且純良なる香料乃至精油を得んとする方法。

清 水 寬 三

神戸市須磨區
天神町一丁目一四

特許第九八九四一號 無臭淡色精製羊毛脂の製造法

〔内容〕羊毛精練廢液より得たる粗製羊毛脂より特殊化學的方法に依り無臭にして色相淡麗なる精良羊毛脂を製出する法。

五 十 嵐 正 次

東京市向島區吾嬬町東
一丁目一 花王石鹼株
式會社社長瀨商會工場内

特許第一〇二六九二號 「ビーズ」状石鹼製造法

〔内容〕石鹼素地の溶融液を密閉室内上位に備へたる撒布嘴より小滴として噴出せしめ室の頂部より加熱空氣を導入し石鹼液を加熱雰囲気内に懸垂せしめ「ビーズ」状に凝固せしむる製造法。

持 田 由 孝

東京市本郷區彌生町三

特許第一〇二二九〇號

魚油其他高度不飽和脂肪酸を含有する油脂類より全く悪臭なき良質の脂肪酸「エステル」と高度不飽和脂肪酸「エステル」重合物とを製造する方法

〔内容〕脂肪酸を加熱して高度不飽和酸部を重合せしめ之を「アルコール」にて「エステル」化せしめ更に之を蒸留して留出部として脂肪酸「エステル」を殘留

林 才 一

大阪市浪速區鶴町
三丁目六番地

特許第九五三〇六號 石鹼

〔内容〕本發明は石鹼體の頂面には塗着乾固後湯水に對し不溶性となり得る資料の薄き塗着被膜を被覆し、周側部には塗着乾燥後湯水に對して軟化し、輕るき摺擦により徐々に磨滅する性状を有する資料よりなる薄き塗着被膜を被覆したることを特徴とする石鹼にして、石鹼の香氣放散を防止して永く之を保有せしむると共に在來の石鹼の如く頂面及び周側の濡浸の爲め洗滌使用以外に徒らに石鹼の溶解流逸する不經濟を合理的に防止し、在來のものに比し數倍耐久ならしめ而かも使用に際して露出面を皮膚又は「タオル」等に摺擦するに從ひ周側部の下緣端部も夫れに應じて徐々に磨滅するため使用には何等支障なきものなり。
尙本發明實施に際しては實用新案第一五六四〇三號の權利を使用したるものなり。

豐 田 黎 三

埼玉縣北足立郡大宮町
大字大宮七三六

特許第一〇〇一一五號

透明石鹼の内部に印刷を施す方法

〔内容〕二個の石鹼を重合壓着して一體となすに際し接着面に「ゼラチン」粉末石鹼及水の混溶液を塗布し印刷模様を、龜裂等の虞なからしめ且重合固着を的確ならしめたる方法。

中 村 三 男

東京府荏原郡世田谷町
代田鶴ヶ岡六八一

特許第九九二五七號

油脂及び石油炭化水素の酸化防止方法

〔内容〕不飽和油脂又は石油炭化水素に特殊の酸化防止劑を添加混溶せしむるを特徴とし酸化防止率を増進せしめたる方法。

伊 與 田 光 男

東京市牛込區
矢來町五〇

特許第一〇一四二三號

化粧用機械練石鹼製造法

〔内容〕油脂類を鹼化鹽析して得たる石鹼素地に適量の遊離高級「アルコール」並に蓖麻子油脂脂肪酸石鹼を含有せしめたる優秀なる化粧用機械練石鹼の製造法。

西 川 政 吉

東京市日本橋區
彌生町五

特許第一〇一五五四號

柑橘石鹼製造方法

〔内容〕柑橘類の果實を搗碎し之を低温熔融脂肪酸中に混入せしめたる後「アルカリ」により鹼化と中和を同時に行ひ得たるものを別に中性油脂より製造せる石鹼中に混入する製造法。

大 野 鐵 治

大阪市旭區貝島町七九

特許第一〇二〇〇四號

「アルコール」類又は「フェノール」類の硼酸「エステル」を含有せる石鹼

〔内容〕石鹼素地に「アルコール」類又は「フェノール」類の硼酸「エステル」を含有せしめ石鹼を温熱水にて使用の際發生機の硼酸と香氣とを發生せしむる石鹼。

渡 邊 榮 太 郎

東京市中野區
昭和通二丁目五

特許第一〇二二三號

低含水加里石鹼製造法

〔内容〕脂肪酸に少許の「キシロール」等を混じり苛性

加里の濃厚水溶液を加へ鹼化せしめたる低含水加里石鹼の製造法。

川上八十太

東京府豊多摩郡
千駄谷町三五四

服田敏郎

東京府南葛飾郡
吾嬬町東一丁目一

特許第九八六三五號 石鹼加熱方法

〔内容〕機械練石鹼塊兩端面に電氣導體鍍を密着し之に電流を通じて加熱し其組織を變化せしむることにより中心迄均一的に加熱せらるゝ方法を得んとする法。

田中友一郎

東京市本郷區
東片町一二七

特許第九八一八〇號 硫黄石鹼製造法

〔内容〕硫黄を混熔せる樹脂石鹼に沃度澱粉及「ワセリン」の混合を加へ更に曹達等を混捏することにより悪臭發散の防止、皮膚の清白、消毒乃至製品變敗の患なからしめんとする法。

上田惠喜三

大阪市浪速區惠美須町
三丁目一一八

特許第九七八六一號 「ドライクリーニング」石鹼

〔内容〕「ナフテン」酸及び「アンモニウム」石鹼の混用を特徴とし「ベンゼン」に溶解容易且洗濯後の「ベンゼン」を迅速に苛性「アルカリ」濃液にて精製し得る「ドライクリーニング」石鹼を得んとする法。

支那) Pailian, Soap. (南洋向)と稱し、滿洲、支那、印度、アフリカ等に輸出し、年輸出高六十萬打を算し盛業を極められつゝあり。

天野鎌三郎

大阪市東區博勞町
二丁目二二三

特許第九八九四〇號 嵌込模様石鹼の製法

〔内容〕嵌込面に「アラビヤゴム」を主成分とする特殊の水溶液を接着劑として塗布し嵌込模様片が龜裂又は脱落する虞無き様になしたる製造法。

黒澤豊

東京市荏原區小山町
一三 富岡義雄方

特許第九九一一八號 油脂を含有する穀類より直接石鹼を製造する方法

〔内容〕油脂を含有する穀類に水及び鹽類を加へ糖分及蛋白質をも除去したる殘滓に「アルカリ」を加へて含有油脂を鹼化せしめ之より石鹼液を濾過回收する製造法。

安川喜一郎

天津市北町三

特許第二〇〇四六號 蜂蜜石鹼の製造法

〔内容〕蜂蜜と卵液と「サルチル」酸と粉末石鹼と混合練和し乾燥したる後之を壓搾固結せしむる石鹼製造法。

服田敏郎

千葉縣東葛飾郡市川町
五丁目一〇一八
岡田重八郎方

特許第二〇二六七二號 高周波電流に依る石鹼の加熱方法

〔内容〕機械練石鹼を粹練石鹼と同様なる組織に變化せしむる爲高周波の強力なる電流を通じ外觀を損ぜしむることなく短時間に加熱する方法。

小西善造

神戸市二宮町一丁目一

特許第二〇三三二六號 羊毛綯用石鹼製造法

〔内容〕桑葉を苛性「アルカリ」にて煮沸したる液に脂肪酸を混和鹼化して鹼液の効果を達せしむる石鹼の製造法。

岩瀬慶三郎

仙臺市片平丁七五
金屬材料研究所内

特許第二〇三三〇八號 「チタニウム」顔料の製法

〔内容〕「チタニウム」鹽の溶液中に鹽基性物質を加へて加水分解を行ふを特徴とする良好なる「チタニウム」顔料を製造する法。

西澤勇志智

東京市世田谷區
經堂町三八三

製造法。



世戸悟
大市旭區喜多町
三番地ノ三

特許第九九〇二〇號 模様入石鹼製造方法

〔内容〕本發明は普通の石鹼押出機の壓搾管中の一部に模様を表すべき型を裝置し、壓搾管外の染料溶液の貯槽より「パイプ」を通じ適當の壓力を加へ型の細孔より均等に染料溶液を放出せしめ以て壓搾進行中の石鹼の内部に貫通せる色彩模様を施したる棒狀石鹼を製出し、之を任意の厚さに切斷し更に適當の形狀に壓搾して製品となすものなり、製品は色彩を以て適當の文字圖形模様を石鹼の表裏に貫通せるを以て極めて體裁佳良なるのみならず使用中崩潰することなく最後まで之を殘存する特徴を有す。従來別に模様を形成せる二個以上の石鹼を加壓に依り付着せしめたるもの、又は二本以上の螺軸により壓搾管中にて壓搾付着せしめたる模様を有する石鹼等において使用に際し崩潰を免れざる缺點あるに對し本法は石鹼自體に染料を以て染色したるが故に之等の缺點を除去し得たるものなり。

〔略歴〕氏は明治六年一月の出生、二十餘年來石鹼製造業に従事す、製品は白鹼(三彩香皂) (端

沈澱を製造通過し焙燒後冷水に投入更に亞鉛鹽溶液を加へ炭酸「アルカリ」液を加へ以て質輕藍色相優良なる白色顔料製品を得んとする法。

特許第二八四二號 亞鉛華精製法
改訂第八五號

〔内容〕本發明は粗製亞鉛華に硫黄若くは硫酸を密和し之を熱灼する方法に關するものにして製品の亞鉛華即ち酸化亞鉛は極めて純白にして塗料用として頗る優秀なるものなり。

故 茂木重次郎

なからしめんとする法。

上田 惠 喜 三

大阪市浪速區惠美須町
三丁目一八

特許第九七八六一號 「ドライクリーニング」石鹼

〔内容〕「ナフテン」酸及び「アンモニウム」石鹼の混用を特徴とし「ベンゼン」に溶解容易且洗濯後の「ベンゼン」を迅速に苛性「アルカリ」濃液にて精製し得る「ドライクリーニング」石鹼を得んとする方法。

支向) Patlan, Soap. (南洋向)と稱し、滿洲、支那、印度、アフリカ等に輸出し、年輸出高六十萬打を算し盛業を極められつゝあり。

天野 鎌 三 郎

大阪市東區博勞町
二丁目二二三

特許第九八九四〇號 嵌込模様石鹼の製法

〔内容〕嵌込部に「アラビヤゴム」を主成分とする特殊の水溶液を接着劑として塗布し嵌込模様片が龜裂又は脱落する虞無き様になしたる製造法。

庄 野 唯 衛

大阪市北區北扇町三八
大阪市立工業研究所内

高 岡 齊

同 所

特許第一〇三六二四號 特殊石鹼の製造方法

〔内容〕石鹼製造の粹練或は機械練工程に於て「オキシヂメメルベンゾール」又は其水酸基の水素を曹達、加里等の鹽基にて置換したる化合物を混入し洗滌と消毒とを兼用する石鹼を製造する法。

蜂 谷 一 輝

兵庫縣武庫郡精道村
蘆屋八田八五六ノ一

特許第一〇三九七一號 蠟燭原料熔融釜

〔内容〕底板を一重とし側周壁に「ジャケット」を形成せしめ周壁の内側には頂部より底板中央部に亘る水の供給管を附したる蠟燭原料熔融釜。

方法

〔内容〕機械練石鹼を粹練石鹼と同様な組織に變化せしむる爲高周波の強力なる電流を通じ外觀を損ぜしむることなく短時間に加熱する方法。

小 西 善 造

神戸市二宮町一丁目一

特許第一〇三三二六號 羊毛縮絨用石鹼製造法

〔内容〕桑葉を苛性「アルカリ」にて煮沸したる液に脂肪酸を混和酸化して縮絨の効果を達せしむる石鹼の

岩 瀬 慶 三

仙臺市片平丁七五
金屬材料研究所内

特許第一〇三三〇八號 「チタニウム」顔料の製法

〔内容〕「チタニウム」鹽の溶液中に鹽基性物質を加へて加水分解を行ふを特徴とする良好なる「チタニウム」顔料を製造する法。

西 澤 勇 志 智

東京市世田谷區
經堂町三八三

特許第九八九二七號 硫化亞鉛の感光變色を防止したる顔料

〔内容〕硫化亞鉛若くは之を主なる一成分とする物質に白色粉狀過酸化物質又は有機性過酸化物質の如き硝酸「エステル」と更に多水酸化化合物の一種或は數種とを混合密和したる白色顔料。

田 中 銀 次 郎

堺市戎島五丁目四二

特許第一〇一〇一〇號 酸化亞鉛の製造方法

〔内容〕亞鉛蒸氣の酸化燃焼に用ひたる廢氣を循環的に使用し之に酸化室に設けたる小孔より吸引さるゝ少量の大氣を補給しつゝ亞鉛蒸氣の緩慢なる酸化燃焼を起さしめ被覆力著大なる酸化亞鉛を製造する方法。

山 本 久 夫

堺市耳原町一三九六

特許第九四九七一號 硫化亞鉛含有の白色顔料の製造法

〔内容〕亞鉛鹽の溶液に硫化水素を加へて硫化亞鉛の

なく最後まで之を殘存する特徴を有す。従來別に模様を形成せる二個以上の石鹼を加壓に依り付着せしめたるもの、又は二本以上の螺軸により壓搾管中にて壓搾付着せしめたる模様を有する石鹼等にありては使用中溶消崩潰を免れざる缺點あるに對し本法は石鹼自體に染料を以て染色したるが故に之等の缺點を除去し得たるものなり。

〔略歴〕氏は明治六年二月の出生、二十餘年來石鹼製造業に従事す、製品は白蘭三彩香皂(商標)

沈澱を製造濾過し焙焼後冷水に投入更に亞鉛鹽溶液を加へ炭酸「アルカリ」液を加へ以て質輕鬆色相優良なる白色顔料製品を得んとする法。

茂 木 重 次 郎

特許第二八四二號 改訂第八五號 亞鉛華精製法

〔内容〕本發明は粗製亞鉛華に硫黃若くは硫酸を密和し之を熱灼する方法に關するものにして製品の亞鉛華即ち酸化亞鉛は極めて純白にして塗料用として頗る優秀なるものなり。

〔略歴〕氏は安政六年奈良縣郡山町の出身、明治六年藩の選抜により東京に遊學し慶應義塾を経て開成學校に機械精煉の二科を終了、明治七年令兄死後後は單身研究を續行し遂に之を完成して光明社(日本ペイント會社前身)を組織し、亞鉛華、光明丹及各種ペイント製造を開始す、明治十九年皇居御造營に當り製品を献上して銀牌を下賜せられ、四十四年綠綬褒賞を受く、塗料に關する多數の發明を完成し昭和七年病沒せらる。

森 村 四 郎

大阪市浪速區
櫻川一丁目一〇六二
澤村亞鉛工業所内

特許第一〇二七四五號 亞鉛華製造方法

〔内容〕金屬亞鉛蒸氣を大氣中に放出酸化せしめ亞鉛華を形成しつゝある燃焼焰の外周部へ噴霧状になした

る水を吹付くる亞鉛華製造方法。



伊藤聖筆合名社

伊藤末松

名古屋東浮島市南區熱田
地番五十八

特許第六七三二六號 聖筆製造法

〔内容〕本發明は白墨資料を型に流し込むに當り豫めゴム液を型の内面に塗布することを特徴とする製造法にして、白墨の外白を薄きゴム膜にて覆ひ以て其使用に際し粉末の手指に附着することなきやうなしたるものなり、而も大量的製産能率を有し且つ優美なる製品を得るなり。

〔略歴〕氏は明治十七年豊橋市の出身、東京高等工業學校四年を修業して建築請負業を営み、大正七年白墨製造法を研究して同八年之が完成を見たるも從來の事業關係にて未だ製造に着手することを得ず、同十四年本發明の特許權を得ると同時に愈々製造を開始して現在に至る。

尙右の外煤煙防止の研究に腐心して之を完成し特許を出願したるも既に英國人が同一特許權を獲得後なりし故を以て却下されたる事ある等性來研究心強く常に發明考案に意を用ひられたるあり、現在愛知縣方面委員、兒童保護司の名譽職に在り、製品は南洋印度、中南米等に販路を開き、製造の發展を期せられたるあり。

且耐水性強き優秀なる(インキ)を得んとするに在。

三谷長四郎

東京府豊多摩郡大久保町大字百人町二〇

特許第九四七五八號 「クレイオン」製造法

〔内容〕鯨油を加熱しつゝ諸種の物質を添加練捏する事に依り四季殆一定の硬度を有し塗着快適色相の暈異色の重合等良く描出し得べき「クレイオン」を製造する法。

沼澤辰次郎

福岡縣遠賀郡水巻村
字吉田二二二三

特許第九六四二五號 白墨の製造方法

〔内容〕「アラビヤゴム」に牛脂を混合して加熱攪拌し白墨主體を沈下且それ自體を飽和状態となさしめたる後乾燥せしむることにより濕氣無吸收及密質にして優良なる白墨を得んとする法。

梅田馬之助

和歌山縣東牟婁郡
新宮町七六七九

特許第九九九四九號 白墨の外皮被覆法

〔内容〕白墨の外面に防濕保護外皮を被着し其磨滅折損を防止し毫も指頭を汚損せざる白墨を製造する法。

森嘉吉

東京市本郷區
駒込淺嘉町七〇

特許第一〇三八九五號 白墨製造方法

〔内容〕顔料炭酸石灰に炭酸「マグネシヤ」を混合し輕量軟質ならしめ之に澱粉を適度に水醋酸及硫酸にて處理し得たる無色透明粘着力強き糊液を糊料として使用する白墨製造法。

宮本正勝

東京市瀧野川區
瀧野川町一九五五

特許第一〇三三二二號 紙鉛筆製造法

〔内容〕鉛筆軸木の代用として適當の紙質を有する紙を巻きて圓柱體を形成し之を化學的に變質せしめ紙の割離を防ぎ小刀又は鉛筆削等にて容易迅速に削り得らるる紙鉛筆の製造法。



服部工業化學所

服部三丈郎

大阪市東區猪飼野
地番二十

特許第一〇〇七三一號 ダイアンインキ

〔内容〕本品は改竄防止用として一度記載されたる文字は如何なるインキ消液の作用によりても變色するのみにて絶対に消失する事なく其文字の筆蹟を顯著に認める事も得且つ該變色が紙の組織中に透徹するが故に如何なる藥品を以てするも複色すること能はず、從て證券又は金券の改竄を直接に防止し得る効果を有す。

本莊榮

岐阜縣土岐郡
瑞浪町小田八二九

特許第一〇一五七號 速乾耐水性筆記用「インキ」の製法

〔内容〕合成染料の溶液に「アルカリナフトレート」及び「スルフアニール」酸「アルカリ」を加へたる速乾耐水性の「インキ」の製造法。

小川吉平

東京市目黒區目黒町
下目黒七六

特許第九四〇二二號 耐水性「インキ」

〔内容〕「ヘマチン」に水醋酸及亞硫酸を以て之に耐水性染料を配合することにより得らるる耐水性の「インキ」の製造法。

尙本防水布はセメント用防水袋として實用新案權を有す、其構造は麻布に防水塗料にて紙を貼付けの際袋の口となる箇所約四寸程は紙を貼付せざるを特徴とするものにして、荷造の際粉末を收容して口縁の紙を内部に向け折り被せ麻布のみ巻き込み縫ひ括るが故に從來の如く針穴より粉末の漏れ出づる等のことなく極めて完全なるものなり。

〔略歴〕氏は山口縣の出身、明治二十六年來阪して防水布製造に従事し、爾來努力の結果大正三年工場を擴張し各種防水布の研究に没頭し、特許三十件實用新案十件を有せり、從來包装布



林八重

大阪市住吉區
住吉丁四十二

東京職工學校豫備中正學舎に於て理化學を修業す、同二十九年文具共益會を起しその相談役となり同年東京文具新聞を創刊す。大正九年篠崎インキ製造株式會社を創立し取締役社長となり今日に至る、又現に東京文具卸商同業組合長たり。帝國發明協會より有功賞を受く。

篠東三

を見たるも從來の事業關係にて未だ製造に着手することを得ず、同十四年本發明の特許權を得ると同時に愈々製造を開始して現在に至る。尙右の外煤煙防止の研究に腐心して之を完成し特許を出願したるも既に英國人が同一特許權を獲得後なりし故を以て却下されたる事ある等性來研究心強く常に發明考案に意を用ひられたるあり、現在愛知縣方面委員、兒童保護司の名譽職に在り、製品は南洋印度、中南米等に販路を有し、特許權の保護を期せられたるあり。

澱且耐水性強き優秀なる「インキ」を得んとするに在。

三谷長四郎

東京府豊多摩郡大久保町大字百人町二〇

特許第九四七五八號 「クレイオン」製造法

〔内容〕 鯨油を加熱しつゝ諸種の物質を添加練捏する事に依り四季殆一定の硬度を有し塗着快適色相の異異色の重合等良く描出し得べき「クレイオン」を製造する法。



衛兵又崎篠

東京市本所区緑町六丁目三十番地

特許第三〇七〇一號 エターナルインク

同 第七三九七五號 安全黒色インク

同 第八八六九〇號 筆記用黒色インキ製造法

〔内容〕 本發明は耐藥品性大なる炭素を用ひて苛性アルカリ液にて練合してインキ基礎液とし之に添色劑と石鹼を加へたるものにして、之を更に改良し黄栢の煎汁液を用ひ證券用筆記インキとして化學的藥品及びインキ消液の作用に對し強き抵抗力を有し、流出輕快器械的摩擦により損傷せず、耐水耐光線の特性を有せしめたるものなり。

〔略歴〕 氏は明治元年東京市の出身、同十六年

處理し得たる無色透明粘着力強き糊液を糊料として使用する白墨製造法。

宮本正勝

東京市瀧野川區瀧野川町一九五五

特許第一〇三三三號 紙鉛筆製造法

〔内容〕 鉛筆軸木の代用として適當の紙質を有する紙を巻きて圓柱體を形成し之を化學的に變質せしめ紙の割離を防ぎ小刀又は鉛筆削等にて容易迅速に削り得らるる紙鉛筆の製造法。

東京職工學校豫備中正學舎に於て理化學を修業す、同二十九年文具共益會を起しその相談役となり同年東京文具新聞を創刊す。大正九年篠崎インキ製造株式會社を創立し取締役社長となり今日に至る、又現に東京文具卸商同業組合長たり。帝國發明協會より有功賞を受く。



林重八

大阪市住吉區安立町四十二番地

特許第七七一三三號 包裝用防水布製造法

〔内容〕 前者は膠及び澱粉を各適量の水に溶解し混合煮沸して糊狀となし、之に「ポイル」油を加へ更に明礬、鉛糖、ホルマリンを加へて得たる塗料を麻布又は綿布の片面に塗布し、其の未だ乾燥せざる前に膠液、明礬、鉛糖、ホルマリンより成る稀薄塗料をマニラ紙又はハトロ紙に塗布し、絞紙となしたるものを接着乾燥せしむる包装用防水布の製造方法にして、後者は防水糊を布の片面に塗布乾燥し更に他の片面に乾性油、脂肪酸、ビッチ及び鐵粉を混合して煮詰め之に亞鉛華を加へて更に熱を與へたるものを塗布し、其直上に絞紙を接着したるものにして紡績品、セメント等の包装に可良なるものなり。

〔内容〕 合成染料の溶液に「アルカリナフトレート」及び「スルファニール」酸「アルカリ」を加へたる速乾耐水性の「インキ」の製造法。

小川吉平

東京市目黒區目黒町下目黒七六

特許第九四〇二號 耐水性「インキ」

〔内容〕 「ヘマチン」ニキスに水垢酸及び亞硫酸を

尙本防水布はセメント用防水袋として實用新案權を有す、其構造は麻布に防水塗料にて紙を貼付けの際袋の口となる箇所約四寸程は紙を貼付せざるを特徴とするものにして、荷造の際粉末を收容して口縁の紙を内部に向け折り被せ麻布のみ巻き込み縫ひ括るが故に從來の如く針穴より粉末の漏れ出づる等のごとくなく極めて完全なるものなり。

〔略歴〕 氏は山口縣の出身、明治二十六年來阪して防水布製造に従事し、爾來努力の結果大正三年工場を擴張し各種防水布の研究に没頭し、特許三十件實用新案十件を有せり、從來包裝布は熱帯地方等へ物品を輸出するに當り之が包裝布の粗悪なるがため往々包装中の物品を汚損し不慮の損害を蒙る等の缺點あるを遺憾とし之が改善を志し研究すること多年、遂に本發明を完成するに至りしものなり、然して現在年産額三十五萬碼を算し主として紡績會社に供給して好評あり、幾多共進會等の受賞の外に本年帝國發明協會より良等賞として表彰せられ名聲を高めつゝあり。

飯島歳雄

東京市豊島區西巢鴨四丁目二八七

特許第一〇三七五三號 耐酸性「アルカリ」性紙布製造法

〔内容〕 特殊なる化學的方法により摩擦折疊み水洗等をなすも剝離龜裂等を生ずることなく且耐水、耐酸、耐「アルカリ」性ならしめたる紙布の製造法。

家 田 政 男

岐阜市今町二丁目二四

二 木 康 吉

名古屋市中區千種町一ノノ 神七九

特許第九八五九七號 「ビスコース」加工紙の製造法

〔内容〕熟成せる「ビスコース」に「ゴム」液を添加混煉し之を紙布に塗附乾燥して稀釋硫酸液中に處理更に石鹼水煮沸液中及「パラフィン」融解液中に通じ以て柔軟弾力ある耐水紙布を製造する法。

小 野 弘

福岡縣粕屋郡香椎村字香椎二一三三七

特許第一〇二〇三三號 防水紙製造方法

〔内容〕紙片に蒟蒻質と脂油質との混合物を塗着して不浸透性の防水加工を施し更に該塗着せる蒟蒻質物を凝固せしむべく消石灰「アルコール」脂油の混和溶液を上塗り防水用包装紙を製造する方法。

四 ツ 橋 つ や

東京市瀧野川區上中里町六二

田 中 一 郎

同 所 四ツ橋方

特許第一〇二九〇〇號 防水絲、布、紙製造法

〔内容〕「ゲキスコース」の塗布に先立ち膠質乳化劑を豫め纖維素の内部に浸潤せしめ之に「ゲキスコース」を被着せしめて凝固再生し強靱性大にして光澤ある防水絲、布、紙の製造法。

吉 野 次 郎

東京市品川區南品川宿四〇七

特許第九七〇九五號 耐濕耐水性強靱紙布製造法

〔内容〕「アルカリ」纖維素に二硫化炭素を作用せしめて粘稠性成生物となし之を紙類に塗布して弱酸性沈澱液にて處理し以て強靱且外觀美なる紙等を低廉に製出する法。

中 山 三 之 亟

東京市本郷區湯島三組町八一

特許第九五六九五號 防水布製造法

〔内容〕布面に膠及苛性曹達の溶液を塗布更に「アマニ」油等を混じて沸騰冷却したる後之を布面に塗り毛の粉末を振掛け再び「アマニ」油等を塗布し強靱且安價なる防水布を製造する法。

金 子 增 耀

大阪市住吉區相生通二丁目一

特許第一〇二八三九號 防水紙布製造法

〔内容〕「ゲキスコース」溶液を紙布に包孕せしめ「ゲキスコース」の「エイジング」を好適に行ひ凝固液にて處理し「ゲキスコイド」皮膜に依り防水紙又は布を製造する方法。

田 中 與 吉

東京府南葛飾郡松江町東小松川三六七八

特許第九六二二八號 強靱耐水紙の製造法

〔内容〕「ゲキスコース」溶液を紙布に包孕せしめ「ゲキスコース」の「エイジング」を好適に行ひ凝固液にて處理し「ゲキスコイド」皮膜に依り防水紙又は布を製造する方法。

て諸種の物質を配合したる水溶塗料を造り之を紙面に塗布し更に特殊水溶液にて處理する事により革軟強靱に富める耐水紙を製造する法。

田 中 謹 治 郎

東京市瀧野川區西ヶ原町一四六

特許第九八一五三號 油紙製輕量柔軟雨衣

〔内容〕薄紙を材料とせる油紙を以て製し「パラフィン」等を加熱浸潤せしめ以て輕量柔軟且携帶輕便ならしめたる油紙製雨衣。

武 田 信 一

大阪市住吉區天神森二丁目二五

特許第九八九七二號 防水加工紙製造方法

〔内容〕強靱にして耐水性に富める防水加工紙を特殊化學的方法により紙體內に纖維を再生せしむる如き工程にて經濟的に製造する方法。

横 田 武 十 郎

大阪府豊能郡豐中町大字新免四九九ノ八

佐 藤 輝 五

滋賀縣栗太郡治田村大字濹川八八九

特許第一〇一〇四九號 紙布の防水法

〔内容〕乾性油又は半乾性油に對する特殊化學的方法により作れる耐水塗料を紙布に塗布する法。

海 野 正

東京府荏原郡馬込町三三〇一

特許第一〇二〇八六號 硝化綿塗料

〔内容〕硝化綿を「ヂメチル、アセタル」に捏和溶解せしめたる後之に硝化綿溶劑と柔軟劑と顔料とを加へたるものにして自動車車體及家具等に使用す可き塗料。

山 中 久 右 衛 門

滋賀縣蒲生郡八幡町字小幡中二一

特許第四五二二一號 クロス用ビトコース製造法



日本クロコ工業株式會社

坂 部 三 次

京都府極部郡野勝寺

究の結果を應用し、ブツククロス及絹糸絹布の精練染色並にウエーチング加工を爲し傍ら一般染再整理業を營み優良なる國産品を市場に供給することを目的とし、元龜井染再整合名會社を買收し其社營にかゝり其製造の緒にありしブツククロスの製造並に染再整合の事業を繼承して、大正八年資本金壹百萬圓を以て創立せられたるものなり。同九年好景氣の後を受けたる反動的大崩落の結果による事業界の慘狀に鑑み資本金を半減して當時及び將來に備ふる所あり、其後一進一退の財界並に業界に處して誤らず、よく

四ツ橋つや
東京市瀧野川區
上中里町六二
田中一郎
同所 四ツ橋方

特許第一〇二九〇〇號 防水絲、布、紙製造法

〔内容〕「グキスコース」の塗布に先立ち膠質乳化劑を
液め纖維素の内部に浸潤せしめ之に「グキスコース」
を被着せしめて凝固再生し強靱性大にして光澤ある防
水絲等の製造法。

田中興吉
東京府南葛飾郡松江町
東小松川三六七八

特許第九六二二八號 強靱防水紙の製造法

〔内容〕「グキスコース」溶液を紙布に包孕せしめ「グ
キスコース」の「エイジング」を好適に行ひ凝固液に
て處理し「グキスコイド」皮膜に依り防水紙又は布を
製造する方法。

特許第一〇二八三九號 防水紙布製造法
〔内容〕「グキスコース」溶液を紙布に包孕せしめ「グ
キスコース」の「エイジング」を好適に行ひ凝固液に
て處理し「グキスコイド」皮膜に依り防水紙又は布を
製造する方法。

横田武十郎
大阪府豊能郡豐中町
大字新免四九九ノ八
佐藤輝五
滋賀縣栗太郡治田村
大字澁川八八九
平岡文二郎 方

特許第一〇一〇四九號 紙布の防水法

〔内容〕乾性油又は半乾性油に對する特殊化學的方法
により作れる防水塗料を紙布に塗布する製造法。

海野正

東京府荏原郡
馬込町三三〇一

特許第一〇二〇八六號 硝化綿塗料

〔内容〕硝化綿を「ヂメチル、アセタル」に捏和溶解せ
しめたる後之に硝化綿溶劑と柔軟劑と顔料とを加へた
るものにして自動車車體及家具等に使用す可き塗料。

山中久右衛門

滋賀縣蒲生郡
八幡町字小幡中二一

西川時次郎

同縣神崎郡旭村
字北町屋四〇屋敷

特許第九八八三〇號 耐水紙製造方法

〔内容〕「グキスコース」を吸收せしめたる紙を亞硫酸
等の混合液中に通じて定着せしむる工程と該定着を確
實ならしめ且残留亞硫酸を除去する工程とにより強靱
なる耐水紙を廉價に製出する法。

特許第四五二一號 クロス用ビトコース製造

法

同第六四五三七號 クロス製造法

同第六九一三四號 樂器用皮製造法



日本スロ工業株式會社

坂部三郎

京極郡野村
葛川野勝
郡寺

福島幸重

長野縣北安曇郡
大町二五二七ノイ號

伊東七郎

同縣同町一七六

特許第九六二〇九號 布張雨傘製造法

〔内容〕澱粉糊を施せる綿布を炭粉及澱の混和物にて
定着せしめ布張傘の表面に「アムモニヤ」水溶液を塗
布更に特殊の物質を塗布乾燥し以て防水効果の完全及
破損無憂ならしめたる布張傘の製造法。

〔内容〕紙又は布に塗布劑を施し「クロス」を
製出するに當り其塗料として「コーパル」の乾
性油「ニス」中に蛋白質を加へたるものを使用
することを特徴とするものにして、從來「コー
パルニス」を塗料として使用することは普通な
るも「クロス」として使用する場合纖維に密着
堅固ならざる等の缺點あり、從て剝離又は龜裂
を生ずる憂あり、然るに本發明は之れに「アン
モニヤ」水に依り溶解せる蛋白質を加へて纖維
との膠着を一層堅固ならしめ且蛋白質凝固の爲
め「コーパルニス」の弾性を充分發揮せしめて
剝離又は龜裂の憂なからしめ以て強靱の紙又は
薄布の兩面又は片面に施して各種「クロス」に
又「ガンニークロス」の如き厚布の片面又は兩
面に施して敷物用等に使用して頗る適切なるも
のなり。

〔略歴〕本社は嶄新なる學理と洗練されたる研
究の結果を應用し、ブツククロス及絹糸絹布の
精練染色並にウエーチング加工を爲し傍ら一般
染再整理業を營み優良なる國産品を市場に供給
することを目的とし、元龜井染再整合名會社を
買收し其社營にかゝり其製造の緒にありしブツ
ククロスの製造並に染再整の事業を繼承して、
大正八年資本金壹百萬圓を以て創立せられたる
ものなり。同九年好景氣の後を受けたる反動的
大崩落の結果による事業界の慘狀に鑑み資本金
を半減して當時及び將來に備ふる所あり、其後
一進一退の財界並に業界に處して誤らず、よく
耐へよく忍び遂に強固なる社礎を築く事を得て
現在の盛業の基を作り、然も本社多年研究中の
「トレーシングクロス」の完成並にクロス及び
人絹織物染色整理の需要激増等は愈々業務の繁
忙を招來し、爲めに工場を増設となり設備の完
成を了へ、創業十周年に際しては新期活躍の前
途に向つて祝福すべきスタートを切り茲に愈々
業務の隆昌を見るに至りしなり。

本社製品の主なるものは、ブツククロス、絶
縁クロス、裏張金巾、リノリウム、裏張人絹
ポプリン、荷札クロス、包装クロス、裏張ポプ
リン、裏張寒冷紗、ブラインダー、トレーシン
グクロス等にして加工業にありては本絹織物、
人絹織物、交織、絹紡織物、双二絹、麻及毛織
物の染色再整を主なるものとす。

販路は内地は勿論臺灣、朝鮮、支那、滿洲及
び南洋印度等とし、スラバヤ、バタビア、香港
シンガポールの各商品陳列所に出品し將來の活
躍に資せられつゝあり。

日本ペイント株式會社

大阪市西淀川區
浦江北四丁目十番地

- 特許第一〇一〇〇七號 鐵類裝飾用塗料
- 同 第一〇一八五七號 耐酸性塗料
- 同 第一〇三三七一號 特種塗料の製造方法

〔内容〕従来の尿素樹脂を原料とせる塗料は常温にて容易に乾燥せず、而かも皮膜は水、湯、種々の溶劑藥品等に對する抵抗力極めて弱く且つ龜裂を生じ尙保存困難等種々の缺點ありて未だ實用に供せられしもの無き状態なり、然るに本特種塗料の製造方法は是等の缺點を完全に除去したるのみならず更に種々の特徴を有する特種塗料を得ることに成功せるものにして、即ち尿素と「クレゾール」又は石炭酸及「フォルムアルデヒド」より得らるべき初期縮合物に種々の溶劑混合物を加へて加熱脱水し、之に可塑劑を加へて生ずる透明粘稠溶液に更に使用前硬化促進劑として有機酸と溶劑混合物を添加することを特徴とするものにして、常温にて速かに乾燥して光澤無比の透明皮膜を生じ、然かも耐火、耐湯、耐藥品性なり、斯くして製造せる塗料は塗裝に際して物體面に何等下塗を要せず面に對する密着及伸延性極めて良好にして木材に塗付して木材に着色することなく、又金屬面、硝子面を問はず刷毛又は噴霧器にて容易に塗裝し得る便利あるものなり。

鐵類裝飾用塗料は適當なる防錆性顏料に適量の一酸化鉛を含有する油を溶解して處理して

に顏料として油の分解を適宜に止める作用を爲すものを使用しあること等なり。凡そ顏料には活性顏料と不活性顏料との二種あり、活性顏料はアルカリ性の顏料にして油の分解に因りて生じたる酸性の分解物を中和して分解を止めるも其爲め塗膜は堅く成り過ぎて龜裂を生じ其間隙より水分浸入して錆を生ずるに至る。之に反し不活性顏料は中性の顏料にして油の分解を止める力なく塗膜はその爲めに室内にては分解物停滞してベタつきを生じ屋外にては分解物飛散流出して崩壞、所謂「チヨロキング」を起すもの

製したる硫酸鉛を含有する二酸化鉛よりなる粉末を加へ之を特殊の油にて製したる塗料油を以て練合溶解し適當なる揮發性油にて稀釋したるものにして、之を塗布するときは内部乾燥良好にし緻密に且つ防錆力に富む塗膜を形成し、一般「ペイント」の如く裝飾に適する色彩を帶び鐵類に塗裝に當り豫め錆止を施す必要なく直ちに鐵面に塗裝して裝飾と防錆とを兼備す、其特徴とする所は其含有する二酸化鉛は容器内に常温に貯藏せらるゝときは一酸化鉛の如き活性を現はさざれども、之を塗布し光線熱線に浴するときは徐々に一酸化鉛となり又酸素を内部より塗膜に與へ内部乾燥を良好ならしむるのみならず生成したる一酸化鉛は油酸と化合して「グリセリン」を遊離し「グリセリン」は又一酸化鉛と結び塗膜は益々緻密となる、然して硫酸鉛は此の作用の調節をなすが故に作用は急激ならず随つて危削の憂なからしめ、又特殊の塗料油は耐水性に富むを以て一層保護力を大にするを得るものなり。

耐酸性塗料は熔融樹脂に生漆を加へて共に融合せしめ桐油を添加し之を揮發性油にて稀釋したる「ワニス」を以て適當の顏料又は「ピッチ」類を混練溶解して製したるものにして、其特徴とする所は一般に樹脂は比較的耐酸性に富むものなれども之に漆を融合せしむるときは一層その耐酸性を向上せしむること、及び適當なる顏料又は「ピッチ」類を以て其欲する色彩を帶びしめ裝飾を兼備せしめたることなり。

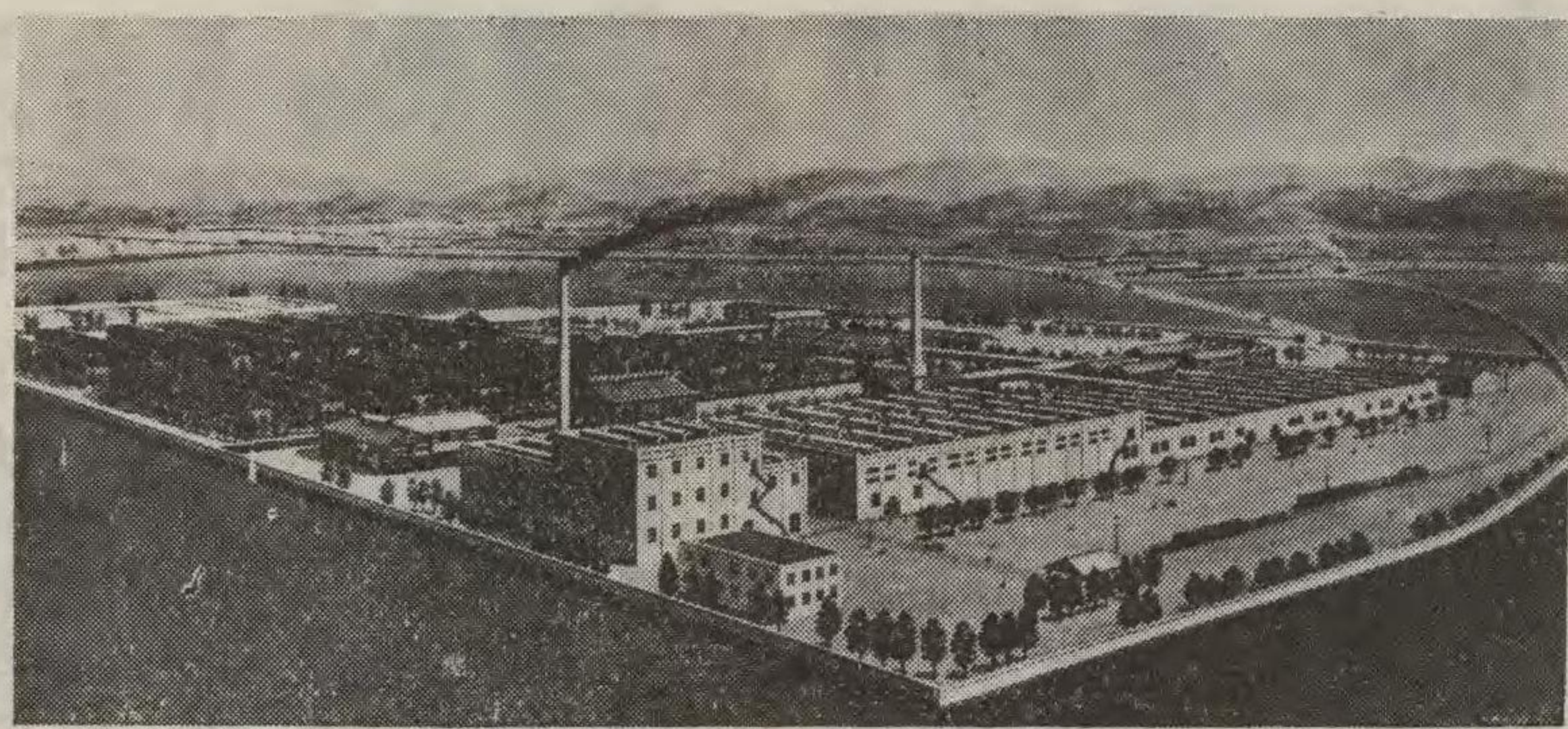
捌き輕快且つ仕上げ容易なり、四、乾燥は夏冬兩期共短時間なるが故に塗裝能率を擧げ得ることと多量なり。本品の種類は下塗サビナイト上塗サビナイトの二種あり、前者は下塗用として直接鐵材の上に塗り防錆力は勿論附着力特に強固なり、後者は赤錆、黒錆、クリム、濃緑、淡鼠、濃鼠の六色あり、下塗サビナイトを施したる上に塗用して塗膜の表面的老化を防止し防錆効果を擧げしむること著大なるものあり。

〔略歴〕本社は資本金壹百萬圓、工場敷地貳萬坪、年生産高參千萬疋を算し、東京、名古屋、

關西ペイント株式會社

兵庫縣川邊郡
小田村神崎

- 特許第七六八一九號 防錆塗料「サビナイト」
- 〔内容〕鐵の錆の發生原因を考察し之が防錆方法の研究に依り錆止塗料の有効なる證左として本防錆塗料「サビナイト」の發明を見たるものなり。元來錆止塗料として最も有效なるものは鐵面に水分及び酸素の浸入を最も手輕く簡単に防ぎ得る塗料ならざるべからず、而もペイントの乾燥はその油分の酸化固現象にして固油膜は水を撥くものなるが故に總てのペイントが塗布當初は錆止の力を有するも普通のペイントにありてはその固油分は時日の経過につれ分解を起し所謂過酸化状態となり當初は水を撥きたるも次第に其效力を失ふに至るものなり、然るに本品はペイントの分解を巧みに防止し普通のペイントに比して遙かに長年月に亘り錆止の効果を持続するものなり。何故に斯く本品は分解を起さざるやと云ふに一、油分として亞麻仁油等に比し遙かに分解し難き特殊なる油分を用ひたること、二、之に攪する



紙類を製造する法。

- 特許第九五八七六號 強靱防水紙製造法

〔内容〕紙類に「ビスコース」を塗布し綿花纖維等を叩解して綿絮状態となし空氣壓搾装置により吹付け稀硫酸液に通じ以て強靱且防水性空氣遮斷性を具備する紙類を製造する法。

佐野圭

東京府南葛飾郡小松川町大字中平井一五三〇

小 木 直 四 郎

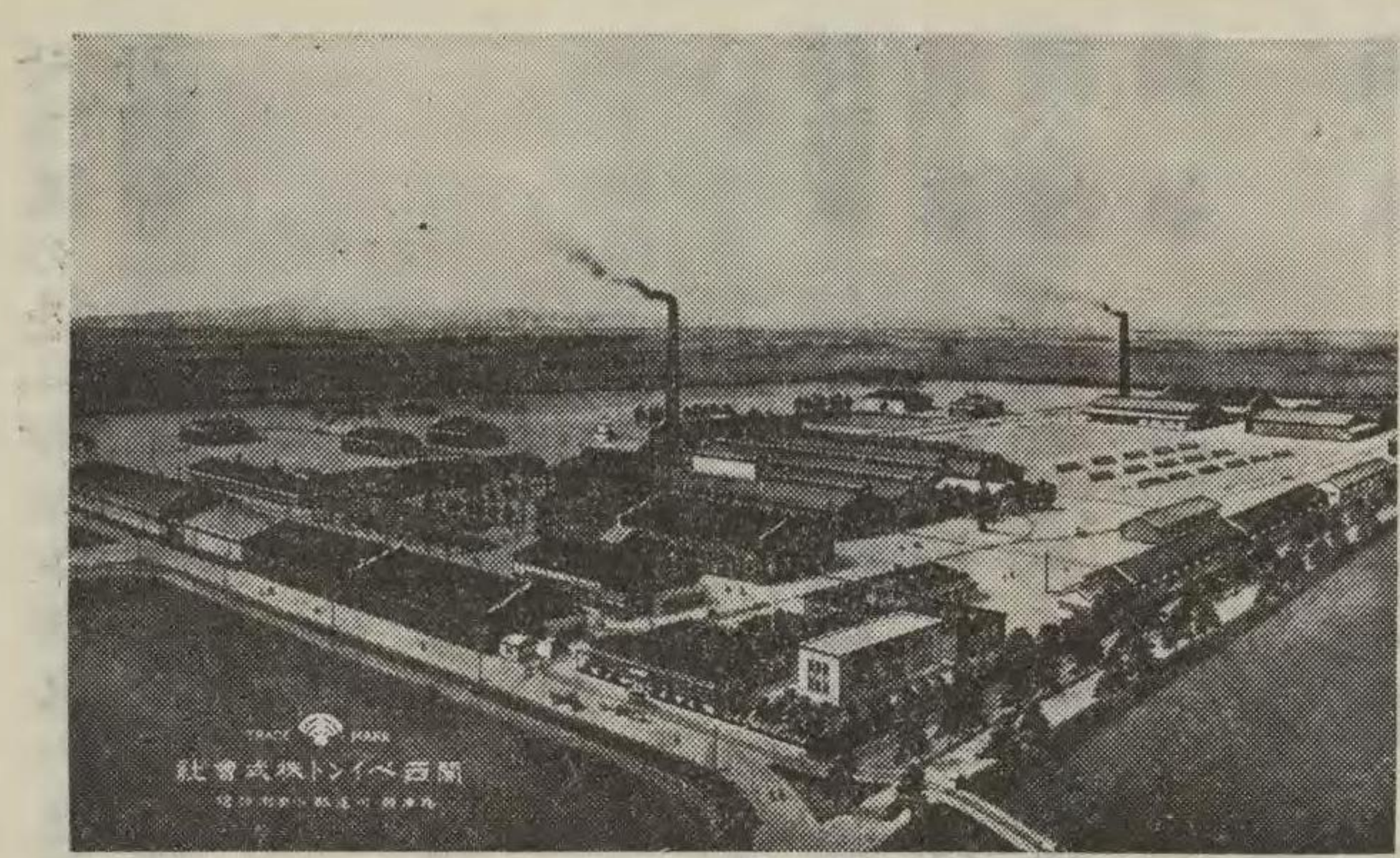
東京市品川區
品川町南品川宿五七四

- 特許第九五二七二號 堅練鉛丹塗料

を特徴とするものにして、常温にて速かに乾燥して光澤無比の透明皮膜を生じ、然かも耐火、耐湯、耐藥品性なり、斯くして製造せる塗料は塗装に際して物體面に何等下塗を要せず面に對する密着及伸延性極めて良好にして木材に塗付して木材に着色することなく、又金屬面、硝子面を問はず刷毛又は噴霧器にて容易に塗装し得る便利あるものなり。

鐵類裝飾用塗料は適當なる防錆性顏料に適量の一酸化鉛を含有する油料を酸液にて處理して

に顏料として油の分解を適宜に止める作用を爲すものを使用しあること等なり。凡そ顏料には活性顏料と不活性顏料との二種あり、活性顏料はアルカリ性の顏料にして油の分解に因りて生じたる酸性の分解物を中和して分解を止めるも其爲め塗膜は堅く成り過ぎて龜裂を生じ其間隙より水分浸入して錆を生ずるに至る。之に反し不活性顏料は中性の顏料にして油の分解を止める力なく塗膜はその爲めに室内にては分解物停滞してベタつきを生じ屋外にては分解物飛散流出して崩壞、所謂「チヨキング」を起すものにして是等は錆、ペイント、黒ペイント等に見る現象なり、故にサビナイトに於てはこの活性不活性の二種の顏料を適量に配合使用し分解による塗膜の崩壞を止めると同時に一方龜裂の生ずることなき様にし以て塗膜を最も長く不變質の状態に保つ様なしたるものなり、本品は斯かる



理論に基き之を驗するに數百組の油分顏料分の調製と數年に亘る數回の反覆の實驗とを以て完成されたるものにしてその防錆効果の優秀なるは言を俟たざる所なり、此の外本品の特徴としては一、被覆力強く、二、比重輕少、三、「流れ」、「戻り」等なき爲め刷毛

耐酸性塗料は熔融樹脂に生鹵を加へて共に融合せしめ桐油を添加し之を揮發性油にて稀釋したる「ワニス」を以て適當の顏料又は「ビッチ」類を混練溶解して製したるものにして、其特徴とする所は一般に樹脂は比較的耐酸性に富むものなれども之に鹵を融合せしむるときは一層その耐酸性を向上せしむること、及び適當なる顏料又は「ビッチ」類を以て其欲する色彩を帯びしめ裝飾を兼備せしめたることなり。

掘き輕快且つ仕上げ容易なり、四、乾燥は夏冬兩期共短時間なるが故に塗裝能率を擧げ得ること多大なり。本品の種類は下塗サビナイト上塗サビナイトの二種あり、前者は下塗用として直接鐵材の上に塗り防錆力は勿論附着力特に強固なり、後者は赤錆、黒錆、クリム、濃緑、淡鼠、濃鼠の六色あり、下塗サビナイトを施したる上に塗用して塗膜の表面的老化を防止し防錆効果を擧げしむること著大なるものあり。

〔略歴〕 本社は資本金壹百萬圓、工場敷地貳萬坪、年生産高參千萬圓を算し、東京、名古屋、大阪、神戸、福岡の各市に出張所を置き、大連、臺北、上海、札幌、京城等に出張員を駐在せしめ業界の一大權威をなせり、製品は吳海軍建築部、同軍需部、大阪名古屋札幌各鐵道局、臺灣交通局鐵道部、大阪中央電話局、内務省仙臺土木出張所、大阪福岡其他各府縣廳、大阪神戸各市廳、臺灣製糖、三菱電鐵等各地諸會社工場等に納入して非常なる賞讃を博し居れり。

菊池孝房
八幡市大字
尾倉一二四九
松林治夫
同市同番地 菊池方

特許第九八八二九號 防水布製造法
〔内容〕 「ロジン」等を高温にて融和せしめて苛性「カリ」を加へ更に諸種の物質を混消之を布に塗布する工程と該布に特殊塗料を塗布する工程とにより密着堅固且完全なる防水布を得る法。

はその固化油分は時日の経過につれ分解を起し所謂過酸化状態となり當初は水を撥きたるも次第に其效力を失ふに至るものなり、然るに本品はペイントの分解を巧みに防止し普通のペイントに比して遙かに長年月に亘り錆止の効果を持続するものなり。何故に斯く本品は分解を起さざるやと云ふに、油分として亞麻仁油等に比し遙かに分解し難き特殊なる油分を用いたること、一、之に阻する

佐野圭
東京府南葛飾郡小松川町大字中平井一五三〇
特許第九五八七六號 強靱防水紙製造法
〔内容〕 紙類に「ビスコース」を塗布し綿花纖維等を叩解して綿絮状態となし空氣壓搾装置により吹付け稀硫酸液に通じ以て強靱且防水性空氣遮斷性を具備する紙類を製造する法。

小木直四郎
東京市品川區
品川町南品川宿五七四

特許第九五二七二號 堅練鉛丹塗料
〔内容〕 植物油に「リサージ」を加へて加熱濃化油となし該油に「マルセル」石鹼を加へて融合せしめ更に諸種の液にて鉛丹を練合以て變性硬化する事なき防錆塗料を得る方法。

田坂吉二郎
東京市荏原區
中延町一〇九一
小木直四郎
東京市品川區
南品川四丁目五七四

特許第一〇〇〇七號 鐵類裝飾用塗料
〔内容〕 適當の防錆性顏料に諸種の化學的作用を施したるものにして錆止下塗を施さずして直に塗布し裝飾と防錆とを兼備せしめたる塗料。

野上信正
東京府豐多摩郡
大久保町百人町二六〇

特許第九九八五八號 鉛丹固練「ペイント」
〔内容〕 脂肪酸の不溶性金屬石鹼を揮發性溶劑に溶解

せるものを「ヴェヒクル」とし之を鉛丹と混捏せる鉛丹固練「ペイント」

鉛粉塗料株式会社

根 岸 信

大阪市 此花區 西野下之町三十八番地

- 特許第 四〇七〇四號 塗料
- 同 第 四二八九九號 パテ其他の充填料
- 同 第 四二六七二號 減摩油製造法
- 同 第 四三三〇三號 光學用其他の硝子製造法
- 同 第 六一二一一號 鉛白製造法
- 同 第 六一四三四號 一酸化鉛を原料とする鉛白製造法
- 同 第 六七一七八號 塗料用安定性酸化鉛
- 同 第 八八九四〇號 鉛酸化物の輕質粉末製造法
- 同 第 九〇四八三號 微細なる鉛の硫酸鹽製造法
- 同 第 九一九六〇號 同右追加
- 同 第 九〇四八四號 光明丹塗料製造法
- 同 第 九二五四〇號 鹽基性硫酸鉛塗料
- 同 第 九二六四七號 亞鉛華製造法
- 同 第 九四一三五號 和硫ゴム製造法
- 同 第 一〇〇七八三號 速乾鉛粉塗料
- 同 第 一〇〇七八四號 ラツカー用合成樹脂
- 同 第 一〇一〇四五號 ゾルフテイフ鐵鉛塗料
- 同 第 一〇二四六二號 ラツカー製造法
- 同 第 一〇五二五一號 耐候性ワニス製造法

外國特許 拾貳件

〔內容〕亞酸化鉛粉應用塗料は「ズボイド」と稱し、用途に應じて防錆用、船底用、耐酸用其他種々の品種あり、就中防錆用ズボイドは革命的防錆塗料として名聲あり、又ラツカー「セルボン」は特種合成樹脂應用にして耐光、耐久性強く從來のラツカーの缺點を補ひたる製品なり此外前記各種發明の應用を以て製品の改良せるもの、新製品とせるもの等枚舉に遑なし。

〔略歴〕氏は本社常務取締役兼技師長として多年光明丹を以て代表さるゝ防錆塗料の鉛粉による改良を企圖し研究努力の結果防錆用塗料「ズボイド」の發明を完成せられたるものなり。 本社は陸軍省、海軍省、鐵道省の指定工場にして、内地は勿論朝鮮、臺灣、滿洲、歐洲、印度、南洋諸島等に販路を有し隆昌を極めつゝあり。

長 田 蓼 男

尼崎市 竹谷町 三丁目 一一五

特許第一〇一〇四五號 「ゾルフテイフ」〔收着性〕鐵鉛塗料

〔內容〕光明丹塗料の本質的性能を改良し其の有する收着性を増大せしめ強大なる防錆力を具有せしめたる鐵鉛塗料。

阿 部 英 治 郎

大阪市 東區 北久太郎町三丁目九

特許第一〇〇七八三號 速乾鉛粉塗料

〔內容〕多量其酸を多價「アルコール」と共に加熱縮小し、と共に熱して得たる混狀物を油性「ペイント」に混和する事に依り水棲物の着生を防止すべからしめたる塗料。

合して得たる合成樹脂と油可溶性「フタル」酸「グリセリン」型樹脂とを桐油又は亞麻仁油に溶解せしめたる塗料「ベヒクル」に鉛粉又は亞酸化鉛を配合したる速乾鉛粉塗料。

酒 見 恒 太 郎

兵庫縣川邊郡小田村 次屋字五反田一一三

特許第九九一七五號 防錆塗料

〔內容〕特殊化學的方法により防錆性強大にして貯藏中膠化若くは沈澱固化することなく而も塗布後容易に堅牢なる防錆塗膜を形成せしむ如くなしたる防錆塗料

島 津 泰

横濱市神奈川區 桐畑 一一二

特許第一〇三一一八號 防錆防水塗料製造法

〔內容〕「セルラック」及金屬亞鉛粉末を酒精系溶劑中に於て作用せしめて水に難溶性の「セルラック」亞鉛石鹼を生成せしめ之を主成分たらしめたる塗料を製造する方法。

鹽 見 勉

東京市荏原區荏原町 大字中延 一一〇四

特許第九四二〇九號 亞鉛末塗料

〔內容〕亞鉛粉末に亞酸化鉛等の微粉を混じ之に適宜の「ベヒクル」を配合し以て附着力及伸展性に富み且耐久力大ならしめたる塗料。

大 島 重 義

大阪府豐能郡南豐島村 大字原田七八一ノ一

特許第一〇〇九九二號 船底塗料

〔內容〕「チフェニル」基鹵素化合物の毒性を利用して海中生物の附着を完全に防止し水銀の代用として防汚效力極めて優秀なる船底塗料。

岡 屋 甚 一

東京府荏原郡大崎町 大字下大崎三六五

特許第九五八七七號 船底防穢塗料

〔內容〕樹脂油酸化生成物及酸化「アルカリ」鹽を他の「ベヒクル」中に加へて得たる生成物に有毒顏料を加熱配合し以て動植物細胞菌を包含死滅せしむべくなしたる塗料。



店商屋島社會式株

郷 廣 三 郎

大阪市 港區 三番 町 五丁目 十八番 地



石 原 萬 次 郎

名 古 屋 市 外 庄 内 村 地 番 二 十 九 百 九 十 二 番 地

特許第九六七九六號

耐火耐水耐酸防腐塗料製造方法 (アンチパイロー)

- 同第 九一九六〇號 同右追加
- 同第 九〇四八四號 光明丹塗料製造法
- 同第 九二五四〇號 鹽基性硫酸鉛塗料
- 同第 九二六四七號 亞鉛華製造法
- 同第 九四一三五號 和硫ゴム製造法
- 同第 一〇〇七八三號 速乾鉛粉塗料
- 同第 一〇〇七八四號 ラツカー用合成樹脂
- 同第 一〇〇七四四號 ゴルフティフ鐵鉛塗料
- 同第 一〇〇二四六二號 ラツカー製造法
- 同第 一〇五二五一號 耐候性ワニス製造法

海中生物の附着を完全に防止し水銀の代用として防汚效力極めて優秀なる船底塗料。

岡屋甚一

東京府荏原郡大崎町
大字下大崎三六五

特許第九五八七七號 船底防穢塗料

〔内容〕樹脂油酸化生成物及酸化「アルカリ」鹽を他の「ベヒクル」中に加へて得たる生成物に有毒顔料を加熱配合し以て動植物細胞菌を包含死滅せしむべくなくしたる塗料。

玉水弘

西宮市染殿町三二

特許第九七二九三號 乳濁質船底塗料製造方法

〔内容〕油性船底塗料の材料を基礎とし之に特定の乳化剤を加へ更に貝類等に有毒なる水溶液を加へて乳濁體を作らしめ生物の附着繁殖を防ぐに有効なる塗料を製造する法。

三井嗣喜

兵庫縣武庫郡精道村蘆
屋山蘆屋寺ノ内四八九

特許第九七三三〇號 船底塗料製造方法

〔内容〕水銀及び砒素の水に不溶性化合物を吸着し居る吸着劑と、海水を吸着し鹽酸を遊離する吸着劑との混合を主成分とし、以て貝類等の附着を防止する塗料を製造する方法。

佐々良省三

東京市赤坂區
青山南町六丁目一六

特許第九六〇五二號 船底塗料

〔内容〕硫砒銅鐵の粉末に尿素等を混じり粗製「ピリヂ

特許第一〇一〇四五號 「ゾルフティフ」〔收着性〕鐵鉛塗料
〔内容〕光明丹塗料の本質的性能を改良し其の有する收着性を増大せしめ強大なる防錆力を具有せしめたる鐵鉛塗料。

阿部英治郎

大阪市東區
北久太郎町三丁目九

特許第一〇〇七八三號 速乾鉛粉塗料
〔内容〕多量其酸を多量「アルキール」と共に加熱縮



郷廣三郎
大阪市東區港區
市港區三丁目十八番地

特許第八九八八六號 船底塗料

〔内容〕普通一般の船底塗料は毒素として銅、水銀等金屬化合物を其の儘混入しある爲め塗面を顯微鏡下に見る時は是等の毒素は粗班に散在し粒子間に空隙を生ずる爲め、海藻類の附着を容易ならしむるも、本塗料は數種の猛毒素を「アンチ」中に完全に溶解せしめ全く「コロイド」状とする獨特の方法に依り製造したる伸張料を使用するため塗面は猛毒金屬の薄層を形成し少しの空隙をも生ぜざるため、海藻類の附着を完全に防ぎ且つ其表面は徐々に粉化の現象を起し汚物附着するも表面に生じたる粉末と共に洗ひ去らるゝため防汚効果を一層大ならしむる特長を有す。

〔略歴〕氏は明治十六年高知市の出身、同三十五年より自家所有船に監督として乗組み下船後大阪市西區立賣堀北通塗料船具卸商扇谷五兵衛商店に入店し大正四年辭して合資會社島屋商店を設立し塗料製造和洋船具問屋業を經營す、昭和六年組織を變更して株式會社となす。

特許第九四二〇九號 亞鉛末塗料
〔内容〕亞鉛粉末に亞酸化鉛等の微粉を混じ之に適宜の「ベヒクル」を配合し以て附着力及伸張性に富み且耐久力大ならしめたる塗料。

大島重義

大阪府荏原郡南島村
大字原田七八一ノ一



石原萬次郎
名古原市百九
庄外市九
内庄二
村番地

特許第九六七九六號 耐火耐水耐酸防腐塗料製造方法(アンチバイロー)

〔内容〕從來耐火耐熱等の名稱を冠したる塗料許多ありと雖も眞に攝氏五〇〇度に耐へ得るものなく然も攝氏四五〇度に耐へ得る塗料は未だ世界に於て發明せられざる現狀なり、然るに本發明によりて製造せられたる「アンチバイロー」は可燃性を通有性とする現存塗料乃至耐火塗料の比に非らず眞に驚異的耐火塗料「燃へないペイント」として塗裝界に特記すべきものにして其性能は鐵と膨脹率を同ふし固着力強大にして防腐、防錆、不良導體にて耐火度攝氏一五〇〇度に耐へ塗膜に些の變化をも生ぜざる完全且つ優美なるものなり。

〔略歴〕氏は明治三十二年名古屋市の出身、小學校卒業後製紙原料商に従事し大正二年頃より毛の染色法に付研究を始めて之を完成し他人に譲渡し後塗料の研究に専念す、昭和二年頃塗料にて防火の方法を發案し約五ヶ年間苦心研究を續け幾多の犠牲を拂ひ遂に昭和七年本發明を完成し特許權を獲得するに至りしものなり。

岩男虎之助

大阪市北區
中野町二丁目一〇二

特許第九八五〇七號 防火塗料製造法

〔内容〕鹽化「マグネシウム」液と石灰の混合清澄液、硼砂水と落花生油の和合液、及び明礬水に蒟蒻粉を混溶したる糊狀物とを和合調製し防火防水殺菌等に効果を有せしめたる塗料の製法。

齋藤定藏

東京府荏原郡大崎町
大字下大崎三六五
株式會社高田船底塗料製造所内

特許第九六一七九號 船底塗裝法

〔内容〕船底塗料一號塗布後紙布或は此等に水銀銅等を吸収せしめたるものを貼着せしめて以て經濟的に船底の生物附着を防禦せしむる法。

大浦元三郎

東京市世田ヶ谷區
下北澤一三〇九

特許第九五五七三號 耐火防水「マグネシア」塗裝硬化法

〔内容〕熱に易變性の物質に珪酸「ソーダ」等より成る塗料を塗布吸収せしむる工程と酸化「マグネシウム」に練合せる物質を塗擦する工程との結合により膠着硬化良好なる塗裝材料を得る法。

川口正平

大阪市住吉區
平野梅ヶ枝町一丁目五
尾久町字下尾久三二一

特許第九四〇八〇號 耐火防水性塗布料製造方法

〔内容〕紙面等に瀝青質物層を形成せしめ該層面に堅硬粒子を芯體となし之に瀝青質を被覆せる粒子を撒布密着せしめ重疊するも貼着せず且撒着物が轉子に絡着せしめざる如くなしたるもの。

平井正夫

横濱市鶴見區
市場町四八六

藤田政輔

要に應じて珪酸曹達溶液を添加し適當の資料を捏交して堅牢強靱且經濟的に實用本意の耐火防水性塗料を製造する方法。

鎌田菊藏

東京市本所區
東兩國町四丁目二

特許第九九一三八號 靴底塗料の製造法

〔内容〕亞麻仁油、「ボイル」油、白蠟を混合し徐々加熱し各資料を充分融合せしめ冷却するを待つて之に「タルク」を混和し糊狀となしたる底革の損傷を豫防し得る靴底塗料の製造法。

柴田勝之丞

東京市神田區
淡路町一丁目一

特許第九五五七七號 皮革塗布料製造法

〔内容〕石鹼を溶解せる牛乳中に、密蠟等を融合懸吊せしめ椰子油及色素を混和し更に「パラフィン」蠟等を添加混合密和し永時柔軟に維持せしむる塗料を得る法。

稻葉豊英

東京市江戸川區
逆井二丁目四一二

特許第一〇二七二六號 瀝青質性「ワニス」の凝固防止方法

〔内容〕瀝青質性「ワニス」中に芳香族「メルカプタン」化合物を共に溶存せしめ長期の貯藏にも重合凝固することなく常時使用に耐へしめたる方法。

稻田勇太郎

東京市世田ヶ谷區
太子堂町一六九

特許第一〇〇二〇六號 油性假漆製造法

〔内容〕化石樹脂と乾性油の直接熔和又は油性合成樹脂塗料の製造に當り「セレニウム」を混和し高温にて煮詰むるを特徴とし優秀なる油性假漆を短時間内に製造する法。

横田佐右衛門

大阪市西成區
橋通九丁目二四

特許第九七三四八號 防水工事施工用瀝青布の製造法

〔内容〕麻木綿等の織布を二枚重として「アスファルト」溶融液中に浸漬し壓搾「ロール」間を通過せしめたる後之を分離し以て織布素地の不損不同伸縮の不生等優良製品を簡單且經濟的に得る法。

田中敏夫

大阪市西區土佐堀
船町十一番地

特許第九〇九八〇號 ミネライト

〔内容〕ミネライトは鑛物瀝青質ゴムを精製して之に石綿を配し理學上の構想と独自の化學的處理法に基き製作したる理想的に強靱なる床材なり、其特徴及び效用の主なるものは耐水耐酸耐アルカリにして不燃燒體なり、感電せず且つ消音性にして弾性に富み、耐久力は永久的なり而かも弾力性及び屈折性に富むが故に龜裂を生ずる憂なく、用途廣くして特殊防水塗料としても効果あるものなり。

田島武長

東京市荒川區尾久町
大字下尾久三二一

特許第九五二七六號 「アスファルト」防水法

〔内容〕「アスファルト」液を透明或は半透明にして防水防腐の紙布類を膠着せしめ膠着用「アスファルト」が萬遍なく塗布せるや否やを明瞭ならしめて完全なる防水帯を得る法。

立澤勇吉

東京市葛飾區
金町四ノ二八四三

特許第一〇三〇二二號 焙燒塗料製造方法

〔内容〕塗裝塗料の流布性を補佐改良すると共に焙燒時塗膜に皺裂の生成を防止し且つ塗膜を強靱ならしめ耐撓性耐酸性耐「アルカリ」等の諸性質を最強化したる特に耐久性に富む焙燒塗料の製造法。

中村三男

東京府荏原郡世田ヶ谷町
代田六八一ノ五

特許第九九四七八號 油脂及び假漆の乾燥促進方法

「内容」熱に易變性の物質に珪酸「ソーダ」等より成る塗料を塗布吸収せしむる工程と酸化「マグネシウム」に練合せる物質を塗擦する工程との結合により膠着硬化良好なる塗裝材料を得る法。

川口正平

大阪市住吉區
平野梅ヶ枝町一丁目五
尾久町字下尾久三二一

特許第九四〇八〇號 耐水耐火性塗布料製造方法

〔内容〕「アスファルト」に配合且必

稲葉豊英

東京市江戸川區
並井二丁目四一二

特許第一〇二七二六號 瀝青質性「ワニス」の凝固防

止方法

〔内容〕瀝青質性「ワニス」中に芳香族「メルカプタ
ン」化合物を共に溶解せしめ長期の貯蔵にも重合凝固
することなく常時使用に耐へしめたる方法。

田島武長

東京市荒川區尾久町
大字下尾久三二一

特許第九五二七六號 「アスファルト」防水法

〔内容〕「アスファルト」液を透明或は半透明にして防
水防腐の紙布類を膠着せしめ膠着用「アスファルト」
が萬遍なく塗布せるや否やを明瞭ならしめ以て完全な
る防水帯を得る法。

田島カツ

東京府北豊島郡
尾久町字下尾久三二一

特許第九四二二六號 貼付用「アスファルト」帯

〔内容〕紙面等に瀝青質物層を形成せしめ該層面に堅
硬粒子を芯體となし之に瀝青質を被覆せる粒子を撒布
密着せしめ重疊するも貼着せず且撒着物が轉子に絡着
せしめざる如くなしたるもの。

平井正夫

横濱市鶴見區
市場町四八六

藤田政輔

東京市赤坂區
丹後町七七

特許第九七二七四號 鐵板面及木板面等の塗料用含水

瀝青質乳劑の製造法。

〔内容〕含水瀝青質乳劑に速乾性「ボイル」油を添加
加熱しつゝ混合攪拌する事に依り迅速なる乾燥性を有
せしめたる塗料用乳劑の製法。

平塚昌治

東京市瀧野川區
中里町一三一

特許第一〇二二五〇號 「アスファルト」塗料

〔内容〕「アスファルト」に「クレオソート」油を以て
處理したる古護謨と乾性油との加熱融合物を加へ加硫
したる建築及土木用「アスファルト」基塗料。

鈴木園吉

東京市杉並區杉並町
大字阿佐ヶ谷四五五

特許第九四八六三號 防水塗料製造法

〔内容〕織物纖維を混ざる廢護謨を「コーラタール」

法。

も効果あるものなり。

と熔融混和することにより弾性強靱に富みたる防水塗
料を得る法。

稻田勇太郎

東京市世田谷區
太子堂町一六九

特許第一〇〇二〇六號 油性假漆製造法

〔内容〕化石樹脂と乾性油の直接熔和又は油性合成樹
脂塗料の製造に當り「セレニウム」を混和し高温にて
煮詰むるを特徴とし優秀なる油性假漆を短時間内に製
造する法。

大森芳治

東京市荏原區
荏原町中延三四二

特許第九七二三五號 透明塗料

〔内容〕「エチルセルロース」を或る物質の混合溶劑
に溶解し之に「ブチル、ステアレート」等を配合し
以て密着力強大耐熱耐油に富み且抵抗力大にして
透明強靱ならしめたる塗料。

河合要吉

東京市品川區
大井伊藤町六一三三

森誠之助

東京市品川區
大井原町五三一

特許第一〇二二二六號 塗料の製造方法

〔内容〕「アルミニウム」及鐵、亞鉛の不溶性金屬石
鹼と樹脂、乾燥性植物油等を結合し防錆防腐防水の特
性を有し光明丹等の防錆塗料の下塗を要せざる優秀な
る塗料油を製造する法。

立澤勇吉

東京市葛飾區
金町四ノ二八四三

特許第一〇三〇二二號 焙燒塗料製造方法

〔内容〕塗裝塗料の流布性を補佐改良すると共に焙燒
時塗膜に皺襞の生成を防止し且つ塗膜を強靱ならしめ
耐撓性耐酸性耐「アルカリ」等の諸性質を最強化した
る特に耐久性に富む焙燒塗料の製造法。

中村三男

東京府荏原郡世田谷町
代田六八一ノ五

特許第九九四七八號 油脂及び假漆の乾燥促進方法

〔内容〕油脂、油脂加工品又は假漆に芳香屬「ケトン」
「アルデヒド」等を添加溶解せしめ以て乾燥を促進せ
しむる方法。

浦部峯三郎

東京府荏原郡
荏原町戸越三五六

特許第一〇〇三六八號 「ラッカー」製造法

〔内容〕飛行機翼の廢物に塗着せられたる塗膜を特殊
溶劑にて溶出せしめ之に別に樹脂及「タール」を乾性
油と混じ煮沸せしめたるものとを加へ強靱なる「ラッ
カー」を製造する法。

松岡忠佐

東京市神田區
錦町一丁目一

特許第九七〇二〇號 着色「ラックニス」

〔内容〕醋酸「アルミール」等を溶媒となし「アルコ
ール」に溶解し更に「ラックニス」に混和攪拌して沈
澱せしむることに依り着色に當りて均等の色に仕上げ
且塗布の手續を簡易ならしめ得るものなり。

牧野善藏

東京市大森區
森ヶ崎町五八七四

堀口貫道

東京市牛込區
矢來町一〇二

特許第一〇三〇〇六號 蒸陸塗料

〔内容〕蒸陸を「クレオソート」油の溶媒により壓力乾溜装置の耐壓釜を使用して簡單に之を溶解し「蒸力」自體の個性たる剛堅質の強酸強「アルカリ」性防腐性塗料たらしめたる蒸陸塗料。

遠藤精一

福岡市大字松園八三一

内田武次

同市萬町一〇

特許第九五九〇八號 容器内に於ける凝固作用を防止し得べき「ヴァニツシュ」製造方法

〔内容〕桐油を主成分とする「ヴァニツシュ」原液に特殊の溶液を混和溶解せしめて凝固作用の防止及光澤耐水性に富む「ヴァニツシュ」を得る法。

寺島義一

小樽市山田町一五

特許第一〇一一五九號 罐詰用容器内面塗料製造法

〔内容〕低温度にて燒附乾燥を行ひ得且つ耐酸耐「アルカリ」性強き強靱なる保護膜を形成すべき塗料を製造する方法。

北河淑

静岡縣志太郡
島田町一四〇九

特許第九八三四八號 金屬及輕金屬用塗料

〔内容〕「エステル」化系統纖維素を樹脂軟化劑に溶解せしめ以て膠着力に富み耐水耐熱耐油耐「ベンゾール」及防錆性大なる皮膜を形成する製品たらしめたるもの。

柴崎瀨平

東京市深川區
永代二丁目三ノ五

特許第一〇二二七二號 「セラツクワニス」製造法

〔内容〕「アルコール」中に含有する四碳酸加里の溶存量を一定のたらしめ以て製造の都度若くは各製造槽毎に晒色色相の異同なく均勢なる製品を得せしむる製造法。

射和二郎

東京市大森區
市野倉町二九七

特許第一〇一〇八七號 軟X線透過硝子の被覆用「ラツカー」

〔内容〕安息香酸纖維素「エステル」を溶質とせるを特徴とする軟X線透過硝子の表面に軟X線を容易に透過せしむべき極めて安定且つ強靱なる保護被層を形成せしむる「ラツカー」。

庄野唯衛

大阪市北區北扇町三八
大阪市立工業研究所内

特許第一〇三七〇一號 特殊塗料の製造方法

〔内容〕常温にて速に乾燥し光澤無比の透明皮膜を生じ然も耐水、耐湯、耐藥品性の特殊塗料の製造法。

井上清一

京都市上京區
紫竹初音町八〇

特許第一〇三九六七號 擬皮製造法

〔内容〕藪毛羽を板狀に製綿し壓搾して苦汁液に浸漬し其半乾燥せる際「ニス」液中に浸漬し壓搾乾燥せしめ堅牢にして永く柔軟性を有する擬皮の安價なる製造法。

伴定治

東京市日本橋區
新乗物町七

特許第一〇二五〇六號 絹擬革製造法

〔内容〕絹質固有の粘着力に富む重要纖維を容易に融着軟化度に導き之を補強資料の融合硬結法により頗る強靱にして耐熱耐水性を完全に備へしめたる特殊の化學的絹擬革製造法。

石松甚平

福岡市住吉
中横田町九三八

特許第一〇一五〇六號 白堊筆用塗盤製造法

〔内容〕木板製盤面に特殊溶解糊にて布片を粘着し其面上に柿澁、油性「カゼイン」糊等を塗布し最後に砥石にて研磨して成るものにして盤面に龜裂を生ぜず耐久力を有し且種々の特徴を有する固質白堊筆用塗盤の經濟的製造法。

若泉宗吉

静岡市本通四丁目五

特許第一〇二九四六號 墨盤製造方法

〔内容〕塗面滑澤にして白墨又は石筆の附着良好に可

金井健太郎

福岡縣築上郡
築城村大字築城八三〇

特許第一〇二〇二五號 黑板製造法

〔内容〕多數の細孔を穿てる亞鉛引鉄板の一面に特殊化學的地塗を施し密着せしめ其面上に塗をなし屋外にて使用し風雨に逢ふも龜裂腐朽、剝落の虞なく光線を反射せず文字鮮明なる黑板の製造法。

東久忠

京都府相樂郡木津町
大字木津小字池田五二

特許第九六二六九號 「コルク」書寫盤

〔内容〕「コルク」盤を炭化せしめ其表面に糊漆混合物を塗付し更に「フォルマリン」にて硬化したる後上部に塗料を塗付し以て臺盤の膨脹收縮彎曲變形性を除去し且耐久力を大ならしめたる書寫盤。

服部長九郎

神戸市磯邊通
四丁目六八

特許第九六九三二號 紙線條用塗料

〔内容〕「ベンヂールセルローズ」の稀釋溶液に「ビスマスオキシクロライド」を配合して塗被膜の附着力を強大ならしめ以て防水及不燃燒性を増加し美麗強靱且耐久性に富ましめたる塗料。

加福均三

臺灣臺北市也町一

石田清直

東京市世田谷區

特殊の溶液を注し溶剤を除去し、樹脂作用の防止及光澤耐水性に富む「ヴァニッシュ」を得る法。

寺島 義一

小樽市山田町一五

特許第一〇二二五九號 罐詰用容器内面塗料製造法
〔内容〕 低温度にて焼附乾燥を行ひ得且つ耐酸耐アルカリ性強き強靱なる保護膜を形成すべき塗料を製造する方法。

特徴とする軟X線透過硝子の表面に軟X線を容易に透過せしむべき極めて安定且つ強靱なる保護被層を形成せしむる「ラッカー」。

庄野 唯衛
大島 敬治

大阪市北區北扇町三八
大阪市立工業研究所内

特許第一〇三七〇一號 特殊塗料の製造方法
〔内容〕 常温にて速に乾燥し光澤無比の透明皮膜を生じ然も耐水、耐湯、耐薬品性の特殊塗料の製造法。

面上に柿澱、油性「カゼイン」糊等を塗布し最後に砥石にて研磨して成るものにして盤面に龜裂を生ぜず耐久力を有し且種々の特徴を有する固質白聖筆用塗盤の經濟的製造法。

若泉 宗吉

静岡市本通四丁目五

特許第一〇二九四六號 墨盤製造方法
〔内容〕 塗面滑澤にして白盤又は石盤の附着力好に可

も塗層堅固にして龜裂龜色の憂なき耐久的黒盤の製造法。

金井 健太郎

福岡縣 築上郡
築城村大字築城八三〇

特許第一〇二〇二五號 黑板製造法
〔内容〕 多數の細孔を穿てる亜鉛引鉄板の一面に特殊化學的地塗を施し密着せしめ其面上に上塗をなし屋外にて使用し風雨に逢ふも龜裂腐朽、剝落の虞なく光線を反射せず文字鮮明なる黑板の製造法。

東久 忠

京都府相樂郡木津町
大字木津小字池田五二

特許第九六二六九號 「コルク」書寫盤
〔内容〕 「コルク」盤を炭化せしめ其表面に糊漆混合物を塗付し更に「フォルマリン」にて硬化したる後上部に塗料を塗付し以て臺盤の膨脹收縮彎曲變形性を除去し且耐久力を大ならしめたる書寫盤。

服部 長九郎

神戸市 磯邊通
四丁目 六八

特許第九六九三二號 紙線條用塗料
〔内容〕 「ベンヂールセルローズ」の稀釋溶液に「ビスマスオキシクロライド」を配合して塗被膜の附着力を強大ならしめ以て防水及不燃燒性を増加し美麗強靱且耐久性に富ましめたる塗料。

石田 清直

東京市世田谷區
三宿町 三七八

特許第一〇一四四七號 印刷面其他の艶出液製造法
〔内容〕 「アルコール」可溶性の天然樹脂を「アルコール」に長時間浸漬攪拌し之に特殊藥劑を混和し印刷面等に塗施すれば迅速に乾燥し高尚なる光澤を發揮し變色することなく防水性及強靱性を附與せしむる艶出液の製造法。

築田 晃三郎

東京府 荏原郡
大井町山中四三二九

特許第九九九六號 金筆紙布の製造法
〔内容〕 「シダー」油、白蠟等を混練し之を揮發油にて稀釋塗布し更に「ゼラチン」溶液に或る物質を混和したるものを塗布乾燥し以て黒色顯出度を有効鮮明ならしめ優良なる金筆紙布を得る法。

加福 均三
小澤 金邦

臺灣臺北市旭町一
臺灣臺北市
川端町二四〇

特許第九九七五〇號 紙摺製帽子原料製造法
〔内容〕 紙摺糸を最初澱粉硫酸曹達液を通過せしめ次に白土滑石等の顔料を硫酸「アルミニウム」鹽液にて捏和せし泥狀物を通過せしめて美白色を呈し弾力に富み可撓強靱性にして輕き紙帽子原料の製造法

伊藤 藤鐵

名古屋 市西區
櫻木町一丁目二八

特許第九七四四〇號 紙製又は經木板製飲水器の防水處理法
〔内容〕 「サンダラック」樹脂の溶液を素地に吸收塗着して防水性たらしめ更に醋酸纖維素「エステル」の溶液を上塗として兩者を密着せしめ以て堅牢なる防水の器物として數回の使用に堪へ得べからしめたるもの。

小鹽 孫八

清水市入江町三九五

特許第九五八四七號 金屬印字用紙の製造法
〔内容〕 抄紙の面に植物油脂等の溶液を石鹼水と共に加熱乳狀液となし之に「ゼラチン」及澱粉を加へ更にある液劑を塗布乾燥することにより優良なる金屬印字用紙を連續的に製出する法。

元橋 奎公
二木 康吉

堺市少林寺町西三丁八
名古屋 市南區
名古屋 市南區
柳ヶ枝町一丁目一六

特許第九八七九四號 氷嚢の製造法
〔内容〕 洋紙の兩面に「ビスコース」溶液を塗附し再び「ビスコース」溶液に接着せしめ乾燥後稀釋硫酸液の中に處理することに依り強靱にして安價且衛生的なる氷嚢を簡易なる操作により得る法。

伊藤 伊十郎

名古屋 市西區
櫻木町一丁目二八

特許第一〇三〇一九號 紙製又は經木板飲食器の防水處理法

處理法

〔内容〕浸透吸収し難き「ゼラチン」と樹脂を「アルコール」にて溶解加合したる強固なる下塗をなし特殊弾力性の上塗を施して洗滌に堪へ衛生無害ならしめたる防水處理法。

原 廣 吉

東京市 澁谷區
美竹町 四〇

特許第一〇二五九三號 塗料

〔内容〕硫酸鹽類に硫酸礬土、硼酸、醋酸鉛等を配合せしめたるものにして風化作用を防ぎ是を「セメント」壁等に施して耐火、耐寒、耐水、耐酸性たらしむる塗料。

堀 端 要 三

堺市 新在家町東一丁目九

特許第九六九五九號 柔軟防水包装紙布製造法

〔内容〕「カゼイン」糊に特殊なる粘狀物質を加へ更に「ラバー」の乳劑を添加且攪拌混濁して得たる接着料を用ひて紙等を貼合し以て柔軟且防水性に富む優秀なる包装紙布を容易に製出する法。

兔 田 伊 三 郎

神戸市 林田區
大橋町二丁目五

特許第九九七三三號 船床塗料製造法

〔内容〕「コートパルヴェム」を「テール」油中に溶解せし

加藤 富治郎

東京市 京橋區
寶町二丁目五

特許第九六五三四號 壁面塗裝材料の製造方法

〔内容〕「パルプ」を浸水後脱水したるものと膠着溶液とを攪拌混合し之を泥狀物となし壁體面等に容易に密着せしめ保温防音且優秀なる輕量の壁構成材料たらしむる方法。

川上塗料製造所

横 山 榮 一

大阪市 西成區

め之に「アスファルト」を融合し黒鉛、雲母等の混合物を添加し酸、「アルカリ」に耐へ強靱にして特に船床塗裝に適せしめたる塗料の製造法。

沼 正 治

東京市 四谷區
北伊賀町二〇

特許第九六五三六號 纖維素「エステルラツカーエナメル」製造法

〔内容〕纖維素「エステル」塗料溶液に着色劑を混入して酸を接觸劑とし常温にて反應せしむる製造法にして着色劑の懸垂状態を保持且耐熱耐酸及耐海水にして卓越せる塗膜を形成せしめ得るもの。

大角 卯之助

京都市 中京區
壬生賀陽御所町七三

特許第九六四六六號 簿記帳用商標刻入黒色「ブツククロース」製造方法

〔内容〕金巾生地に擬麻仕上を施して原布とし之に諸種の混合液を塗布し「フォルマリン」と結合せしめたる塗層を包被せしめ以て汚損塗層の剝落等を防止し模様を取替散在點出等を任意ならしめたるもの。

岡田 熊太郎

東京府 南足立郡
千住町元町二三

特許第九五六三九號 履物用「フェルト」布面の高低を平坦ならしむるの方法

〔内容〕層「フェルト」の微粉に硼砂と「カゼイン」の

合液を混和し更に硫酸「バリユウム」及荏油を攪拌練製したる液を以て「フェルト」布面に反復塗着し波狀高低を塗滅して平坦ならしむる方法。

小川 若三郎

東京市 芝區
白金三光町二七三

特許第九七八六三號 「シエラック」硬化方法

〔内容〕「シエラック」に「ピクリン」酸等有機「ニトロ」化合物を添加し加熱する事に依り「シエラック」をして難溶性にして強靱ならしめ塗料或は膠着劑等としての性質を改善せんとする方法。

和田 孝 治

京都市 上京區 出通小
川西入丁子風呂町九〇

特許第九八八三四號 防火防水性塗裝方法

〔内容〕硼砂及硫酸「ナトリウム」を「カゼイン」糊にて混練したる下地と、白陶土を「カゼイン」糊にて混練したる上塗とを以てし更に「ホルマリン」を塗布することにより防火防水の塗裝成品を得る法。

渡 邊 茂 樹

大阪市 此花區
大野町二丁目一三〇

特許第一〇〇一一〇號 塗料の製造方法

〔内容〕油槽内に電流を通じ同一油槽内に於て「ポイ」油と炭素顔料とを同時に造ることによりて調合「ベイント」を製造する方法。

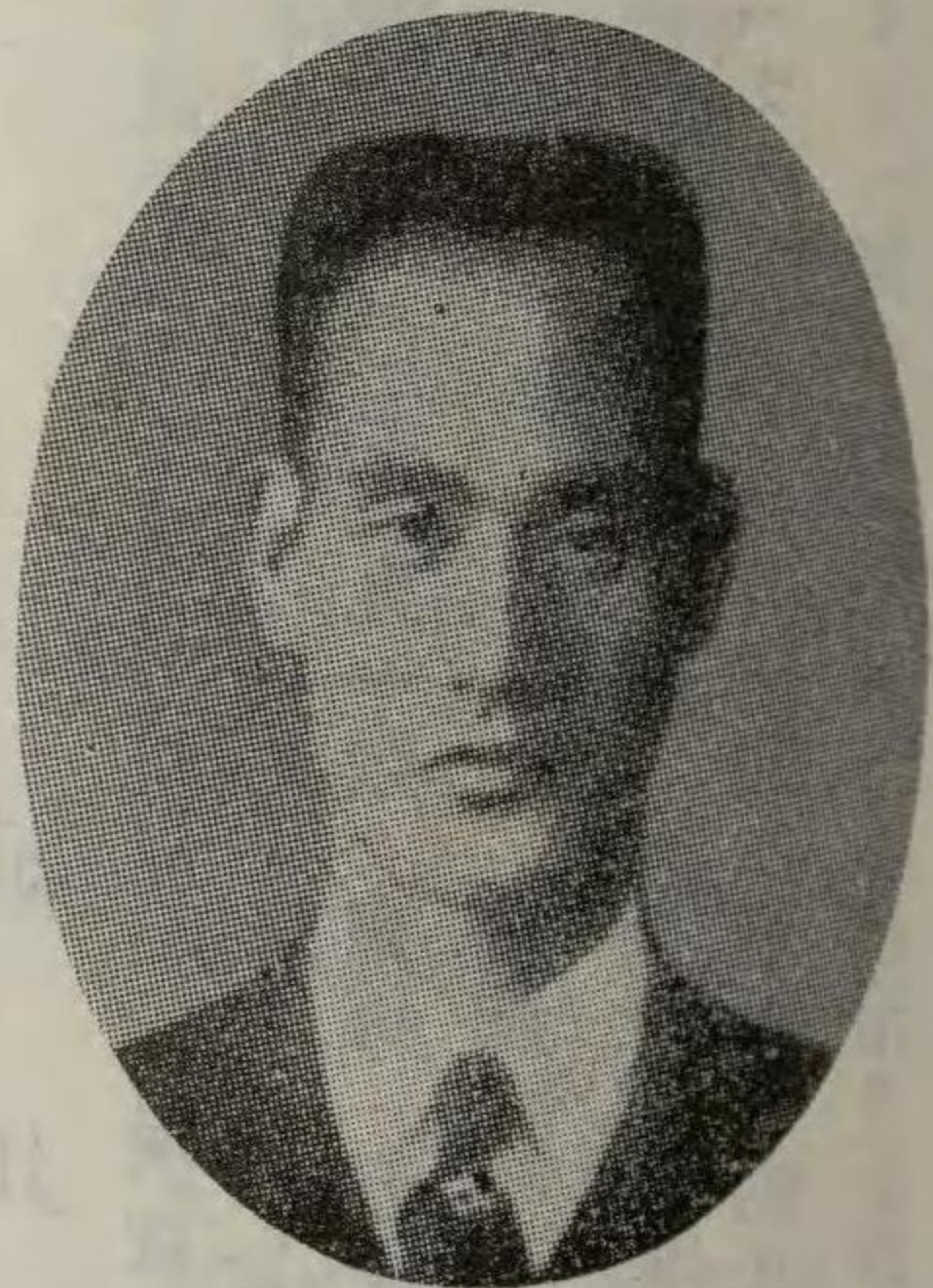
河 倉 義 安

京都市 左京區 北白川
下池田町八八ノ一

特許第一〇三六二八號 織布の表面に特殊塗層を構成せしむる方法

〔内容〕寒冷紗等織目著大なる織布の表面に化學的方法により特殊縮み皺を有する「セルロイド」の薄層を構成せしめ耐水性にして褪せせざる類「リノリニウム」製品たらしむる方法。

浴す、同六年帝國發明協會より恩賜發明獎勵金、同八年進歩賞を受領す。



河 野 篤 二

廣中市 井土 谷町 十五番 三

北 村 品 子

東京市 淀橋區 角筈本村
三百八十一番地

特許第九四四三三號 更質紙製造法

〔内容〕「カゼイン」糊に特殊なる粘状物質を加へ更に「ラバー」の乳劑を添加し攪拌混合して得たる接着料を用ひて紙等を貼合し以て柔軟且防水性に富む優秀なる包装紙布を容易に製出する法。

兔田 伊三郎

神戸市 林田區 大橋町二丁目五
特許第九七七三號 船床塗料製造法

〔内容〕「コパール」油中に溶解せし

岡田 熊太郎

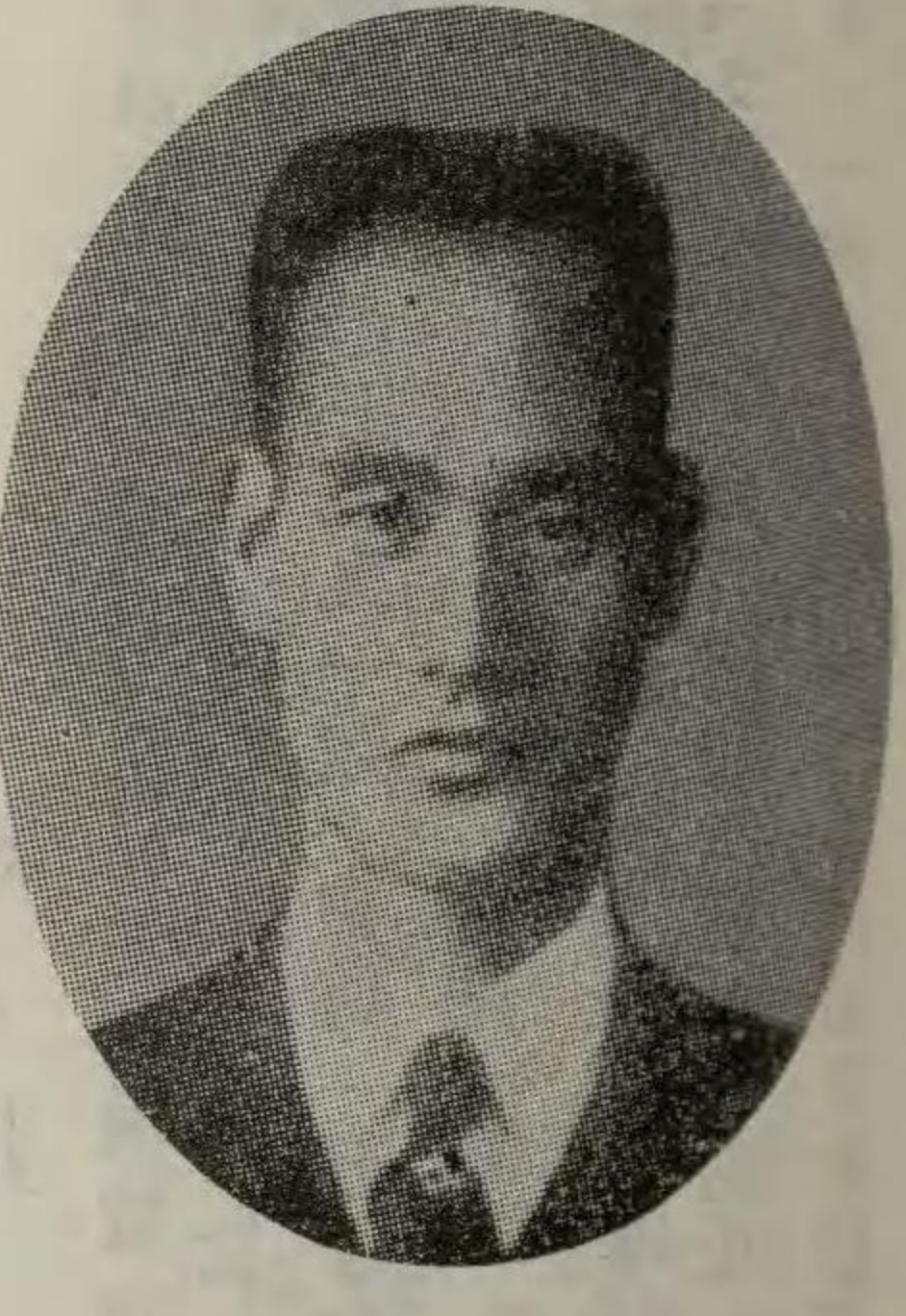
東京府南足立郡 千住町元町二三
特許第九五三九號 履物用「フェルト」布面の高低を平坦ならしむるの方法

渡邊 茂樹

大野町二丁目一三〇
特許第一〇〇一〇號 塗料の製造方法

加藤 富治郎

東京市 京橋區 寶町二丁目五
特許第九六五三四號 壁面塗裝材料の製造方法



河野 篤二
横濱市中區土井ヶ谷町三五番地

川上塗料製造所

横山 榮一

大阪市西成區 今池町十番地

特許第四九九九號 硬質紙器製造法(サクラ漆器)

〔内容〕本發明の特徴とするところはパルプを型により壓搾成形し之をセルロイド溶液に浸潤し乾燥したる後、更に樹脂及び蠟の混和溶液を吸収せしめ乾燥し漆器の素地等に好適なる硬質紙器の製造方法にして、氣候の變化により歪曲破損の憂なく、特に漆の親和力の強大なるは漆塗器物としての第一要件に適合し海外輸出向として好適なり。

横田 藤三郎

東京市 麹町區 三番町二〇

〔内容〕本防水塗料製造方法により製出したる防水塗料は其質極めて軟柔にして伸延性に富み塗布良好なると共に塗布乾燥後に於ても皺又は龜裂を生ずる虞なく、又浸透性及弾力性に富み良く塗布面に接着して容易に剝離せず且つ耐熱耐水耐「アルカリ」性に富むを以て傘紙其他の防水紙及防水布等を製作し得るは勿論、乾燥迅速にして接着力強大なるを以て塗布作業著しく進捗し其他の一般的塗料としても優秀好適なるものなり。尙本塗料は其濃度を溶液の加減によりて實質の效力を變ぜずして厚薄任意に調節し得而も顔料又は染料を溶解せしめて任意の着色を施し有色の防水塗料となすことを得るものなり

〔略歴〕氏は大正三年千葉縣立銚子商業學校卒業後銚子醬油株式會社に入社、其の間木製醬油樽の不足と缺陷とを考慮しパルプを以て之を造る方法を研究中偶々之を漆器生地に應用するとに着眼し實驗の結果成績良好なりしを以て大正十二年横濱に移住し輸出漆器の製造を開始し幾何もなく産靖社を興し自ら社主となり現在に至る。

昭和九年 高松宮殿下工場へ御台臨の光榮に

河倉 義安

京都市左京區北白川 下池田町八八ノ一

特許第一〇三六二八號 織布の表面に特種塗層を構成せしむる方法

〔内容〕寒冷紗等織目著大なる織布の表面に化學的方法により特殊縮み皺を有する「セルロイド」の薄層を構成せしめ耐水性にして褪せざる類「リノリウム」製品たらしむる方法。

神谷 吉郎

京都府加佐郡新舞鶴町 字濱一五九

特許第一〇三六〇一號 塗料製造法

〔内容〕鉛化合物顔料と乾燥油とを充分混捏し之を水中にて煮沸し脂肪酸鉛を形成せしめ之を掬揚げ脱水し更に乾燥油を加へ其稠度を調整したるものにして貯藏中顔料が器底に沈降せず強靱なる塗膜を形成する塗料の製造法。

鹽田 三郎

東京府荏原郡入新井町 字新井宿一、一〇六

特許第九四一四二號 「フェルト」防水法

〔内容〕「フェルト」に稀薄糊料を吹掛け「ローラー」にて起毛を壓伏し次で獸皮革粉末に或る合成液を吹着け乾燥し更に硝化綿塗料を吹付け以て工程簡易に防水防塵防汚性を具有せしむる法。

田中隼人

東京府北豊島郡東郷町
大字上駒込三五

特許第九六〇一八號 電球着色用「ラッカー」

〔内容〕「トルオール」等の溶液に鹽化「マグネシウム」を「メチールアルコール」に溶解したるものを加へ之に耐熱顔料を混和することに依り電光熱に堪へ製作費低廉且經濟的有利の塗料を得る法。

田中健次

東京府中野區沼袋
北一丁目四七二

特許第九九〇八三號 肥料及「セメント」用袋製造法

〔内容〕廢棄護膜を加熱分解したる餡狀物に「タール」劑、樹脂等を加へ熔解混合せるものを紙布に塗布し貼合乾燥せしむる防水、耐酸、耐「アルカリ」弾力性に富める袋の經濟的製造法。

田郷政次

京都市上京區智
恵光院通上長者町
上ル須濱町五七一

特許第一〇三六〇九號 夏帽子防水法

〔内容〕特殊皮膜により紫外線を吸収せしむると同時に耐濕性たらしめ以て光線空氣及濕氣等の爲に帽體が變色せらるるを防止すると共に降雨水浴等に堪へしめたるもの。

田代爲一

小樽市花園町西
二丁目一九

特許第九九四四三號 繻材及繻塗裝法

〔内容〕繻面に塗裝物より成る繻を繻狀の骨格を

生ぜしめ油性被膜を支持し打抜操作卷縮操作其他の機械的加工の爲めに塗膜の龜裂剝離することを防止せしめたる方法。

高橋孝次

大阪府北區善源寺町
九丁目七〇

特許第九六一三七號 「フェルト」帽子製造法

〔内容〕縮絨せる「フェルト」帽體を「アルコール」溶液に浸漬したる後硝化綿「ラッカー」に蓖麻子油等と染料との配合物を吹附け以て防水及熱絶縁性に富み耐久力大なる帽子を廉價に得んとする法。

高橋竹二郎

富山縣婦負郡速星村
笹倉八八五

特許第一〇〇〇一三號 「アムモニア」酸化器内面塗裝法

〔内容〕硫酸「バリウム」等を珪酸「アルカリ」と水とを以て練り之を酸化器内面に塗裝し以て瓦斯體「アムモニア」の分解を防止せしめ經濟的に「アムモニア」の酸化作業を行はしむる方法。

武川新七

大阪府東區清水谷
西之町三六三

特許第一〇三九九一號 卓球「ラケット」用塗着劑製造法

〔内容〕卓球用「ラケット」に特殊の塗着劑を塗布し「ラケット」の破損並に乾燥を防止し同時に「セルロイド」製の「ボール」の横滑りを防ぎ且其破損をも減少ならしむる塗着劑の製造法。

長尾準之助

東京府南葛飾郡本田町
大字實木塚四〇五

特許第九五三三號 防水「フェルト」製造法

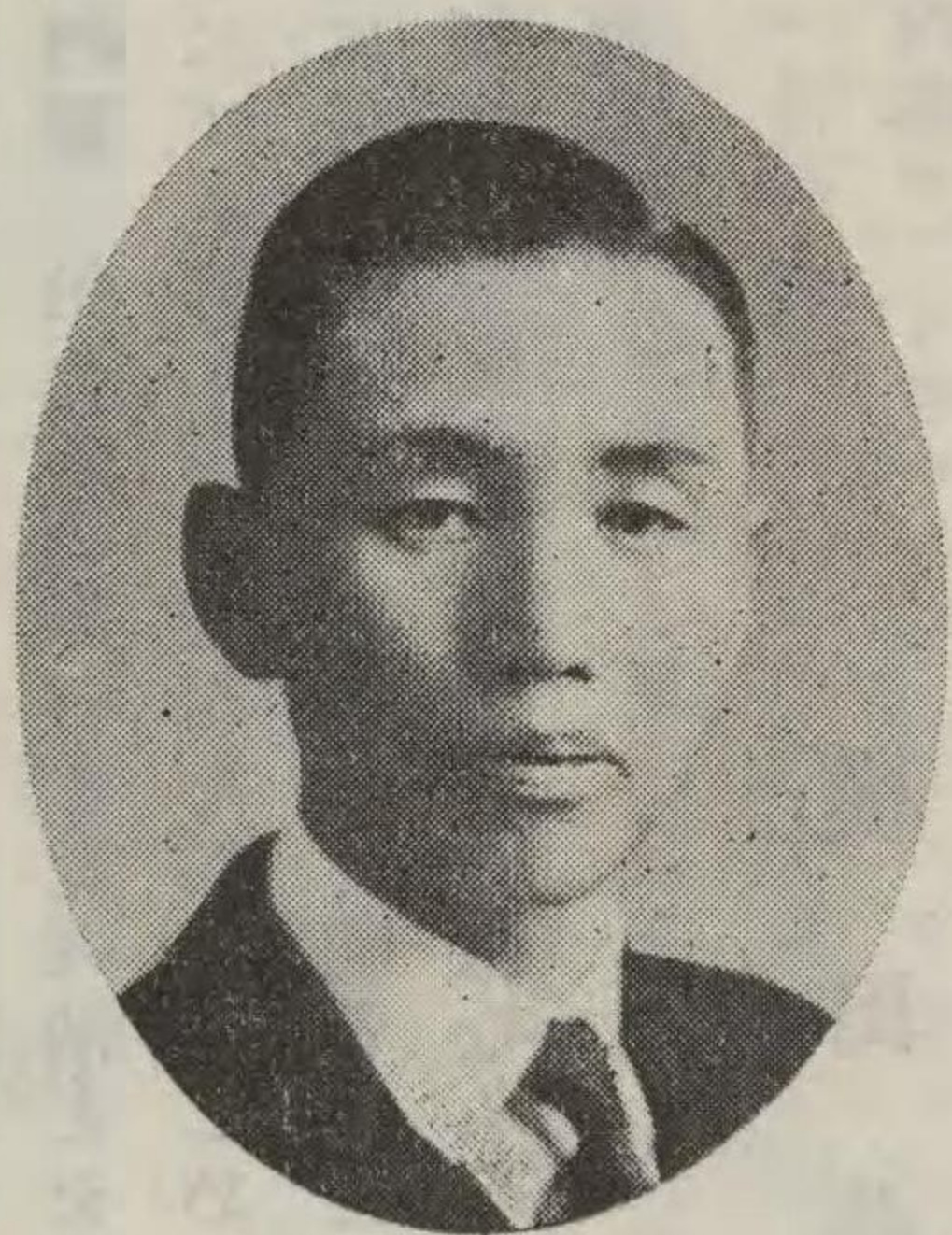
〔内容〕硼酸曹達及鹽化「コペルト」の混合液を乾性油と共に煮温し之に「ガイゼン」等を混合攪拌したる塗料を「フェルト」面に反復塗布し更に諸種の煮液を塗布し以て耐水柔軟性を附與する法。

竹内伸之

長野縣諏訪郡平野村
三七三五

特許第一〇二四六三號 壁用上塗塗料の製造法

〔内容〕廢物に等しき「ブレット」を利用し之を粉狀たらしめ塗抹し易く塗工後は弾力を有し保温性にして音響の反射透過を防ぎ外觀優雅なる色調を呈する室内壁の上塗に適する塗料の製造法。



所造製ルタメルタンエリオ
三芳村津
郡邊川縣庫兵
田新川稻村田小

特許第八八二八八號「オリエンタルメタル」

〔内容〕本品は嚴選せる最良の鋼鐵板を良く洗滌し高級アスファルト及び特殊耐酸耐火合成劑を以て之を被覆し、尙上層に防水塗料を施せるものにして其特徴は一、兩面アスファルト及び耐酸耐火合成劑の被覆層なるを以て酸類又はアルカリ類に作用せられず、二、オリエンタル葦は一坪の重量僅少なるが爲め荷重少く耐震なり、又積雪の被害を防ぎ凍水に依る傷害を受けず、三、アスファルト、アスペスト合成劑にて部厚く被覆せるを以て寒暑直接鐵板に感ぜず夏は太陽の炎熱を防ぎ冬は温度の發散を防ぎ、室内温度の一定を保ち得、四、壁體及び屋根に使用して内外の遮音をなす、五、耐酸材料耐火

久保田壽朗

東京府神田區鍛冶町六

特許第九五二二八號 斑紋現出方法

〔内容〕「カゼイン」及「ホーシヤ」の混合液に亞鉛華を混和して金屬面等に塗布し未乾燥の該面に色素の混合溶液及中膽等を散布して斑紋を現出せしめ更に諸物質を塗布することに依り美麗堅牢の斑紋を現出せしむる方法。

中川濱吉

大阪府北區澤上江町
一丁目一〇二

特許第一〇〇三六三號 粘着「テープ」製造法

防水材料の極厚なる被覆の上を塗布劑を施せるを以て液氣體の浸透を完全に防止す、六、不良導體なるが故に感電又は之による出火に災さるゝ事なし、七、特殊の獨創的加工をなしあるが爲め耐久力絶大にして切斷面繼合部鋸頭等の腐蝕する等のことなし。

長島銀藏

清水市入江町字大曲
二七九三

山本政信

特許第一〇三六〇九號 夏帽子防水法

〔内容〕特殊皮膜により紫外線を吸収せしむると同時に耐濕性たらしめ以て光線空氣及濕氣等の爲に帽體が變色せらるるを防止すると共に降雨水浴等に堪へしめたるもの。

田代 爲一

小樽市花園町西
二丁目一〇九
特許第九九四四三號 繻材及繻塗裝法

の酸化作業を行はしむる方法。

武川 新七

大阪市東區清水谷
西之町三六三

特許第一〇三九九一號 卓球「ラケット」用塗着劑製造法

〔内容〕卓球用「ラケット」に特殊の塗着劑を塗布し「ラケット」の破損並に乾燥を防止し同時に「セルロイド」製の「ボール」の横滑りを防ぎ且其破損をも防止せしむる塗着劑の製造法。

長尾 準之助

東京府南葛飾郡本町田
大字寶木塚四〇五

特許第九五三二號 防水「フェルト」製造法

〔内容〕硼酸曹達及鹽化「コバルト」の混合液を乾性油と共に煮沸し之に「ガイゼン」等を混合攪拌したる塗料を「フェルト」面に反復塗布し更に諸種の煮液を塗布し以て耐水柔軟性を附與する法。

長島 銀藏

清水市入江町字大曲
二七九三

特許第一〇三三〇一號 防弾を目的とする塗裝法

〔内容〕特殊滑性を有する粉末を塗料「ベヒクル」に含有せしめて下塗りとなし之に不揮發性溶解劑及「テテアリン」酸等を有機性溶解劑に溶解せしめたる塗料を塗布せしめたる防弾塗裝法。

植村 榮一

名古屋市中區上通町
北一丁目一五

特許第九九一九號 防水麥稈帽の製造方法

〔内容〕麥稈帽子の表面に特殊藥品及「セルロイド」溶液を塗抹して防水及感光に依る變色を保護し耐久使用に適せしめたる製造法。

野村 勝三郎

東京市芝區芝浦町
二丁目三

特許第九七七八〇號 「フェルト」草履裏製造法

〔内容〕乾燥油に硼酸滿庵及密陀僧を煮詰めたるものと膠液及「アルカリ」の混合物を加へて草履用「フェルト」面に塗布し次で樹脂質物に或物質を添加したるものを該面上に塗布し以て防水性層を形成せしむる法。

久保 田壽朗

東京市神田區鍛冶町六

特許第九五二二八號 斑紋現出方法

〔内容〕「カゼイン」及「ホーシヤ」の混合液に亞鉛華を混和して金屬面等に塗り未乾燥の該面に色素の混合溶液及中膽等を散布して斑紋を現出せしめ更に諸物質を塗布することに依り美麗堅牢の斑紋を現出せしむる方法。

山本 政信

名古屋市中區新榮町
三丁目三二

特許第一〇二六三〇號 夏帽子防水塗料の製造法

〔内容〕夏帽子の主體に極めて薄き強靱なる防水性皮膜を生ぜしめ其の壓ふべき光澤を全く除去せしめたる「エチール」纖維素等を主劑となしたる特殊防水塗料の製造法。

山中 寅之助

大阪市住吉區山王町
二丁目六三

特許第九六九四八號 壁塗裝用糊料製造法

〔内容〕動、植物性蛋白質に中性金屬鹽溶液及「ラテックス」を混和粘塊とし之に醋酸「エチール」、エステル等を加へて粘稠度を調節し以て保存及使用容易にして粘着防水性に富む糊料を得んとする法。

福王 孝滿

東京市大森區新井宿
五丁目一五二

特許第一〇三八四六號 塗料製造法

〔内容〕南洋產薔薇科植物の實より採取せる油脂を主

防水材料の極厚なる被覆の上を塗布劑を施せるを以て液氣體の浸透を完全に防止す、六、不良導體なるが故に感電又は之による出火に災さるゝ事なし、七、特殊の獨創的加工をなしあるが爲め耐久力絶大にして切斷面繼合部銕頭等の腐蝕する等のことなし。

中川 濱吉

大阪市北區澤上江町
一丁目一〇二

特許第一〇〇三六三號 粘着「テープ」製造法

〔内容〕和紙の一面に「ホルマリン」を塗り乾燥前に該面に膠の水溶液を塗布し貼着後切斷剝離することなき粘着「テープ」の製造法。

中川 三郎

東京市芝區新橋
四丁目四四

特許第一〇〇四一八號 固形漂白「シエラック」風化防止方法

〔内容〕固形漂白「シエラック」を木精にて處理し長期貯藏に耐へしめたる方法。

中澤 壽太郎

群馬縣吾妻郡六合村
字生須七

特許第九五九一九號 防水劑製造法

〔内容〕硫酸「ナトリウム」に醋酸銅及醋酸亞鉛を加へたる溶液に稀硫酸を加へ以て防水耐酸性に富み且漏水防止作業を敏速に遂行し得る防水劑を得んとする法

要原料とし之に乾燥性植物油及天然樹脂を混じ必要に
應じて乾燥劑を加へて稀釋したるものにして乾燥迅速
にして附着力強く且つ電氣絶縁性高く酸「アルカリ」
礦油等に耐へる塗料の製法。

松尾利作

關東州大連市柳町五三

特許第九五二一一號 大豆及大豆粕蛋白を主成分とす
る床塗材料

〔内容〕大豆又は大豆粕を乳状とし硝酸「カリウム」等
を注加煮沸したる後諸物質を注加練合し更に滑石粉末
等を混合し弾力耐水及光澤に富み強靱なる凝固層を形
成せしむる塗料。

松本孝

大阪市東成區
中濱町二四三

特許第一〇一九二三號 鉛又は鉛合金製押出「チユ
ー」塗裝法

〔内容〕「チユー」基礎の表面に特殊化學的塗裝を施
し使用に際し軟質にして皺歪を生ぜず内容物を最後まで
で押出し得せしめ且つ堅牢にして美麗ならしめたる塗
裝法。

矢澤次郎

東京市日本橋區
元柳町二二七

特許第九六一〇五號 石灰窒素並に「セメント」用紙布
製造法

〔内容〕五倍子等の抽出液に珪粉を混溶し更に動植
物纖維を混入して之を布袋に塗布し且飽和石灰水中に
浸漬することに依り珪粉を紙布の纖維間に浸透せし
むる珪粉の塗布を要する法。

齋藤國榮

東京市豊島區西巢鴨
堀ノ内一五五

特許第九九三一一八號 「エナメルペンキ」と「デキスト
リン」にて各種浮出模様並に縮
花模様を顯はす法

〔内容〕「エナメルペンキ」と顔料との粗質を「テレピ
ン」油にて薄め物體に梨子地塗をなし半乾燥中熱湯に
て溶きたる「デキストリン」を塗布し其乾燥收縮により
浮型模様を呈し後特殊仕上工程をなす簡單廉價なる顯
出法。

牧野善藏

東京市品川區
大井南濱川町一七三七

特許第一〇一七六一號 硬質焼付塗料製造法

〔内容〕琥珀等の化石樹脂を特殊藥劑により作用せし
めて金屬又は陶磁器等に焼付け耐酸耐熱耐油耐「アル
カリ」及び電氣絶縁の各性能を具備せしめたる硬質焼
付塗料の製造法。

岩崎一高

松山市若宮町三二

深川庫造

東京市本郷區
本郷五丁目三八

特許第一〇三〇六五號 防水防蝕性塗料製造法

〔内容〕特殊生成重合炭化水素を主成分としたる乾燥
時間短く然も長く光澤を失はず密着性強く且つ温度上
昇に依り直に軟化することなき防水及金屬防蝕性塗料
の製造法。

兒玉八郎

滿洲國撫順南臺町
三丁目九ノ二

小中義美

滿洲國撫順南臺町
一丁目四ノ六

特許第一〇二九七七號 石灰と混合して産する琥珀類
精製法

〔内容〕石灰混合の琥珀炭より琥珀本來の光澤と堅さ
とを保持し淡色透明にして化學藥劑並に風化に對し極
めて抵抗力及耐久力強く塗料其他の原料として好適な
る琥珀の化學的精製法。

添加せる塗料を塗布し其溶劑を揮散して表面に
柔軟性の皮膜を形成したる理想的のものなり。
〔略歴〕氏は明治二十一年徳島縣橋町の出身、
大正六年上阪して麻袋商を經營す。偶々防水用
包装紙の必要を痛感し種々研究の結果昭和二年
本製造方法を發明して特許を得、爾來不斷の研
究を續けて特許權十一件、新案權三件を獲得し
今尚リノリユームの研究に没頭し之が實用化に
苦心され、現在特許四件を實施して包装界に活
躍し需要家の絶讃を博しつゝあり。

遠藤小逸郎

川越市大字川越
一六九七

特許第一〇一九九三號 特殊「グルトール」膜の被着方
法

〔内容〕「ポログリセリド」を以て處理し透明且つ強
靱なる非膜の形成によりて物體面を被包保護せしむる
方法。

雨宮良孝

東京市澁谷區原宿
二丁目一七〇

特許第一〇〇四四一號 纖維素塗料の製造法

〔内容〕金屬水酸化物を吸着せしめたる纖維素「エス
テル」又は纖維素「エーテル」を使用するを特徴とす
る被覆力、抗張力、附着力及び防錆力等に富み且つ耐
久力の大なる塗料の製造法。

北風勝次郎

東京府北豐島郡
板橋町中九四九七

特許第九五五七九號 皮革及織物防水塗料製造法

〔内容〕「ニトロセルローズ」を有機性溶劑にて處理し
之に「グリセリン」及樹脂酸の混合物を添加煮沸し更
に或る溶液を添加して重合作用を起さしむることによ
り滲透吸収性ある塗料を得んとする法。

由井覺郎

東京府北豐島郡長崎町
西向二八〇六

特許第一〇〇四六四號 固着せる油繪具の剝離劑

〔内容〕古油繪畫布に固着せる油繪具を其地質を損す
ることなく迅速に洗滌除去せしめ再生使用し得せしむ
る特殊の油繪具剝離劑。

鈴木守幸

大阪府大正區三軒家町
一丁目九十五番地

特許第一〇一五〇八號 噴霧塗裝に於ける網目
利用による美術模様表
現法

〔内容〕本發明は金、銀、竹等にて作りたる網
目狀物體に膠又は「ゼラチン」の水溶液を用ひて
重々の模様を畫き乾果としめて其の模様を皮膜

混合し以て塗層剝離に適し且引火の虞無く「スプレー」
使用にも適せしめたる塗料剝離劑。

装法。

矢澤 弦次郎

東京市日本橋區
元柳町二一七

特許第九六一〇五號 石灰塗料に「セメント」用紙布
製造法

〔内容〕五倍子等の抽出液に蒟蒻粉を混溶し更に動植物纖維を混入して之を布袋に塗布し且飽和石灰水中に浸漬することに依り蒟蒻粉を紙布の纖維間に浸透せしめ、乾燥後に紙布を得る法。

小 中 義 美

滿洲國無順南臺町
三丁目九ノ二
滿洲國無順南臺町
一丁目四ノ六

特許第一〇二九七七號 石灰と混合して産する琥珀類
精製法

〔内容〕石灰混合の琥珀炭より琥珀本來の光澤と堅さとを保持し淡色透明にして化學藥劑並に風化に對し極めて抵抗力及耐久力強く塗料其他の原料として好適なる琥珀の化學的精製法。

由 井 覺 郎

東京府北豐島郡長崎町
西向二一八〇六

特許第一〇〇四六四號 固着せる油繪具の剝離劑

〔内容〕古油繪畫布に固着せる油繪具を其地質を損することなく迅速に洗滌除去せしめ再生使用し得せしむる特殊の油繪具剝離劑。

之に「グリセリン」及樹脂酸の混合物を添加煮沸し更に或る溶液を添加して重合作用を起さしむることにより滲透吸収性ある塗料を得んとする法。

〔内容〕本發明は金、銀、竹等にて作りたる網目狀物體に膠又は「ゼラチン」の水溶液を用ひて種々の模様を畫き乾燥せしめて其の模様を皮膜として網目上に張らしめて作りたる塗料及有機溶劑に不溶性にして侵されざる模様付網目狀物體を、豫め適當の塗料にて下塗を施したるもの、上に重ねて其上より下塗と同色又は異色の塗料を噴霧方法により塗布したる後直に網目狀物體を除去し乾燥せしめて種々の物體面に「レース」式の模様を表現せしむる方法にして、從來噴霧塗裝方法によりては殆んど不可能なりし精密且美麗なる「レース」式の美術模様を網目狀物體の利用により頗る簡単に表現せしめ得可からしめたるものなり。

鈴 木 守 幸

大阪府大正區三軒家町
一丁目九十五番地

特許第一〇二五〇八號 噴霧塗裝に於ける網目
利用による美術模様表
現法

〔内容〕本發明は金、銀、竹等にて作りたる網目狀物體に膠又は「ゼラチン」の水溶液を用ひて種々の模様を畫き乾燥せしめて其の模様を皮膜として網目上に張らしめて作りたる塗料及有機溶劑に不溶性にして侵されざる模様付網目狀物體を、豫め適當の塗料にて下塗を施したるもの、上に重ねて其上より下塗と同色又は異色の塗料を噴霧方法により塗布したる後直に網目狀物體を除去し乾燥せしめて種々の物體面に「レース」式の模様を表現せしむる方法にして、從來噴霧塗裝方法によりては殆んど不可能なりし精密且美麗なる「レース」式の美術模様を網目狀物體の利用により頗る簡単に表現せしめ得可からしめたるものなり。

池 田 菊 苗

東京市麴町區富士見町
五丁目十六番地

特許第九六七四號 耐酸塗料製造法

〔内容〕「ウルシオール」に硫黄を加へ高熱に依り化學的に結合せしめて泥狀の耐酸塗料を製造する方法。

城 野 貞 藏

佐賀縣神埼郡仁比山村
大字志波屋三二八五

特許第九五二七八號 油引和傘其他油引紙に於ける粘
着防止液製造法

〔内容〕豆精を布袋にて搾過し以て防腐劑を混和して乳酪狀となし之に丹礬を加へて粘着防止液を得る法。

瀨 川 民 藏

東京市麻布區護国一

特許第一〇三六二六號 腐刻用防蝕塗料

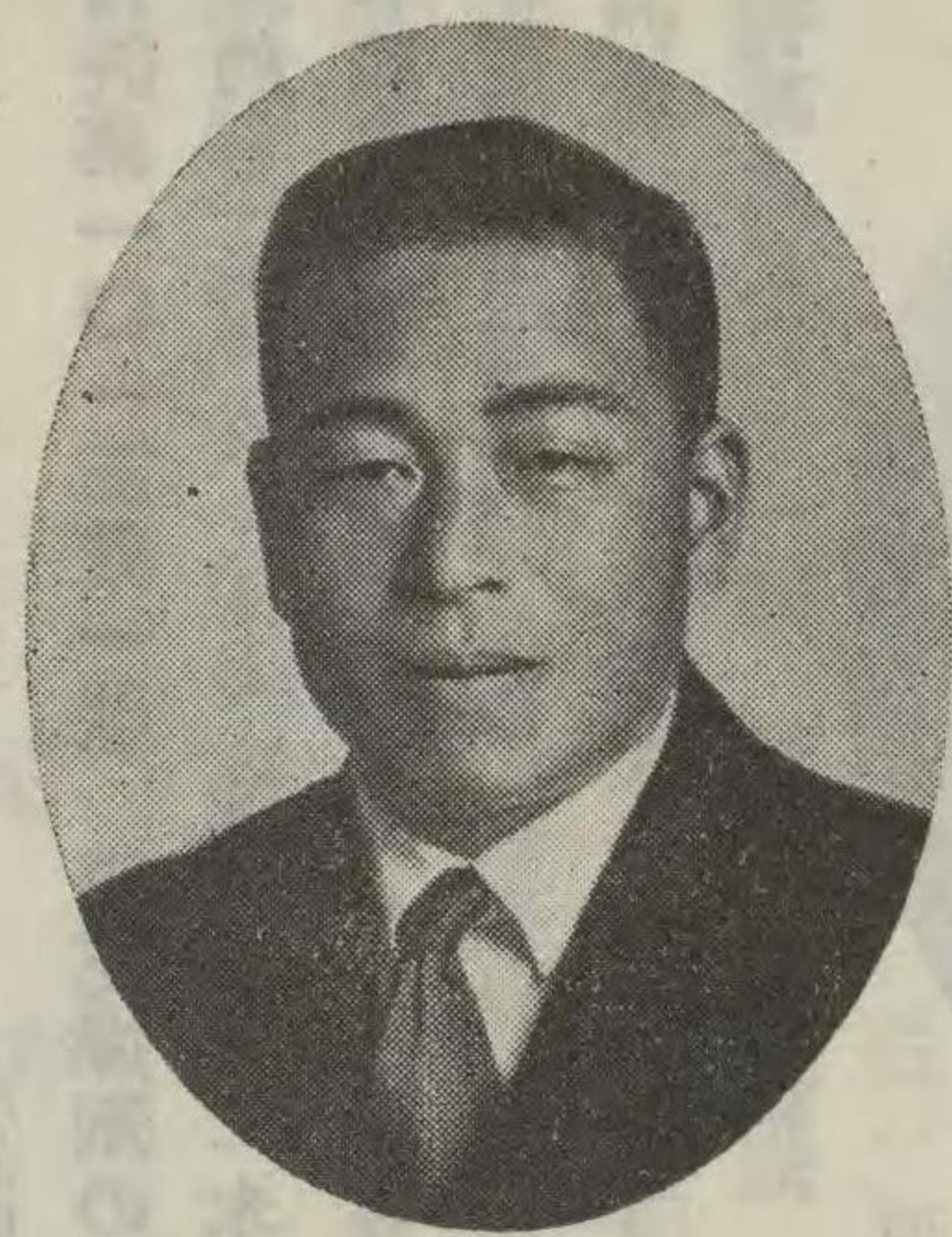
〔内容〕白蠟と少量の黃蠟及び「アスファルト」と微量の轉寫「インク」とを融合したるものにして確實鮮明なる腐刻を容易に行ひ得る防蝕塗料。

須 々 木 春 吉

東京市豐島區西巢鴨町
大字巢鴨三四五〇
佐藤 虎 雄 方

特許第九六八二四號 塗料剝離劑

〔内容〕四鹽化「エタン」を主劑とし之に醋酸纖維素を



島 尾 由 松

大阪府堺市
大正九丁目三十九番地

特許第七二二〇號 包装用改良ターポリン紙
の製造方法

〔内容〕從來の包装用ターポリン紙はアスファルト・ピッチ類をヘシアン・クローズの表面に塗布し防水性となせるも其塗布資料が屈撓性に乏しく比較的低き溶融點を有するが故に、使用中龜裂を生じて防水の用をなさざるのみならず其塗布料は剝離又は粉碎せられ易き等の缺點あり然るに本發明は表面にゴムの皮膜を形成したると同様な効果を有し容易且つ經濟的に製造する方法にして、特殊の溶液に或種の柔和資料を



行漆橋大社
一 嘉 橋
町江生區市
地番三十

特許第七六七八一號 焼付漆
同 第八四六三二號 焼付エナメル
同 第九四一一二二號 漆模様顯出法
〔内容〕 焼付漆は脱水和精製せる漆に石炭酸、
「クレゾール」、「カーバクローラ」、「チモール」又
は「ブチル」等を混合し、その如き「フエノ」
弾性「ゴム」液を混和することに依り透明淡色となし光
澤ある堅牢なる弾性を有する漆を製造する方法。

資會社に組織を變更して現在に至る。
元來漆の焼付塗裝の方法は種々なる缺點を有
するの外皮膜の厚薄は如何とも避け難き問題に
屬す、氏は深く之を遺憾とし多年苦心研究を重
ねたる結果遂に本發明を完成せられたるものに
して之が製造販賣を開始すると同時に焼付塗節
工場を併置するに至る、爾來各方面に其眞價を
認められ工場を東京に新設し東西相俟ちて業務
の發展を謀り益々一般工業界の要求を満足せし
むるの情勢となれり。

〔内容〕 「タピオカ」の粉末に適量の水を加へ溶解後加
熱攪拌し冷却を待ちて柿澁又は「タンニン」液の適量及
防腐劑少量を練合せたるものにして腐敗の恐なき安價
なる漆器下地塗料を製造する方法。
特許第九七六九七號 漆の改良製造法
〔内容〕 漆液及「フォルムアルデヒド」に「ユレヤ」又は
「フエノ」等を混合し、その如き「フエノ」
る工程と「アスファルト」、「ピッチ」又は「コールド
ル」の溶解したるものを吹付ける工程との結合により
塗裝を施工し得る方法。

衣川隼男

石川縣鳳至郡
輪島町字河井町
二部八十六番地

特許第一〇〇九〇九號 乾漆粉の代用品製造法

〔内容〕 貯桶内上部の生漆液を濾過して得る殘滓と顔
料とを混じり搗搗機に掛け搗潰し容器内に收容乾燥せし
め粉砕機に掛けて製造する方法。

三輪田勝太郎

名古屋市中區矢場町
三ノ切二十四番地

特許第九九六一號 練硯硯製造法

〔内容〕 水銀と硫黄を混合加熱し之を炭酸「カリウム」
の溶液と共に煮沸し吸引濾過法に依り脱水乾燥し可及
的微細粉末に精製し亞麻仁油を噴霧器にて噴出せしむ
る等の工程に依り製造する方法。

志方益三

京都市左京區
吉田本町五番地

六角注多良

東京市小石川區
久堅町七十四番地

福渡七郎

東京市本郷區駒込
神明町三五一番地

特許第一〇一八二二號 泥炭又は「ツンドラ」より製造
したる人造板の添加工法

〔内容〕 泥炭又は「ツンドラ」若くは之等に動植物纖維
及膠着劑を加へて製造したる人造板に對し漆溶液を滲
透せしめて乾燥せしめ以て建築電氣工藝用の諸材料と

星野吉人

神奈川縣鎌倉郡鎌倉町
塔ノ辻二百六番地

特許第九九三二八號 鎌倉彫塗漆法

〔内容〕 彫刻様に下塗中塗を施し朱合漆を塗布し朱蒔
を行ひたる表面に特に生漆と「ラッカー」とを交互に
塗布し仕上げ作業をなして剝落する憂なき優雅なる耐久
性漆塗面を形成せしむる方法。

米倉佐右衛門

東京市淺草區
壽町十八番地

特許第一〇一六一三號 皮革下地漆器製造法

〔内容〕 檜、樺、桐其他の木質より成る様に薄き皮革
を下地として貼付し泥土と漆とを混和したる下地を塗
付けて剝落及型態の狂を防止し美術的製品の製造を簡
單ならしめたる法。

黒岩貞重

東京市京橋區
月島東仲町通
五丁目七番地

特許第一〇三三九五號 塗漆方法

〔内容〕 原料粘土の乾燥粉末又は焼成粉碎したる細粉
末と漆液若くは漆の稀釋用溶劑にて稀釋したる液とを
混じ之を金屬製生地面上に塗布し塗布面の加熱乾燥を
行ひ凝固塗膜を得る方法。

遊部外次郎

金澤市彦三八番丁
十一番地

特許第九五八七八號 混凝土様塗漆方法

〔内容〕 混凝土其他之に類する物質を以て様を形成す

澤口悟一

東京府北豐島郡
瀧野川町上中里
百十五番地

特許第九四五〇五號 麥稈眞田を原料とせる漆器製造
法

〔内容〕 麥稈眞田を「セラチン」溶液内に浸漬して硬め之
を乾燥し蒸氣盤にて押壓し之に漆加工を施し堅牢にし
て頗る雅致に富む漆器製品を得る法。

鹽田重吉

香川縣仲多度郡
琴平町二百十九番地

特許第九四八八八號 漆を以て美術彫刻模様を表現
する方法

〔内容〕 任意の模様を型取れる原紙面に漆を塗着乾燥
せしめて更に下地漆を塗着して諸種の器物に貼着し原
紙を剝取り模様を器物に表現せしむる方法。

廣瀬俊雄

山梨縣東八代郡石和町
字市部千三十番地

特許第九五一一四號 耐酸容器及器具

〔内容〕 適宜成形せる浮石材に多數の孔を穿ち漆液と
浮石粉末とを混捏充填し塗布透せしめ以て高熱高壓
に遭ふも毀損する憂なく耐久性大ならしめたる容器。

仁科遠平

東京府荏原郡黒町
大字中目黒八三三

特許第九五八八八號 膠を粉末とする方法

〔内容〕 膠に澱粉を混して破碎することに依り速に溶

今井壽雄

福井市毛矢町百七番地

特許第九五八八八號 膠を粉末とする方法

〔内容〕 膠に澱粉を混して破碎することに依り速に溶

解すべき粉末膠を得る方法。

市川榮次郎

名古屋市東區千種町
高見三十七番地四十號

特許第九九五五號 木材接着劑

〔内容〕大豆粉其儘を主劑とし消石灰曹達灰及無水硅酸曹達の混合粉末を加へ水に溶解して泥狀となし「カナダバルサム」の二硫化炭素溶液を加へ混練して優良なる接着劑を廉價に得る方法。

伊藤保人

東府豊多摩郡
落合町大字下落合
一六三七番地

兼子三郎

東京府南足立郡千住町
橋戸町七二番地

特許第九八三四號 皮革接着法

〔内容〕硝化纖維素又は「セルロイド」の有機溶媒による溶液を無水醋酸に混用し皮革を接着確實ならしむる方法。

濱本芳友

大阪市住吉區北田邊町
八七五番地

林菊巖

大阪市東成區北生野町
一丁目六三

特許第九五一〇號 粒狀膠の製造法

〔内容〕膠液を流動「パラフィン」と動植物油との混合液中に滴下して凝固せしめ使用に便なる粒狀膠を製造する方法。

ルテハイド」及石炭酸の適量を混じたるもの及膠質糊に適量の樹脂石鹼を混じ表面に塗布し壓搾乾燥して接合せしむる製造法。

佐藤定吉

東京市淀橋區下落合町
一丁目四八二番地

特許第九九七五七號

纖維質を「コロイド」化して製したる植物性耐水膠製造法

〔内容〕大豆粕其他の植物性蛋白質含有物質粉末中の纖維質を「アルカリ、クサンテート」を除外したる他の化學的試薬にて膠狀化することに依り優良強大なる接着

吉富英助

關東州大連市月見ヶ岡
六一三ノ一

館昌次

關東州大連市聖徳街
一丁目一七二

特許第九五五〇號 目張用糊液

〔内容〕「アラビヤゴム」及「トラガントゴム」と澱粉を水に溶解せる粘着性溶液に特殊なる藥品を配合し窓其の他の目張に使用して自然に剝離する等の憂なからしめたる糊液。

中島顯三

清水市入江
一四四〇番地ノ三

鎌田寅八

清水市入江
受新田一五八番地

特許第一〇二六六二號 「カゼイン」又は植物性蛋白質物を主劑とする方法

〔内容〕「カゼイン」膠着劑又は植物性蛋白質物を主劑とせる膠着劑に「アルカリ」性溶液に於て紫色又は紫青色を呈する物質か又は銅鹽を添加して蛋白質の「ピウレット」反應を呈せしめ殆白色なる膠着液を得る方法。

前田榮三郎

東京市淺草區向柳原町
一丁目十七番地

特許第一〇二九〇九號 粉末膠製造法

〔内容〕板狀の膠又は「ゼラチン」を燒焦せしむることなく直火を以て加熱膨脹せしめて多孔質となし粉碎して貯蔵することなき使用に便なる粉末膠を得る製造法。

特許第九七〇二八號 無色透明なる接合劑の製造法

〔内容〕二三種の混合液を尿素にて溶解なし加熱して鹽化「ナトリウム」を加へ適當な濃度となし「グリセリン」を混じて成る接合劑の製造法。

高橋立生

東京市本郷區元町
二丁目六十六番地

村川重郎

神戸市川西通リ一丁目
三番地村川化學研究所

特許第九六一二六號 高温用糊料製造方法

〔内容〕高温度に於て乾性又は半乾性油に加硫「ゴム」

前島保

長崎市稻佐町三丁目
七十九番地

特許第九五六三三號 蘭科植物石斛より「アラビヤゴム」と其の性質同一なる物質を製造する方法

〔内容〕石斛屬植物より水を以て「ゴム」質を浸出し「アルコール」其の他類似の有機性溶劑を注加して沈澱する「アラビヤゴム」と性質同一なる物質を製造する方法。

深谷辰次郎

東京市本郷區駒込
西片町十番地にノ二七

特許第一〇三七六〇號 接着劑製造法

〔内容〕卵白に「アムモニア」水、酸化「ナトリウム」及「カルシウム」の如き「アルカリ」及「セメントダスト」を添加密和して變質、腐敗の虞なき耐久的なる接着劑を製造する法。

北島信夫

大阪市住吉區田邊本町
六丁目三十八番地

特許第九五一一號 粒狀膠の製造方法

〔内容〕濃縮膠液を恆壓の空氣又は蒸氣を以つて大氣中に噴出して微粒狀に分裂せしめ冷却液中に沈下固結せしむるものにして噴出速度を適當に調整することにより任意の粒狀膠を簡單に多量製造し得る方法。

品川秀三

小樽市緑町五丁目
官地十六號

特許第一〇〇一五一號 「ベニヤ」板製造法

〔内容〕原料板の接合する兩面に海苔糊に「セルム

水田政吉

東京市麩町區丸ノ内
三丁目四番地
日本石油株式會社内

中村安太郎

新潟市沼垂町
四百七十七番地
日本石油株式會社内

特許第九四七三二號 耐油耐水性接合劑

〔内容〕酸化鉛「セメント」消石灰鐵粉の混和物に「グリセリン」を加へ捏和して糊狀となし油類等の漏洩防止劑又は封蝕劑として仔齒なる接合劑。

濱本芳友
大阪市住吉區北田邊町
八七五番地

林菊巖
大阪市東成區北生野町
一丁目六三

特許第九五一一〇號 粒狀膠の製造法

〔内容〕膠液を流動「ペラフィン」と動植物油との混合液中に滴下して凝固せしめ使用に便なる粒狀膠を製造する方法。

とせる膠着劑に「アルカリ性溶液に於て紫色又は紫青色を呈する物質か又は銅鹽を添加して蛋白質の「ビレット」反應を呈せしめ殆白色なる膠着液を得る方法。

前田榮三郎
東京市淺草區向柳原町
一丁目十七番地

特許第一〇二九〇九號 粉末膠製造法

〔内容〕板狀の膠又は「ゼラチン」を燒焦せしむることなく直火を以て加熱膨脹せしめて多孔質となし粉碎して貯蔵することなき使用に便なる粉末膠を得る製法。

高橋立生
東京市本郷區元町
二丁目六十六番地

特許第九七〇二八號 無色透明なる接合劑の製造法

〔内容〕二三種の混合液を尿素にて溶解なし加熱して鹽化「ナトリウム」を加へ適當な濃度となし「グリセリン」を混じて成る接合劑の製造法。

村川重郎
神戸市川西通り一丁目
三番地村川化學研究所

特許第九六一二六號 高温用糊料製造方法

〔内容〕高温度に於て乾性又は半乾性油に加硫「ゴム」を溶解すると同時に油の重合を行はしめ「フェノール」性物質を溶解して特種の油性糊料を製造する方法。

坂間政治
東京市四谷區
愛住町二十番地

特許一〇一〇五二號 接合劑の製造法

〔内容〕「グリセロールフタレート」縮合人造樹脂と「ヴィニールアセテート」重合人造樹脂とを復合せしめたるものを主體とし「ケント」類と芳香屬炭化水素と「アルコールエステル」とより成る優透なる接合劑の製法。

金澤勝之助
東京府豊多摩郡
千駄ヶ谷町
大字千駄ヶ谷

特許第九六四八〇號 自動糊精製造装置

〔内容〕鋸齒狀に切截せる板面に刷毛を「クランク」作用に依り摺動せしめ原料を磨碎落下せしめ藥液を噴射

特許第九五一一一號 粒狀膠の製造方法
〔内容〕濃縮膠液を恆壓の空氣又は蒸氣を以つて大氣中に噴出して微粒狀に分裂せしめ冷却液中に沈下固結せしむるものにして噴出速度を適當に調整することにより任意の粒狀膠を簡單に多量製造し得る方法。

品川秀三
小樽市緑町五丁目
官地十六號

特許第一〇〇一五一號 「ベニヤ」板製造法

〔内容〕原料板の接合する兩面に高粘着性「セラム」をせしむる装置。

水田政吉
東京市麩町區丸の内
三丁目四番地
日本石油株式會社内

中村安太郎
新潟市沼垂町
四百七十七番地
日本石油株式會社内

特許第九四七二二號 耐油耐水性接合劑

〔内容〕酸化鉛「セメント」消石灰鐵粉の混合物に「グリセリン」を加へ捏和して糊狀となし油類等の漏洩防止劑又は封緘劑として好適なる接合劑。

田中謹治郎
東京府北豐島郡
瀧野川町西ヶ原
百四十六番地

江端鈴之助
東京府荏原郡目黒町
大字下目黒
五百三番地

特許第九五二六〇號 貼着紙

〔内容〕乾燥油紙の一面に金屬箔を貼着し「ゴム」樹脂不乾燥油等より成る防水性及密封性を利用したる貼着紙。

小島八朔
大阪府豊能郡箕面村
大字新稲
六百九十七番地ノ二八

特許第九六八〇四號 粘着性を増大し歪曲を防止せる貼着紙

〔内容〕摺接移動する事に依り膠着料塗層表面に微細

ルテハイド」及石炭酸の適量を混じたるもの及膠質糊に適量の樹脂石鹼を混じ表面に塗布し壓搾乾燥して接合せしむる製造法。

佐藤定吉
東京市淀橋區下落合町
一丁目四八二番地

特許第九九七五七號 纖維質を「コロイド」化して製したる植物性耐水膠製造法

〔内容〕大豆粕其他の植物性蛋白含有物質粉末中の纖維質を「アルカリ、クサンテート」を除外したる他の化學的試薬にて膠狀化することに依り優良強大なる接合劑を得る製法。

下田忠次郎
東京市品川區上大崎
二丁目五三九番地

特許第九八〇三三號 糊精の製造法

〔内容〕澱粉を微量の「モリブデン」又は「バナジン」若くは此等のものの化合物の一種を添加したる硝酸を以て加熱せしめ糊精に變成して粘着力強き糊精を短時間に製造し得る方法。

谷口萬吉
鹿児島縣川邊郡萬世町
大崎六〇四七番地

特許第九五三三四號 接着劑

〔内容〕一定量の烏鷄を加熱沸騰しつつ植物油或は鑛物油中加入攪拌し封蠟を適量混和粘稠となりたる液に「セメント」と細砂を混和して成る接着劑。

無數の龜裂を付與してなる粘着性を増大し曲歪を防止し溶解粘化を完全ならしめ長期の貯藏にたへ得る貼着紙。

小西實太郎

東京市澁谷區公會堂通
十九番地
内海化學研究所内
東京市芝區
三田綱町四番地

特許第一〇〇二九五號 接着劑の製造方法

〔內容〕廢棄硫化護膜を苛性「アルカリ」液に浸漬加熱し、亞麻仁油或は同効の油脂を加へ更に加熱して生じたる粘稠性物質を瀝青質物及樹脂と混じ揮發性溶劑を加へ顔料を混じて防錆力強き接着劑の製法。

齋藤定藏

東京市品川區五反田
二丁目三六五番地
株式會社
高田船底塗料製造所内

特許第九八四四九號 「リノリウム」接合劑

〔內容〕天然樹脂及人造樹脂を加熱し「クレゾール」其他芳香屬類に溶解化合せしめ酒精又は木精にて稀釋したる「リノリウム」接合劑。

矢代義郎

東京市芝區白金志田町
二十六番地

特許第九四二〇五號 燐寸摩摺料製造方法

〔內容〕樹脂及桐油の混合物に「セレンニウム」又は「マニガン」其他の混合物を攪拌し高温にて水硝子を作

平の粒片となし乾燥後分し「ローラ」にて壓延し物理的操作により優秀なる無煙火藥を製造する法。



故

下瀨雅允

特許密、下瀨火藥

せしめてなる結合力強き燐寸摩摺料の製造方法。

安東千代一

大阪市北區曾根崎
上四丁目二十二番地

特許第九七七二八號 帶狀燐寸容器

〔內容〕着火劑及二個の彈性板に彈性挾持を設け牽引口を通して切斷線及發火劑を穿設してなり連續的に使用するも他の燐寸片に引火することなき安全なる容器

平尾鐵工所

平尾伊之吉

大阪市東區
十二軒町四番地

特許第九九〇六號 燐寸軸配列器

同 第一七〇五八號 燐寸軸剝機
同 第二六八一七號 燐寸軸剝機

〔內容〕燐寸軸剝機は臺架の上に木質に依て剝取用刃先を俯仰自由ならしむべき構造を備へ、尙木材が漸次剝取せられて減少するに従ひ次第に之を接する様刃先を移動して最後まで一定の厚さに剝取し得る装置と、木質の硬軟に依つて刃先移動の度を大小適宜に調節せしむべき装置及び之に傳動すべき各關連裝置を組合せたるものにして、木質の如何に不拘迅速に一定の厚さに剝取し得る効果を有す。

〔略歴〕氏は舊高松藩士、明治元年の出生、同二十年來阪して其燐寸機械工場に入り數年間鋭意業務に精勵し修得する所あり、同二十五年燐寸製造機の發明に着眼し苦心研究の結果之を完成し、同二十八年獨立して平尾鐵工所を創業す

病を以て長逝せらる。

石田榮

東京府豊多摩郡杉並町
大字天沼五二二番地

榎村長

東京府北豐島郡
日暮里町字谷中本
一ノ四六番地

特許第九七九六四號 爆藥

〔內容〕硝酸「ニトロゲン」に防濕兼補燃劑を添加したる安全なる爆藥。

夙に燐寸機械製造者として名聲高きのみならず近來工作機械製作者としても其製品の優秀なる定評を贏ち得るに至るも、歐洲大戰勃發後初めて工作機の製作に手を染めたる當時は未だ表面的活躍をなすに至らず、僅かに舊若山鐵工所の依頼品の製作をなすのみ、只管優秀機の製作に向つて精進し、傍ら諸官廳學校方面に眞摯なる進出を試みたるに過ぎざりしが、漸次需要家の認むる所となり終に現在の盛業を見るに至りしものなり。然も燐寸製造機械は各種博覽會に出品して受賞枚舉に遑なく殊に往年帝國發明協會大阪支部に於て、氏は府下工業所有權者の内より選拔せられたる六名の中「夙に燐寸製造機械に關する發明考案をなし燐寸製造に時間努力及び工費を節減せしめ以て生産額を増大ならしめ其製品を支那方面に輸出し其最近年産額六百二十萬此金額四十萬五千餘圓にして將來益々發展し需要増進の趨勢なり」とて其第一位に推薦され「本機の發明考案は斯界を裨益し其功績顯著なる故を以て表彰せられ發明獎勵賜金を受けたる等氏の斯業に貢献したる功績實に偉大なるものあり。

佐々木貞吉

京都府宇治郡宇治村
大字五ヶ莊小字西浦
三七番地

特許第一〇〇五〇八號 應用無煙火藥製造法

〔內容〕綿火藥及「ニトログリセリン」を主成分とする海軍用無煙火藥の廢物を粉末とし粘着劑を加へ

藥又は軍用爆發物等に使用する點火劑。

山本樹一

愛知縣碧海郡安城町
大字山崎字大手
七八番七九番合地

成瀬新吉

愛知縣碧海郡安城町
大字安城字毛賀知
四十二番地

特許第九五五一六號 仕掛煙火着火裝置

〔內容〕仕掛煙火用火工品に着火材を介在せる火花間

特許第九八四四九號 「リノリウム」接合劑
 〔内容〕天然樹脂及人造樹脂を加熱し「クレゾール」其他芳香類に溶解化合せしめ酒精又は木精にて稀釋したる「リノリウム」接合劑。

矢代義郎

東京市芝區白金志田町
二一六番地

特許第九四二〇五號 燐寸摩擦料製造方法

〔内容〕樹脂及桐油の混合物に「セレンニウム」又は「マニガン」其他の混合物を添加し高温に水筒子を作

平の粒片となし乾燥備分し「ローラ」にて壓延し物理的操作により優秀なる無煙火薬を製造する法。



故 下瀬雅允

特許密、下瀬火薬

〔内容〕本發明は我國海軍々機に關する秘密事項にして詳細記載するを得ざれども芳香屬三硝基の純粹なる化合物にして點火打撃等には何等の變化なきも、之を特種の發火裝置により起爆劑を以て爆發せしむれば頗る急激なる爆發的反應を生じ多量の熱量を發生し且つ爆發成生體は悉く瓦斯體にして少量の木炭の外に何等の固形殘滓を止めず、如此爆發的效果に加ふるに猶特徴とも云ふべきは一定容積内に多量の火薬を填實し得るを以て同容積内に於ける爆發的效果は之に比較するものなしと云ふ。

〔略歴〕氏は安政六年廣島市の出身、廣島英語學校に學び上京して明治十一年二部大學豫科に入學同十七年卒業して英人ダイバース教授に就き應用化學を專攻す同年印刷局雇拜命紙幣用インキの改良をなす、後海軍技手となり二十二年本火薬の發明を完成す、三十二年工學博士の學位を受け海軍下瀬火薬製造所長となり四十四年勳二等に叙せられ旭日重光章を賜ふ、同年九月

厚さに剝取し得る裝置と、木質の硬軟に依つて又先移動の度を大小適宜に調節せしむべき裝置及び之に傳動すべき各關連裝置を組合せたるものにして、木質の如何に不拘迅速に一定の厚さに剝取し得る效果を有す。

〔略歴〕氏は舊高松藩士、明治元年の出生、同二十年來阪して某燐寸機械工場に入り數年間銳意業務に精勵し修得する所あり、同二十五年燐寸製造機の發明に苦心研究の結果之を完成し、同二十八年獨立して平尾鐵工所を創業す

病を以て長逝せらる。

石田榮

東京府豊多摩郡杉並町
大字天沼五二三番地

櫻村長

東京府北豊島郡
日暮里町字谷中本
一ノ四六番地

特許第九七九六四號 爆藥

〔内容〕硝酸「ニトログアニジン」に防濕兼補燃劑を添加したる安全なる爆藥。

大野勝行

京都市伏見區新町
四丁目四百六十五番地

特許第九五九〇九號 無煙火薬を原料とする爆藥

〔内容〕紐狀無煙火薬に「トリニトロキシロール」過鹽素酸「アンモニウム」及硝酸「カリウム」を配合し更にアルミニウム」の粉末を添加したる鑛山用爆藥。

田中正

東京府豊多摩郡杉並町
馬橋四四三番地

熊鑛司

東京府豊多摩郡落合町
上落合一八六番地

松野林造

東京府北豊島郡志村
前野一 番地

特許第九五〇六七號 點火劑

〔内容〕鹽素酸「カリ」及「アンチモン」並に亞鉛を混合し固結劑を以て捏和調製し適宜に與形乾燥して燐寸頭

等氏の斯業に貢献したる功績實に偉大なるものあり。

佐々木貞吉

京都市宇治郡宇治村
大字五ヶ莊小字西浦
三七番地

特許第一〇〇五〇八號 濫用無煙火薬製造法

〔内容〕綿火薬及「ニトログアニジン」を主成分とする海軍用紐狀無煙火薬の廢物を粉末とし粘着劑を加へ

藥又は軍用爆發物等に使用する點火劑。

山本樹一

愛知縣碧海郡安城町
大字山崎字大手
七八番七九番合地

成瀬新吉

愛知縣碧海郡安城町
大字安城字毛賀知
四十二番地

特許第九五五二六號 仕掛煙火着火裝置

〔内容〕仕掛煙火用火工品に着火材を介在せる火花間隙を設け感應「コイル」の二次線の兩極に接続せしめ速燃導火線を使用せずして完全に仕掛煙火に着火する裝置。

竹下定助

久留米市草坂川町
二七〇番地

特許第九五〇〇七號 玩具用爆藥の製造法

〔内容〕赤燐鹽酸加里硫黃華を糊溶液中に投入混合して紙片上に滴下泥狀體に砂を包みてなりたる玩具用爆藥の製法。

間藤徹十郎

群馬縣群馬郡岩鼻村
大字 岩鼻
二百三十九番地

特許第一〇〇九六〇號 糖を使用する爆藥の製造法

〔内容〕糖を爆藥の成分とし炭素供給劑たらしむる製法により「ダイナマイト」類の製造及使用を容易ならしめ耕作用爆藥として燐分及加里分等を含有せしめて成る方法。

前川孝一

福島縣石城郡
内郷村大字宮字竹ノ内
八十三番地

特許第一〇三二〇五號 發破用「エーヤクツシヨ、
ピース」

〔内容〕針金の兩端をの字形又は蝶状等の適當なる形
狀に曲成し曲成部をして針金軸に對し垂直狀となさし
めたる中空發破用の「エーヤクツシヨ、ピース」

井上輝夫

關東州大連市東郷町
八十八番地

特許第一〇二四四三號 纖維白色なる麻着色法

〔内容〕車軸油又は「クレオソート」油を製麻作業中浸
油する油と共に散布し浸油と同時に着色して柔軟強靱
なる着色麻纖維を得る方法。

堀込柳治

東京市淺草區
東三筋町二十一番地

特許第一〇三二七〇號 麻類の精練漂白法

〔内容〕麻類過硫酸「アンモニア」又は過硫酸加里の如
き過硫酸鹽類と硫酸と鹽酸とを混合溶液に浸漬し石鹼
溶液にて煮沸して成る漂白法。

川口育三郎

東京市牛込區市谷
砂土原町一丁目一番地

特許第九四七一六號 竹皮類の加工方法

〔内容〕竹皮類を纖維方向に沿ひて縁端を綴合し槽に
浸漬し化學的物理的處理を施して處理溶液の作用を優
良ならしめ成品生産を増加せしむる方法。

桑原襄

京都市上京區室町通
上立賣下ル裏築地
九十一番地

特許第一〇三三五〇號 藎草より木綿狀纖維を製造す
る方法

〔内容〕細切せる藎草を重亞硫酸鹽の水溶液の煮沸よ
り生ずる蒸氣により加壓する工程と苛性曹達を加へ煮
沸し漂白を施す工程と其他の工程を施行結合し乾燥し
てなる製造方法。

川角五郎

廣島縣御調郡三原町
東築出五二一ノ一

特許第九七八八四號 「ラミー」纖維處理方法

〔内容〕動植物性油脂類に空狀又は固形脂肪酸を油脂
に添加し混和練合せてなる工程に依り紡績作業を容易
ならしめて光澤の「ラミー」絲を經濟的に得る方法。



會商田武社會資合

ヨチ田武

條二町新市都京

特許第八九八四七號 彫刻機

〔内容〕本機は捺染ロール彫刻に使用し銘仙餅
模様、大柄餅模様等を彫刻し迅速にして最も精
巧なる製品を得、然も正確に且つ如何なる複雑
模様も容易に彫刻を施し得るを以て從來使用し
來りし舊機に比し能率著しく優に五倍以上の好
成績を擧げ、其製品は機械に依ると何等の遜色
を認めず價格また低廉なるを以て一般需要家の
需要を喚起し、茲に機械品の代用品として市場
を壓するに至り産業經濟上に及ぼす效果實に大
なるものあり。

〔略歴〕本店は故武田周次郎氏の創立に係り主
として捺染ロール彫刻を專業とし本邦に於ける
最も古き歴史を有する工場なり、而して極東に
於ける捺染ロール彫刻は約五十年前英人ロケツ

藤田正一

東京府豊多摩郡
代々幡町代々木初臺
五二〇番地

特許第九四八六一號 助劑添加に依る木綿精練法

〔内容〕硬化油を硫酸を以て「スルフォン」化し之に酸
性並にアルカリ性を混合なし木綿を浸漬して加壓煮沸
なして精練す方法。

荒木安二

小樽市堺町六十七番地

船越榮藏

東京市瀧野川區
龍野川町二〇七番地

ト氏によりて初めて我國に傳へられしも當時我
が染織工業は極めて幼稚にしてロールの彫刻は
總て之を海外に求むるの不便なるに鑑み、之が
自給自足に志し外人技師に師事して多年彫刻の
技を學び明治三十六年九月初めて自ら工場を設
立し、爾來三十有餘年間全力を傾注して研究に
没頭し苦心慘澹漸く之が完成を遂ぐるに及びて
終に今日の盛業を見るに至りしなり。就中本邦
に於ては其製作不可能とされしシュライナー・
ミルの製作をも完成し斷然外來品を驅逐して國
産品の聲價を發揚し、傍ら特殊彫刻機を考案せ
る等斯界に幾多の發明特許を齎して數度の表彰
を受け、今や名實共に本邦唯一の彫刻専門工場
として重きをなし、設備、技能の上に於て本邦
の鼻祖たるの名を辱めず、關東關西に於ける需
要の大部分を供給し最近支那上海方面に染織工
業の勃興につれ、海外市場の列國間に伍して常
に優秀なる名聲を博し遂に需要の激増を見るに
至れり。
尙氏の没後は嗣子榮一氏幼少なるが爲め未亡
人チヨ氏代表社員となり業務の一切を管理され
つゝあり。

竹本長五郎

臺灣臺北市川端町
三十一番地

特許第九八二九二號 芭蕉皮處理法

〔内容〕芭蕉皮を二本の「ローラー」間に挟み壓搾し稀
硫酸液次に過滿飽和加里溶液に浸漬し更らに醋酸溶液
に浸漬なし水洗乾燥す事に依り敷物用の原料を得る
方法。

白田政吉

名古屋市西區花車町
十九番地

特許第九九七八三號 竹皮漂白法

〔内容〕竹皮を深き容器内に多數林立し鹽酸の水溶液
と他の漂白粉の水溶液とを同時に流入し浸漬せしめて
竹皮の色素を脱離し純白色に漂白せしむる法。

後「ロール」機に掛け懸漬し夾雜物を分離せしむる工程
と其他特殊工程に於て紡績に適する毛細纖維を製出す
る方法。

〔内容〕所製成「アンモニア」又は「過硫酸類」と硫酸とを混合溶液に浸漬し石鹼溶液にて煮沸して成る漂白法。

川口育三郎

東京市牛込區市谷砂土原町一丁目二番地

特許第九四七二六號 竹皮類の加工方法

〔内容〕竹皮類を繊維方向に沿ひて縁端を綴合し槽に浸漬し化學的處理の處理を施して處理溶液の作用を優良ならしめ成品生産を増加せしむる方法。

桑原襄

京都市上京區室町通上立賣下ル裏築地九十一番地

特許第一〇三五五〇號 藎草より木綿狀纖維を製造する方法

〔内容〕細切せる藎草を重亜硫酸鹽の水溶液の煮沸より生ずる蒸氣により加壓する工程と苛性曹達を加へ煮沸し漂白を施す工程と其他の工程を施行結合し乾燥してなる製造方法。

山田吉之助

栃木縣上都賀郡鹿沼町下府所二二〇番地

特許第一〇二八七六號 植物性纖維又は其の製品の漂白方法

〔内容〕植物性纖維又は製品を精練爲し漂白粉溶液に炭酸「アルカリ」溶液を注加し得たる清澄液に硫酸「ソ」ダ」溶液を加へ品質を損傷せしむることなく優秀の漂白効果を得る方法。

前澤慶作

東京市本所區江東橋二丁目二番地

黒川三郎

横濱市鶴見區東寺尾町千六百十四番地

特許第一〇三〇三八號 笹たわし原料の製造法

〔内容〕笹の桿莖を潰碎し硫酸「ナトリウム」の溶液中に於て加熱したる後稀薄なる酸溶液に處理して優良なる「たわし」を製出せしむる方法。

來りし舊機に比し能率著しく優に五倍以上の好成绩を挙げ、其製品は機械に依ると何等の遜色を認めず價格また低廉なるを以て一般需要家の需要を喚起し、茲に機械品の代用品として市場を壓するに至り産業經濟上に及ぼす效果實に大なるものあり。

〔略歴〕本店は故武田周次郎氏の創立に係り主として捺染ロール彫刻を專業とし本邦に於ける最も古き歴史を有する工場なり、而して極東に於ける捺染ロール彫刻は約五十年前英人ロケツ

藤田正一

東京府豊多摩郡代々幡町代々木初臺五二一〇番地

特許第九四八六一號 助劑添加に依る木綿精練法

〔内容〕硬化油を硫酸を以て「スルフォン」化し之に酸性並にアルカリ性を混合なし木綿を浸漬して加壓煮沸にして精練なす方法。

荒木安二

小樽市堺町六十七番地

船越榮藏

東京市瀧野川區瀧野川町二〇七六

特許第九八七五〇號 「スガ」纖維處理法

〔内容〕「スガ」藻に生石灰及水を撒布し之に「アルカリ」性の混合液にて煮沸し更らに漂白粉と「エロフ」プ」との混合液にて處理してなり綿花代用品製紙原料其他の資料を得る方法。

岸田清

大阪市北區北扇町三十八番地
大阪市立工業研究所内

特許第一〇二二六五號 油綿より純綿纖維を回収する方法

〔内容〕油綿に硫酸化脂肪油の水溶液を吸収せしめ金網又は綿絲麻絲其他の纖維材料に造りたる網狀間に挟み打撃する工程と他の特殊工程とに依り成る方法。

下村陽吉

東京市王子區袋町一丁目一七七二番地

特許第一〇〇五四七號 眞蕪纖維精練漂白法

〔内容〕原料眞蕪を長時間苛性曹達溶液に浸漬したる

竹本長五郎

臺灣臺北市川端町三十一番地

特許第九八二九二號 芭蕉皮處理法

〔内容〕芭蕉皮を二本の「ローラー」間に挟み壓搾し稀硫酸液次に過燐酸加里溶液に浸漬し更らに醋酸溶液に浸漬し水洗乾燥なす事に依り數物用の原料を得る方法。

後「ローラー」機に掛け壓搾し夾雜物を分離せしむる工程と其他特殊工程に於て紡絲に適する毛細纖維を製出する方法。

白田政吉

名古屋市西區花車町十九番地

特許第九九七八三號 竹皮漂白法

〔内容〕竹皮を深き容器内に多數林立し鹽酸の水溶液と他の漂白粉の水溶液とを同時に流入し浸漬せしめて竹皮の色素を脱離し純白色に漂白せしむる法。

平山金一

和歌山縣伊都郡笠田町大字笠田中七三六番地

特許第一〇二二三五號 棕櫚葉漂白方法

〔内容〕棕櫚の稚葉を水と醋酸の混合液を以て煮沸し後水洗乾燥の後夜露に曝し水に浸し乾燥して硫黄華を以て燻晒して光澤に富み粘性大なる製品を得る方法。

森常治郎

名古屋市中區御器所町字都島十九番地

多和田督太郎

神戸市池田村字惣谷十六番地ノ二

特許第九七〇九七號 稻藁より綿狀纖維を採取する方法

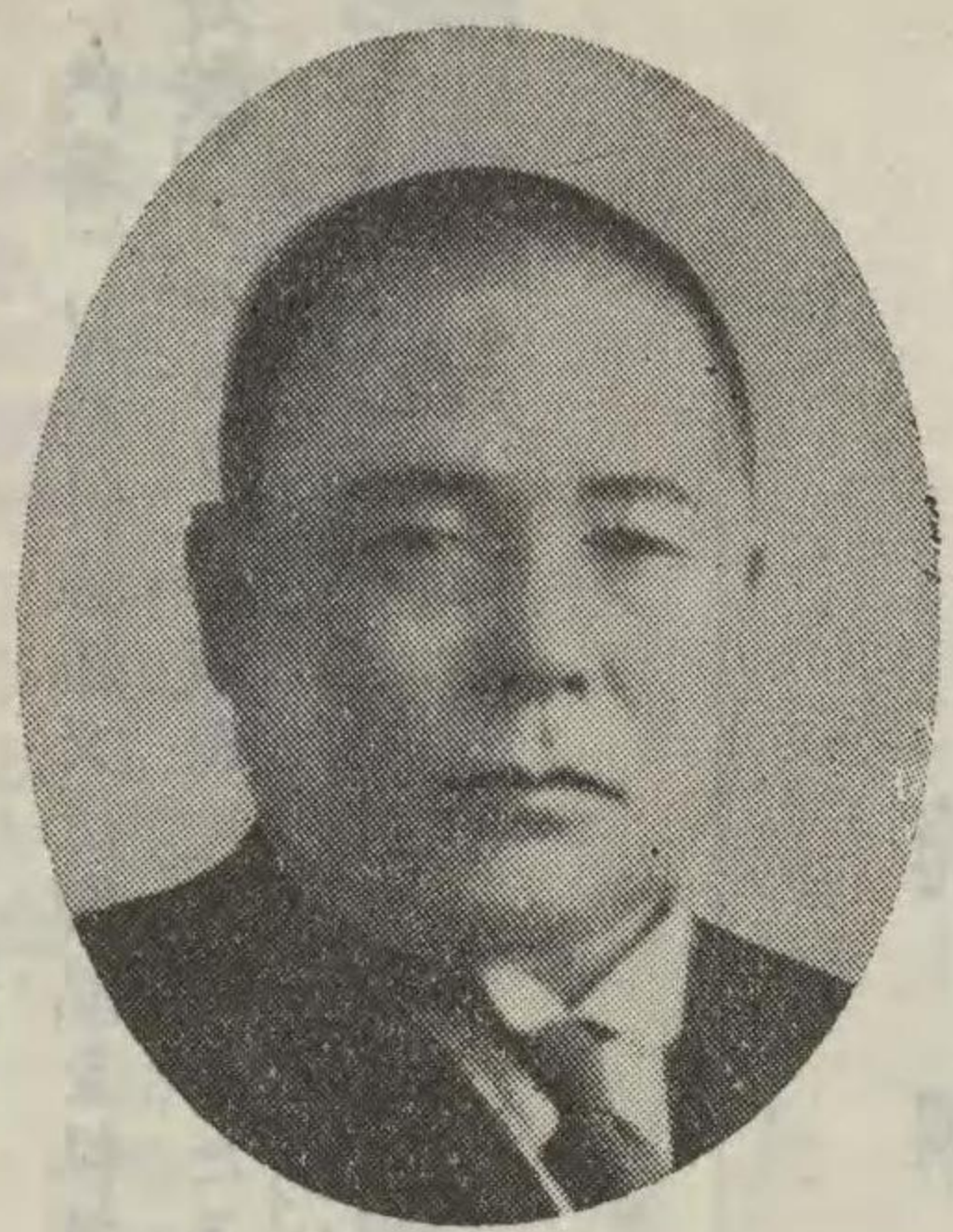
〔内容〕稻藁を温湯に浸漬し泥狀漂白粉並に硼砂を加へ鹽化「アンモニウム」及弗化「アンモニウム」を添加して天然綿花に近似する綿狀纖維を得るにあり。

酢谷藤三郎

堺市湊町十番地

特許第九四四九四號 「ウキスコース」其他「セルロースエステル」原料綿製造法

〔内容〕廢棄物に均しき油綿又は油糸を特殊の方法に依り機械的に開綿風簾することに依つて「ウキスコース」其他「セルロースエステル」原料綿を製造する法。



飯田常次郎

大原市東區川原町四十六番地

特許第一〇四八二八號 綿布の加工方法

〔内容〕本發明は綿布を毛焼き及糊抜き操作を行ひたる後特殊水溶液にて高壓精練を反覆し次で漂白粉溶液にて漂白せる後「ロールカレンダー」を通過せしめ、更に特殊糊料を施すを特徴とする方法にして、比較的大番手綿糸を以て製せる原綿布に加工して従來極めて細番手綿糸を以て製せる原綿布に「シルケット」加工を施工せる「ローン」仕上げ綿布と同様に柔軟にして弾力ある而かも美麗なる光澤を有する加工綿布を廉價に製造し得るものなり、従來綿布の精練は漂白の豫備操作として單に脱脂を目的としたるも本法は單に漂白の豫備操作に止まらず、綿纖維素質の一部を溶解して綿糸の織度を増大するを目的とするが故に従來の精練操作とは全く其目的を異にするものなり。

〔略歴〕氏は明治十一年奈良縣の出身、十七歳大阪に出で二十六歳獨立して以來三十餘年間洋晒工業に従事し日夜精勵克く苦難と闘ひ事業の發展と製品の研究に努力し遂に至難とされし本發明を完成し現在の信賴を捷ち得、大阪洋晒工業組合理事長の重職にあり。

〔内容〕纖維素及「アルカリ」廢液と其他の混合液を加熱溶解して粘着性糊に造り之を酸性溶液に浸漬して水洗乾燥して成る糊付加工法。

伊藤武二

京都市上京區三條通リ小川西入邊屋町三十八番地

特許第九四〇六八號 糊付加工法

〔内容〕亞麻布を石灰水中に投入浸漬し沸騰状態に於て石灰水中より取出し酸溶液の混合液中に投入して成る工程と他の鹽化硫黄の混合溶液との工程に於て結合なし得る處理法。

今枝佐一

名古屋市東區東瓦町九十二番地

特許第一〇〇八八五號 亞麻布處理法

〔内容〕亞麻布を石灰水中に投入浸漬し沸騰状態に於て石灰水中より取出し酸溶液の混合液中に投入して成る工程と他の鹽化硫黄の混合溶液との工程に於て結合なし得る處理法。

西村作太郎

京都市左京區南禪寺下河原町三十二ノ二十八

特許第九六九四七號 凸出模様織物製造法

〔内容〕人造絹糸又は植物性纖維糸を腐蝕し得べき資「マグネシウム」を混合し「ステアリン」並に黄蠟を加へ水を添加して熱して容易に洗濯用糊を得る。

瀧島新吉

東京府南多摩郡小宮村西中野一〇〇三番地

特許第九四四二四號 縮織物製造法

〔内容〕護膜布若くは編綴せる「メリヤス」を延展状態に保持し動物性より成る糸を織成し巻取り蒸熱なし器

料を混ぜる糊材を模様狀に印花し加熱又は蒸熱して模様を形成なし得る製造方法。

堀田捨吉

足利市助戸町五番地

堀田仁三郎

特許第九七九五號 縮織物製造法

〔内容〕動物又は植物性糸とを以て適宜織成したる素地を苛性「アルカリ」にて處理し酸性物質の液中に通入浸染なし得る製造法。

寶來利一

堺市向陽町五九番地

特許第九三〇九號 虹輝光澤の絲製造方法

〔内容〕紙或は絹綿毛纖維より成る糸條に酪素或は膠又は「アセチル、セルロース」を塗着し尿素其他の藥物を塗着して成る工程と他の工程の結合して成る製法にして光輝性の虹彩を糸類に施す方法。

大澤直三郎

八王子市小門町十番地

特許第一〇一八八七號 人造絹絲織物皺附加加工方法

〔内容〕人造絹絲又は纖維質の交織布に可溶性油脂の酒精溶液に樹脂の酒精液其他の硬化劑を混和せしめ噴霧狀となし浸着せしむる工程と其他の特殊工程に依り成る加工法。

中山善之進

東京市牛込區市谷藥王寺町七十四番地

特許第九八四八三號 毛織物加工法

〔内容〕毛織物を蒸熱により平布を收縮し皺縮を形成せしめる工程と之を急冷して皺縮を固定する工程とにより成り簡易且つ安價にてなす加工法。

永田朝次郎

廣島市片田町本町區一二六五番地ノ一

特許第九九六九五號 人造絹絲生地模様顯出加工法

大島徳左衛門

名古屋市東區千種町出口五十三番地

特許第一〇一五八五號 「シルケット」絲布製造法

〔内容〕植物性纖維より成る絲或は布を生地の儘又は毛羽燒のままにて苛性「アルカリ」溶液中に通し絞り蒸氣中にて短時間に蒸熱し充分なる伸張を絲布に加へ洗滌なして光澤優良なる「シルケット」絲布を得る製法。

川原二吾

東京市小石川區茗荷谷町六

とする方法にして、比較的大番手綿糸を以て製せる原綿布に加工して従来極めて細番手綿糸を以て製せる原綿布に「シルケット」加工を施工せる「ローン」仕上げ綿布と同様に柔軟にして弾力ある而かも美麗なる光澤を有する加工綿布を廉價に製造し得るものなり、従来綿布の精練は漂白の豫備操作として単に脱脂を目的としたるも本法は單に漂白の豫備操作に止まらず、綿纖維素質の一部を溶解して綿糸の織度を増大するを目的とするが故に従来の精練操作とは全く其目

とす方法にして、比較的大番手綿糸を以て製せる原綿布に加工して従来極めて細番手綿糸を以て製せる原綿布に「シルケット」加工を施工せる「ローン」仕上げ綿布と同様に柔軟にして弾力ある而かも美麗なる光澤を有する加工綿布を廉價に製造し得るものなり、従来綿布の精練は漂白の豫備操作として単に脱脂を目的としたるも本法は單に漂白の豫備操作に止まらず、綿纖維素質の一部を溶解して綿糸の織度を増大するを目的とするが故に従来の精練操作とは全く其目

して光輝性の虹彩を糸類に施す方法。
特許第一〇一八八七號 人造絹絲織物皺附加工方法
〔内容〕人造絹絲又は纖維質の交織布に可溶性油脂の酒精溶液に樹脂の酒精液其他の硬化劑を混和せしめ噴霧状となし浸着せしむる工程と其他の特許工程に依りて成る加工法。

大島徳左衛門

名古屋市中區千種町
出口五十三番地

特許第一〇一五八五號 「シルケット」絲布製造法
〔内容〕植物性纖維より成る絲或は布を生地の儘又は毛羽燒のままにて苛性「アルカリ」溶液中に通し絞り蒸氣中にて短時間に蒸熱し充分なる伸張を絲布に加へ洗滌なして光澤優良なる「シルケット」絲布を得る製法。

川原二吾

東京市小石川區
茗荷谷町六

特許第九七三三九號 精巧「オフセット」印刷用原布の製造法
〔内容〕樹脂又は脂肪を「アルカリ」にて鹼化したものに礦物質粉末及明礬又は硫酸礬土を添加し更らに混合藥品を混和なし布帛に塗布することに於て精巧なる「オフセット」原布の製造法。

金澤勝之助

東京市豊島區池袋
二丁目九百六番地

特許第一〇二二一六號 糊料製造方法
〔内容〕鹽化亞鉛の濃厚なる硫酸溶液を以て動物性、植物性又は纖維を處理し溶解せしむる工程と溶液を澱粉々末中に噴射吸收せしめ火熱乾燥する工程と其他の工程との結合よりなり品質優良なる糊料の製造法。

横山正治

廣島市中島新町
一九番地

特許第九八七四號 西洋洗濯用糊
〔内容〕片栗粉と正欬との混合物に過硼酸曹達及炭酸

西村作太郎

京都市左京區南禪寺
下河原町
三十二ノ二十八

特許第九六九四七號 凸出模様織物製造法
〔内容〕人造絹糸又は植物性纖維糸を織成し得べき衣

瀧島新吉

東京府南多摩郡小宮村
西中野一〇〇三番地

特許第九四四二四號 縮織物製造法
〔内容〕護膜布若くは編綴せる「メリヤス」を延展状態に保持し動物性より成る絲を織成し捲取り蒸熱なし器械的處理を施し耐久性大なる織物を形成せしむ。

加藤仲次郎

八王子市天神町
十一番地

特許第九九七八七號 紡織用糊料
〔内容〕柳の葉又は枝幹を水にて煮沸して得たる浸出液を「ゼラチン」澱粉及油脂類より成る糊液中に混入して定着耐久力を増大せしめて光澤良好ならしむる。

中野新次郎

京都市上京區
元警願寺通淨福寺東入
元中之町五〇一

特許第一〇〇五〇九號 毛立布面に凸凹模様を顯はす方法
〔内容〕天鵞絨布又は織成若しくは編成後加工絲條のみ起毛せしめ毛立布に透刻模様を形成せる加熱「ロール」又は加熱金屬版を布の毛狀面を接觸通過せしめて凸凹模様を形成せしむる方法。

大澤直三郎

八王子市小門町十番地

特許第一〇一八八七號 人造絹絲織物皺附加工方法

〔内容〕人造絹絲又は纖維質の交織布に可溶性油脂の酒精溶液に樹脂の酒精液其他の硬化劑を混和せしめ噴霧状となし浸着せしむる工程と其他の特許工程に依りて成る加工法。

中山善之進

東京市牛込區市谷
藥王寺町七十四番地

特許第九八四八三號 毛織物加工法
〔内容〕毛織物を蒸熱により平布を收縮し皺縮を形成せしめる工程と之を急冷して皺縮を固定する工程とにより成り簡易且つ安價にてなす加工法。

永田朝次郎

廣島市片田町本町區
一二六五番地ノ一

特許第九九六九五號 人造絹絲生地の模様顯出加工法
〔内容〕人造絹絲又は「メリヤス」生地にて型紙を使用し防處理糊を置き「アルカリ」性溶液にて處理し水洗後硫酸處理を行ひ「ラテックス」溶液中に通し他の處理工程を行ひて成る加工法。

則武和三郎

東京府荏原郡調布町
字東調布嶺
四百四十六番地

特許第一〇〇三五五號 人造絹絲紐製造法
〔内容〕「ヴィスコース」式人造絹絲を二群に分ち一群のみを濃硫酸槽内を通過せしめ兩者を「スポンヂゴム」より成る濕潤装置の絲道を通過なし其他の方法に於て光澤ある且靱性に富む人造絹絲紐を製造し得る方法。

熊田健一

津市下郡田羽所町
千四百八ノ十三

特許第九四一〇一號 別珍様織物製造法
〔内容〕明礬又は鹽化「ナトリウム」同「マグネシウム」を加へ更らに他の混合藥液に濕潤せしめ加熱分解作用により織物を別珍化し安價に優美なる織物を得る方法

安木勘之助

大阪市浪速区西園手町
千十二番地

特許第一〇三三六二號 有色浮模樣織物製造法

〔内容〕動物性及植物性より成る絲條を以て任意の組織の重織生地を製織する工程と次に石鹼液に浸し鹽化「バリウム」又は明礬液に浸漬處理する工程と其他の工程に依り有色浮模樣織物を製造し得る方法。

松下長太郎

京都市中京區釜屋通
姉小路上ル津輕町
七六七番地

特許第九四二五五號 織物皺附法

〔内容〕織物地を左右反覆し屈折重合し折疊む工程と挾搾壓縮して型皺附を施す工程と他の特殊方法に依り縮皺模樣を形成して皺寄布を容易に製出なす法。

丸山宗三

足利市通三丁目
三五〇四番地

特許第一〇二九三八號 紋縮織物製造法

〔内容〕絹織布又は絹交織布を處理布とし強撚絲にて縮布を密着重合して軸に捲締め蒸熱解舒し處理布を任意の紋樣を有する押型「ロール」間に送りてなる簡單なる製造法。

古川英一

濱松市元城町九七番地

特許第九九〇六〇號 透模樣織物製造法

〔内容〕植物性纖維より成る織物に硫酸、鹽酸其他の脆化剤に糊料を添加したるものを任意の部分に模樣を印捺し後乾燥加熱して處理なして透孔模樣を構成する製造法。

森田庄三郎

津市下郡田町一六一八

特許第九九四四四號 紋「パール」織物製造法

〔内容〕「タオル」地別珍等の輪奈を有する織物の面に適宜の模樣に應じ糊料を印花し「ロール」間を通過せしめ輪奈を壓潰整伏し蒸熱して起立せしめ起毛機に掛け水洗脱糊せしめて成る製造法。

關口梅吉

一宮市長良町
二十五番地

特許第一〇一九二八號 布帛整理劑

遠藤太一郎

靜岡縣富士郡元吉原村
鈴川十四番地ノ五

特許第一〇三一九一號 木綿光澤絲製造法

〔内容〕木綿絲を染料及「オイルエマルジョン」を添加せる膠又は「ゼラチン」の水溶液に處理し乾燥する工程と水醋酸を以て處理する工程との結合より成る防水性に富める光澤絲を得る製法。

佐藤節郎

滋賀縣坂田郡長濱町
南吳服百三十一番地

特許第一〇三二〇一號 強撚絲の撻戻り防止法

〔内容〕綿絲布の精練廢液を附與したる上強撚絲機にて強撚し蒸熱して廢液中の蠟質を凝固せしめて優良な織物を得る方法。

木村市太郎

足利市西宮町
一千九百三番地

特許第九五二三五號 織物整理方法

〔内容〕織物を膠又は蛋白質物の粘稠液中に酸性混合液をして「ローラー」を加熱状態の下に處理布を通過せしめ押出紋樣を形成せしめて成る織物整理方法。

霜垣覺次

濱松市田町二百廿番地

特許第一〇一三二〇號 サロン織布に於ける耳襷の定着方法

〔内容〕織布の耳襷を形成する部分の經絲に苛性曹達の溶液に處理し半乾燥布耳部を凹凸面の板の凸頂に植針せる針頭に張貫し其他の方法に依り容易に耳襷の振動せざる織物を得る方法。

島尾由松

堺市北翁橋町
二丁目九三番地

特許第九五七六九號 防水性足袋底製造法

〔内容〕蒟蒻粉及「タビオカ」の水溶液と「パラフィン」の石油溶液とを混合し之に鉛糖及明礬を温湯に溶かし更らに二三の混合藥品を添加し攪拌して混合なし強靱にして安價なる足袋底を得る方法。

北林三郎

足利市通一丁目
二七〇四番地

特許第一〇二五七二號 縮織物整理法

〔内容〕片撻縮の生地布を湯又は水に濕潤する工程と模樣を彫刻したる「ロール」の間に通す工程と精練漂白及「シボ」立てを行ふ工程と其他特殊の工程の結合によりて成る整理法。

下山文四郎

群馬縣佐波郡伊勢崎町
四百七十番地

特許第一〇一八七九號 縮織物製造法

〔内容〕任意に染色し或は染色せざる絲條を明礬液に浸し蒟蒻粉と石灰末との混合泥液を塗布し更らに「ゼラチン」の熱溶液中を通過せしめ加熱せる横溝を表面に有す齒車金屬製「ロール」間を通じ其他の處理に依りて成る製造法。

莊司市太郎

大阪市東淀川區中津
濱通五丁目六五番地

特許第一〇〇〇七二號 織物生地及絲の處理法

〔内容〕織物生地又は絲を適度の尿素及「フィルムアルデヒド」の水溶性縮合物にて處理する工程と加温中にて處理する工程と酸性瓦斯體にて處理する工程の結合より水洗して成る處理法。

相澤長太郎

東京市日本橋區濱町
二丁目八十八番地

特許第九六二六七號 縮織物冷凍整理方法

〔内容〕真空排氣状態に於て「ドライアイス」の如き強度の冷媒剤に依る縮織物の冷凍處理法。

千葉壬驥

東京市本郷區
菊坂町三十七番地

特許第一〇二六二八號 煮繭方法

〔内容〕煮繭湯中に空氣を壓送し湯を泡沸せしめつつ發散する高温氣體を導管に依り槽外に誘導し後「ポンプ」にて煮繭湯中に循環壓送して成る有利なる方法。

田島九八

横濱市神奈川區子安町
溝下千六百二十番地

特許第九五五八八號 煮繭法

縮布を密着重合して軸に捲締め蒸熱解舒し處理布を任意の紋様を有する押型「ロール」間に送りたる簡単な製造法。

古川 英一

特許第九九〇六〇號

透模樣織物製造法

〔内容〕植物性纖維より成る織物に硫酸、鹽酸其他の脆化剤に糊料を添加したるものを任意の部分に模様を印捺し後乾燥加熱して處理なして透孔模様を構成する製造法。

森田 庄三郎

特許第九九四四號

紋「パイル」織物製造法

〔内容〕「タオル」地別珍等の輪奈を有する織物の面に適宜の模様に応じ糊料を印花し「ロール」間を通過せしめ輪奈を壓潰整伏し蒸熱して起立せしめ起毛機に掛け水洗脱糊せしめて成る製造法。

關口 梅吉

一宮市 長良町
二十五番地

特許第一〇一九二八號

布帛整理劑

〔内容〕滑石粉末流酸「バリウム」酸化亜鉛、鹽化錫、醋酸鉛、生炭、膠「トラガントゴム」「カゼイン」及石鹼又は「ロート」油の混合物に「ステアリン」「酸、蠟」「パライン」及明礬又は醋酸礬土を含有せしめて成る耐久性の製品を得る方法。

須藤 由次郎

東京府豊多摩郡戸塚町
下戸塚三三四番地

特許第九七三九號

特殊縮加工上法

〔内容〕動物性又は植物性より成る交織布を脱糊し更に柔軟剤を吸収せしめ之を撃打作業を施して特殊な方法工程により縮加工仕上げを極めて簡單に行はしむる方法。

生田 六郎

徳島縣 名西郡
石井町大字石井
九百三十九番地ノ一

特許第九五二三二號

繭解舒法

〔内容〕密閉したる「タンク」内に數分間繭を温湯に浸

液をして「ローラー」を加熱状態の下に處理布を通過せしめ押出紋様を形成せしめて成る織物整理方法。

霜垣 覺次

特許第一〇三三〇號

着方法

〔内容〕織物の耳襷を形成する部分の經絲に苛性曹達の溶液に處理し半乾燥布耳部を凹凸面の板の凸頂に植針せる針頭に張貫し其他の方法に依り容易に耳襷の張伸せざる織物を得る方法。

濱し排氣作用を興へてなる方法に依り絲量絲質を優良ならしむる新規の繭解舒法。

島尾 由松

堺市北 翁橋町
二丁目九三番地

特許第九五七六九號

防水性足袋底製造法

〔内容〕蒟蒻粉及「タビオカ」の水溶液と「パラフィン」の石油溶液とを混合し之に鉛糖及明礬を温湯に溶かし更らに二三の混合藥品を添加し攪拌して混合なし強靱にして安價なる足袋底を得る方法。

平岡 友次郎

埼玉縣 入間郡
所澤百二十番地

特許第一〇〇五三九號

耐水防皺性縮織物製造法

〔内容〕綿絲を「ゼラチン」溶液處理「ホルマリン」稀薄液處理の右二工程の絲と撈撚加工を施したる絲とを經緯とし織上たる布を苛性曹達溶液にて處理し其他の工程に依りてなる製造法。

土方 半次郎

東京市 京橋區
新富町一丁目九番地

土屋 徳次

東京市 京橋區
新富町三丁目八番地

特許第一〇〇三五〇號

墨線製造法

〔内容〕「ゼラチン」に「フォルマリン」其他の混合溶液中に鐵物性顔料を加へ第一塗料を綿織布に施し伸張乾燥をなし「ラック」を混入第二塗料を施してなり麻製のものより異なる墨線を製造し得る。

〔内容〕織物生地又は絲を適度の尿素及「フィルムアルデヒド」の水溶性縮合物にて處理する工程と加温中にて處理する工程と酸性瓦斯體にて處理する工程の結合より水洗して成る處理法。

相澤 長太郎

東京市日本橋區濱町
二丁目八十八番地

特許第九六二六七號

縮織物冷凍整理方法

〔内容〕眞空排氣状態に於て「ドライアイス」の如き強度の冷凍劑に依る縮織物の冷凍處理法。

千葉 壬驥

東京市 本郷區
菊坂町三十七番地

特許第一〇二六二八號

煮繭方法

〔内容〕煮繭湯中に空氣を壓送し湯を泡沸せしめつつ發散する高温氣體を導管に依り槽外に誘導し後「ポンプ」にて煮繭湯中に循環壓送して成る有利なる方法。

田島 九八

横濱市神奈川區子安町
溝下千六百二十番地

特許第九五五八八號

煮繭法

〔内容〕繭粒を熱湯中に浸漬し室を密閉遮断して室外より加熱し内壓を上昇して煮熱作用を行はしめ熱湯を冷水に置換して成る煮繭法。

中川 房吉

東京府北豐島郡
瀧野川町西ケ原
千七百七十四番地

特許第九四三三三號

浸透煮繭方法

〔内容〕蒸気又は之と同温度の熱湯處理を爲したる微温湯に浸漬し煮繭容器が通過する湯面附近に壓搾空氣を吹込み攪拌す工程に於て解舒及絲質を良好ならしむる方法。

向山 紀之治

埼玉縣北足立郡
大宮町一一〇番地

特許第九五七一三號

煮繭方法

〔内容〕煮繭處理中煮繭湯及繭に對し一定したる連續的に微細の機械的振動に依り解舒を良好ならしめ絲條の品位を向上す煮繭方法。

増澤龜之助

長野縣諏訪郡
平野村八四一一番地

特許第九六三〇號 蒸汽加壓煮繭方法

〔内容〕繭を高温度に處したる密閉器を其儘蒸氣を供給し加壓に伴ひ温度を上昇せしめ後冷却を施す工程に依り均等に繭を煮熟なす方法。

小島吉代

東京府荏原郡目黒町
字上目黒一九九〇番地

特許第一〇二五七號 壓力煮繭方法

〔内容〕密閉煮繭槽内に入れ水蒸氣を送り込み浸透せしめ特殊工程を施して沸煮せしめて成る沈澱煮繭方法



佐藤市郎

大南旭
市通一
西丁五
成番五
區地

特許第七八五三〇號
同第一〇三二六三號 蠶繭解舒法

〔内容〕蠶繭解舒を良好ならしむる目的を以て過剰の亞硫酸を含む「アルカリ」又は「アルカリ」土類の重亞硫酸鹽の酸性溶液を繰糸湯中に添加することは従來公知のことに屬するも右藥劑は強亞硫酸臭を發し工場衛生上缺點多からず、本發明は此の缺點を除去する目的に於て特殊の溶液を繰糸湯中に添加し之に煮熟蠶繭を懸

吊浸漬して解舒せしむることを特徴とす、即ち温湯中解離せらるゝ水酸「イオン」は煮熟蠶繭の繭層中に急速に浸透し繭層の崩壊を促し解舒作用を良好ならしむると共に其操作を容易迅速ならしむるの效果あるものとす。

〔略歴〕氏は明治二十三年徳島縣の出身、同三十五年上阪して某製藥業家の業務見習として同四十四年迄勤続し同年獨立して現在に至る。大正十三年頃より繰糸改良に志し之が基礎研究の爲め各地産繭の構成組織の分子分析其他各製糸場の製糸用水を調査する等鋭意研究をなし、翌年種々研究の結果成案を得尙之に改良を加へて遂に本發明を完成するに至りしものなり。

佐藤專八

山形縣西田川郡
温海村大字湯温海
甲二百十六番地

特許第九四四七三號 蠶繭解舒増進法

〔内容〕酸性亞硫酸曹達水溶液と「フォルムアルデハイド」水溶液を化合し得たる「アルカリ」性を水に溶解し煮繭後溶液中に浸漬處理を施して優良なる絲質の生絲を生産し得る方法。

佐藤五郎

横濱市中區本町
四丁目四十三番地

特許第一〇二六三八號 煮繭方法

〔内容〕常壓に於ける沸騰點以上の高温度を保有し沸騰せしめざる如くせる繭湯中に繭籠を進行せしめ良好なる煮繭を行ふ方法。

猪飼博

京都市右京區
嵯峨町上嵯峨
井頭町十二番地ノ五

特許第九八二六號 絹紡絲處理法

〔内容〕絹紡絲を中性鹽類其他の濃厚熱溶液中に無水葡萄糖を添加したる溶液を以て處理し硫酸曹達其他の溶液を以て弱酸性ならしめたる處理法によりて成る方法。

井上武三郎

京都市東山區
今熊野南谷町一番地

中山庫雄

京都市上京區
衣笠南道町八番地

特許第一〇二五七六號 絹紡原料解舒劑

〔内容〕「パラフィン」油と高級飽和脂肪酸を温湯に溶解せるものを「アルカリ」蛋白及其他酸曹達を温湯に加へ粘稠液に混和して成り絹紡原料の解舒に對し満足せしむる處理劑を得るに在り。

富久力松

大阪市南區瓦屋町
三番丁六十五番地

味勝成美

大阪府豊能郡豐中町
東洋紡績株式會社
豊中 寮

特許第九四四九二號 絹紡絲處理法

〔内容〕「アルカリ」性及「アルコール」性などの混合液を以て處理する工程にして特殊な方法に依り製品絲條の處理劑の使用を有利ならしむる。

岡崎恒助

足利市雪輪町
二一三九番地

特許第九六二二五號 織物に透し模様を現出する方法

〔内容〕交織せる織布に石鹼及苛性「アルカリ」と二三の混合液を加へたる處理劑を蒸熱を行ひ水洗乾燥して織物に適宜の透し模様を現出せしめ得る方法。

和倉和

京都市左京區
高野清水町二十六番地

特許第九五五八六號 毛髮の混在する絹織維處理方法

高橋昌太郎

上田市原町
五千七百八十六番地

懸山憲一

東京市淺草區
茅町二丁目十二番地

特許第九九二二七號 生絲の絲條斑を除去する方法

〔内容〕數條の集緒絲條若くは生絲を石鹼「アルカリ」或は脂肪の加熱溶液中を通過せしめ生絲の結成層を膨化し「セリシン」其他の膠着力を弛緩せしめ加熱せる細孔を通過せしめて成る方法。

前特許の方法に改良を加へたるものなり。

即ち一は動物性纖維例へば生絲を精練或は漂白液と共に密閉釜中に收容し熱を加ふることなく常温の下に釜中に壓力を加ふることにより精練漂白を行ふ方法にして、密閉釜中の壓力は密閉釜内に其の内部が所要壓力を支持するに至るまで唧筒其他の手段にて空氣を壓送するか又は精練或は漂白液自體を壓送することにより保持し得べく工業的に頗る有利なる特長あり。二は植物性纖維例へば綿絲を密閉釜中に收容し唧筒にて釜中空氣の吸引を行へば釜内の空氣が排

特許第七八五三〇號
同第一〇三三六三號 蠶繭解舒法

〔内容〕蠶繭解舒を良好ならしむる目的を以て過剰の亜硫酸を含む「アルカリ」又は「アルカリ」土類の重亜硫酸鹽の酸性溶液を繰糸湯中に添加することは従来公知のことに屬するも右薬剤は強亞硫酸臭を發し工場衛生上缺點尠なからず、本發明は此の缺點を除去する目的に於て特殊の溶液を繰糸湯中に添加し之に蒸熱蒸繭を懸

郎 國地

「水溶液を化合し得たる「アルカリ」性を水に溶解し煮繭後溶液中に浸漬處理を施して優良なる絲質の生絲を生産し得る方法。

佐藤五郎

横濱市中區本町
四丁目四十三番地

特許第一〇二六三八號 煮繭方法

〔内容〕常壓に於ける沸騰點以上の高温度を保有し沸騰せしめざる如くせる繭湯中に繭籠を進行せしめ良好なる煮繭を行ふ方法。

高橋昌太郎

上田市原町
五千七百八十六番地

懸山憲一

東京市淺草區
茅町二丁目十二番地

特許第九九二二七號 生絲の絲條斑を除去する方法

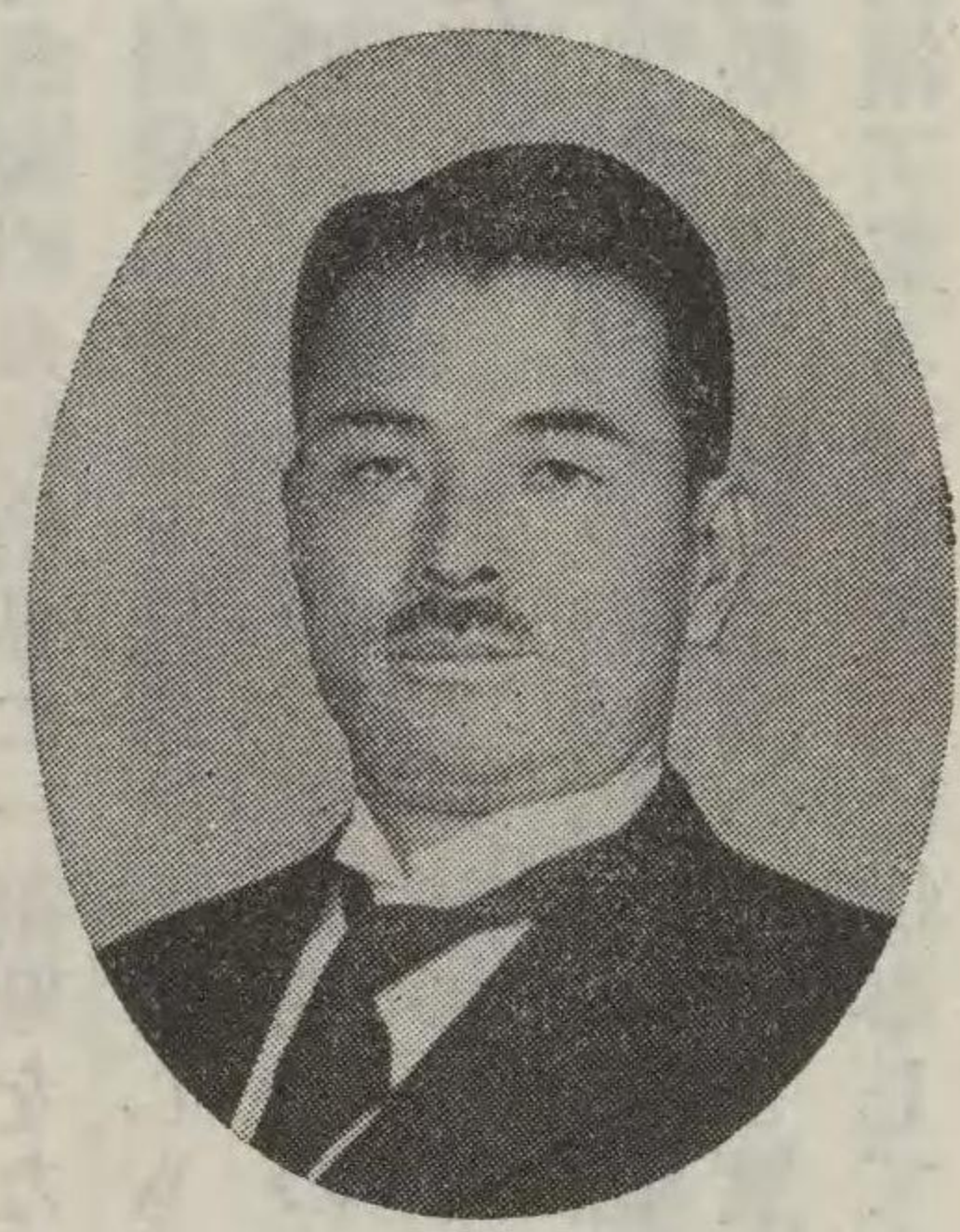
〔内容〕數條の集緒絲條若くは生絲を石鹼「アルカリ」或は脂肪の加熱溶液中を通過せしめ生絲の結成層を膨化し「セリシン」其他の膠着力を弛緩せしめ加熱せる細孔を通過せしめて成る方法。

梅津忠作

前橋市榮町五十五番地

特許第九九八五號 絹絲加工法

〔内容〕強熱及弱熱を施したる絹絲數條とを相合し之を温湯に漬して乾燥し精練する工程により防寒用織物に適する絲を得る方法。



大 阪 府 津 南 郡 泉 北 多 郎 井 庄 藤 精 練 所

富久力松

大阪市南區瓦屋町
三番丁六十五番地

味勝成美

大阪府豐能郡豐中町
東洋紡績株式會社
豐中 寮

特許第九四九二號 絹紡絲處理法

〔内容〕「アルカリ」性及「アルコール」性などの混合液を以て處理する工程にして特殊な方法に依り製品絲條の處理劑の使用を有利ならしむる。

前特許の方法に改良を加へたるものなり。

即ち一は動物性纖維例へば生絲を精練或は漂白液と共に密閉釜中に收容し熱を加ふることなく常温の下に釜中に壓力を加ふることにより精練漂白を行ふ方法にして、密閉釜中の壓力は密閉釜内に其の内部が所要壓力を支持するに至るまで唧筒其他の手段にて空氣を壓送するか又は精練或は漂白液自體を壓送することにより保持し得べく工業的に頗る有利なる特長あり。二は植物性纖維例へば綿絲を密閉釜中に收容し唧筒にて釜中空氣の吸引を行へば釜内の空氣が排除せらるゝと同時に纖維中に含まるゝ空氣も亦除去せられ之に眞空の吸引作用により精練或は漂白液を送入する時は液は纖維の芯部にまで吸引せられて迅速に且つ充分に浸透し常温加壓の下に行ふ原特許の處理法と相俟ちて一層短時間に精練漂白を行ひ得るものなり。

松浦喜一郎

徳島市南佐古町
初江島二十二番地

特許第九四二六六號 混合絲製造法

〔内容〕繭を高熱の蒸氣に加熱し後冷却せる酸性染料液中に浸し之に配合して成る精練劑を混じて絲條の配色を任意ならしめたる混合絲を得る方法。

小内亮一

八王子市横山町
一一一六番地

特許第一〇三三三號 生絲染色豫備處理法

〔内容〕可染生絲を「チアイナクレール」又は「ソープス

岡崎恒助

足利市雪輪町
二一三九番地

特許第九六二二五號 織物に透し模様を現出する方法

〔内容〕交織せる織物に石鹼及苛性「アルカリ」と二三の混合液を加へたる處理劑を蒸熱を行ひ水洗乾燥して織物に適宜の透し模様を現出せしめ得る方法。

和倉和

京都市左京區
高野清水町二十六番地

特許第九五五六號 毛髮の混在する絹織維處理方法

〔内容〕水に水化亞硫酸曹達を加へ絹織維を浸漬し之を加熱したる後壓搾空氣の手段により絹絲紡績工程中毛髮摘出作業の手續を省略し製品の價値を増大ならしむる方法。

金箱保

上田市大字上田
四千七百四十六番地

特許第九九六三號 生絲處理法

〔内容〕生絲を苛性曹達牛乳及「アンモニア」水等より成る混合水溶液へ胡麻油等の混合水溶液を滴下しつゝ冷液中に通過せしめ加熱室に導き乾燥してなり無熱の抱合絲を得る處理法。

永井新太郎

京都市中京區
油小路通四條上ル
藤本町五四八番地

特許第九四〇九七號 絹布増量防水仕上法

〔内容〕乳狀化物鹽類水及「ゼラチン」等混合液を吸収せしめ乾燥し巾出艶出等の工程を施す簡單なる方法。

特許第八三五二五號 植物性纖維精練漂白法

同追加第八六一四號 動物性纖維精練漂白法

同追加第八八八五號 植物性纖維精練漂白法

〔内容〕特許第八六一四號は前特許の方法を擴張したるものにして、特許第八八八五號は

トーン」の如き微物質粒子を水に混合せる液中に浸漬處理して生絲の觸感風味を害することなく加熱染色し得べき生絲を得る處理法。

寺内良太郎

群馬縣佐波郡伊勢崎町
西園町百六十一番地

特許第九九五八號 絹織物特殊糊附仕上法

〔内容〕絹織物を動物性糊料を附着して捲き込み加蒸加熱により溶融状態となし絹織物に移收せしめ凝固せしめて成る仕上法。



坂根清一

京都府室
市芝
右橋
京町
區一

特許第一三三三五號 生糸様紡績絹糸製造法

同 第三三三六八號 紡績絹糸の糸味を佳良ならしむる法

〔内容〕セリシン又は其同効物質を含有せる紡績絹糸を緊張又は伸張し或は伸張しつつ、アルカリ又は石鹼の水溶液又は素湯中に於て沸煮するか、又はアルカリ若しくは石鹼の水溶液を含ましめて蒸熱し緊張又は伸張したる程度に於て堅牢なる習慣性を附與し洗浄し酸水に通し脱酸水洗して仕上ぐるものなり製品は練白、漂白、染色等により光澤を失ふことなく又過柔となり織毛を生ずることなく染料の吸着力を失はざることなるを

る後縮せしめ温湯及冷水にて水洗する工程と他の特殊工程の結合によりて成る毛織物の光澤と柔軟性とを増加せしむる加工法。

高橋孝次

大阪市北區東野田町
八丁目九番地

特許第一〇二二七六號 毛茸纖維の處理法

〔内容〕毛茸纖維を僅少の膠質物を添加せる硬化劑の溶液中に浸漬し乾燥後之を「イオン」化傾向少き重金屬の硝酸鹽類溶液を以て處理して皺縮性と縮絨性を増大ならしむる方法。

以て生糸との交織に色相の差を生ぜざる等の特徴を有す。従來絹糸紡績は僅かに縮緬伊勢崎絹木綿縞等の緯糸又は縞糸に用ひらるゝに過ぎざりしが本發明に依り經糸としても使用し得るに至り全く生糸の練製品に劣らざる域に達せしめて我國絹糸紡績界に一劃期をなし遂に今日の如く斯業の隆盛を見るに至りしものなり。

〔略歴〕氏は慶應三年京都府の出身、幼時京都に出で染色を學び後東京に出で小名木川綿布會社に於て紡績及機械織布の實際を習得し、爾來獨學を以て織維工業の學理と實際を研究し其間紡績工業と海外貿易に従事して今日に至る。發明考案をなすもの一百件最近十餘年間はステールフアイバー紡績工業の研究に没頭し既に二十個の特許權を得、帝國發明協會より賞せらるること五回、又多年發明獎勵及保護事業に參與し現に京都發明協會理事長たり。

菅沼三省

京都市上京區
小山花ノ木町四十番地

特許第九四七五號 絹絲加工法

〔内容〕柞蠶絹纖維と家蠶絹纖維とを繰絲工程中に於て加熱乾燥し温湯中に浸漬なし絲條を膨大ならしむる加工法に依り弾力を一層増加せしむる。

岩橋貞男

大阪府豐能郡豐浦村
字垂水六百六十五番地

特許第八九三三三號 毛莫大小紡縮加工法

同追加第九二二一六號 毛莫大小紡縮加工法

井上武三郎

京都市東山區
今熊野南谷町一番地

特許第一〇二五七七號 防水劑製造方法

〔内容〕植物油に少量の「エステルガム」を加熱混溶し之に苛性加里又は「アンモニヤ」水と「エタノール」と水より成る溶液を加へ其他特殊溶液を加へて優秀なる防水劑を製造し得る方法。

井上清一

京都市上京區
紫竹初音町八〇番地

液にて處理し毛纖維に附着せる油脂類並不純物を除去し、且つ少時間の縮絨操作により毛羽を起したる後防縮加工をなすが故に「クロール」の作用緩漫にして纖維の芯部に迄及ぼすを以て従來本發明によらずして行ひたる「クロール」による方法よりも一層完全に防縮作用を行ひ得るものなり、殊に適度の濃度の藥劑を使用するときは防縮作用が完全なるのみならず纖維の損傷することなく、染色の際用ふる染料も如何なる種類のものをも自由に使用し得て染色も亦均一になし得るなり、此の工程を経て水洗し漂白又は染色し之を次亞硫酸曹達と沃度澱粉の水溶液に浸漬したる後搾りて過剰の「クロール」を除き、纖維の黄變若しくは脆弱となるを防止し、最後に石鹼溶液にて處理して纖維中に残留せる酸類を中和し、同時に表面に附着せる不純物を除去し一層柔軟性を附與せしむると共に水洗乾燥せしむる工程との結合より成るものなり。故に毛纖維の表面に有する「スケール」を剝離せしむることなく之を伏せ保たしめて防縮し、同時に毛纖維の光澤を増加し毛纖維の特徴たる柔軟性と綿纖維の特徴とする吸水性を具備せしむるが故に普通の毛莫大小の缺點を除去し得、發汗時に於ても不快の感を抱かしむることなきものとす。

川村作治郎

京都市品川區大井
寺ノ下町一四二五番地

特許第一〇三三四五號 毛莫大小防縮加工法

〔内容〕毛莫大小を石鹼及曹達の溶液にて洗滌したるものを絲布に施して耐久性の處理法。

西岡作松

佐賀縣杵島郡小田村大
字上小田三七二番地

特許第一〇〇三三九號 纖維處理法

〔内容〕硼酸を混溶せしめたる「ゼラチン」の水溶液に「パラフォルムアルデハイド」、「フェノールフォルムアルデハイド」初期縮合物、明礬及樟腦を添加攪和したるものを絲布に施して耐久性の處理法。

横田武十郎

らしむる法

〔内容〕セリシン又は其同効物質を含有せる紡績絹糸を緊張又は伸張し或は伸張しつゝ、アルカリ又は石鹼の水溶液又は素湯中に於て煮沸するか、又はアルカリ若は石鹼の水溶液を含ましめて蒸熱し緊張又は伸張したる程度に於て堅牢なる習慣性を附與し洗淨し酸水に通し脱酸水洗して仕上ぐるものなり製品は練白、漂白、染色等により光澤を失ふことなく又過柔となり織毛を生ずることなく染料の吸着力を失はざることなる

特許第九四七五五號 絹絲加工法

〔内容〕柞蠶絹纖維と家蠶絹纖維とを練絲工程中に於て加熱乾燥し温湯中に浸漬なし絲條を膨大ならしむる加工法に依り弾力を一層増加せしむる。

岩橋貞男

大阪府豊能郡豊浦村
字垂水六百六十五番地

特許第九二二一六號 毛莫大小紡縮加工法

〔内容〕本紡縮加工法は毛莫大小を最初に石鹼

に毛纖維の光澤を増加し毛纖維の特徴たる柔軟性と綿纖維の特徴とする吸水性を具備せしむるが故に普通の毛莫大小の缺點を除去し得、發汗時に於ても不快の感を抱かしむることなきものとす。

川村作治郎

東京市品川區大井
寺ノ下町一四二番地

特許第一〇三三四五號 毛莫大小紡縮加工法

〔内容〕毛莫大小を石鹼及曹達液にて洗滌した

る後縮せしめ温湯及冷水にて水洗する工程と他の特殊工程の結合によりて成る毛纖維の光澤と柔軟性とを増加せしむる加工法。

高橋孝次

大阪市北區東野田町
八丁目九番地

特許第二〇二二七六號 毛茸纖維の處理法

〔内容〕毛茸纖維を僅少の膠質物を添加せる硬化剤の溶液中に浸漬し乾燥後之を「イオン」化傾向少き重金屬の硝酸鹽類溶液を以て處理して皺縮性と縮絨性を増大ならしむる方法。

山崎敏一

東京市麴町區
紀尾井町六番地

特許第九六一〇號 羊毛メリヤス處理法

〔内容〕「クロール、カルキ」の溶液と曹達の溶液との混合液に浸漬する工程と青酸加里の溶液に浸漬する工程との結合により光澤を賦與する處理法。

佐藤永利

東京市本所區龜澤町
一丁目三番地

桑形満太郎

千葉県東葛飾郡八幡町
字八幡一九七四

特許第一〇二七二六號 毛絲又は毛メリヤスの鹽素處理法

〔内容〕紡績したる毛絲又は毛「メリヤス」を精練することなく「ロート」油「硫酸曹達修酸」「アムモニウム」及漂白粉の混溶液に浸漬し稀薄混溶液にて處理して染料に對する親和力を増進せしむる方法。

井上武三郎

京都市東山區
今熊野南谷町一番地

特許第一〇二五七七號 防水劑製造方法

〔内容〕植物油に少量の「エステルガム」を加熱混溶し之に苛性加里又は「アンモニヤ」水と「エタノール」と水より成る溶液を加へ其他特殊溶液を加へて優秀なる防水劑を製造し得る方法。

井上清一

京都市上京區
紫竹初音町八〇番地

特許第一〇二三九七號 模造紙布製造法

〔内容〕藨毛羽の藁等を除去し製綿機により板狀縮となし「アムモニヤ」水を散布し熱「ロール」に壓搾乾燥する工程と他の特殊工程に依り堅牢なる模造紙布の製造法。

林繁

大阪市港區八幡屋寶町
二丁目二一五番地

特許第九五六六四號 模造麻紙製造方法

〔内容〕大麻若くは苧麻等を所定の苛性曹達液に浸漬し水洗の後酸類を以て處理し、之に特殊な方法を加へて強靱なる麻纖維紙を得る。

西尾秀男

兵庫縣武庫郡精道村
芦屋古新田五九二

特許第九五一一〇九號 乾燥性油脂による擦絲法

〔内容〕植物性混合油の乾燥性油脂を有機溶劑にて稀釋せしめて擦絲前被擦絲に添加して擦絲を行ふ方法。

西岡作松

佐賀縣杵島郡小田村大
字上小田三七二番地

特許第一〇〇三三九號 纖維處理法

〔内容〕硼酸を混溶せしめたる「ゼラチン」の水溶液に「パラフォルムアルデハイド」、「フェノールフォルムアルデハイド」初期縮合物、明礬及樟腦を添加攪和したるものを絲布に施して耐久性の處理法。

横田武十郎

大阪市西成區南海通り
二丁目長樂園二十一號

佐藤輝五

滋賀縣栗太郡治田村
字澁川八八九番地
平岡文二郎方

特許第九五〇九三號 絲布の防水法

〔内容〕織布又は原絲を糖蜜と石鹼との混合乳液に浸漬したる後金屬鹽類溶液にて處理することにより耐水性の大なる防水絲布を容易に得る方法。

永井忠藏

京都市中京區油小路
六角南入六角油小路町
第三百十七番地

特許第九九一六八號 織布防水加工法

〔内容〕織布を「ステアリン」「オリーブ」油及椰子油に「アンモニヤ」を加へ液に浸漬し脱水して乾燥し蟻酸「アルミニウム」の第二液に浸漬し乾燥せしめてなる防水加工法。



大角卯之助
東京市中央区生田
御所町三十七番
陽賀生

特許第八五五六六號
同第九〇〇二〇二六號
同第一〇〇二七二四號
同第一〇〇三七八一號
同第九六四六六號
簿記帖用商標刻入黒色
ブツククロス製造法

同第二〇〇〇〇四號
同第二〇〇二七三號
同第一〇〇〇一五號
装釘用ブツククロス
製造法
雲母粉を以てなるブツ
ククロス製造法

同第一〇〇六二一號
同第九七九一六號
同第一〇〇〇三〇八號
同第一〇〇〇三〇九號
同第一〇〇二二六五號
商標刻入着色ブツク
クロス製造法
トレーシングクロス
製造法

〔内容〕従来トレーシング・クロスの製造方
法は澱粉類を使用せしが爲、量目嵩み空氣の乾
燥又は濕氣多き場合は製品面に伸縮を生じ或は
微を生ずる虞ありしも本發明は塗料中に澱粉類
を使用せざることを特徴とす、製品は輕快にし
て色彩鮮明なる等優秀なる効果を有するものな
り。

〔略歴〕明治三十三年九月京都市疏水川端畔に
匿名組合組織にて染再整業を開始せし當時全部

たる假漆に石蠟「ワセリン」を混和し其液に醋酸「アル
ミニウム」「アミール」を加し揮發油にて溶解して成
る惡臭を消去せる防水劑を得る。

永井輝雄
大阪府住吉區阪南町
西三丁目五十四番地
特許第九八八二六號 紡績用原綿油處理法

〔内容〕油と水を混合攪拌して「エマルジョン」を形成
しつつある間染色又は漂白したる原綿を投入し原綿に
油を浸透せしめ脱水乾燥なし優良なる製品を得る原綿
油處理法。

輸入品なりし洋式簿記帖表紙を一瞥し將來文化
の進展に伴れ需要激増すべく看取し之が製造を
發願す。實に三十數年前の事なり。
次で三十五年一月京都市千本通下長者町に移
轉し、茲に始めてクロスを製造す之我國に於け
る斯業の濫觴たり。
明治三十八年十二月現日本クロス工業株式會
社の前身たる京都染再整合名會社を起し自ら創
案せし特種機械を以て大量的産出に迄進展せり
時恰も斯業研究に歐米留學中の農商務省工業
試験所高松技師歸朝し、該製法の研究生を募集
す。應ずる者五十六名。數週間の講習を完了せ
しは僅かに氏一人のみ他は不採算を察し中止せ
るなり。此一事を以てするも當時斯業の至難を
知るべく、同時に氏が如何に初一念に熾烈なり
しかを察すべし。

兎まれ此講習に依り得たる新智識を根據とし
て色物クロスの製造を企圖せり。當時適合す
る原布、原料を得る事困難にして日夜實驗考察
に没頭し、卒倒數回に及ぶ必死的苦闘を續けた
り。當時東京方面にクロス製造工場の設立あり
しも程なく終熄せるに見るも這業の至難なりし
を察知せらるべし。
大正三年歐洲大戰勃發し輸入杜絶せるを以て
必然的に註文殺倒せり。製造能力尠く且品質に
對し截然たる自信乏しきながら晝夜兼行製造に
忙殺されたり。斯くする内も品質の向上に専念
し。始めて大正四年「ブツククロス」に關する特
許第二七四八九號を得、漸次世上に認識される
に至れり。

大正八年一月經營上の意見を異にしたるを以
て分離し京都市四條大宮西入下るに東洋クロス
株式會社(前稱京都染再整株式會社)を創立した
り。
其後三省堂龜井顧問殿を始め關係各位の指導
援助の下に今日の隆昌を招來せり。其間トレー
シングクロス。ウインドウクロス。の製造
をも併せて開始し當該特許十三件を獲得し今や
品質價格數量等に於て斷然他の追從を許さず、
且完全に輸入を防遏し、進んで、滿洲、支那、
印度南洋等にまで販路を擴大せり。
同氏は三十餘年前に發したる初一念を貫き得
て些からず邦家に裨益する所ありしを欣快とす
ると共に、我國ブツククロス製造の先覺者と
しての矜持を操守し益々研究を進め將來の活躍
を期し居るものなり。
同社に於ける營業品目左の如し。

製品
ブツククロス トレーシングクロス
ウインドクロス 荷札クロス
包装クロス 絶縁クロス等

加工
本絹、人絹、綿、絹紡、毛及其相互交織
々物の染色整理一切。 以上

高島敦
東京府住原郡人新井町
新井宿二八八番地
特許第九六五九五號 絨布用防水劑製造方法
〔内容〕松脂及「コロバル」と亞麻仁油とを以て生成し

の如き高級脂肪酸と「ロート」油との混合物を加熱煉成
せしめ攪拌しつつ「アルカリ」を添加して低廉なる織維
毛伏劑を得る。

松浦房三郎
東京市日本橋區
北島町二丁目九番地
有住榮之助
東京市京橋區
銀座一丁目五番地
特許第一〇二六三七號 「トレーシングクロス」製
造法

〔内容〕「タビオカ」成分の水を主とし、炭酸ナトリウム

黒川教亮
廣島市千田町
四百四十三番地

特許第九八八五號 絹織維防水加工法

〔内容〕繭、繭毛羽或は採絲の際の緒絲等を「クロー
ム」鹽類の溶液中に「ロート」油其他の配合液の浸透劑
を加合し加圧なし後熱湯にて處理してなり羊毛と同効
なる耐水織維を得る加工法。

山本錠太郎
岡崎市能見町

七十六番地

同第 一〇三三〇九號 製造法

〔内容〕從來トレーシング・クロースの製造方法は澱粉類を使用せしが爲、量目嵩み空氣の乾燥又は濕氣多き場合は製品面に伸縮を生じ或は微を生ずる虞ありしも本發明は塗料中に澱粉類を使用せざることを特徴とす、製品は輕快にして色彩鮮明なる等優秀なる効果を有するものなり。

〔略歴〕明治三十三年九月京都市疏水川端畔に

たる假漆に石蠟「ワセリン」を混和し其液に醋酸「アルミニウム」「アミール」を加し揮發油にて溶解して成る惡臭を消去せる防水劑を得る。

永井輝雄

大阪市住吉區阪南町西三丁目五十四番地

特許第九八八二六號 紡績用原綿油處理法

〔内容〕油と水を混合攪拌して「エマルジョン」を形成しつゝある間染色又は漂白したる原綿を投入し原綿に油を浸透せしめ脱水乾燥なし優良なる製品を得る原綿油處理法。

長濱喜一郎

東京府北豐島郡板橋町金井窪六百二十四番地

特許第九七三三四號 濕布帶製造法

〔内容〕燈心格及綿の混合原料を苛性曹達溶液に煮沸し漂白となす工程と之に蒟蒻糊を混合攪拌後醋酸「アミール」及「エーテル」を混加してなる工程に依り濕度の吸収性を大ならしむる濕布帶を得る方法。

梅谷徳松

大阪市天王寺區上本町七丁目六十六番地

特許第一〇〇三四五號 保温防寒布

〔内容〕「グリセリン」水溶液又は「グリセリン」を「アルコール」に加へ蕃椒末を加へ加熱し「カフサイチン」を主成分とする浸出液を採取し硫黄末を混じて均質液を布面に塗布して保温性顯著なる防寒布を得る。

り。當時東京方面にクロス製造工場の設立ありしも程なく終熄せるに見るも這業の至難なりしを察知せらるべし。
大正三年歐洲大戰勃發し輸入杜絶せるを以て必然的に注文殺倒せり。製造能力尠く且品質に對し截然たる自信乏しきながら晝夜兼行製造に忙殺されたり。斯くする内も品質の向上に専念し。始めて大正四年「ブッククロス」に關する特許第二七四八九號を得、漸次世上に認識されるに至れり。

黒川教亮

廣島市千田町四百四十三番地

特許第九八八八五號 絹織維防水加工法

〔内容〕繭、繭毛羽或は操絲の際の緒絲等を「クロロム」鹽類の溶液中に「ロート」油其他の配合液の浸透劑を加合し加壓なし後熱湯にて處理してなり羊毛と同効なる耐水纖維を得る加工法。

山本錠太郎

岡崎市能見町七十六番地

特許第一〇三三九〇號 帶芯製造法

〔内容〕糊料を浸透せしめて乾燥したる綿絲を經絲とし綿纖維に「ラミ」纖維を混合し水車紡機にて絲を緯絲とし構成せる帶芯を「アルカリ」液中浸漬他の加工法に依りて成る製造法。

山本潤太郎

大阪市天王寺町北日東町百四十四番地

特許第九四二九五號 繭毛羽紙製造方法

〔内容〕二重層を形成せる繭毛羽帶の中間に水を含ませ之に「テレピン」油又は揮發性油を噴射せしめ熱「ロール」の壓接間を通過せしめて光澤ある成品を連續的に製出なす方法。

松本新作

横濱市中區本町六丁目五十番地

特許第九六〇二四號 纖維毛伏劑

〔内容〕「エステル」と「ステアリン」酸及「オレイン」酸

包裝クロス 絶縁クロス等
加工
本絹、人絹、綿、絹紡、毛及其相互交織
々物の染色整理一切。以上

高島敦

東京府在原郡入新井町新井宿一八八番地

特許第九六五九五號 綿布防水劑製造方法

の如き高級脂肪酸と「ロート」油との混合物を加熱溶解せしめ攪拌しつゝ「アルカリ」を添加して低廉なる纖維毛伏劑を得る。

松浦房三郎

東京市日本橋區北島町二丁目九番地

有住榮之助

東京市京橋區銀座一丁目五番地

特許第一〇一六三七號 「トレーシング・クロス」製造法

〔内容〕「タビオカ」澱粉に水を注加し煮沸し冷却なし「アラビアゴム」溶液を混合して第一液とし其他特殊の第二第三の溶液を絹布、絲布、麻布等に塗布乾燥して良好なる「トレーシング・クロス」の製法。

淺野徳

東京市日本橋區松島町一番地

特許第九七二〇四號 絲布編物若しくは粗物類の汚染防止法

〔内容〕編物、組物類を「ロート」油の溶液に浸漬する工程と他の方法に依る工程とに依り炭酸曹達を加へ結合なす事に於て絲布編物若しくは組物類の汚染を防止する方法。

東吉祐

東京市豊島區池袋一丁目六一三番地

特許第九九六八〇號 「トレーシング・クロス」の製造法

〔内容〕「アラビアゴム」又は糊性の水溶液と其他の水

溶液を煮沸したるものを混合し「グリセリン」を注加混和し其他の特殊工程によりて成る製造法。

佐竹勝兵衛

京都市日本橋區
彌敷町二丁目十四番地

特許第九八五三號 編織物製造方法

〔内容〕人絹絲布綿布紙類に動物性纖維素溶液と「セラック」の「アルコール」溶液と柔軟剤とより成る混和溶液を塗布乾燥することに於て質堅緻なる耐水性編織物を得る製造法。

酒井克巳

京都市東山區北花山
大峯町三十七番地

特許第一〇〇九二號 防水網製造法

〔内容〕植物纖維を「アルカリ」鹽類を以て精練したる後亞麻仁油其他の薬液より成る第一液に浸漬して乾燥し滑石、桐油其他の溶液硼酸其他より成る第二液を附與加撚して成る弾力性の摩擦に耐ゆる網の製造法。

御法川三郎

東京市小石川區
初音町四番地

特許第九八二五八號 絲綉に於ける絲條の浸潤法

〔内容〕密閉容器内に數多の絲綉を收納し水壓を加へ水を浸透せしめ壓縮空氣の操作により絲條を均齊に浸潤せしめ得る装置。

菊池文吾

日本レiyon株式会社
大阪市東區
安土町二丁目

特許第九二八三〇號 人造絹絲用糸捲支持器
同 第九九一四八號 人造絹絲紡絲装置

〔内容〕人造絹絲紡絲装置は從來絲條の材質紡絲速度「デニール」數並に温度湿度凝固液の濃度等の科學的條件等の變化に従ひ過剰液の量に變化あるを以て、絲條に與ふべき屈折回数及び角度並に絲導桿の向上を繞纏すべき弧の長さ等

磯部惠太郎

靜岡縣濱名郡和田村
橋羽五二二番地

特許第一〇〇五二號 人絹紡絲用「ボット」

〔内容〕凝固液の流出口を下方に有し廻轉軸に取付け得る様構成さる外匡の内部に數多の穿孔を穿てる内匡を配置し外匡に螺入せる蓋體に依り彎曲部を壓止し其他の方法に依り害毒を除去せしむる方法。

萩原篤太郎

京都市下京區
土手町正北溜池町
三百七十番地

特許第九九〇三四號 中空式人造絹絲製造法

〔内容〕紡出せんとする人造絹絲紡出原料溶液に凝固液の細流を注出せしめ細流に依り中空纖維を構成して成る保温性柔軟性の製品を得る方法。

原健

倉敷市倉敷
一〇〇三番地

特許第一〇一四四八號 人造絹絲紡絲用遠心器

〔内容〕遠心器承體の中央に固定せる圓筒形部を器底の凹窩に挿込まし遠心器と承體との圓周上に設けたる突起と孤狀凹窩との嵌合により作動せしめて生産能率高き遠心器を提供せしむる。

肌勢萬吉

兵庫縣武庫郡御影町
東明八番地ノ三三九

特許第九九二七七號 人造絹絲紡絲装置

〔内容〕紡絲液管を閉に開放したる状態とに依り支持

し齒車を取付け囊螺子により口金を緊着し廻轉せしめ其他の作動に依り紡絲口金を圓滑に廻轉せしむる装置。

馬場 象 夫

茨城縣多賀郡日立町
大字宮田五百番地
株式会社
日立製作所日立工場内

特許第一〇二九〇八號 スピンニングボット

〔内容〕内部側壁と底面との隅部に大なる丸みを有す底部を封鎖し紡絲室の内側壁と底面とを直角ならしめて高速度廻轉に對する強度を増大してなる方法。

蓮田修一郎

山口縣玖珂郡柳井町
後地三六五六

岡本新二

山口縣玖珂郡伊陸村
第四七三九番地

特許第九九一五號 綿布又は人造絹絲の交織綿布を麻地風となす加工方法

〔内容〕綿布又は人絹絲の交織綿布を苛性「ソーダ」溶液にて處理後特殊な混合溶液にてなす工程の結合作用ならしめて交織綿布を麻地風となす加工法。

堀久三郎

神戸市磯馴町
六丁目三番地

特許第九七七四七號 再生絹絲製造方法

〔内容〕薬溶液に絹纖維の溶解を行ひ紡絲原液を調製し之を遠心分離紡絲機に依り「コロイド」を混溶せしめ凝固處理を行ひ有機酸を含む液に溶解し水洗して仕上げる各工程の結合よりなる方法。

片を緩く貫通し、座は「ナット」の圓錐面上に接觸せしめたるものなり、依て絲卷は其の端面を突縁によりて正しく求心的に嵌合せらるゝと共に内面を放射狀に配置せられたる多數の護膜片の先端によりて彈撥支承せられて正しく廻轉軸と同心狀に支持せらるゝものにして、護膜片の彈力減衰し又は磨削して絲卷に對する彈撥力低下したる場合は「ナット」を捻回して少しく前進せしむれば護膜片を整一に外方に壓出して之れを補填することを得るものなり。

從來行はれたる人造絹絲用絲卷支持器は廻轉

し滑石、桐油、其他の溶液、糊、其他より成る第二液を附
與加撚して成る弾力性の磨擦に耐ゆる綱の製造法。

御法川三郎

東京市小石川區
初音町四番地

特許第九八二五八號 絲棒に於ける絲條の浸潤法

〔内容〕 密閉容器内に數多の絲棒を收納し水壓を加へ
水を浸透せしめ壓縮空氣の操作により絲條を均齊に浸
潤せしめ得る装置。

菊池文吾

大阪市東區
安土町二丁目

特許第九二八三〇號 人造絹絲用糸捲支持器
同 第九九一四八號 人造絹絲紡絲裝置

〔内容〕 人造絹絲紡絲裝置は從來絲條の材質紡
絲速度「デニール」數並に温度濕度凝固液の濃
度等の科學的條件等の變化に従ひ過剰液の量に
變化あるを以て、絲條に與ふべき屈折回数及び
角度並に絲導桿の向上を繞纏すべき弧の長さ等
の條件を之に應じ變更するの必要あり假令同一
番手の絲條を連續紡出すと雖も朝夕其他の條件
を異にするが故に頻々として調整を行ふにあら
ざれば絶へず最良の條件を以て動作すること能
はざるものなり、然るに本發明は上記の各種狀
態の變化に應じて極めて簡易敏速に導絲徑路を
變更して直に最良の紡絲條件を以て運轉せしむ
べくなしたるものにして、「ゴデット」の側面下
方に接近して承座を機枠上に定着し、承座の面
には二個又は以上の絲導桿挿着孔を穿ち孔を基
點として孔の直徑と等しき幅を有する斷面半圓
形又は夫れ以上の深さを有する條溝を穿設しZ
形即ち二本の平行線の一方の頂點と他方の下端
とを之等に直角なる線を以て結びたる形狀に折
り曲げたる絲導桿の根部を挿着孔に、又之れに
續きたる直角折曲部を條溝内に夫々嵌着せしめ
たる事の特徴とす。
紡絲の番手又は材質に應じZ形絲導桿の位相
差異れるものを挿し替ふることによりて絲條の

張力及び撓曲角度を變更し、又絲導桿の直徑異
れるものを使用することによりて、絲條が撓曲
する長さを増減し得るものにして、之れにより
て紡絲の強度光澤其他の特質佳良なるものを紡
出し得べく、且つ紡絲に附着し來れる過剰の凝
固液を分離回収すると共に「ゴデット」の周圍よ
り凝固液が飛散することを防止し得て經濟上及
び衛生上極めて有益なると同時に「ゴデット」の
下面には受樋を省略し得て「ゴデット」附近に於
ける導絲設備を簡略ならしめ絲條に無理を生ぜ
ざるの特長あるものにして、絲導桿の挿脱容易
なることによりて紡絲狀態の變化に應じ迅速に
適應すべきものを挿し替ふることを得べく、且
つ桿上に附着する結晶塵埃等の清掃容易なる等
幾多有益なる効果を奏し得るものなり。

肌勢萬吉

兵庫縣武庫郡御影町
東明八番地ノ三三九

特許第九九二七七號 人造絹絲紡絲裝置

〔内容〕 紡絲液管を別に備へたる噴金とに依りて支持

人造絹絲用絲卷支持器は「ボビン」式人造絹
絲紡絲機に於ける絲卷支持裝置の改良に關する
ものにして、即ち廻轉鏢は中心に軸孔を穿ちて
廻轉軸を嵌合定着し、其の外面には突縁及び緩
き傾斜を有する圓錐面を具へて絲卷の端面を正
しく中心を廻轉軸の軸線に一致せしめて嵌合し
又之れに引續きて圓筒狀又は圓錐形の筒狀部を
連設して内外貫通する長孔を穿ち、且つ筒狀部
の内面には轂を突出せしめて其の外面に螺絲を
刻したり、而して螺絲には緩き勾配の圓錐形外
面を有する「ナット」を螺合しその「ナット」は袋
「ナット」狀をなして端面に小なる押捻子を螺合
貫通せしめ其の先端を轂の端面に壓着せしめて
轂と「ナット」との間の螺合部を扼制すべくなし
たり、又長孔には内面に幅廣き座を具ふる護膜

液にて處理後特殊な混合溶液にてなす工程の結合作用
ならしめて交織綿布を麻地風となす加工法。

堀久三郎

神戸市磯馴町
六丁目三番地

特許第九七七四七號 再生絹絲製造方法

〔内容〕 藥溶液に絹纖維の溶解を行ひ紡絲原液を調製
し之を遠心分離紡絲機に依り「コロイド」を混溶せしめ
凝固處理を行ひ有機酸を含む液に溶解し水洗して仕上
ぐる各工程の組合よりなる方法。

片を緩く貫通し、座は「ナット」の圓錐面上に接
觸せしめたるものなり、依て絲卷は其の端面を
突縁によりて正しく求心的に嵌合せらるゝと共に
内面を放射狀に配置せられたる多數の護膜片
の先端によりて彈撥支承せられて正しく廻轉軸
と同心狀に支持せらるゝものにして、護膜片の
彈力減衰し又は磨削して絲卷に對する彈撥力低
下したる場合は「ナット」を捻回して少しく前進
せしむれば護膜片を統一に外方に壓出して之れ
を補填することを得るものなり。

從來行はれたる人造絹絲用絲卷支持器は廻轉
鏢上に鑲嵌したる護膜によりて絲卷の内面を彈
撥支持すべくなしたるが故に護膜の磨削又は變
質によりて速に緩みを生じて空轉を始め、頻々
として護膜片を取り替ふるを要したり、而して
護膜片の磨削を見込みて最初に少しく厚きもの
を使用せば磨擦過大にして絲卷の挿脱自由なら
ずして取扱上著しく不便を感じたり。然るに本
發明は磨耗又は變質するに従ひ不足の磨擦を補
填するに足る程度の調整を簡易に行ひ得べきが
故に終始絲卷を廻轉せしむるに足り、且つ挿脱
に不自由を感じざる程度の最良の條件を以て壓
着せしめ得て取扱容易迅速ならしめ、護膜片は
久しき使用に耐へ取替への煩を避け得る等幾多
有益なる効果を有するものなり。

本多文雄

大阪市此花區
春日出町中四丁目一

特許第九四二七五號 スピンニグ・ボット

〔内容〕 蓋板の溝隙内に伸縮性「パッキング」リング

を装填し「ポット」の廻轉に當り氣流の反動力に依り蓋板と「ポット」とを密着せしめ人爲的操作を要せずして成る「スピニングポット」。

戸田 政吉

福井縣坂井郡丸岡町
谷三ノ三五四

特許第九九九三號 人造絹絲特殊紡絲法

〔内容〕普通人造絹絲の「セントリフューガル」式紡出工程に於て廻轉速度を高め「ポット」に捲取る方法に依り弾力性に富む製品を經濟的製出なす装置。

富久 力松

大阪市南區瓦屋町
三番丁六十五番地

斧原 甚三郎

大阪市浪速區
南高岸町四三番地

特許第九五〇三三號 「ヴイスコース」式人造絹絲製造法

〔内容〕二硫化炭素を「キサントゲン」酸化工程に使用する循環操作に依てなる「ヴイスコース」式人造絹絲の製造法。

利根 川永吉

京都市上京區寺町鞍馬
口上ル三百三十九番地

増田 敏男

名古屋市中區露橋町
柳原百八番地

特許第一〇〇七三〇號 髮毛絹布製造法

〔内容〕絹絲布又は絹毛交織布を第一溶液と第二溶液

液に混合したる液中に浸漬處理し後水洗更らに冷却せる濃硫酸を以て處理なして弾性に富む光澤ある擬毛絹絲布の製造法。

大林 三吉

茨城縣多賀郡日立町
大字宮田五百番地
株式會社
日立製作所日立工場内

特許第九四六二七號 人造絹絲紡絲裝置

〔内容〕紡絲筐の周圍を圍繞する保護筒體を筒外部の氣流が紡絲筐に直接影響せざる如き有孔筒體となし正規運轉を確保する装置。

小川 順造

京都市伏見區桃山町
松平武藏十八番地ノ一

特許第九八七〇六號 撚を掛けつつ捲取る人造絹絲紡絲機

〔内容〕「フライヤー」を紡出口上方に設け少數の道絲孔を通じて誘導し得る管捲軸と「フライヤー」とに別個の廻轉裝置をなし堅牢なる製品を得る機。

岡本 新二

山口縣玖珂郡伊陸村
第四七三九番地

特許第一〇一三二一號 絲布擬麻加工方法

〔内容〕膠又は「カゼイン」と「フォルマリン」の混液中に鹽化「アンモニウム」若くは同効劑を混合し絲布に浸透せしめ乾燥する工程に依る加工の成果を良好ならしむる方法。

逢坂 佐七

尼崎市宮内町
二丁目九十二番地

特許第九六八三二號 人造絹絲紡絲裝置

〔内容〕機枠に定着されたる軸に「ゴデット」と二個以上の絲導杆を定着したる支持杆の基杆とを緩着操作することにより優良なる人造絹絲を紡出せしむる装置。

荻野 三郎

大阪府豊能郡
熊野田村東豊中

特許第一〇四〇二二號 「レイオンファイバー」製造用凝固浴槽に於ける環流裝置

〔内容〕本裝置は凝固浴槽内に導管體を設け紡絲孔より凝固液中に噴出したる紡絲を此の導管體内を経て槽外に引き出すことにより導管體内に常に紡絲と同方向の液流を生ぜしめ以て導管體内と其の外部との間に環流を生ぜしむべくなしたるものなり。故に紡絲が導管體内を高速にて進行するときは之に伴ひて紡絲に近接する導管體内の液は紡絲と共に進行し、導管體中に紡絲と同一方向にして而も殆ど同一速度の液流を生ずべく從て導管體外の液は紡絲と反對の方向に流る、即ち導管體内と外部とに環流を生ず此の凝固液の環流の結果紡絲孔より出する紡絲は殆ど液による摩擦抵抗を受けて絲の太さ均一となり強力並に伸張度に富める人造絹絲を得らるゝと共に環流の爲めに導管體内の液は新陳代謝し從て紡絲の凝固作用増大し爲に在るものなり。

に比し高速度に紡絲し得るものなり。
〔略歴〕氏は明治三十二年愛知縣の出身、大正十年名古屋高等工業學校紡織科卒業、外國商館に技師として入社後十四年人絹工業研究の爲め歐洲諸國に滞在歸朝後人絹機械の國産化に着眼し、研究する所ありたり。



加藤 茂三郎
京都市本所區松井町
一丁目二十一番地

特許第九五五五號 絹地代用織物整理法

〔内容〕糊基を一種若くは數種配合せる糊料中に染料

加藤 茂三郎

京都市本所區松井町
一丁目二十一番地

高橋 雄吉

倉敷市倉敷
六百十四番地

特許第一〇二八一九號 人造絹絲遠心力新紡絲方法

〔内容〕「テーク」の厚さの増加に從ひ連續的に導管體の廻轉數を増加し又は紡絲「ポンプ」の廻轉數を減少し兩者を併用することに依り一定太さの「デニール」を

する循環操作に依てなる「ヴィスコース」式人造絹絲の製造法。

利根川永吉

京都市上京區寺町鞍馬
口上ル三百三十九番地

増田敏男

名古屋市中區露橋町
柳原百八番地

特許第一〇〇七三〇號 髮毛絲布製造法

に比し高速度に紡絲し得るものなり。
〔略歴〕氏は明治三十二年愛知縣の出身、大正十年名古屋高等工業學校紡織科卒業、外國商館に技師として入社後十四年人絹工業研究の爲め歐洲諸國に滞在歸朝後人絹機械の國産化に着眼し、研究する所ありたり。



所工加布綿西關
藏甚士渡
區見伏市都京
地番二十七町食飯西

特許第九六七六九號 綿布凝毛加工法

〔内容〕綿布を材料とし之に特種の藥品と特殊の機械とを以て起毛せしめたるものにして主として生地の変換によりモスリン化せしめたるものなり。製品はアカンヤモス、ワンダー服地と稱し市價の三分の一の廉價を以て市場に提供し得らるゝが故に一國の經濟上社會的國家的に貢獻する所頗る多大なるものあり。

〔略歴〕氏は大阪府の出身明治四十年より泉南郡長瀧村に於て織機の研究をなし大正 年同村和田商店吳服部に於て綿布に關し研究中化學に依る生地加工の端緒を發見す、昭和二年十一月辭して京都市伏見寺田捺染工場に入社、曩に端緒を得たる生地の変換主として綿布加工の技術的研究を進めたるも容易に完成するに至らず昭和四年退社、爾來自宅に於て専心生地加工に關

子を通して誘導し得る管轉動と「フライヤー」とに別個の廻轉装置をなし堅牢なる製品を得る機。

岡本新二

山口縣玖珂郡伊陸村
第四七三九番地

特許第一〇一三一號 絲布凝毛加工法

〔内容〕膠又は「カゼイン」と「フォルマリン」の混液中に鹽化「アンモニウム」若くは同効劑を混合し絲布に浸透せしめ乾燥する工程に依る加工の成果を良好ならしむる方法。
する研究に没頭し、爲めに幾多の犠牲を拂ひ遂に同七年七月綿布凝毛加工法を發明し特許を得て同十月同志二名と共に關西綿布加工所を設立し現在に及べるものなり。

加藤茂三郎

東京市本所區松井町
一丁目二十一番地

外五名

特許第九五五五號 絹地代用織物整理法

〔内容〕糊基を一種若くは數種配合せる糊料中に染料薬にて染色せる植物纖維より成る織物を叩打艶出せる後浸漬して仕上げる絹地代用織物整理法。

上三信勘造

岡山縣後月郡
高屋町八八六番地

特許第九七三三三號 綿絲布の凝毛加工法

〔内容〕綿絲布を過硼酸曹達又は次亞鹽素酸曹達と硫酸又は硝酸等の藥品にて處理する工程と特殊の混合液に處理する工程と更らに樹脂石鹼等の混合液を加へ温液中に處理し結合なす綿絲布の加工法

米田豊

山口縣玖珂郡麻里布町
大字今津一三七二番地

特許第一〇一九五九號 「ヴィスコース」工場に於ける苛性曹達廢液の回收に依り生ずる「ヘミセルローズ」の利用法

〔内容〕苛性曹達廢液中より「ヘミセルローズ」を集め

したるものなり、故に紡絲が導管體內を高速度にて進行するときには之に伴ひて紡絲に近接する導管體內の液は紡絲と共に進行し、導管體中に紡絲と同一方向にして而も殆ど同一速度の液流を生ずべく從て導管體外の液は紡絲と反對の方向に流る、即ち導管體內と外部とに環流を生ず此の凝固液の環流の結果紡絲孔より出する紡絲は殆ど液による摩擦抵抗を受けて絲の太さ均一となり強力並に伸張度に富める人造絹絲を得らるゝと共に環流の爲めに導管體內の液は新陳代謝し從て紡絲の凝固作用増大し爲に在るものなり。

高橋雄吉

倉敷市倉敷
六百十四番地

特許第一〇二八一九號 人造絹絲遠心力式新紡絲方法

〔内容〕「ケーキ」の厚さの増加に従ひ連續的に導管滑車の廻轉數を増加し又は紡絲「ポンプ」の廻轉數を減少し兩者を併用することに依り一定太さの「デニール」を紡出せしむる方法。
酸類にて加水分解し糖化せる溶液を人造絹絲其他「ヴィスコース」凝固液に添加せしめて有効に應用すなり用法。

竹内光太郎

大阪府三島郡吹田町
松ヶ鼻町一一三番地

特許第九九三三三號 凝毛製造法

〔内容〕「ヴィスコース」を硫酸「アンモニア」「グリコール」水と混合し第一凝固槽内に紡出する工程と他の第二第三凝固槽を通過せしめる工程の結合に依り低廉なる刷毛を提供せしむる製法。

立川正三

滋賀縣滋賀郡膳所町
字中庄四百四十九番地

特許第九九三〇三號 人造絹絲の紡出均整装置

〔内容〕人造絹絲製造原液が「ケルチエンフィルター」せられ孔面積の通孔を數個を有する「メタルダスク」に介設し原液を通過せしめたる後紡出すべくしたる適切な装置。

津田 繁之助

京都市東山区祇園町
南側五百六十五番地

特許第九九一六四號 天然絹絲の膠狀溶液より紡絲する方法

〔内容〕硝酸石灰溶液を主體となし濃厚なる硫黄化曹達及石灰又は沃化曹達溶液に天然絹織維を溶解し其他特殊工程を施して紡絲液を製出し作用なして光澤強力なる再生絹絲の製造法。

常田 健次郎

京都市上京区室町新町
間寺の内南木ノ下
突抜町三百九十三番地

特許第一〇二九〇三號 脱硫不完全の人造絹絲に生ずる障害を防止する方法

〔内容〕水洗若くは硫化曹達液にて処理したる人造絹絲を炭酸石灰重碳酸曹達の如き炭酸鹽に酸中和劑を以て処理し糊付して光度、色澤、堅牢度の優良なる製品を得る方法。

根 來 鎌 三

岡山縣都窪郡中州村大
字酒津一六五二番ノ一

特許第一〇二八八七號 人造絹絲紡絲後處理裝置

〔内容〕人造絹絲製造に當り紡絲機の「フレーム」の周圍を巡回しつつ相接して廻轉する上下數列の「ポビン」列を配置して處理液を作用せしめて成る人造絹絲の製造法。

楠 正之助

奈良市今小路町
十一番地

特許第一〇二二〇號 織布「ヴィスコース」化裝置

〔内容〕断面倒凹字狀の密閉室の室内の上部に二段に相接する織布移送「ロール」一組つつ横架し其他特殊方法を施して成り構造操作簡單に加工實施せしむる裝置

山本 三六郎

京都市大森區入新井町

中 村 恒

京都市豊島區目白町
三丁目三五七〇番地

特許第九九一九四號 人造毛、人造綿等の如き收縮短纖維、製造裝置

〔内容〕絲束を供給する繰出「ローラ」夫々誘導「ローラ」を浴液内に有し搾液「ローラ」を浴液外に有する水洗脱酸其他の連續せる處理浴槽其他の機構により「ローラ」等の廻轉を調節して簡易有利なる方法。

中 村 道 雄

倉敷市倉敷六三番地

特許第一〇三二六九號 人造絹絲紡絲裝置

〔内容〕「ゴテット」に至る絲條を異りたる傾斜及彎曲を爲す二個の導子を撓纏し通過せしめて「ビーム」の滑動に依り調節各絲條に對し均一ならしめて操業を簡便ならしむる裝置。

中 根 一 二

神戸市葦合區熊内町
五丁目二十四番地

特許第九九八四號 人絹用遠心式紡絲機に於ける廢液及廢液霧飛散防止裝置

〔内容〕數多の分離孔を具ふる遠心分離を圍繞し截頭圓錐狀底防止筒を設置し挿入孔及排出孔を設け自動的になす裝置。

中 矢 義 雄

京都市杉並區
阿佐ヶ谷六四五番地
西側八三郎方

特許第一〇〇六七二號 「ヴィスコース」濾過管

里を主要成分とする凝固溶液中に壓出して耐張力に富む優良なる絹織維を連續的に紡絲せしむる方法。

山 田 幸 雄

名古屋市西區樋ノ口町
一丁目一番地
上村兼三郎方

特許第一〇二二四八號 人造絹絲製造用「ノズル」

〔内容〕捻廻せる數多の微細なる排出孔を有する人造絹絲製造用「ノズル」に依り捻廻性又は撚を有せしむるものなり。

〔内容〕透孔を有する數條の溝を外面に設けたる管に金屬線又は「セルロイド」線を間隙を設け巻付て成り經濟的に優良なる「ヴィスコース」を得る。

村 上 保 助

滋賀縣滋賀郡
堅田町大字堅田
一三〇〇番地ノ一

特許第一〇三〇三一號 人造絹絲紡絲裝置

〔内容〕「ゴテット」に接近して下方に機枠の表面に圓錐形の承孔を穿ち突起を裏面に突設し糸導桿を表面に設けて成る平板を承孔上に嵌着し其他の機構を設けて絲條の特性を微細に調節して成る裝置。

上 田 文 雄

大阪市此花區
恩賣島南町百七十番地

特許第九七一九一號 綿絲綿布等の擬麻加工方法

〔内容〕松脂「パラフィン」石鹼液を「アツパラチン」に加へて作る擬麻糊を植物性纖維同加工品に糊付し醋酸「アルミナ」水溶液に浸漬して製出して製出なす操作簡單なる擬麻加工法。

野 口 遵

朝鮮咸鏡南道咸州郡
興南面湖南里一番地

特許第一〇〇八八七號 人造絹絲の引張式紡絲裝置

〔内容〕紡糸により出たる糸に凝固液に依り一定の處理したる後乾燥し適度の緊張を與ふる工程を施し熱處理をして殘留收縮を固定することに依りて成る方法。

青 木 茂

滋賀縣坂田郡長濱町
大字米川十番地

特許第九七一五五號 人造絹絲布類の加工法

〔内容〕撚合絲若くは交織布を脱糊粗練の後苛性「アルカリ」溶液に浸漬する工程と漂白劑其他の混合藥液により煮沸結合による工程とに於て優良なる製品を得る加工法。

根 來 鎌 三

岡山縣都窪郡中州村大字酒津一六五二番一

特許第一〇二八八七號 人造絹絲紡絲後處理裝置

〔内容〕人造絹絲製造に當り紡絲機の「フレイム」の周圍を旋回しつつ相接して廻轉する上下數列の「ボビン」列を配置して處理液を作用せしめて成る人造絹絲の製法。

楠 正之助

奈良市今小路町十一番地

特許第一〇一七三〇號 織布「ヴィスコース」化裝置

〔内容〕断面倒凹字狀の密閉室の室内の上部に二段に相接する織布移送「ロール」一組つつ横架し其他特殊方法を施して成り構造操作簡單に加工實施せしむる裝置

山本 三六郎

東京市大森區入新井町六丁目一四七三番地

特許第一〇一七三〇號 動物性纖維紡絲液調製法

〔内容〕絹屬纖維又は「ゲラチン」「ゼラチン」等の蛋白質物を分散せしめたる「コロイド」狀溶液に「アルキル」「エステル」又は「アルキル」鹽を混在せしめて優良なる纖維を人工的に再生せしむる方法。

山本 松之助

東京府南葛飾郡寺島町二百八番地

特許第九九二二號 人造絹絲用「スピンニングポット」

〔内容〕蟻形環狀溝及穀孔に耐酸性資料を充填し耐酸性底と軸承孔を備ふる穀とを補強金物の内外に型造し加熱壓搾して合體硬化せしめて成る方法。

山内 源登

大阪府住吉區昭和町東四丁目九番地

特許第一〇三一九七號 動物性人造絹絲製造法

〔内容〕各種天然絹質物又は絹纖維を「コロイド」狀に分散せしめ得たる膠質液を細孔を通じて「チオ」硫酸加

特許第九六九八四號 人絹用遠心式紡絲機に於ける廢液及廢液飛散防止裝置

〔内容〕數多の分離孔を具ふる遠心分離を圍繞し截頭圓錐狀底附防止筒を設置し挿入孔及排出孔を設け自動的になす裝置。

中 矢 義 雄

東京市杉並區阿佐ヶ谷六四五番地

特許第一〇〇六七二號 「ヴィスコース」通過管

里を主要成分とする凝固溶液中に壓出して耐張力に富む優良なる絹纖維を連續的に紡絲せしむる方法。

山田 幸雄

名古屋市西區樋ノ口町一丁目一番地

特許第一〇二二四八號 人造絹絲製造用「ノズル」

〔内容〕捻廻せる數多の微細なる排出孔を有する人造絹絲製造用「ノズル」に依り捻廻性又は撚を有せしむるものなり。

福 島 郁 三

京都市左京區小山花ノ木町二七ノ一

西 尾 秀 男

兵庫縣武庫郡精道村芦屋古新田五九三

高 松 勇 治 郎

京都市左京區吉田牛ノ宮町八

特許第一〇二六一四號 「アルカリ」土金屬と重金屬とに依る蛋白質の溶解法

〔内容〕「アルカリ」土金屬類の酸化物又は水酸化物と銅「ニッケル」其他重金屬類の酸化物又は鹽類の一種又は數種を蛋白質と水に捏合し膠質狀に溶解せしむる方法。

兒 玉 健 太

福井市毛矢町百十一番地

特許第一〇三五〇九號 再生纖維素人造絹絲織布の布味を改良する方法

〔内容〕再生纖維素人造絹絲織布を纖維素膨化劑にて

加へて作る擬麻湖を植物性纖維同加工品に糊付し醋酸「アルミナ」水溶液に浸漬して製出なす操作簡單なる擬麻加工法。

野 口 遵

朝鮮咸鏡南道咸州郡興南面南里一番地

特許第一〇〇八八七號 人造絹絲の引張式紡絲裝置

處理したる後乾燥し適度の緊張を與ふる工程を施し熱處理をして殘留收縮を固定することに依りて成る方法。

青 木 茂

滋賀縣坂田郡長濱町大字米川十番地

特許第九七二五五號 人造絹絲布類の加工法

〔内容〕撚合絲若くは交織布を脱粗練の後苛性「アルカリ」溶液に浸漬する工程と漂白劑其他の混合薬液により煮沸結合による工程とに於て優良なる製品を得る加工法。



所工加クルシロトニ 吉 宗 村 木 町山桃區見伏市都京

特許第八七〇一四號 人造絹絲模造仕上加工法

〔内容〕人絹の耐水性皆無にして硬直なる等の缺點あるを改善したるものにして、耐水性を保有し洗濯に堪え皺を生ぜず爲めに風味を損する事なく柔軟なる觸覺を附與し抗張力を増し捫撫作用に堪ゆる等の特徴を有する加工法なり。〔略歴〕氏は神戸市の出身、東京帝國大學工科に學び後獨學研究によりて専門的智識を修得す、昭和六年本加工所を創立して今日に至る夙に非常なる決心と努力とを以て遂にラミーの

紡績加工法を發明し、明治四十二年今治市に大元紡績會社を起しラミーの原料製造をなし、福山市に支社を設け陸海軍の御用を命ぜられて大に活躍する所あり、當時品質は世界の優たるもの而もラミーに關する特許七件を獲得す、人絹仕上法は此時代より着眼したるものにして本邦に於て此種特許を得たるものは氏を以て嚆矢となす、尙人絹に關する既得特許權二件出願中のもの二件あり、人絹全盛時代に於ける氏の貢獻されたる功績實に偉大なるものあり。

北 島 幸 喜

神戸市林田區吉田町
一丁目二百一十一番地

特許第一〇三七八二號 再生絹絲製造用天然絹の膠質

溶液調製方法

〔内容〕絹質を低温の無機酸に懸濁して分散し含酸絹質「ゾル」となし冷水中に水解せしめ更に特殊方法を施して紡絲原液を得る製法。

芝 時 孝

京都市下京區西園小路
久保町五十番地
第一工業製藥
株式會社 内

特許第九七一八四號 人絹處理用油劑の製法

〔内容〕蓖麻子油に濃硫酸を滴下する工程とこの硫酸化蓖麻子油と硫酸との混合物に「アルコール」を加へ更に「アルキル」化する工程との結合によりて人絹を處理する方法。

然不可能なりとす、從て普通の兎毛は其一半は通常の「ファー」取扱の方法にて處理することを得れども他は剛直にして之と同様に取扱ふことを得ず、即ち特殊の作業によりて兩者を分類し其一半のみを利用するに過ぎず、然るに本發明は多數の實驗により「アングラ」兎毛を「ガーネツト・ワイヤー」に掛くことを特徴とするものにして之により作業の甚だ容易なる「ウール」の處理工程によりて雅趣ある「ファー」の帽體を得らるゝものなり。

株式會社庄内川染工所

三 好 甲 子 郎

愛知縣西春日井郡
庄内町大字堀越
字 乘越 二五八

特許第九六二五八號 擬毛製造法

〔内容〕「ラミー」の干莖皮部を稀薄なる苛性「アルカリ」溶液中に浸漬し更に二硫化炭素を添加せる溶液中に密閉浸漬して作用せしめたる擬毛製造法。

目 信 太 郎

和歌山市吉田通り
三丁目百九十一番地

特許第九六三九八號 綿布加工法

〔内容〕各種綿布を皮革溶液中を通過せしめ稀薄「ホルマリン」液を浸潤して最後に硫酸銅溶液處理を行ふ各工程の結合により弾力性耐久性を有せしめて綿布の高級品を得る加工法。

森 分 好 雄

岡山縣都窪郡中洲村
大字 酒 津
千六百五十二番ノ一 地

特許第九四二〇三號 葡萄糖液の製造法

〔内容〕屑絲を濃硫酸により常温或は冷却して溶解し加熱して糖化し之を濾過して「ビスコース」凝固液に返送する葡萄糖液の製法。

森 澤 房 次 郎

京都市上京區新町通
鞍馬口上ル小山中溝町
三 一 番 地

特許第一〇三二六二號 人造絹處理法

〔内容〕人造絹及織物を完全に乾燥し之を濃度「ボーマー」の苛性曹達溶液中に数分間浸し後水洗して加熱し

にして生絲製の及ばざる所なり、且つ絨の表面は緻密にして圓滑なる爲め運指容易にして雑音を發する虞なく絶對耐久性に富むものなり。絹入「ピアノ」線は鋼線を充分に緊張したる儘特殊混合油を浸せる布にて拭掃したる後絹練にて外装し、其の外部に金屬線を螺旋したるものにして、斯く内外線中に練絹を挿入するときは外部の螺旋線は常に彈性ある座褥を隔て、芯線に密着するに依り兩線をして確實に一體となし螺旋線の弛緩を生ずることなし、猶芯線に塗布せる油分は練絹の纖維中に吸収して防錆となり更

其他の特殊方法により弾力性の光澤ある天然絹と異らざる製品を得る處理法。

杉 野 植 吉

大阪市東淀川區
野中北通三丁目九番地

特許第一〇二八八四號 人絹用「スピンニング、ポツト」

〔内容〕底部を貫きて外部に通ずる通氣孔を穿設し内底面に無端紐狀の衛帶を嵌設せる中底板を着脱自在に嵌めて作業能率を高め「ケーキ」の汚損を防止せしめたる方法。

株式會社高橋製帽所

高 橋 孝 次

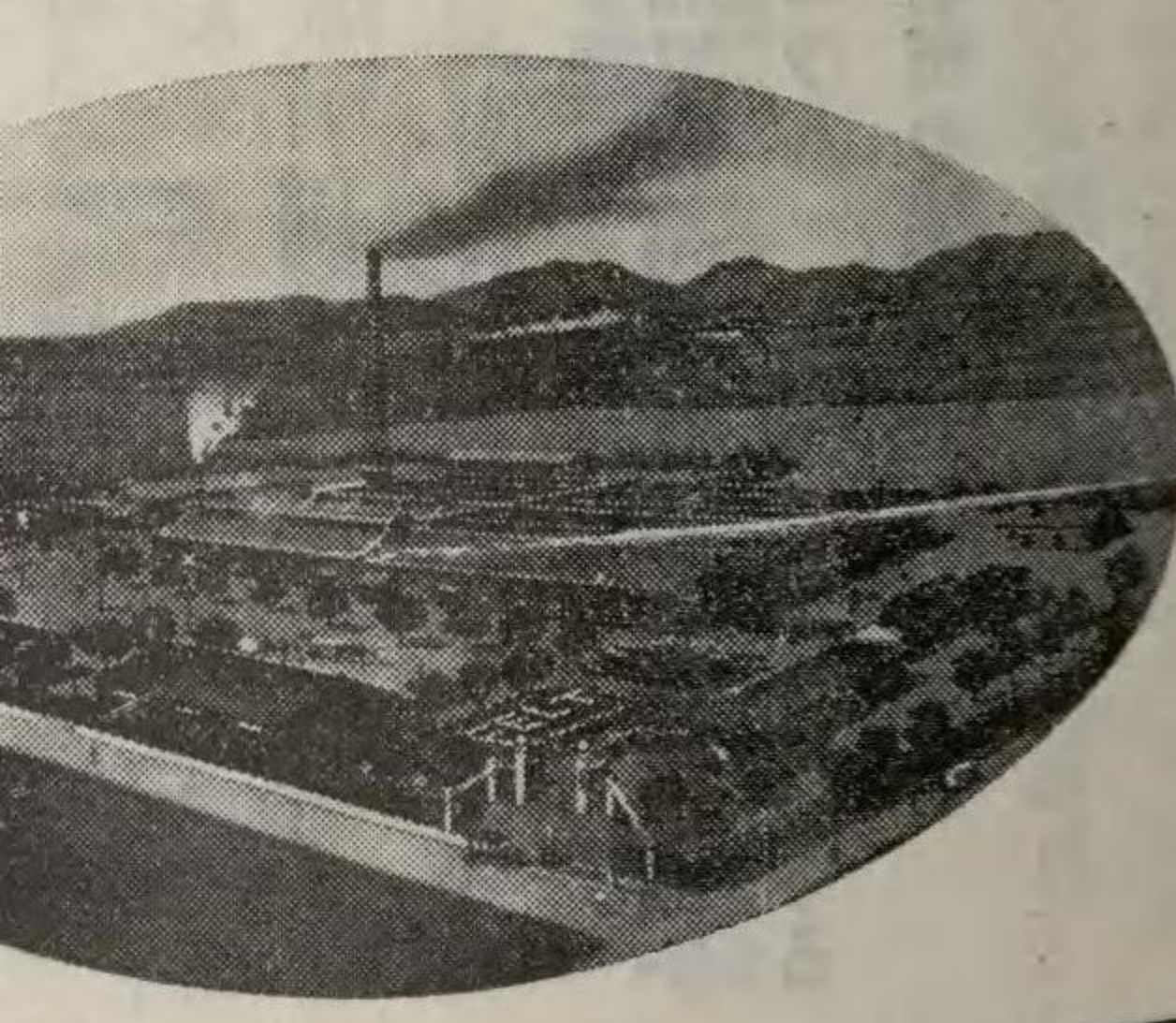
大阪市北區善源寺町
九丁目七十番地

特許第一〇二一七六號 毛革纖維の處理法

同 第一〇三七二七號 毛革纖維を以て帽體を製造する方法

〔内容〕本發明は通常の「ファー」又は「ウール」の帽體製造方法にては取扱ふことを得ざる特殊の性質を有する毛革纖維「ファー・ファイバー」を以て容易に帽體を製造する方法にして、元來「アングラ」兎の毛は纖維甚だ細く且つ一般の「ファー」に比較すれば纏絡性大にして之を短く切斷するも互に纏絡して分離し悪しく、從つて空氣の吹射に逢ふも團塊をなし空中に浮遊すること困難なり、而して之を「カード」に掛くるときは羊毛の如く長からず且つ強き纏絡性なきが故に綿帶は短く切斷し帽體型上に巻取ること全

數物、婦人帶地、足袋、袋物等に其用途を有す年生産約一萬キログラム、販賣數約五百反にして内地は主として東京市に需要多く、滿洲に約壹百五十反を輸出す 羅紗代用フェルトは 羅紗製造の複雑なる工程とそれに依り自然高價となる點を考慮し、フェルトの中心部に安賣なる粗綿布を挿入加



芝 時 孝

京都市下京區西園小路
久保町五十番地
第一工業製藥
株式會社 內

特許第九七一八四號 人絹處理用油劑の製法

〔內容〕蓖麻子油に濃硫酸を滴下する工程とこの硫酸
化蓖麻子油と硫酸との混合物に「アルコール」を加へ更
らに「アルキル」化する工程との結合によりて人絹を處
理する方法。

森澤房次郎

京都市上京區新町通
鞍馬口上ル小山中溝町
三番地

特許第一〇三三六二號 人造絹處理法

〔內容〕人造絹及織物を完全に乾燥し之を濃度「ボー
ー」の苛性曹達溶液中に數分間浸し後水洗して加熱し

特許第九四二〇三號 葡萄糖液の製造法

〔內容〕屑絲を濃硫酸により常温或は冷却して溶解し
加熱して糖化し之を濾過して「ビスコース」凝固液に返
送する葡萄糖液の製法。

然不可能なりとす、從て普通の兎毛は其一半は
通常の「ファー」取扱の方法にて處理することを得
れども他は剛直にして之と同様に取扱ふことを
得ず、即ち特殊の作業によりて兩者を分類し
其一半のみを利用するに過ぎず、然るに本發明
は多數の實驗により「アンゴラ」兎毛を「ガーネ
ット・ワイヤー」に掛くことを特徴とするもの
にして之により作業の甚だ容易なる「ウール」の
處理工程によりて雅趣ある「ファー」の帽體を得
らるゝものなり。



中來田 一

大阪市南區難波新地
四番七番地

特許第六八三三二號 練絹樂器絃
同 第六九一六八號 絹入「ピアノ」線

〔內容〕樂器絃の原料は特に纖維の堅韌性を尊
重せるが爲め從來特殊の繭を撰び産出したる生
絲にあらざれば適せざるものとせるも、本練絹
樂器絃は練絹を以て容易に完全に製したるもの
にして、練絹纖維は生絲纖維より幾分索引力は
減少せるもより繊細なる練絹纖維は之に混和せ
る「カセイン」の抱擁凝結力により纖維全體は完
全に一體となりて其索引力を極めて増大するも
のなるが故に、絃本體が完全に一體となれる結
果之が振動により發する音色は極めて清朗優雅

にして生絲製の及ばざる所なり、且つ絃の表面
は緻密にして圓滑なる爲め運指容易にして雑音
を發する虞なく絶對耐久性に富むものなり。
絹入「ピアノ」線は鋼線を充分に緊張したる儘特
殊混合油を浸せる布にて拭掃したる後絹練にて
外表し、其の外部に金屬線を螺旋したるもの
にして、斯く内外線中に練絹を挿入するときは外
部の螺旋線は常に彈性ある座褥を隔て、芯線に
密着するに依り兩線をして確實に一體となし螺
旋線の弛緩を生ずることなし、猶芯線に塗布せ
る油分は練絹の纖維中に吸収して防錆となり更
に優雅なる音色を發し定規の音律を保続せしめ
得るものなり。

〔略歴〕氏は約二十年前洋樂器の絃線製造を開
始し、専心絃線の發明考案に努力し本特許の完
成を遂ぐるに至り、現在大阪府南河内郡藤井寺
町に工場を設置し、樂器用絃線一切の製造をな
し益々隆昌を極められつゝあり。

日本フェルト帽體株式會社

清水待郎

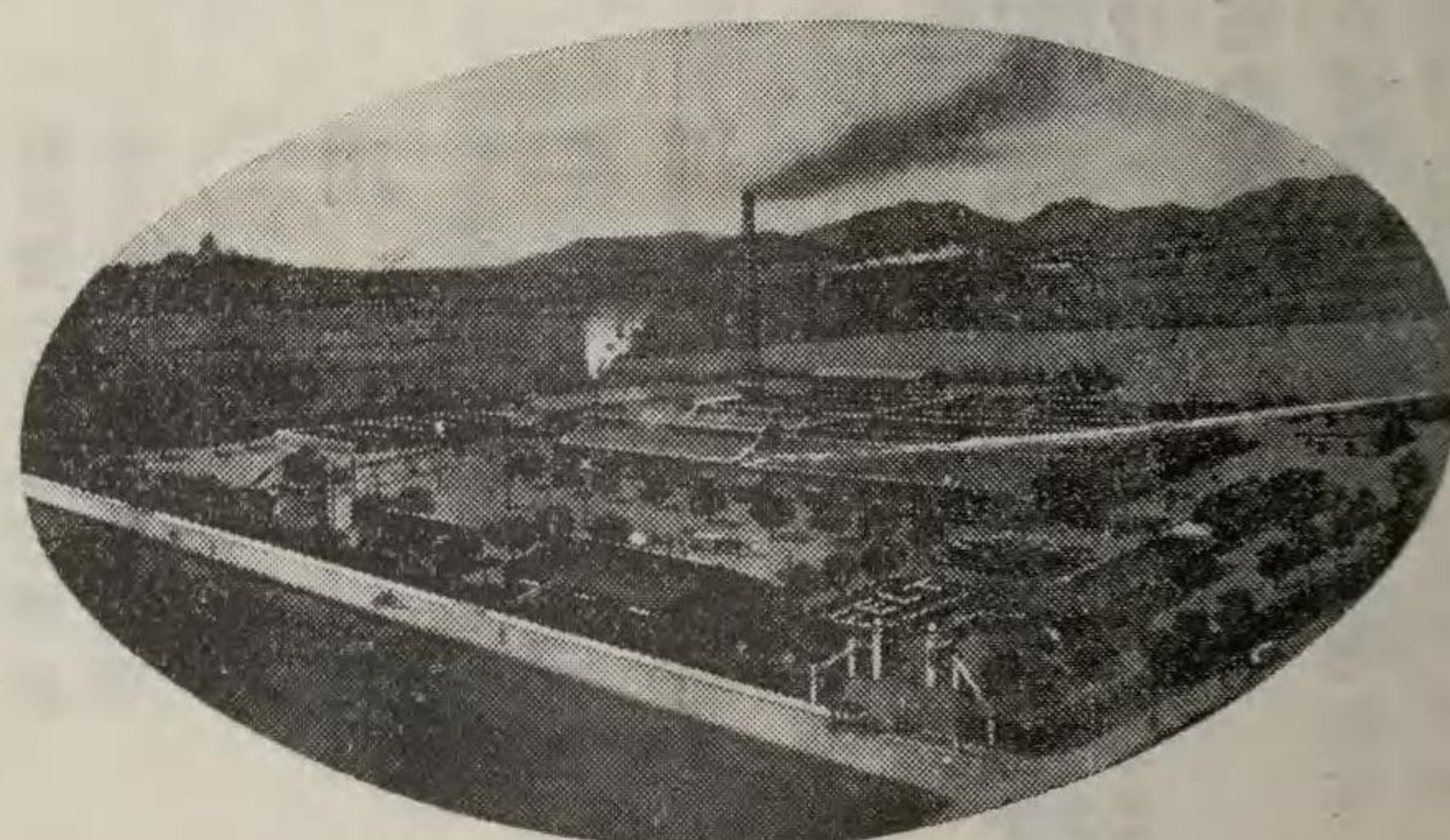
姫路市城東町
百八十番地

特許第四〇六一二號 フェルトの改良方法
同 第四一七一七號 羅紗代用フェルト

〔內容〕本改良方法はフェルトの外見を變化せ
しめて優美なる外觀を呈せしめ且つ伸縮を制限
し以て耐久力を増大ならしめ其用途を擴大なら
しむる特徴を有す、其製品はレイヨン・フェル
トと稱し帽子、手提カバン、テーブル掛、窓掛

の帽體製造方法にては取扱ふことを得ざる特殊
の性質を有する毛草纖維「ファー・ファイバー」
を以て容易に帽體を製造する方法にして、元來
「アンゴラ」兎の毛は纖維甚だ細く且つ一般の
「ファー」に比較すれば纏絡性大にして之を短く
切斷するも互に纏絡して分離し悪しく、從つて
空氣の吹射に逢ふも團塊をなし空中に浮遊する
こと困難なり、而して之を「カード」に掛くると
きは羊毛の如く長からず且つ強き纏絡性なきが
故に綿帯は短く切斷し帽體型上に巻取ること全

數物、婦人帶地、足袋、袋物等に其用途を有す
年生産約一萬キログラム、販賣數約五百反にし
て内地は主として東京
市に需要多く、滿洲に
約壹百五十反を輸出す
羅紗代用フェルトは



羅紗製造の複雑なる工
程とそれに依り自然高
價となる點を考慮し、
フェルトの中心部に安
價なる粗綿布を挿入加
工し以て簡単に羅紗代
用品としての目的を満
し得る品を屑毛を以て
作り安價に市場に提供したるものにして、其製
品はクロズ・フェルトと稱し羅紗に比し安價に
して且つ耐久力に富み而も任意の型體に製作加
工することを得る特徴を有す、用途はテーブル
掛、絨マートン代用、捺染ロール用等極めて廣
汎に、年生産額約二千五百キログラム、販賣數
約壹百二十反、主なる需要地は東京市なり。

〔略歴〕氏は明治二十一年の出生、同四十五年
京都高等工藝學校を卒業し直に陸軍千住製絨所
に入所、偶々同製絨所に於て本邦最初のフェル
ト製作機を輸入し之が作業を開始せらるゝや、
氏は當初より本機の作業を擔任することとなり
爲めに大に修得する所ありたり、後大正九年辭
して日本フェルト帽體株式會社に入社し、爾來
今日に至るまで社業に従事すること前後通じて
約二十年、其の間不斷の努力と研究とを重ね遂

次本發明を完成し以て斯業の發達と社運の發展
とに貢獻せられ現に常務取締役として大に活躍
せられつゝあり。

金田房吉

大阪市住吉區
橋本町二五番地

特許第九六三三六號 絹「フェルト」製造方法

〔内容〕絹強撚絲の蒸熱に依る撚撚性と其含有「セリ
シン」の膠着性とを利用し彈性を要する羊毛「フェル
ト」の代用品を廉價に製造する方法。

中川常太郎

愛知縣知多郡武豐町
字小迫三十八番地

特許第一〇〇一〇八號 布付「フェルト」製造法

〔内容〕木綿纖維帯に乾燥せる澱粉末を混和攪拌し布
帛の面上に一定平等なる厚さに伸展し壓搾し密着せし
め熱湯中を軽く壓しつゝ通過せしめ乾燥して醫療用
「リント」布又は防寒布用布付「フェルト」を得る方
法。

山本健一

東京市深川區
西元町七番地

特許第一〇二四三六號 布入模造「フェルト」製造方法

〔内容〕羊毛又は馬毛を交錯したるものを二枚の荒目
麻布の間に挟み數多の鉤狀針を往復刺通し麻布の纖維
を撻解し起毛針にて兩面を撻解し其他適宜方法に依り
優良なる布入模造「フェルト」の製法。

丹羽義雄

大阪府中河内郡長瀬村
北野草一八二五番地

特許第九五九三九號 防濕性絹綿吹止蒲團の製造法

〔内容〕絹毛纖維を解舒したるものを「アラビヤゴ
ム」と「サルチル」酸「グリセリン」の混液と樹脂を「ア
ルコール」にて溶解したる液にて處理し後石鹼其他の
溶液を塗布してなる工程に於て製造する方法。

吉川武雄

奈良縣南葛城郡御所町

村井長祥

東京市杉並區
上井草町一四五六

特許第一〇三七三二號 羽毛混入「フェルト」

〔内容〕羽毛を除去せる羽毛に揚着料として羊毛を混
じ適宜の縮絨工程を施して輕量弾力性に富む「フェル
ト」の製造法。

内山清次郎

東京市淺草區
聖天町七番地

特許第九六八二五號 「フェルト」製造法

〔内容〕運動する混合飯より夫々稀硫酸の蒸氣を發生
處理し植物性纖維と羊毛とを自然に縱横に混和して強
度大なる「フェルト」の製造方法。

五十嵐録郎

一宮市天王寺町一番地

特許第九五〇八七號 絨織物又は綿織物の加工法

〔内容〕絨織物綿織物に脱糊精練及漂白を施す工程と
之に特殊の混合乳狀液を以て處理する工程と醋酸禁土
又は明礬溶液に通し乾燥すを工程との結合による加工
法。

一色安茂

名古屋市東區石町
十六番 戸

特許第一〇三七五九號 釣絲製造方法

〔内容〕加撻せる生絹絲を桑皮の煎汁中に浸漬煮沸乾
燥したる後「セラチン」溶液を施し「フォルマリン」にて
凝固し更に桐油若くは亞麻仁油の如き乾性油を塗布し
て柔軟耐久性の釣絲を得る製法。

山本幾三郎

和歌山縣伊都郡
高野口町六六二番地

特許第一〇一八九三號 擬獸皮製造法

〔内容〕織地面に密接叢生せる毛纖維面に蒸氣と霧狀
となしたる染料を噴射したる後蒸熱し乾燥する工程と
拔染液を噴射蒸熱し水洗乾燥する工程の結合により獸
皮と異らざる擬獸皮の製造法。

青木徳次郎

東京府豊多摩郡戸塚町
大字戸塚百二十番地

特許第一〇〇六五八號 樂器用絨絲

出野惠

廣島縣安藝郡奥海田村
千四百三十三番地

特許第一〇〇六七九號 「ガット」製造法

〔内容〕動物の腸膜を「アルカリ」にて處理するに當り
濃度を高めたる溶液中に浸漬處理し水洗して撻合せ伸
張乾燥し摩擦仕上を施して樂器等に好適せる腸膜條紐
を得る製造法。

富部備作司

京都市上京區大宮
通寺ノ内西入
新美濃部町一五七番地

特許第一〇一四七〇號 人造「テグス」製造法

〔内容〕絹絲を「セラチン」と脂肪酸と「アンモニヤ」水
との混和液に浸漬して加熱處理し「ノツヅル」を通して
更らに「フォルマリン」と可溶性「アルミナ」鹽類の混合
液中に通して透明度及防永性を強大ならしめたる人造
「テグス」の製法。

小川雅也

一宮市字南石野
二十番 地

榎田正義

一宮市字堀ノ内
四十六番 地

特許第九五六七四號 紬布又は絹綿交織布に酸化「チ
タニウム」を固着して得らるる
擬革布の製法

〔内容〕珪酸曹達を加へたる過酸化曹達及硫酸を以て
漂白したる後水又は油の混合物に浸漬し更に「グリセ
リン」石鹼等の混合液を以て處理し美麗堅固なる擬革
布を得る方法。

萩原鐵藏

名古屋市南區豊田町
字葎畑三二八五

特許第九九三〇七號 「バガス」又は類似の植物より紙
料を製造する方法

〔内容〕原質を密閉罐内に於て蒸煮し纖維を抽出する
場合に蒸煮劑として亞硫酸「マグネシウム」の飽和水溶
液中に適量の亞硫酸「マグネシウム」の粉末を添加せる
ものを使用することを特徴とする製法。

法。

山本健一

東京市深川區
西元町七番地

特許第一〇二四三六號 布入模造「フェルト」製造方法

〔内容〕牛毛又は馬毛を交錯したるものを二枚の荒目麻布の間に挟み多数の鉤状針を往復刺通し麻布の纖維を強解し起毛針にて両面を強解し其他適宜方法に依り優良なる布入模造「フェルト」の製造法。

一色安茂

名古屋市東區石町
十六番地

特許第一〇三七五九號 釣絲製造方法

〔内容〕加撚せる生絹絲を桑皮の煎汁中に浸漬煮沸乾燥したる後「ゼラチン」溶液を施し「フォルマリン」にて凝固し更に桐油若くは亞麻仁油の如き乾性油を塗布して柔軟耐久性の釣絲を得る製造法。

榎田正義

一宮市宇堀ノ内
四十六番地

特許第九五六七四號 紬布又は絹綿交織布に酸化「チタニウム」を固着して得らるる擬革布の製造法

〔内容〕珪酸曹達を加へたる過酸化曹達及硫酸を以て漂白したる後水又は油の混合物に浸漬し更に「グリセリン」石鹼等の混合液を以て処理し美麗堅固なる擬革布を得る方法。

丹羽義雄

大阪府中河内郡長瀬村
北蛇草一八二五番地

特許第九五九三九號 防濕性絹綿吹止蒲團の製造法

〔内容〕絹毛纖維を解舒したるものを「アラビヤゴム」と「サルチル酸」グリセリンの混液と樹脂を「アルコール」にて溶解したる液にて処理し後石鹼其他の溶液を塗布してなる工程に於て製造する方法。

山本幾三郎

和歌山縣伊都郡
高野口町六六二番地

特許第一〇一八九三號 擬獸皮製造法

〔内容〕織地面に密接叢生せる毛纖維面に蒸氣と霧状となしたる染料を噴射したる後蒸熱し乾燥する工程と拔染液を噴射蒸熱し水洗乾燥する工程の結合により獸皮と異らざる擬獸皮の製造法。

青木徳次郎

東京府豊多摩郡戸塚町
大字戸塚百二十番地

特許第一〇〇六五八號 樂器用絃絲

〔内容〕不酸化性金屬の「コロイド」溶液を撚合せる絹絲に透過包孕せしめ乾燥せしめて質強靱にして撥等の爲めに切斷し難からしめ高音を得る樂器用絃絲の製法。

藤堂良讓

埼玉縣北足立郡浦和町
鹿島臺一九三〇番地

特許第九九三〇七號 「バガス」又は類似の植物より紙料を製造する方法

〔内容〕原質を密閉罐内に於て蒸煮し纖維を抽出する場合に蒸煮劑として亞硫酸「マグネシウム」の飽和水溶液中に適量の亞硫酸「マグネシウム」の粉末を添加せるものを使用することを特徴とする製法。

淺井延吉

東京府荏原郡馬込町
三四〇四番地ノ五

特許第九六八七七號 纖維素含有物質の連續的鹽素處理方法

〔内容〕鹽素處理室内に水又は稀薄「アルカリ」性溶液若くは鹽類溶液を送入して鹽素瓦斯を次室に移動せしめ鹽素導入源を次室に切替して簡單確實に連續的に處理する方法。

越智主一郎

東京市澁谷區代々木
西原町九五八

特許第一〇〇九五九號 桑皮又は楮皮の叩解方法

〔内容〕桑又は楮の鞣皮紙料を叩解するに當り其鞣皮

丹菊仁三郎

一宮市大字一宮字細田
西六番地

特許第一〇〇五〇七號 「ラミー」を混入せる中入綿の製造法

〔内容〕「ラミー」落綿を可溶性脂肪油又は石鹼溶液中に浸漬後脱水乾燥し木綿纖維を混合梳整の際木「タール」の「ベンゾール」抽出精製液と「ワセリン」の「ナフサ」溶液の混合液を附與して保温性に富む中入綿の製法。

川合治市

一宮市八幡町稻荷前
十八番地

特許第九五七五四號 擬革布製造法

〔内容〕紬織布を脱糊漂白し後二酸化「チタニウム」と脂肪性物質とを混じたる溶液中に煮沸して明礬の溶液にて処理水洗することにより變色なき鹿革の外觀を呈する擬革布を製する方法。

千野眞次

新潟縣古志郡栃尾町
戊百二十五番地

特許第九六〇六〇號 絹綿製造法

〔内容〕棒毛羽を弱「アルカリ」性溶液中に高壓處理し之を「フォルマリン」に依り「セリシン」を防水性たら

村相兵義

東京市中野區
新山通一ノ九

特許第一〇〇九五九號 桑皮又は楮皮の叩解方法

〔内容〕桑又は楮の鞣皮紙料を叩解するに當り其鞣皮

組織或は半紙料を特殊長さに切斷したる後叩解を行ふ方法。

金子 三 明

樺太泊居郡泊居町
大字泊居字東原三番地

特許第九八五五七號 漂白「パルプ」精製法

〔内容〕木材「パルプ」蒸着用重亜硫酸石灰液に苛性曹達を添加せる液にて処理する際其アルカリ度を適當に調製し適度の壓力の下に適當時間蒸着することを特徴とする精製法。

中山 金 助

三重縣度會郡城田村
上地字六軒家

中井 庄 太郎

宇治山田市
大世古町二九五

特許第一〇二五二一號 絲瓜殼吸墨紙製造法

〔内容〕絲瓜の果實及莖を腐水に浸漬醱酵せしめて果内外皮其他を除去したる粗纖維を叩解漂白の後普通抄紙法によりて製造する方法。

隈 川 八 郎

神奈川縣橘樹郡
稻田町登戸三四〇二

特許第一〇二九七九號 甘蔗搾殻又は類似の纖維性植

〔内容〕通風可良なる状態に層積貯藏せる原質の脂肪酸醱酵が細菌類に有害作用を及ぼさざる内に弱一アルカリ性薬品を反覆的に撒布する事を特徴とする処理法。

華狀斑紋模様を現出せしめ、第二槽内には「ネリ」を混注することを止めて模様原紙の軟弱を防止すると同時に石鹼と礬土との化學作用により製品には自然に「インキ」止の性を具有せしめ以て模様を鮮明ならしめたるものなり。

〔略歴〕氏は我國製紙界の一偉才にしてその製造に係る優秀なる各種の紙は本邦に於て絶大なる歓迎を受け而かも遠く海外に盛に輸出せられ其の聲價を謳はれつゝあり。

桑 畑 齊 二

東京市小石川區
大塚窪町三四

特許第一〇〇七八五號 バガスパルプ製造法

〔内容〕蒸着罐と豫熱罐とを組合せたるものに關聯する特殊操作により豫熱罐内に「バガス」を裝填しおき解舒液と共に豫熱軟化せしむる事を特徴とする製造方法

福 富 喜 四 郎

高知縣吾川郡
伊野町二二三二

特許第一〇二九八三號 黃變化せざる「マニラ」紙の製造法

〔内容〕原料を煮熟し叩解漂白洗滌をなせるものに亞硫酸曹達と「ロンガリット」を混じたる液を注加し熱處理の後水洗後抄紙する事を特長とする方法。

兒 玉 清 助

東京市杉並區
阿佐ヶ谷三ノ二七七

特許第九九〇三九號 強靱「パルプ」迅速蒸着法

〔内容〕蒸着を中間程度に止め「パルプ」と分離せる殘存亞硫酸蒸着液を廢棄する事なく未だ冷却せざる内に其儘全部新蒸着液を混合調製したるものを蒸着薬とする方法。

光 澤 義 男

樺太豊原郡豊原町
北二線 東八番

特許第九九二五三號 「ウキスコース」人造絹絲用「パ

〔内容〕亞硫酸蒸着法によりて得たる紙料を「アルカリ」にて特殊處理漂白工程の後殘留「アルカリ」を中和するに足る稀薄酸液を以て處理する特殊漂白法。

古 川 治 郎

京都市下京區東洞院
五條下ル和泉町五三〇

特許第九九七二四號 多色紙製造法

〔内容〕紙漉盤上に於て任意形状の隔壁枠を載せ該枠の内外に異なる色合の製紙用液を流下し盤を搖動し未だ漉き終らざる間に枠を除去し更に漉盤を搖動する事を特徴とする製造法

樋 口 太 吉

東京市日本橋區
安針町一番地

特許第九八六八六號 絲瓜を原料とする「パルプ」製造法

〔内容〕乾燥したる絲瓜の纖維を動物性脂肪油中に浸漬し充分油を浸着せしめ壓搾「ローラー」間に通し結合し後苛性「アルカリ」液にて煮沸することに依る絲瓜を原料とする「パルプ」製造法。



岩 野 平 三 郎

福井縣今郡立本村
大瀧七十七號四番地

特許第一七四〇八號 雲華紙製法

〔内容〕本發明は第一槽内に於て臺紙原料を水分「ネリ」と松脂石鹼との混合液を以て能く練溶し、第二槽に於て模様紙原料を水と硫酸礬土及鐵を主成分とする鑛泉との混合液内にて攪拌して雲華狀斑紋模様を現出せしめ、第一槽内にて漉上げたる臺紙を未だ水を切らざる儘漉枠と共に第二槽内に抄入し、雲華狀斑紋模様を呈せる模様紙原料を漉き足したる後充分に水を切り其臺紙を枠より外し壓迫乾燥せしむるの方法にして、第一槽内には松脂石鹼を混和して水分の亡失することを少なからしめ、第二槽内に抄入するに長時間を要するも大型紙の全面に均等に雲

に於て適宜に水分が排除せられたるとき更に其位置に於ける紙層面上に各種染料液を任意の太さに調節して連續的に流下せしめ迅速且均整に抄造し得る方法。

長 尾 正 志

兵庫縣加古郡高砂町
釣船町七〇番地

特許第九七七七四號 拔模樣色紙製造方法

〔内容〕乾燥前の紙層帯に任意の模様に於て拔染劑を作用せしめて表裏兩面に透現せる色拔模樣を有する色紙を得る方法。

高 野 治 郎

佐 藤 兼 藏